DREAM存続の危機!? 立ちふさがる視聴率問題!!

enterbrain MOOK

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

kamipro Special

7.19アフリクション
7.19 U F C
7.21 DREAM.5
徹底詳報

2008 AUGUST

820yen

名勝負続出、大どんでん返しの結末——!!
涙で始まり、涙で終わった夢の宴!

DREAM ライト級GP 徹底大総括!!

"友情タッグ"が生んだ奇跡の勝利!!
北欧の伏兵がDREAMライト級GP優勝!

ヨアキム・ハンセン

おまえが作った夢だった!!
バカサバイバー、涙のGP完走!

青木真也

KID級からTOKORO級へ!!
DREAMフェザー級の大黒柱宣言!

所 英男

越中詩郎『ハッスル』参戦記念!!
"エッチュー""人間サンドバッグ"とは何か?

髙田延彦vs越中詩郎 "変態"座談会

夏だ、G1だ! 新日本プロレス特集第3弾!!
語録で振り返る

天山広吉vs飯塚高史劇場

元UFC王者に完勝し、"60億分の1"を証明!
ファイナル・ファンタジー、続行ーッ!!

エメリヤーエンコ・ヒョードル

独占ロングインタビュー

ヒョードル強すぎ! 圧倒的現実が世界同時多発降臨!!（DREAM、UFC、アフリクション）

よみがえったPRIDE幻想!!

kamipro Special 2008 AUGUST よみがえったPRIDE!!

2008年8月14日
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555（代表）
印刷・製本 大日本印刷株式会社

enterbrain

CONTENTS

DREAMライト級GPに舞い降りた試練の結末!
おまえの夢だ!!

MMA

PRO-WRESTLING

kamipro Special

Presents

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
kamipro Special
2008 AUGUST

表紙写真/©アフリクション、乾晋也、Josh Hedge(UFC)

いまさらながらではあるが、確認しておかなければいけないことがある。それは〝PRIDEはもうない〟ってことだ。

ただ、同時にもう一つ確認しておくべきこともある。PRIDEがなくなったからといって、格闘技がつまらなくなったとか、観るに値しないものになってしまったかといったら、全然そんなことないってことだ。

いやホント、皆さん『アフリクション』のヒョードルvsシルビア観ました？　あの固い試合させたら世界一じゃないかってシルビアを秒殺ですよ秒殺。海外の試合だって、ネット動画のちっちゃい画面だって、ひさびさに観るヒョードルの強さには鳥肌立つってもんでしょ。

そして『DREAM・5』がまたとてつもない鳥肌モンだった。宇野を寝技で完封しちゃう青木って、いったいなんなんだアレ!?　〝宇野逃げ〟にトラップを仕掛けて三角絞めに捕えた瞬間なんて、思わず声出ちゃった人も多いんじゃないか。アルバレスvs川尻だって年間ベストバウト候補だろう。まさに果たし合い。真っ向からの打撃勝負。あれ観て興奮しない人なんて、絶対にいない。

そして名勝負の連続のあとに訪れた、意外すぎる決勝戦。だけどそれは、単に驚いたってだけの話じゃなかった。アルバレスが棄権し、ハンセンが決勝のリングに上がることがわかった瞬間、頭の中にいろんなことがフラッシュバックし

んでも見せてやれ!!

ルバレスvs川尻……すぐそこに息づく幻想——

てきたのである。2回戦におけるアルバレスvsハンセンの死闘とスタンディング・オベーション、それに「俺たちは二人とも勝者なんだ」というアルバレスの言葉（いまとなっては、あの言葉がまさに現実になったわけだ）。そして青木の出世試合の相手がハンセンであり、逆から見ればリベンジマッチであること。そういった記憶が一瞬で呼び起こされ、〝意外な結末〟は〝逆算されるドラマ〟になったのである。

問題は、格闘技ファンがPRIDEに何を求めていたのかってことだ。それはたとえば、世界最高峰の闘いであったり、単純な勝ち負けを超えた闘いのドラマだったりするんだと思う。で、そういうものが観たいんだったら、PRIDEがないことを嘆く必要なんてまるでないのだ。PRIDEにファンが感じた興奮や熱狂は、いまもさまざまなリングに息づいている。そこで行なわれている試合のメンバーやテーマはどんどん新しくなっていくが、ファンが見たいものを見せてくれるという意味では、いまの格闘技界はPRIDE時代と比べても遜色ないものだと言っていい。

ヒョードルvsシルビアを観て、青木vs宇野を観て、アルバレスvs川尻やDREAMライト級GPの結末を観て、それでも〝いまの格闘技はつまんない〟なんて誰が言えるんだって話だ。いまの格闘技界について、格闘技を取り巻く状況について、ネガティブなことばっか

り言いたがる人間もいるにはいる。だけど、そういうヤツらの言葉にウンザリしたときにはリングを観ればいいのだ。現在進行形で行なわれている、凄まじい闘いを。

そして大事なことは、リング上で行なわれている闘いに目を凝らして、熱狂して、それで終わりじゃないってことだ。むしろ、ここをスタート地点にしなきゃいけない。

日本の格闘技界が置かれた状況はあいかわらず厳しくて、それこそネガティブなことを言いたがる連中にとってのネタはつきないわけだから。

DREAMがスタートして今回で5大会目になるが、そのいずれも超満員はマークしていない。『DREAM・2』から『DREAM・4』までは当日オンエアもされず、今回やっと復活はしたのだが、平均10・0パーセントという視聴率に終わった。ギリギリ合格点ではあるんだろうが、民放5局の中では4番目の数字だ。フジテレビで最後に中継されたPRIDE(2006無差別級GP開幕戦)の半分だ。

もちろん、DREAMに出場している選手は視聴率なんてものでは表わせないくらい凄いこと、尊い闘いをやっている。でも、それを数字でバッサリ斬ろうというのが世の中ってもんなわけだ。だったら徹底的に闘うしかない。"向こう"のモノサシでも勝てばいい。だって、それぐらい凄いことやってんだから。"数字なんてどうでもいいじゃないか。心あるファンが興奮

首根っこ、ひっつかん

ヒョードルvsシルビア、青木vs宇野、アルバレ

できる場があるんだから、それで充分だよ"なんて、そんなこと言いたくないのである。『アフリクション』だってUFCだって、"アメリカで総合格闘技熱が高まる一方、日本では……"なんて見方、もうどうだっていいんだよ。それよりも"海の向こうで起こっているもの凄いこと"をどう伝えるかだ。

わからないヤツにも無理やりわからせてやれ。首根っこひっつかんでも見せてやれ。それが、これからの格闘技界全体のテーマだ。もちろん、また芸能人出せとかってことじゃない。4日前に試合した選手を出場させるのも、もうやめにしてほしい。でも、格闘技の本質に関わること以外だったら、何やったってOKじゃないかとも思う。なんだったら、誰か山本モナをラブホテルに連れ込んでみちゃどうか。それで話題になるんだったら、売名行為だって大歓迎ってことだ。それでちょっとでも中継を観ようって気にさせたら、もうこっちのもんだ。なにしろリングでは、すんごいことやってんだから。

繰り返すが、PRIDEはもうない。でも、PRIDEの幻想は生きている。PRIDEがないことをネガティブに語る時代はもう終わった。レベルを上げ続ける選手たちが命を張るリング、その尊さをどこまでも遠くまで届けるための闘いを、ここから始めるのだ。見とけよこの野郎、って誰に言ってんだかわかんないけど、とにかく反撃開始ーッ!

(橋本宗洋)

分の1"
ッコー!!

元UFCヘビー級王者
ティム・シルビアを秒殺葬!!

“60億
幻想ゾ

エメリヤーエンコ・ヒョードル

「日本での試合ですか？ ぜひ大晦日の大会には出たいと思っています」

「ヒョードルはもう“人間”じゃない」――。対戦相手の元UFCヘビー級王者ティム・シルビアにこんなことを言わせるなんて、どんだけ強いんダー!! というわけで、7.19『アフリクション』を大成功に導いたヒョードルに、『kamipro』は独占取材を敢行! 世界中を驚愕に包んだ“60億分の1”はこの先どこへ向かうのか!? 気になる日本での試合についても直撃した!

聞き手／坂井ノブ　写真／

UFCは政治力でやろうとしても長続きしないのではないですか

やっぱり〝60億分の1〟は〝60億分の1〟のままだった!!

PRIDE消滅以降、これまでダナ・ホワイト率いる揺るぎないUFC帝国を前にPRIDEファイターの散開、敗北という現実を目のあたりにし、また一方ではDREAMという新たな価値観を生み出す舞台が前進していく中で、皇帝ヒョードルはヒョードルそのものだった。元UFCヘビー級王者ティム・シルビアを秒殺で葬った姿を観たものなら、誰もがそう感じるだろう! だって、強すぎるんだもん!!

その試合内容といえば、開始からシルビアの巨体に次々と拳を叩き込み、あっという間にグラウンドへ。そっからバックのポジションをキープすると、有無を言わせぬままチョークで一本! 目にも止まらぬ早業で、アメリカの割れんばかりの大歓声を独り占めにしたのだった。

終わってしまえば、やはり〝60億分の1〟健在ぶりを披露したヒョードルだったが――、試合前、一部では「今度という今度は……!?」という不安な声が聞こえていたりもした。ヒョードルを目の敵にするダナ・ホワイトの「ヒョードルは05年のミルコ戦以降、強いファイターの誰とも闘っていない。毎回毎回、ジョークみたいな試合を見せられる日本のファンが不憫でならないよ」という過激な発言も、その不安を助長させた一つの材料になった。

言われてみれば、確かにここ最近のヒョードルの対戦相手といえば、チェ・ホンマン、マット・リンドランド、マーク・ハント、マーク・コールマン、ズールと、過去5戦を振り返ってみても、ヘビー級のトップらしいトップとは対戦をしていない。とはいえ、〝超ガチ志向〟のダナの個人的嗜好は置いといて、PRIDEや『やれんのか!』で行なわれたヒョードルの試合のいずれにも大興奮させられたのは、日本人ファンの誰もが知るところである! だが、その一方、ここでティム・シルビアとの対戦となれば……。

しかし! そんな一抹の不安もどこ吹く風である。(元)UFCのトップどころにこんな闘いを見せてしまったら、もう人類の中では対戦相手が見つからないんじゃないか!? そんなことさえ思わせてしまうこのヒョードルの強さ! その姿はPRIDE幻想を再び抱かずにはいられない圧倒的な存在感であったことは言うまでもない。そんな、世界中が注目する超人ヒョードルを我々『kamipro』はさっそくキャッチさせていただいた。次戦、そして日本での闘いについての注目発言を見逃すな!!

[08.7.19アフリクション～BANNED～]
米国カリフォルニア州アナハイム ホンダセンター
○エメリヤーエンコ・ヒョードル vs ティム・シルビア×
(1R 0分36秒 裸絞め)
ゴング後、矢のようなフックをシルビアの顔面にガンガン叩き込み、グラウンドに倒れてからも殴る殴る! そこから一気にバックを取ったヒョードルはあっという間に裸絞め!! ここまでの所要時間、なんと36秒でございます。う～ん、人間じゃねえ!!

エンコ・ヒョードル

――今日は素晴らしい試合でした!

ヒョードル　ありがとうございます(ニッコリ)。

――アメリカでの試合は、『PRIDE・32』マーク・コールマン戦以来ということになりますが、ひさびさのアメリカはいかがでした?

ヒョードル　ここアメリカで試合をできたことに関しては、たいへん感謝しています。ただ、今回対戦したアメリカ人のティムよりも、私を応援してるファンが多かったことについては正直ビックリしました。

――会場でも割れんばかりの歓声で、ボクもあれだけの大声援を聞いたことはないですよ!

ヒョードル　初めてアメリカで試合をしたときもそうでしたが、いろんなボードや旗を持ってきたり、声を出して立ち上がって、温かく迎えてくれてるので、本当に嬉しいですね。こんなに素晴らしい場所で試合ができて光栄に思います。以前、アメリカに来たときよりももっと応援してもらえているように感じました。それが強烈に伝わってきました。

――試合後、リング上ではドナルド・トランプ氏からも祝福されていましたよね?

ヒョードル　はい。ミスター・トランプと会ったのは、今回で2回目になります。以前は、ニューヨークで記者会見があったときにお会いしました。そのときにティムとミスター・トランプと3人で一緒に写真撮影をしましたが、あの日はティムがミスター・トランプの肩に手をかけていました。

――ほう。そのときヒョードル選手はどうしてたんですか?

ヒョードル　私は普通に立っていました。

――今回も試合後にトランプ氏と記念撮影をしていましたよね?

ヒョードル　はい。ですが、今回はミスター・トランプのほうから「コングラッチュレーション!」と言って私の肩に手をかけてきました(微笑)。

――ワハハハハ! それはいい話です(笑)。それもこれも、あの衝撃の秒殺一本を披露したからだと思うのですが、一本取られたシルビア選手は試合後に「ヒョードルは人間じゃない」とコメントしていたんですよ。元UFCヘビー級王者がそこまで言うのは相当のことだと思うんですが、ヒョードル選手に勝つにはどうしたらいいのか教えてもらえませんか?

ヒョードル　それは凄くいい質問です(微笑)。ただ、どんなファイターもその答えを見出すことはできないでしょう。もちろん、私自身もその答えはわかりません。

――やっぱりそうですか。しかも、シルビア選手はヒョードル選手がどうやってサブミッションに入ったのか、まったくわからなかったみたいなんですよ。

ヒョードル　あれは、パンチで倒して一番確実な攻め方としてチョークを選択したんです。私のアドバンテージはスピードなので、できるだけ速く攻めるようにしたので、よくわからなかったのかもしれませんね。

――パンチでダウンさせたあと、チョークまでの流れはとんでもない速さでしたもんね(笑)。

ヒョードル　チョークもそうですけど、スタンドで攻めることについても非常に自信を持っていました。というのも、今回は世界でトップクラ

スのトレーナーについて練習をしてきましたから。

——そうだったんですか。そういえば、試合後の会見場で右拳を冷やしていたと思うんですが、もしかしてあれはケガだったんでしょうか？

ヒョードル　ああ。拳は全然問題ありません。ちょっと試合中に右手の親指を脱臼しただけです。でも、それは自分で戻しました。

——じ、自分で⁉

ヒョードル　はい（平然と）。

——な、なるほど！　それにしても、今回のシルビア戦だけでなく、ヒョードル選手はこれまでも何人ものトップファイターと闘っていますが、どんな対戦相手でも動じる姿を見せたことがありませんよね？　その精神状態というのは、どうやってコントロールしているんでしょう？

ヒョードル　私自身、試合前には何も考えたくないし、考えないようにしているところがあります。もちろん私も人間なので、試合前はナーバスになってしまうこともあったりしますが。

——ヒョードル選手もナーバスになるんですか⁉

ヒョードル　ただ、試合に対する姿勢はいつも同じで、冷静で落ちついて試合をするように努めています。

——なるほど。それは、多くのファンから熱望されているランディ・クートゥアー戦でも同じく冷静な状態で闘えそうですか？

ヒョードル　もちろんです。

——ヒョードル選手の試合後、リング上でランディは「ヒョードルと試合をしたい」と言っていましたね。

ヒョードル　私も、ぜひ試合をしてみたいと思っています。いまランディが抱えている問題がクリアされてから、という前提ではありますが。

——UFCとの契約に関する裁判のことですね？

ヒョードル　契約の問題が残っているので、すぐに試合をするということにはならないかもしれませんが、いずれは闘いたいと思っています。

——そのランディ選手に関して、ヒョードル選手はどんな選手だと分析してますか？

ヒョードル　そうですね。どんなファイターも強い面と弱い面があります。ランディは非常に強い面が多いファイターですが、わずかながら弱い面も持ち合わせています。私はその弱い面をだいぶ分析できています。

——鉄人の弱点をすでに見破っている、と。

ヒョードル　もし対戦するとしたら、そこをさらに研究して対策を立てるつもりです。あとはどちらが相手のミスを利用して優位に立てるか、でしょう。

——今回の『アフリクション』という大会は旗揚げ戦だったわけですが、今日の大会を受けて、今後もヒョードル選手自身、アメリカで試合をしようという計画はあるんでしょうか？

ヒョードル　ええ。ぜひ、またアメリカで試合をしたいと思っています。あれだけ大きな声援をもらうとアドレナリンが出て興奮しますからね（微笑）。ファンの歓声の質は違うように思いますが、日本でもアメリカでも熱烈に応援してもらってると実感しています。それは非常にありがたいことだと思ってます。

——今回、ほかの試合はご覧になれました？

ヒョードル　個人的に、アルロフスキーとジョシュの試合は非常によかったと思います。私自身、楽しませてもらいました。それに、このあとも楽しませてもらう予定です。

エメリヤーエン

——このあと……、というのは？

ヒョードル　今回、ロシアからチームメイトや友だちが大勢来ています。一緒に勝利を祝って楽しむ予定です。そして、明日はまたみんなで遊びに行きます。マジックマウンテン（LAの遊園地）のジェットコースターに乗る予定です。

——ワハハハハ！　さすが絶叫マシーン好き‼（笑）。去年の年末、『やれんのか！』のあとにも富士急ハイランドに遊びに行ってましたもんね。ぜひ楽しんできてください！

ヒョードル　ありがとうございます（微笑）。

——ちなみに、今回の『アフリクション』の大会と同じ日にUFCが大会をぶつけてきた件についてはどう思ってます？　しかも、わざわざ同日無料放送という魅力的なオマケつきなんですが。

ヒョードル　UFCはMMAファンが『アフリクション』に流れないようにしたんでしょうが、すでにUFCはトップファイターの多くを失いました。『アフリクション』には、UFCから離れたトップファイターが集まっていますし、実際に多くの魅力的なカードを組んでいます。政治的な力でやろうとしても、長続きはしないのではないでしょうか。

——厳しい意見ですねえ。また、『アフリクション』に対してダナ・ホワイトは「Tシャツ屋に何ができる！」という言い方をしたりもしてたんですよ。

ヒョードル　私はUFCを何度か観ていますが、昨日の『アフリクション』のショーはUFCよりも一歩先へ進んだショーになっていました。それは観た人の多くが感じたことではないでしょうか。

——なるほど。ところで、今回はアメリカでの試合でしたが、日本での試合の予定はありますか？

ヒョードル　もちろん、試合をしたいと思っています。ぜひ、大晦日の大会には出たいと思っています。

——おお！　もはや、日本の大晦日は今年も〝ヒョードル祭り〟になるというわけですね！　では、今後のファイトスケジュールも含めてなんですが、一部では「ヒョードルは、いまが絶頂期なんじゃないか」という意見もあるようなんですが、ご自身ではあとどのぐらい試合ができると思ってますか？

ヒョードル　いまは体調もいいし、コンディションも充実しています。契約上のこともあるので、最低でもあと1年はやります。ただ、私はこれからも長く現役を続けられる自信を持っているので、まだ私の試合は観られると思いますよ（微笑）。

——それを聞いて安心しました！　では、日本での試合を楽しみにしています‼

【08年7月20日／米国カリフォルニア州アナハイム・某ホテルにて収録】

ドナルド・トランプが自らヒョードルの肩に手を回したというシーンがこちら。世界の大富豪も"60億分の1"の前ではこの笑顔。もはやヒョードルには誰もかなわない！

少年にサインをしてあげるヒョードル。ファンに接するときのこの優しさとリング上とのギャップが皇帝のたまらない魅力の一つである！

“総番”ヒョードルを倒す人間はいるのか？

『アフリクション』に集った世界の番長かく語りき

世界各国から腕に覚えのある番長どもが一堂に会した『アフリクション』旗揚げ戦。注目は昨年大晦日以来の試合となるヒョードルの登場だ。しかし、ヒョードルは元UFCヘビー級王者ティム・シルビアにわずか36秒で圧勝！　そのあまりの強さにシルビアは「アイツは人間じゃねえ」とポツリ。はたして“総番”ヒョードルを倒す人間はこの世に存在するのか？　大会後、世界の番長たちは何を語ったのか？

構成／阿修羅チョロ　試合写真／石井史彦

機は熟したか!? ランディ・クートゥアー

「（シルビアを下したあとリングインしたクートゥアーにヒョードルが対戦をアピール）UFCとの問題が解決したら、今年中にも闘いたいと思っている」

日本のファンも期待大！ ジョシュ・バーネット

「アメリカで試合をするのはひさびさなので未知の部分があったよ。日本の試合の仕方に慣れてしまっているからね。ボクのアメリカでの試合といえば、やっぱりUFCということになるんで、凄くネガティブな部分があったんだけど、『アフリクション』のファンは自分を温かく迎えてくれたと思う。ブーイングも飛んだけど、凄く温かい声援もあったしね。今日のメインイベントは試合も凄かったけど、ファンのエネルギーが爆発したような歓声が凄かったね。次回以降を凄く期待させてくれる大会になったと思う。ヒョードル戦？　ヒョードルは凄くいいヤツで友だちなんだけど、もし実現したら絶対に忘れられないダイナミックな試合になるだろうね。次のMMAの試合？　『戦極』とその件について話してるところなんだ。ただ自分は『戦極』を代表する選手だけど、『戦極』を背負ってアメリカで試合をしているという気持ちはあまりないんだ。むしろパンクラスの一員だと思っている。どこへ行くにもパンクラスのウェアだし、ボクはキング・オブ・パンクラシストだからね」

階級は違うがアニキの仇討ち狙い!? アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ

「今回の試合の結果（エドウィン・デウィーズにTKO勝利）は自分にとっても、兄弟にとっても、チームにとってもハッピーだったね。ブラジルからマイアミに移ってきて、これからはアメリカを拠点にMMAをやっていくつもりなんだけど、『アフリクション』という大きなプロモーションでいいスタートが切れたのは嬉しく思っている。大会も凄くいいショーだったしね。今回試合をしてみて『アフリクション』はPRIDEで闘っているような感じがしたんだ。同じリングだっていうのもあるけど、自分はリングで闘うのが好きだし、PRIDEにも何度も出ているので闘い方も知っているしね。自分の家にやっと帰ってきたような感じかな（笑）。メインのヒョードルも素晴らしい試合をしていたね。ヒョードルと試合？　いや、自分は階級も違うし遠慮しておくよ（笑）。ただ、『アフリクション』で自分の階級でチャンピオンベルトができたら、それにチャレンジしてチャンピオンになりたいと思っている。もちろん、チャンピオンになる自信はあるからね」

世界の番長はどう闘ったのか!?

[08.7.19 アフリクション～BANNED～]
米国カリフォルニア州アナハイム ホンダセンター

○レナート・“ババル”・ソブラル vs マイク・ホワイトヘッド×
（3R 判定3-0）

かつてはリングスを主戦場とし、現在はジョシュのスパーリングパートナーも務めるババルが、クートゥアージム所属のホワイトヘッドと対戦。IFLを中心に、ここ最近10数試合無敗を誇る絶好調のホワイトヘッドだったが、大歓声を受けたババルがグラウンドで優位に立ち、最後はスタミナ切れを起こすも判定勝ち！

○アンドレイ・アルロフスキー vs ベン・ロスウェル×
（3R 1分13秒 KO）

元UFCヘビー級王者アルロフスキーが、IFLのヘビー級戦線で連戦連勝のロスウェルと激突。序盤から激しいド突き合いとなった大型番長対決を豪快な右アッパーで制したのはアルロフスキー。ヒョードルに完敗したシルビアに過去1勝2敗という戦績のアルロフスキーだが、この勝利でヒョードルと対戦の可能性は近づいた？

○ジョシュ・バーネット vs ペドロ・ヒーゾ×
（2R 1分44秒 KO）

『戦極』、IGFと日本マットを主戦場とする番長ジョシュが、かつて敗戦を喫したMMA界の大番長マルコ・ファスの一番弟子ペドロ・ヒーゾと対戦。スタンドでの攻防が続く中、強烈な左フックがヒーゾのアゴをとらえ、ジョシュが7年半ぶりのリベンジに成功！試合後、ジョシュのアフリクションポーズが炸裂……せず。残念！

強い！　強すぎる!!

すでに戦意喪失!?

ティム・シルビア

「最初にヒョードルにダウンさせられて、オレは何をしたらいいかわからず混乱してしまった。ヤツはスタンドでもグラウンドでも強烈なパンチを打ち、そしてオレはアッという間に極められてしまった（苦笑）。ヒョードルにはド肝を抜かれた。スゲェ男だよ。オレにはヤツが人間であるとは思えない。まあ、しばらくのあいだヤツを倒せるファイターは出てこないだろうな。誰にも倒せないよ、ヒョードルは……」

元UFCヘビー級王者、もう一丁!?

アンドレイ・アルロフスキー

「今回の（ベン・）ロスウェル戦は『アフリクション』が支払ったギャラのぶんだけは働けたんじゃないかな。自分の柔術のテクニックを見せる機会はなかったけど、ボクシングテクニックは見せられたと思うしね。今日の勝利は数ヵ月前に亡くなった祖母に捧げたい。まあ、明日にでもビデオで自分が何ができていなかったのかチェックしようと思うけど、いまは素直に自分の勝利を祝いたいね。オレはこれまで多くのビッグファイターと闘ってきたし、今日も自分のベストパフォーマンスを見せたいと思っていた。それはこれからも変わらないよ。相手は誰だっていい。オレはヒョードルでもジョシュでも『アフリクション』が選ぶ相手と闘っていく

永遠のライバル、4度目の可能性は!?

アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ

「今回、ホジェリオのセコンドで来たんだけど、ホジェリオはいい試合をしたと思う。ダナ（・ホワイト）に（ライバル団体の大会で）セコンドにつくことを反対されなかったかって？　最初は同日のUFCの大会のほうに来てくれと言われたけど、『弟のセコンドにつきたい』と言ったら、『そうか。じゃあ好きにしていいよ』ってダナは快く承諾してくれたんだ。ホジェリオの試合もよかったけど、メインのヒョードルの試合は爆発的な凄い試合だったね。パンチも速くて破壊力もあったし、そこからのサブミッションも素晴らしかった。ヒョードルともう一度闘いたいかって？　もちろん。多くの選手と同じように自分もヒョードルと闘いたいと思っている。でも、いまはUFCと契約しているし、いまの状況に満足してるからね。ただ、将来的にチャンスがあるなら、ゼヒもう一度ヒョードルと試合をしたいと思っている。次に闘ったら前に闘ったときよりもエキサイティングな試合になるのは間違いない。もちろん、そのときに勝つのはボクだけどね（ニッコリ）」

7・19『アフリクション』大特集は89ページから！　要チェック!!

○ポール・ブエンテロ vs ゲーリー・グッドリッジ×
（3R 判定3-0）

大会ド直前でのアレキサンダーの欠場により急きょ参戦が決まったのがPRIDEの門番として活躍したグッドリッジ42歳。緊急出場&流血にもめげず奮闘したグッドリッジだったが、昨年11月にストライクフォース・ヘビー級王座決定戦でアリスター・オーフレイムに敗れたブエンテロに苦戦をしいられ判定負けを喫した。

○ビクトー・ベウフォート vs テリー・マーティン×
（2R 3分12秒 KO）

PRIDE常連ガイジンとしてもおなじみのビクトーがセコンドにクートゥアーをつけて登場。対戦相手のマーティンは6月のアドレナリン旗揚げ戦で高瀬大樹と対戦し反則勝ちを収めた選手だ。試合はスタンド勝負にこだわったビクトーが飛びヒザからのパンチ連打で完全KO!　試合後、観客が一斉に立ち上がりビクトーに大拍手!

○アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ vs エドウィン・デウィーズ×
（1R 4分06秒 TKO）

セコンドに兄のホドリゴをつけたホジェリオがここ最近、格段の進歩を見せているボクシング技術を駆使し、デウィーズを圧倒。試合前からの狙いどおりパンチでダウンを奪ったホジェリオは、すぐさまパウンドの連打を浴びせ勝利。試合後、アニキの仇を討つべくヒョードルに対戦表明……という話はいまのところない。

界最高峰のドラマ

予想以上の激闘、そして想像を超えた結末で、凄まじい盛り上がりを見せた7.21DREAMライト級GP FINAL ROUND。青木、宇野、川尻、アルバレス、そしてヨアキムのハイレベルな闘いは、ライト級の世界最高峰というだけでなく、かつてPRIDEでヒョードル、ミルコ、ノゲイラらが展開したような、闘いの中でファイターたちが紡ぎ出す極上のドラマをついに日本マットに復活させてくれた。日本総合格闘技復活の号砲は、このDREAMライト級GPによって放たれたのだ。

EIGHT
RIX 2008

よみがえった世界

DREAM LIGHTWE GRANDPR

大どんでん返し！ リザーバーがまさかのベルト強奪！
アルバレスとの“友情タッグ”が奇跡の結末を生み出した!!

「PRIDE休止でオレも地獄を見た。いまは夢のようだよ」

初代DREAMライト級王者
DREAMライト級GP2008優勝

ヨアキム・ハンセン

ウィ〜〜ッ!!（ロングホーンポーズで）。北欧の不沈艦がライト級GP優勝!! 一日2試合のワンデイ・トーナメント。準決勝の川尻達也戦で傷ついたエディ・アルバレスに代わって花道を歩いたのは、そのアルバレスの“親友”ヨアキム・ハンセン!! 試合では青木をパウンド葬、天山と小島を超えるこの“友情タッグ”は、とんでもない奇跡を生み出してしまったのだ! ウィ〜〜ッ!!

聞き手／ジャン斉藤　撮影／乾晋也　試合写真／乾晋也、山口比佐夫

――DREAMライト級GP優勝、おめでとうございます！

ハンセン　ありがとう！　一夜明けたいまでも信じられない気分だよ（笑）。

――でしょうね（笑）。リザーバーだったとはいえ、来日したときはまさかこんな展開になるなんて思いもしませんでしたよね？

ハンセン　そうだね……。ブラックマンバ戦のことしか頭になかったよ。

――今回のGPって、出場選手が揃わなかったり、推薦枠があったり、かなりドタバタしていたところもあったんですけど。こうして終わってみて感想はいかがでしょう？

ハンセン　本当にいまは最高の気分だよ。もちろん、まさに〝夢〟のようなことが起きたという驚きはあるけれど、終わってしまえば過去のこと。自分にはトーナメントに戻ってアオキと闘ったっていう結果だけが残っているよ。

――今回のトーナメントは毎回名勝負が生まれたわけですが、その中でもアルバレス選手とは激闘によって友情が芽生えて、そして今回、負傷のため決勝戦を欠場したアルバレス選手の代わりに出場したというのは、本当にシナリオがあったんじゃないかっていうぐらい見どころがあったと思うんです。

ハンセン　何を言いたいかよくわかるよ。言葉では説明できない本当に不思議な気分さ。　映画だったら「映画だから作り話だろ？」って思うような内容だったね。でも、凄いことにこれは現実なんだよな。

――映画化の話もあるかもしれないですね（笑）。アルバレス選手の欠場報告で「私の代わりはハンセン選手しかいない」というマイクアピールを聞いたときはどんな気持ちでしたか？

ハンセン　そのときはまだロッカールームにいたんだけど、俺が決勝に出るということが最終的に公式に発表されて、アオキと闘う前にわざわざエディがロッカールームにやってきてくれて、「幸運を祈る」って言ってくれたんだ。とても嬉しかったよ……（しみじみと）。

――『DREAM・3』でも、アルバレス選手と「二人が勝者だ」というやりとりもあったんですけど、そのあとにプライベートで食事に行かれたそうですね。

ハンセン　翌日にみんなで出かけて夕飯を食べたよ。『キルビル』を撮影した、『権八』という寿司屋さんに行ったんだ。

――そんなところへ（笑）。ハンセン選手はいままでいろいろな選手と闘ってきたと思うんですが、ほかにそうやって友情が芽生えたことってありますか？

ハンセン　試合をした選手とはみんな友だちになるよ。試合後に握手をすれば冗談を言ったりする仲になるんだけど、とくにエディとカオル・ウノと、ハヤト・〝マッハ〟・サク

[07.7.21 DREAM.5]
大阪・大阪城ホール
DREAMライト級GP リザーブマッチ
○ヨアキム・ハンセン vs ブラックマンバ×
（1R 2分33秒 腕ひしぎ逆十字固め）

MMA版スタン・ハンセンvsジェット・シン!!……という感じでもないが、とにかくナイスなマッチメイク。マンバ特異のヒザ蹴りを被弾したヨアキムが、グラウンドに持ち込みタップアウト! この時点でアルバレス欠場の報は流れておらず、大きな意味を持つことになるなんて……。

ライとは気持ちがつながったんだ。言葉が通じなくても気持ちが通じ合う人がいる。

――PRIDEが休止してハンセン選手の行き先も不透明なところがあったと思うんですけど、UFCからの誘いを断ったのはどういった理由からでしょうか？

ハンセン　あのときは本当に大変な時期だったんだ。UFCはPRIDEを買収して、当然そこに上がっていた選手もそのまま引き継ごうとした。そしてUFCが新たに出してきたオファーというのは金額的にはそんなに悪いオファーではなかったけど、自分の希望をかなえるためにもっと交渉しようと思ったんだ。で、その決心をした途端にトレーナーもマネージャーも全部失なってしまい、本当に一人ぼっちになってしまった。おまけにUFCとの交渉のためには弁護士も雇わなければいけなかった。それが修斗の試合で負けたとき（光岡映二戦＝判定負け）。あの頃は本当にどん底だったんだ。地獄だった……。

――UFCは信用ならなかったということですか？

ハンセン　いや、そういうワケじゃないけど、あまりこき使われたくないんだ（笑）。

――なるほど（笑）。

ハンセン　でも、選り好みする立場でもないんだよな。俺の母国ノルウェーではMMAが禁止されているから、試合をするには外国に行かなければいけないんだ。だから主戦場としていたPRIDEの休止は、本当に絶望的な状況だった。どんなにかすかなものであっても希望を忘れたことはなかったけどね。

[07.7.21 DREAM.5]
大阪・大阪城ホール
DREAMライト級GP決勝戦
○ヨアキム・ハンセン vs 青木真也×
(1R 4分19秒 TKO)

2年前の対戦では、青木のフットチョークの前に秒殺負け。今回もフットチョークでヒヤリをする場面があったが、慌てずに脱出! 高度な読み合いを経て、強烈なパウンドを炸裂! みるみるうちに力が抜けた青木に襲いかかり優勝をもぎ取った! 友情、友情!!

アオキと闘う前にわざわざエディがロッカールームにきてくれたんだ

――しかし、母国で仕事ができないなんて、想像を絶する状況ですね。

ハンセン　KOで終わるスポーツは、ボクシングもキックボクシングも全部禁止なんだ。アマチュアはOKだけどね。本当に残念なのは、将来的に凄くいいファイターになる可能性がある若者がたくさんいるんだけど、育てる環境がないってことだ。もともとノルウェー人はバイキングの血を引いている。生まれ持っての格闘家なんだけど、ノルウェーじゃ活躍の場がないんだ。

――じゃあ、ヨアキム選手がこんなに素晴らしいファイターだってことを地元の人は知らなかったりするわけですか？

ハンセン　知っている人は何人かいるよ。MMAに興味を持っている人は自分のことを知ってる。

――お話を聞くと、日本はまだまだ恵まれていますね。

ハンセン　そういうことだ（笑）。日本の格闘技界もいろいろ大変だろうけど、物事はみんないいときも悪いときもあるんだよ。ノルウェーでMMAを応援している人たちは、日本こそが"MMAの生まれ故郷"だと思っているよ。どうかその誇りを持ってほしい。どこの世界でもそうだと思うんだけど、人間は真剣に何かをやってる人や、真剣勝負をしている人に凄く心が惹きつけられるものだと思う。気持ちを込めて、魂を込めて、真剣に勝負してる選手がいるんだっていうことをわかってもらえれば、DREAMはまったく問題ないと思う。

――わかりました。いつかノルウェーでMMAが解禁されることを祈っています。

ハンセン　ありがとう！　今度はチャンピオンとしてDREAMで闘うよ。

【08年7月22日／大阪市内・某ホテルにて収録】

JOACHIM HANSEN■1979年5月26日、ノルウェー出身。ジョシュもたじろぐHR／HMマニアにして、自身でもバンドを率いるクールなアニキ。修斗、『HERO'S』、『PRIDE武士道』で活躍。笑うと川谷拓三に似ていると一部で評判!?　175 cm、69.8 kg。

青木真也

胸を張れ!! おまえが作った夢だった!

——とりあえず、DREAMライト級GP完走、お疲れさまでした!
青木 ありがとうございます!!
——ここまで本当に長かったですね。
青木 長かったですねぇ……(しみじみと)。
——さかのぼれば、昨年4月のPRIDE休止からの〝試練の物語〟ですよね。このDREAMライト級GPって、じつは〝幻のPRIDEライト級GP〟の構想が引き継がれたところはありますし。
青木 そういう意味でも、長い闘いでした。自分で言うのもなんですけど……頑張ったと思うし、凄い試合を見せられたし、自分の姿勢を貫いたし、バカになったたし。
——凄く濃い経験ができたというか。
青木 本当そうですね。人生の糧になってますよ。
——決勝戦も、ありえない展開で。対戦相手がリザーバーのハンセンになったことを聞いたのはどのタイミングだったんですか?
青木 たしか休憩明けの所(英男)さんの試合が始まってから。結果、ハンセンに眠らされたけど、みんなをハ

宇野薫撃破も、伏兵ハンセンの狂拳に沈む――!!
バカサバイバー、涙のGP完走!!

「全力を出しきった。これがいまのボクだった」

MMA史上に残る数多くのドラマを生み出したライト級GPがついにフィナーレ!
我らがワオ木さんは惜しくも準優勝で涙、涙の結末となったが、DREAMの大黒柱としておおいに活躍を見せてくれた。
激闘を通じて一皮剥けたワオ木さんに、GPを振り返ってもらいながらこれからのことを語ってもらいました!
今年下半期も生き残れ、これ♪ バカサバイバー!

聞き手／ジャン斉藤　撮影／乾晋也　試合写真／乾晋也、山口比佐夫

ッピーにしてあげることはできなかったけど、これがいまのボクだから。できることを全部やりましたよ。

――敗戦後のリング上でだいぶ時をすごしましたよね？　あそこで何を考えていたんですか？

青木　応えられなかったなって。〝負けてしまったこと〟を考えていたんじゃないんです。PRIDEがなくなってからずっと苦しいときがあって、それでも格闘技をやらせてもらって、応援してくれるスタッフや家族だったり、仲間やファンだったり、この4ヵ月支えてくれた人たちがいっぱいいて。そうやってボクに期待してくれる、応援してくれる人を幸せにしたかったんですよ。それができなかった自分の無力さというか、しょっぱさが悔しくて、悲しくて。

――そういえば、ベスト4ファイターはみんな泣いてましたね。

青木　泣いてましたっけ？

――宇野さんは入場で泣いてましたし。泣いてないのは、ハンセンだけ。泣いてない人が優勝したんです（笑）。

青木　そうなのか……。まあ、いまの青木真也の力を出してこれだから。出しきったから清々しいっちゃ清々しいんですけど、なんともいえない無力感があって……。

――でも、初戦の宇野薫戦は素晴らしい試合でしたよ。MMAってこんなに先まで進んでいるんだなって。

青木　もう出しきりました。160

パーセントぐらい。

—なぜ160パーセント⁉（笑）。

青木　原油高だし、燃費の問題です。もう疲れた‼

—で、どんな作戦だったんですか？

青木　宇野戦は、〝青木真也〟を出し続けることが作戦でした。主導権を握って攻め続ける。アメリカ嫌いが、アメリカ的な作戦に出たんですよ。

—宇野薫という選手の感想は？

青木　最高でした！　凄く強かったし、ボクと向き合ってくれたことは感謝しています。やっぱり男ですね、宇野選手は。

—内容的には、青木さんが完封したふうにも見えますけど？

青木　いや、じつは宇野選手のペースだったのかもしれないです。ずーっと、攻めさせられているのかも。

—へえ～、なるほど。

青木　あれはきっと宇野選手のペースなんですよ。結局、一本取れず。

—途中で神がかり的な三角を極めたじゃないですか。手応えは充分すぎるほどあったんですよね？

青木　バッチリ入ってましたよ。けど、たぶん顔が小さかったから。

—あ、そういう問題ですか？（笑）。

青木　顔が小さい選手に三角は極まらないんです！　あと、肩とかをすくめるのがうまかったです。その前のヒールも本気でひねって足バキバキ鳴ってたけど、タップしないんですよ。シューズ履いてるのに。

—あのヒールも手応えあった？

青木　ありましたねぇ。ただ、NIKE製だけあって、ガッチリした上品な靴で（笑）。極まってたんですけど、根性でちぎられて。

—脱出した宇野さんも凄いけど、青木さんの寝技の引き出しも、まだまだあんなもんじゃないんですよね。

青木　まだまだありますよ。

—はあ（笑）。青木さんって何を理想に寝技を磨いてきたんですか？

青木　サブミッションで強くなる！

—もっと詳しく！

青木　ないですよ。そのへんはイマナー（今成正和）と一緒ですよ。

—今成さんと？

青木　イマナーってジムの会員さんに「関節技ってどうやったら極まるんですか？」って聞かれたら、「うん、曲がらないほうにね、曲げたら痛いんじゃないですか」って答えるんですよ。ボクもそんな感じです。

—ますます、わかりづらいですね（笑）。一方の打撃って、見た目わかりやすいじゃないですか。

青木　そうですね。バカでも当たればわかりますからね。

—そう、バカな『kamipro』でもわかるんですけど。

青木　誰も『kamipro』とは言ってないですよ（笑）。それに打撃は好きですよ。ムエタイ、大好き‼

—で、青木さんの寝技って、見た目よくわからないけど、なんだか凄さだけは伝わってきますよね。ノゲイラと青木さんくらいですよ、おもしろさと奥深さを兼ね備えた寝技って。

青木　だから要はいままでの概念をぶっ壊したいなっていう感じです。

—その概念の壊し方なんですけど、たとえば大山倍達の伝説ってあるじゃないですか、いろいろ。

青木　牛の角を折ったとか、10円玉を曲げたとか。

—弟子たちがその伝説をイメージして鍛錬に励んで、強くなったり、実証したりする。今回のDREAMでいえば、中村（大介）選手もUWFの先達のイメージを持って、MMAでUスタイルをやろうとしている。

青木　中村選手はロマンありますよねぇ～。レガースを着けることによって強くなってますね。ボクの理想とするガチンコ+プロレスですよ！

—ガチンコ+プロレス、ガチプロ！　なんだか懐かしいフレーズ（笑）。

青木　やっぱりガチンコ+プロレスが理想なんですよ、ボクは。ガチンコ+ガチンコになっちゃうとロマンがなくなっちゃう。いまみんな悪い意味でガチンコしすぎて、なんだか窮屈なんですよ。

—プロレス的要素って、ある種の余裕がないと受けとめたり楽しめたりできないですから。じゃあ、青木さんの場合ってガチンコ+プロレスの精神でここまで究めたんですか？

青木　テクニック的なことでいえば、なんか〝いいとこ取り〟ですよ。誰かの試合を観て「ヤバイ！」って感化されて。また誰かが違うことをすると「これ、いいんちゃう？」という感じで取り入れて。ワオ木は〝いいとこ取り〟の現代っ子なんですよ。

—〝いいとこ取り〟でそういうスタイルになるものなんですかね。

青木　なりますよ！

—簡単に言いますねぇ。

青木　だって、あんまり深く考える必要なくないですか？

—いや、深く考えるのがボクの仕事なので（笑）。確固たるイメージがないと、先行きへの不安を覚えないですか？　ガチプロって解釈が広すぎるところもありますし。

青木　というか、自分の強さに自信はないですよ。毎試合、凄く怖いです。強くなれてないなあと思って。強くなってる実感、多少はありますけど。

—〝多少〟ですか。格闘技の怖さでいうと、今回のベスト4+ハンセンたちの闘いって、ちょっとした差で勝敗が変わってしまう紙一重の怖さはあります？

青木　それはありますよね。川尻さ

［07.7.21 DREAM.5］
大阪・大阪城ホール
DREAMライト級GP準決勝
○青木真也 vs 宇野薫×
（2R終了 判定3-0）

青木といえば足さばきばかりがクローズアップされがちだが、ほかにグラウンドで有効的に用いているのが、手で相手のリストをつかんでコントロールするテクニック。持ち前の握力で手の自由を封じ込めるのだ！

カルバン戦での涙に始まり、涙で終わった青木のライト級GP。初代仮面ライダーの藤岡弘、との泣き顔でのツーショットも、なんとも言えない趣があっていい感じ！

〝勢いのあるときの五味隆典〟になれなかったなぁって感じですよ

青木真也

んも一発当てたら倒せるパンチを持っているし、ボク自身もサブミッションを持ってるし、ほかの選手もスペシャルな技を持ってるじゃないですか。だから、ホントにどうなるかわからないですよね。今回のライト級GPって〝やってみないとわからない〟っていうロマンがあって。

――そういう闘いを観るからこそお客さんは興奮するわけですよね。

青木　アルバレスなんて前日に会ったときに獣臭がしたんですよ。

――獣臭？

青木　ずっと言ってたんですけど、なんか獣な感じなんですよ。たぶん〝殺しのライセンス〟を持ってるんです。川尻さんは〝殺しのライセンス〟を受験して取得した人なんですよ。だけどヤツは生まれてきたときにもうハンコを押されてるんです。

――そのアルバレス戦は観たかったですけどね。

青木　ボクもやりたかった。

――正直、ハンセンに変更になってテンション下がりませんでした？

青木　それは全然納得しているけど、いまでもキツネにつままれた感じ。

――それは青木さんにしかわからない感情ですね（笑）。

青木　だけど、それがトーナメントですからね。「もう誰でもこいや！」って思ってリングに向かったら、眠ってた。眠らされて泣きそうでしたよ。っていうか、泣いてましたねぇ。

――はい。青木真也の悔し涙で始まったGPは最後も。

青木　けど、ボクらしい結末じゃないないですか？

――……ええ。本人を目の前にして言うのもなんですけど（笑）。

青木　ねぇ。自分で笑えてきましたもん、最後。倒されて、控室に戻って、「……凄く絵にならねえな」って。そういう星の下なのかなあ……。

――でも、その試練をプラスにしてきたのが、ワオ木先生の歴史だったりするじゃないですか。

青木　そうなんですよね。真面目な話で言っちゃうと、逃げないで挑戦し続ければ絶対いいほうに転がるんで。ボクは今回ベルトというものを獲れなかったんですけど、強がっているわけじゃなく、「まあ、べつに」って感じですよ。でも……〝勢いのあるときの五味隆典〟にはなれなかったなあって感じです。

――それって五味さんがPRIDEで10連勝していた頃ですか？

青木　そうですね。〝いいとこ取り〟じゃないですけど、昔は五味選手のビデオ観て「こんな感じだ！」ってテンションを上げてたんですよ。

――でも、青木さんはまだ若いですから。なにしろ25歳ですよ（笑）。

青木　たそがれてられないですよね。うちのオヤジやおふくろも「この4ヵ月間でおまえを強くしてくれたよね」って言ってくれたんですけど、凄くいい経験だったなあと思います。

――話は変わりますけど。ボクが青木真也というファイターに対する評価の声で一番印象に残っているのは、カルバン戦後に佐藤大輔さんが言ってた「でも、最後に『調子に乗るなよ』と言っておきます（笑）」っていうコメントなんですけど。

青木　クククク。いや、優勝しようが地上波に乗ろうがなんも変わらないです。終わったあとに「大輔さんやられちゃいました。また頑張ります！」って言えるし、勝っても「もっと挑戦させてください」って言えるし、そういう部分では全然ブレてないですよ。

――表現者って調子に乗ってナンボのところもありますが、たぶん、大輔さんは勝つことで道を踏み外す選手をたくさん見てきたんでしょうね。

青木　ボクは大丈夫！　だって挑戦し続けるから。家にテレビもないし、いい車に乗りたいとか、歌を歌いたい気持ちもないし、そんなの「何様だよ！　殿様かよ⁉」って感じですよ。

――オープニングの暴言だ（笑）。

青木　（急に小声になって）あれはヤバイですねぇ。

――もう遅いですよ（笑）。秋山選手と接触しませんでした？

青木　控室が隣だったんですけど……………ちょっと微妙な雰囲気でしたね。やっちゃいましたねぇ。

――ダハハハハハハ！　それはそれとして、DREAMもこれで一区切りついたような気がしますね。

青木　まだまだ突っ走りますよ。

――9月のDREAM、出ますよね？

青木　……えっ？

――DREAM皆勤賞じゃないんですか、今年は？（笑）。

青木　まあ、来る者拒まず、去る者追わずで試合はしたいですね。でも、ちょっと目先変えたいなあ。すぐにハンセンとリターンマッチってわけじゃないじゃないですか。アルバレスとも温めなくちゃいけないわけだし。

――じゃあ、ウェルター級？（77キロ以下）。

青木　いや、もっと夢を見たいですね。ザ・無差別!!

――無差別⁉　じゃあ、バダ・ハリvs青木真也をやりましょう！

青木　……殺す気ですか？

――いや、だって無差別って言うから。

青木　それね、大輔さんも真顔で言ってた。「青木だから大丈夫でしょ？」って、人のこと考えてないですよ。

――ボクはアメリカ進出のほうが観たいですね。殴り合いしか知らないアメ公の度肝を抜いてほしい（笑）。

青木　アメリカ行ってみたい！　ヒッチハイクで出稽古して、そのままジムに寝泊まりする。それで1ヵ月くらいアメリカを放浪して。

――プロレスで失なわれた武者修行の趣ですねぇ。

青木　ガチプロでしょ？　もちろんケージもやってみたい!!

――それはDREAMが許してくれないかもしれないですけど。つながりのあるエリートXCで全米デビューしてほしいですね。きっとグレート・ムタ以来のスターになりますよ！

青木　まあ、DREAMが「やれ」って言うことは全部やろうと思って。いろいろ考えたんすけど、やっぱり人間一人じゃ何もできない。試合も一人じゃできないし、興行もそうだし。ワガママだけを言うんじゃなくて、一緒に作っていくもんですよね。でも、アメリカは回りたい！　でも、もっともっと強くなる自信がある。

――今年の下半期も期待してます！

青木　大晦日まで青木真也は突っ走りますよ。頑張って、イチからやり直して、挑戦し続けたいです。ファンに「やっぱり青木かっこいいじゃん」って言ってもらえるように頑張ります！

――では、お休みなさい。

青木　押忍!!

【08年7月21日／大阪市内・試合ド直後、宿泊先のホテルにて収録】

あおき・しんや■1983年5月9日、静岡県出身。世界最高峰の奇天烈グラップラー。DREAMライト級GPでは宇野薫に準決勝で激勝するも、決勝ではヨアキム・ハンセンにTKO負け。ドラマチックな格闘技人生を歩む、ライト級戦線のトップランナーである。現在『KAMIPRO Hand』で『週刊ワオ木真也』連載中！　180cm、70kg。

混沌のDREAMライト級GP、ついに決着!!
そこから導かれた答えは……？

誰が一番強いのか もうわからん!!

“プロフェッショナル解説者”

髙阪剛も今回はお手上げ!?

ついにクライマックスを迎えたDREAMライト級GP……のハズだったが、フタを開けてみればヨアキム・ハンセンの優勝というまさかの大ドンデン返し!! 大激戦連発となった今大会終了後、またまた“プロフェッショナル解説者”TK先生に解読してもらおうとしたのだが、なんと先生もお手上げ宣言!?

聞き手／堀江ガンツ　大会写真、撮影／乾晋也

青木真也vs宇野薫

宇野にとっては答えのない敗戦

ーー髙阪さん。前回の直前講座に引き続いて、大会終了直後にライト級GPを中心にプロフェッショナルな解説をうかがいたいと……。

TK （さえぎって）いやー、今回はもう無理だわ（笑）。

ーーあ、プロフェッショナル解説者でも解説不能ですか？

TK 正直、お手上げって感じだわ。結果が出たのに、なんか終わった感じもしないし。

ーーより混沌としてきましたからね。

TK 準決勝、決勝はやったけど、「なんなの、この残尿感？」って（笑）。

ーーとはいえ、そこはなんとか宇野vs青木戦からお願いします！

TK そうねぇ～。これはもう宇野は完敗だよね（キッパリ）。

ーー結果は判定でしたけど、キッパリ言いきるぐらいの完敗ですか。

TK 序盤から青木にペースを握られちゃったからね。最初のテイクダウンは青木が飛びヒザから差したけど、いつもの宇野ならテイクダウンさせながら、反転して自分のポジションをキープする動きができる。でも青木はそこも予期してマウントを取りにいってた。じつは余裕がないとああいう動きはできないんだよ。

ーー青木選手に余裕がありましたか。

TK 宇野も下から跳ね返す力強さもあるんだけど、青木はその動きに合わせてドンドン先に動いてるから。

ーー常に先回りをしていた、と。

TK で、それは石田（光洋）戦を見るまでもなく、本来なら宇野が得意とする動きなんだよね。それを全部、青木にやられたから、1ラウンド序盤だけで「ヤバイな」と。青木のヒールホールドはしのいだけど、あの絞りも完璧に近かったし。

ーー極まってもおかしくない、と。

TK ほとんど極まってましたよ。宇野も逃げにくい状態なのに微妙に角度をズラしながら内側にヒザを入れて逃げたけど。青木はその瞬間、次の動きの布石を打ってるんだよね。

ーー単にヒールを極めるだけじゃなく、その先にもさらに罠が張り巡らされていた、と。

TK あと青木がバックマウントとガードポジションの中間くらいの位置が多かったじゃない？

ーー得意のボディシザースで動きを制していましたよね。

TK 青木はあれで宇野の身体をコントロールしてたよね。しかもそのあとの三角絞めも、青木が宇野を動かしてるんだよ。

ーー宇野を立ち上がらせるよう青木が仕向けたわけですか？

TK そうそう。エサをまいておいたら、三角のポジションに相手が勝手に入ってくれるように。

ーー食虫植物が虫が近くにきたときパクッ！と食べちゃう感じで（笑）。

TK 宇野もよくこらえたけど、宇野にしてみたら、何もできないまま1ラウンドが終わった感じだよね。

ーーそして2ラウンドは打撃でいこうとしたら、タックルに入られて。

TK あれは青木はほとんど踏み込んでないでしょ？あれも青木がバックステップで呼んでるんだよ。

ーーそこでも仕掛けてましたか⁉

TK バックステップして、宇野は呼ばれるがまま打撃で踏み込んでしまってる。そこへ青木がカウンターのタックルに入るんだけど青木は同時に左手で宇野の足首を取るってたから、宇野はタックルを切ることもできなかったし。一昔前は打撃系の選手に組み技系の選手がテイクダウンを取るとき、ああいう仕掛けを使ってたんだよね。俺も得意だったし（笑）。

ーーお得意のムーブでしたか。

TK それを1ラウンドに寝技で強いプレッシャーをかけた人間がやるんだから、宇野は面食らったろうね。そのあとスタンドの展開になってないから、あの攻防が2ラウンドのすべてだし、宇野が消されちゃった。

ーーじゃあ、宇野選手は判定負けという結果以上の完敗だった、と。

TK 宇野にしてみたら「あのとき、ああしていれば勝てた」みたいな答えのない敗戦。罠を張り巡らしている青木の術中にハマらないためには、攻めないという選択をするしかないんだけど、攻めなきゃ勝てないし。実力差うんぬんじゃなしに、宇野が完全に消されちゃった試合だったね。

ーー宇野選手がそんな負けを喫したのは初めてなんじゃないですか？

TK 逆に宇野がいままでそういう試合をしてきたんだよ。修斗での佐藤ルミナとの最初のタイトルマッチでのスリーパー、UFCでのイーブス・エドワーズやディーン・トーマズとの試合の判定勝ちなんかね。だから今回、青木にそれをやられたのは衝撃だったろうね。

ーー髙阪さんにも衝撃的でした？

TK いや、寝技に関しては青木はいつもあれぐらいのことやってるけど、この準決勝の舞台で完封したってところに、青木って男の凄まじさを再認識したねえ。

川尻達也vsエディ・アルバレス戦

自分のハードルをさらに上げた川尻

TK この試合も、気持ちが前に出たいい試合だったと言えばそれまでなんだけど、川尻はそれ以上のものを作っちゃったよね。

ーーそれ以上のものですか？

TK この試合は打撃がスクランブル交錯して、どれが当たった、これが当たったって問題じゃなかったよね。

ーー最後はもう運否天賦というか。

TK 最初は二人ともうまくやってたんやけどね。エディは構えをオーソドックスからサウスポーにスイッチして混乱させたり、川尻は前足のローキックでエディのバランスを崩したり。でも打ち合いになったら、川尻は一切意に介さず、踏み込んで打ち込む戦法を徹底したよね。

ーー最初のダウンも踏み込んで左フックのカウンターを入れてましたね。

TK 基本は「殴り倒す」オンリーで。しかも打撃に合わせてテイクダウンを取ったりしてないのに、あのエディからダウンを奪ってるんだから、これは打撃の技術力というより〝攻撃力〟を評価するべきだよね。

ーー攻める力が飛び抜けていた、と。

TK 川尻は自分のハードルを自分でさらに上げちゃったよね。「ここまでできるんだ」っていう。それに、最後の打撃の攻防は川尻もエディを効かせてたし、エディも川尻を効かせていた。だから川尻があと1、2センチ深く踏み込んだら、エディが逆の立場だったかもしれない。

ーーまさに紙一重だった、と。

TK 最終的にトドメを刺したエディもたいしたもんだけど、この試合はそれ以上に自分を貫いた川尻が評価を上げたよね。エディは途中から大振りになったから、川尻もテイクダウンに成功してるけど、エディはライト級GPでマウントって初めてとられたんじゃない？

ーーあ～。そうかもしれないですね。

TK 圧力でマウントまで取れたのは、「体力で外国人に勝てない」って定説をひっくり返した。しかも川尻はエディをある種、クラッシュさせて、決勝進出を止めたんだから……。川尻おそるべしですよ。

青木真也vsヨアキム・ハンセン戦

寝技をやるもん同士の高度な攻防

ーーエディが川尻に〝クラッシュ〟されたことで、決勝が青木vsヨアキムになったわけですが。

TK 当然だけど、ヨアキムのほうが精神的にかなりラクだったよね。

ーープレッシャーもないですから。

TK ブラックマンバとの試合なんて、ダメージどころか、ヘタしたらアップ代わりって感じで（笑）。

ーー宇野戦でスタミナを消耗してるように見えた青木とは、精神面と体力面でまず差があった、と。

TK　で、ヨアキムがパウンドで攻めたのは、青木の脚の怖さは一度フットチョークで負けてわかってたし。この日も青木はラバーガードからフットチョークに行ける場面があったけどヨアキムはへたに動くと、青木の術中に入るからガマンしてた。これは気持ちの余裕がないとできない。

—タナボタ決勝進出だからこそ、よけい冷静に闘えたのかもしれない。

TK　で、機をうかがって、腕を引き抜いたあと、一度脚を触るフェイントを入れつつ、パウンドを打ってる。これは寝技をやれるもん同士じゃないとできない攻防だよね。

—脚を触るっていうのは、どんな意味があるフェイントなんですか？

TK　脚を触ってからのパウンドというと、川尻がよくやるパスガードしながらのパウンドがあるけど、それをやると青木は相手がパスに行こうとするところを腕をたぐり寄せてバックに回ることもできる。ヨアキムはそれを嫌って、あえてパスはせずに脚を触るだけで、パウンドを落とした。青木はパスが来ると思ってるから、当たっちゃったんだろうね。

—青木は先を読んだけど、ヨアキムもその先を読んだ、と。実際、最初の2発のパウンドはかなり効いてたように見えました。

TK　効いてたねぇ。最後のパウンドは、今度はヨアキムがパスしながら打ちにいってるんだけど、青木は同時に片足タックルを取りにいってるんですよ。そしたら、逆に見たこともないような出会い頭になった。

—もの凄いタイミングだった、と。

TK　もっと早く青木が動いたら、脳天にパンチが当たってハンセンの拳が壊れてだろうし、遅かったら、青木はやりすごしてただろうけど。

—技術に裏打ちされた上での偶発的なパンチだったわけですか。

TK　それがスムーズにハマるんだから、不思議な大会だったねぇ（しみじみと）。お互い寝技を知ってるから、あのタイミングになったし、寝技の動きを知らない選手なら、あんなドンピシャでももらわないし、あそこまで効くパンチにならなかった。そこもこのトーナメントの複雑さを象徴してるというか。

—ハイレベルで最先端だからこそ、こうなっちゃった、と。

TK　そうだね。ただ、その試合には川尻がエディと闘ったのが関係してるでしょ？　エディがすんなり勝ち上がったら、展開はまた違っただろうし。やっぱり今回のGPのキーになったのは川尻だったのかなぁ〜。

—ポイントは川尻でしたか!?

TK　だけど負けてんだよね（笑）。TKOっていう文句ない負け方なんだけど。エディを破壊し、ヨアキムが上がったけどリザーブで試合をした相手はブラックマンバで、そのマンバに1回戦で勝ってるのも川尻で。

—まさに因果はめぐるというか。

TK　さらに、06年末に青木はハンセンにフットチョークで勝っている、でも今回は寝技の中の打撃でヨアキムが勝った。で、寝技の中の打撃といえば、川尻の得意分野じゃない？

—キーワードにことごとく絡んできますね（笑）。

TK　だから、ヨアキムがベルトを巻いても、DREAMのライト級はかたちがなんもできあがってない。これからドンドン変わっていくんじゃない。川尻もあれだけ高い次元の試合ができることを証明したから、青木、宇野、ヨアキムとやったらどうなる？　とか、とにかく考える余地がありすぎる。エディもファイナリストだから、ヨアキムとやる権利はあるし。もう頭、ぐちゃぐちゃになるって！

—複雑に絡まりまくってますねぇ。

TK　普通はトーナメントが終わると、優勝者に「やっぱりアイツか、凄えなぁ」ってなるじゃない？

—目に見えないランキングができるもんですけど、今回は5位くらいまで「全部、暫定！」って感じで。

TK　一年間通してワンマッチで総当たりして初めて、ぼんやり見えてくるぐらいの余地を残してるんだから。だからねぇ〜、今後のライト級もますます大変だよ、コリャ。

—選手があそこまでボロボロでも答えが出ないのは凄いですね（笑）。

TK　もう誰が強いのかわかんない！　今日はワシ、寝れないかもしれないよ（笑）。

—プロフェッショナル解説者が知恵熱出ちゃいますか（笑）。で、さらにもう一個、聞きたいんですが……。

魔王ふうに言うと、「ハンパない」川尻の肉体。DREAM参戦後、内容的に厳しい評価もあったもの、最後の最後でポテンシャル大全開！　引き続きライト級のキーマンとなるのは必至だ!!

【番外編】エメリヤーエンコ・ヒョードルvsティム・シルビア戦（7・19『アフリクション』）

皇帝の打撃は「起きろよ！」パンチ

—これはネットかなんかで、ご覧になりました？

TK　観ましたよ。でも、あれは正直、なぶり殺しだよ。ああいうことやっちゃいけません（キッパリ）。

—ダハハハハ！　相手はティム・シルビアなのにおかまいなしですし。

TK　元UFCチャンピオンだよ！　それがただのおっきな人に見えちゃう。ま、これはヒョードルと試合した人間にしかわからないし、日本人で2回やったのは俺だけだけどさ（笑）。

—おっしゃるとおりです。

TK　ヒョードルの打撃って、ほかのヘビー級みたいにカクンとヒザが落ちたり、気を失なって試合が終わったりじゃなく、とにかく痛いの！

—安らかに眠らせてくれる打撃じゃない、と（笑）。

TK　眠いのにハンマーでガンガン叩かれてる感じ（笑）。この試合も最初はストレートから左のフックなんだけど、その一発でティムは、「こりゃヤバイ」って冷や汗が出たと思う。そのあと連打をもらってるけど、それこそ「起きろよ！」パンチだよね。

—痛くてダウンって感じで。

TK　でもあの大振りなロングフックをあのスピードで打ってるのは、ヘビー級ではまずいないから、俺はティムを責められない（笑）。最後のスリーパーもノドにガッチリ入る前にタップしてるから、「勘弁してください」タップだよね。

—この異常な強さを見ると、ランディ・クートゥアー戦もどうなんだろうって気もしますけど。

TK　いや、俺はヒョードルの牙城を崩せるのはランディじゃないかなって。俺はランディとも試合してるけど、ランディとヒョードルの前に出るプレッシャーはどっこいだと思うし、拳の硬さも同じくらい。ただ、ランディは飛び道具がないから、組みついて相手を崩せるなら五分で闘える可能性はある。でも、ホントにヒョードルはムチャクチャ強いよ。

—なんか夏本番を前に、幻想あふれる大変な試合が、世界各地で行なわれてたんですねぇ。

TK　格闘技の神様のイタズラというかね。……やるほうも解説するほうもホント、大変だよ。コリャ！

—そう言わず、今後もプロフェッショナルな解説をお願いします！

【08年7月21日／大阪市内のホテルにて収録】

魔王、ついに覚醒!!

いまこそ〝世間の嫌われ者〟になれ!!

文／田中太陽　大会撮影／乾晋也

あの〝ヌルヌル事件〟からはや1年7ヵ月。英雄の座を石もて追われた〝魔王〟が、ついに己の使命をハッキリと自覚した！

秋山成勲という特異なファイターはいま、その資質に最もふさわしい道へと踏み出したのである。それはすなわち〝自覚的ヒール〟への道だ。

桜庭和志戦以降、一貫してファンから〝反省〟と〝みそぎ〟を要求されてきた秋山は、本音と感情を徹底的にしまい込むことでバッシングをやりすごそうとし、けっして自覚的に〝悪役〟としてふるまうことはなかった。だが今回の『DREAM・5』では、そんな秋山の姿勢に劇的な変化が見られたのだった。

「マイケル・ジャクソンですよ」

オープニング映像、ならびに試合前の煽り映像において、秋山は自ら〝韓国における秋山成勲〟をそのように形容した。といっても、これはもちろん『HERO'S』時代に引き連れていた柔道キッズ軍団との赤裸々な関係をカミングアウトしたわけではなく（ネバーランドならぬ魔王ランド?）、自身の人気ぶりをアメリカン・ポップスターになぞらえてのもの。

だが実際問題、現在の地に墜ちたスキャンダルまみれのスター、マイケル・ジャクソンのアメリカでのパブリックイメージは、〝魔王〟そのもの!!

秋山は意図してないだろうが、偶然としてはできすぎの話であるところも含め、さすがと言うしかない。

確かに現在、韓国内を席巻している〝秋山ブーム〟は本物であるようだが、それにしてもこの発言、とんでもないスター気取りである！　いまだ〝ヌルヌル野郎〟を許していない日本のファンは完全に挑発された格好だがこの日、秋山が見せた〝開き直り〟のレベルはこんなものではなかった

地元・大阪ということで多少の歓声もあったようだが、基本的には大ブーイングに包まれて入場することとなった秋山。しかしその足取りは、昨年末『やれんのか！』で見せた重く悲壮な歩みとはあきらかに異なる、どこか吹っ切れた力強いものである。

そして驚いたことに花道では、ブーイングを飛ばすファンを直接睨みつけ、不敵にほくそえんでみせるという暴挙に出た！　もはや秋山の中に、ファンや世間に対する負い目はない。いまここに〝魔王〟は、完全体として覚醒したのである！

試合中の秋山もまた、いままでとはまったく違っていた。どう見ても、対戦相手の柴田勝頼を〝勝ち負けの相手〟として認識していないのである。スタンドの構えも、ローキックの打ち方も、嫌味なほどに仰々しい。

「どう勝つか」よりも「いかにカッコよく倒すか」にこだわっているとしか思えないのだ。途中、柴田に柔道着をつかまれ露骨にひるんだ場面があったのだが、噂によると、事後そのことを関係者につっこまれた際に「マジっすか？」とあわてて答えたらしいことからも、秋山のこの試合におけるモチベーションはあきらかだ。

かように傲慢な試合運びながらも、最後はキッチリ袖車で柴田を絞め落としてしまうのだから強すぎる。そして決着後には健闘した柴田にねぎらいの言葉をかけ、退場時にはファンにサインを提供するサービスマンっぷり。まるでスター選手か、興行の顔にでもなったようなツラの皮である。

もはや〝憎まれっ子〟であることを許容したとしか思えない秋山の変貌を、我々はいったいどう捉えるべきなのか？

一つだけ言えるのは「この秋山、おもしろすぎ！」ということである。ヒールとして自覚的にファンを挑発してゆく術を覚えた秋山は、今後も興行をヒートさせ続けてゆくだろう。

それを証明するかのように、秋山は試合後、このようなコメントを残している。

「ブーイングを喜ぶ選手はいないと思いますけど、ブーイングをされるのは格闘技界ではボク一人だけでしょう。だから、それを受け止めたうえでボクの役目をはたせれば、もっと盛り上がるんじゃないかなと思います」

魔性、ここに極まれり！　莫大なる〝黒の力〟を自覚的に使い始めた〝真なる魔王〟を前に、我々はもはや手玉にとられるしかないのだ。

真の力に目覚めた魔王は、次なる標的をあの田村潔司に定めたという。人気と知名度に加え、数多くの物語を抱える彼との対決は、もし実現すればこのうえなくドラマチックになることは明白だ。

こうして話題性のある闘いを重ねてゆくことで、秋山の魔性はいよいよもってその凄みを増してゆくだろう。

また、イベントプロデューサーの笹原圭一氏いわく、今後の秋山には階級を越えた闘い、すなわちヘビー級選手との試合も検討しているそうだ。

ならばミルコ・クロコップvs秋山などという、夢のまた夢といっていいカードも実現の可能性がゼロではないということになるではないか！　もしもそのような路線がスタートするのならば、DREAMの主役が〝魔王〟という恐ろしい事態になってもおかしくはない。

英雄の快進撃と、絶対悪の敗北は、おそらく同等のカタルシスがある。ドラマがある。かつてのPRIDEは、数々の英雄譚をもってその存在を世間に知らしめた。ならばDREAMが秋山のピカレスクロマンをもってして〝対世間〟を図ることもまた、現実的な算段ではないだろうか？

今大会のテレビ視聴率だが、瞬間最大数値はやはり秋山の試合であったという。世間はやはり〝嫌われ者〟に興味がある。イヤなヤツ、イヤなものがそこにあれば誰もがついつい見てしまうし、それが打倒されたときのカタルシスもまた、誰もが求めているはずなのだ。DREAM、ひいてはMMAが本格的にメジャー化するための鍵は、意外や意外、あの〝魔王〟が握っているのかもしれない。

秋山よ、いまこそ〝格闘界の嫌われ者〟を超えた〝世間の嫌われ者〟になれ！

DREAMフェザー級“暫定エース”が
“KID級”を“TOKORO級”に変える!?

大晦日にKIDさんとやりたい!!

「顔が0点」からの逆襲

所 英男

直前のカード決定、そして試合前には追突事故に遭うなど、文字どおり「逆境ファイター」状態ながら、7.21『DREAM.5』で難敵・山崎剛を判定で退けた所英男。山本KIDがヒザの負傷で長期戦線離脱をする中、DREAMフェザー級“暫定エース”は何を考えるのか。大会翌日、所さんを独占直撃した。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也

——DREAM2連勝おめでとうございます!

所 ありがとうございます。

——今回の山崎剛戦は決まったのが大会直前でしたけど、コンディション的には問題なかったんですか?

所 試合が決まるのかどうかギリギリまでわからなかったんですけど、自分の中ではやるつもりで準備してたんで、コンディションは大丈夫でしたね。それに、僕よりもっとギリギリの人もいたんで(笑)。

——ダハハハ! 中村大介選手なんて『DREAM・5』の4日前に『M—1チャレンジ』で試合して、そのあとオファーですからね。それに比べれば、まだマシだと(笑)。

所 あこそまでいくと、受けただけでも凄いですよね。

——でも、所選手も試合が直前で決まるわ、その直後に追突事故に遭うわで、出てきただけでも凄いですよ。

所 あの事故に関しては、なんか大きく報道されちゃったんでビックリしたんですけど、出場できてよかったです。

——『DREAM・5』の前に秋山成勲選手なんかは「数字(視聴率)獲ります」とか宣言してましたけど、所選手も急なオファーでの出場したというのは、自分が出ることでDREAMを成功させたいという気持ちもありました?

所　それは選手なら誰でも持ってなきゃいけないと思うんで、はい。

──とくに所選手はテレビには欠かせなかったりするじゃないですか。

所　そう言っていただけるとありがたいんですけど、ぶっちゃけ、どうなんですかね？　自分がホントにそこまで期待されてるのか、わからないんですよ。

──いや、所選手はなくてはならない存在ですよ。とくにKID選手がケガで長期離脱になったいま、フェザー級は所選手の活躍にかかってると思いますから。

所　もちろん自分がKIDさんの代わりにフェザー級を引っぱっていくっていう気持ちはあるんですけど、そのためには、昨日なんかもKOか一本で勝たなきゃダメですよね。

──でも、所選手の相手はDREAM一戦目も二戦目も、KID級ではなくても難敵だったじゃないですか。

所　難しい相手でしたね。とくに山崎さんはベテランで、実績もありましたし。

──そういう相手に判定でもしっかり勝利するというところに、所選手の成長ぶりを感じましたよ。

所　ホントですか？　昨日からダメ出ししか受けてないんで、自分では勝ったのに、ホントは負けたんじゃないか、って思い始めてるぐらいなんですけど（苦笑）。ただ、ああいう接戦で勝てる強さが前はなかったと思うんで、練習の成果がちょっとずつ出てるという気はします。だから競技者としては上達しているとは思うんですけど、魅せるプロとしては、ちょっと違うのかなって。難しいですよね。昨日も谷川（貞治）さんに「顔が0点」って言われたんですよ。

──顔が0点！（笑）。

所　「イキイキとしてない」って言われちゃいましたから。

──確かに入場してきたとき、表情に元気がなかったのは、ボクも感じました。

所　やっぱりプレッシャーが大きかったというか、ボク、こういう生存競争みたいなのが苦手なんですよね……。

──人を出し抜いてやるみたいなのは苦手ですか（笑）。

所　でも、厳しい舞台なんで、それじゃダメですよね。こんなこと言うのもなんなんですけど、DREAMになってからは、負けたらもうお呼びがかからないんじゃないかっていう、そういう危機感が自分の中であるんですよ。

──毎回、PRIDEに乗り込んでるような感じですか？

生存競争って苦手なんですけど
そうも言ってられないですからね

所　そうかもしれないですね。だから「負けられない」っていう緊張感が『HERO'S』のときよりもあるんですよ。そういう緊張感をもって挑んでるから、顔がイキイキしてないのかもしれないですけど（笑）。一試合一試合勝っていくしか、いまはないと思ってます。

──所選手の最近の試合を観ていて誰もが感じるのは、打撃が向上したということだと思うんですけど、ご自身としては手応えみたいなものはありますか？

所　打撃はもうかれこれ1年半以上、具志堅ジムと大森のゴールドジムで、本格的な技術を習ってるんで。それがようやく、ここ3試合ぐらいで出てきたなっていうのは感じます。ただ、ホントはちゃんと倒せるパンチ、KOできる技術を教わってるんで、それを出したいですね。

──打撃単体だけでなく、昨日の試合でもアームロック狙いから、離れ際にフック打って、ヒザ蹴りを入れるような、コンビネーションになっているのが見事でしたよ。

所　ホントはあのままアームロックで極めて、前田（日明）さんに報告したかったんですけどね。今回も試合前に前田さんの家に行かせてもらって、3時間みっちり、いろいろと教えていただいたんですよ。

──今度はどんなことを伝授されたんですか？

所　関節技もそうなんですけど、パンチのタイミング。それから闘いの中の駆け引き的なことも教えてもらってるんですよ。ボクもいつの間にかベテランになってきたんで（笑）、「ガンガン前に出るだけじゃなくて、駆け引きみたいなものも覚えていかないとダメだ」って言われてましたね。

──そういった駆け引きみたいなものは、実戦でだいぶ身についてきたんじゃないですか？

所　そうですね。このところ連戦でキツかったんですけど、得るものはデカかったですね。次はもっと体調も万全にできるだろうし、試合内容もいいものが見せられる自信はありますね。なんか偉そうですけど（笑）。

──次の試合は9・23『DREAM・6』になりそうですか？

所　こればっかりは、オファーがないことには自分で決められることじゃないのでわからないですけど、もしオファーが来なくても、大会直前まで出るつもりで練習しようと思ってます（笑）。

──いま闘いたい相手はいますか？

所　いますぐというわけじゃないですけど、一試合一試合勝っていって、大晦日にKIDさんとできたら最高ですね。

──大晦日に所英男vs山本"KID"徳郁は観たいですね！

谷川さんに「顔が0点」と言われてしまった、入場時の所の表情。負けられない試合が続いているが、フェザー級の雄として、結果とともに、所らしい開放感と爽快感がある闘いもまた期待されているのだ。

[08.7.21 DREAM.5]
大阪・大阪城ホール
○所英男 vs 山崎剛×
（3R終了 判定 3-0）
大会4日前に追突事故に遭った所英男が、GRABAKA山崎と対戦。寝技で三角絞めや足関節を狙いながら、スタンドでもパンチ、キック、ヒザ蹴りを有効に使い、右ストレートでダウンも奪う。一本、KOは奪えなかったが、終始、積極的に攻めた所が判定勝ちを収めた。

所英男

ところ・ひでお■1977年8月22日、岐阜県出身。02年よりホームリングの『ZST』で中心選手として活躍。05年7月、『HERO'S』初参戦で修斗ライト級"絶対王者"と呼ばれたペケーニョを破りブレイク。今年からフェザー級に転向し、打倒KIDに名乗りを挙げた。170cm、64kg。

青木vs宇野戦みたいな凄い試合を観ない人がいるのが不思議ですね

所 やったら勝てるかって言われたら、そんな甘い相手じゃないんで、難しいですけど。いまは自分がKIDさんと試合ができて、勝つんじゃないかと思われるぐらい、実績を作りたいですね。そういう目標があると、日々のモチベーションも高くなりますし。

――では、このインタビューも「大晦日にKIDとやりたい」って大きく見出しつけときましょうか（笑）。

所 い、いや……。「判定勝ちで何デカいこと言ってんだ」ってなっちゃうんで、小さくていいんですけど……。あと、これだけ「KIDさんとやりたい、KIDさんとやりたい」って言ってるんで、実際、KIDさんに会場とかで会ったらどうしようと思ってるんですよ（笑）。

――ケンカ売ってると思われてたら、ちょっと嫌ですよね（笑）。

所 怖い……っていうか、気まずいですよね（苦笑）。できたら、次に会うのはリング上だったらいいですね。

――KIDさんは「日本人よりWECのチャンピオンクラスとやりたい」みたいなことを言ってますけど、所選手は海外のフェザー級、バンタム級の選手とか興味はないですか？

所 雑誌で見るぐらいで、現実味はないですね。海外に出なくても、日本にKIDさんという一番強くて魅力的な選手がいるし、ほかにも今成（正和）さんや前田吉朗選手とか、強い選手はいっぱいいるんで。正直、海外までは目がいかないですね。

――では、たとえばKID戦への関門として、今成戦のオファーが来たら受けますか？

所 すいません。ボクまだ現役続けたいんで、それだけは勘弁してください（苦笑）。

――今成戦だけは勘弁ですか（笑）。

所 今成さんとやったら再起不能にされちゃいそうですからね。あと、今成さんのおかげで練習環境が整ったというか、強い人たちとスパーリングできたり、感謝してるんで。なるべくならやりたくないですね。

――いまもDEEP道場とかで練習してるんですか？

所 はい。行ってます。そこで青木（真也）さんなんかとも練習して。ホント寝技が凄いですからね。昨日の宇野さんとの試合を観ながら、もし宇野さんじゃなくて自分が青木さんの相手だったら「あ、ここで極められてる」「ここでも極められてる」って感じちゃうシーンがたくさんありましたからね。あれを逃げる宇野さんも凄いし、仕掛ける青木さんも凄いなって。

――そこまで凄いですか。

所 ライト級GPはハンパないですね。凄すぎて、ホントに同じ人間なのかなって思いますよ。でも、あんなに凄い試合をテレビで放送してるのに、違う番組を観てる人もいるんですよね？ 不思議でしょうがないですよ。

――裏番組を観てるやつの気が知れない（笑）。

所 ホント不思議なんですよね。あんなに凄い試合がタダで観られるのに、なんで観ないんだろうって。

――ライト級はともかく、所選手もフェザー級であれぐらいの試合を期待されてるわけですからね。

所 ライト級GPは凄すぎて、観てるだけで圧倒されたんですけど、僕も頑張らないとダメですよね。なんとか頑張って、フェザー級を盛り上げます。

――ホント、期待してますよ。

所 ありがとうございます。毎月、『kamipro』に出られるように頑張ります（笑）。

――じつは来月以降に向けて、ちょっと所選手絡みの企画を考えてるんですよ。

所 そうなんですか⁉ 企画って対談とかですか？

――そういったものも含めて。単なるインタビューじゃない企画を考えてますから。

所 それはありがたいですね。単体だと僕はキツいと思うんで。何か企画を組んでいただければ。単体よりも、企画モノが好きなんで（笑）。

――ダハハハ！ いろんな意味で企画モノが好きな所英男選手でした（笑）。

【08年7月22日／大阪市内・某ホテルにて収録】

⇦まだまだ続く7.21『DREAM.5』特集！ 後半戦は100ページから!!

テレビの中の

UFCのテレビ放送がついに解禁へ!!
これまで『kamipro』誌上で数々の名勝負をお伝えしてきたUFCだが、
WOWOWのUFC放送再開を受けて、
その超エキサイティングな舞台がようやく再お披露目となった。
さあ、ようやく始まるテレビの中のUFCへ出発ッ!

UFCへようこそ

[08.07.05 UFC86]

○フォレスト・グリフィン vs
クイントン・"ランペイジ"・ジャクソン×

(5R 判定3-0)

ショーグン戦で劇的な勝利を収め、人気、実力ともに勢いを増すグリフィンがついにライトヘビー級チャンピオンシップへ! ランペイジ相手にフルラウンドの死闘を繰り広げ、"UFCの申し子"が僅差の判定ながら同階級の頂点に君臨!

[08.03.01 UFC82]

○アンデウソン・シウバ vs
ダン・ヘンダーソン×

(2R 4分52秒 裸絞め)

ランペイジとライトヘビー級王座を懸けて闘ったダンヘンが、今度はウエートを落としてミドル級タイトルに挑戦! しかしアンデウソンの長い手足から繰り出されるなんとも芸術的な攻撃にダンヘンは圧倒されるばかり。

[07.08.25 UFC74]

○ランディ・クートゥアー vs ガブリエル・ナパオン・ゴンザガ×

(3R 1分37秒 TKO)

鉄人44歳にして、またもMMAの歴史に名を刻んだ一戦。ミルコを壮絶KOに追い込んだゴンザガを相手に、壮絶なTKO勝利を披露! ミルコ、ノゲイラら強豪ひしめくヘビー級戦線であらためて"鉄人ぶり"を知らしめた。

世界からの遅れを取り戻せ!

観れる!!

世界最高峰の舞台がついに復活!

[07.09.08 UFC75]

○クイントン・"ランペイジ"・ジャクソン vs ダン・ヘンダーソン×

(5R 判定3-0)

PRIDEとUFCのベルトを懸けて行なわれた"スーパーボウル"第1弾! 多くのPRIDEファイターがオクタゴンでの闘いに苦戦する中、ダンヘンはランペイジ相手に判定まで持ち込んだ。が、無念にもPRIDEのベルトはランペイジへ。

[08.02.02 UFC81]

○フランク・ミア vs ブロック・レスナー×

(1R 1分30秒 ヒザ十字固め)

レスナーのオクタゴン初登場となったこの試合。"プロレスラー"のMMA参戦に会場からはブーイングが起こるシーンもあったが、規格外のパワーでパウンドを連発する姿は圧巻! 次戦におおいに期待させる内容に。

[07.12.29 UFC79]

○チャック・リデル vs ヴァンダレイ・シウバ×

(3R 判定3-0)

UFC移籍以降、ヴァンダレイ初のオクタゴン入りとなったのは、待ちに待ったチャックとの対戦。鮮血にまみれながらもチャックに向かっていくヴァンダレイに、UFCのファンも大興奮! これがヴァンダレイだ!!

UFC71～UFC88ダイジェスト放送! 世

これが全部

[08.02.02 UFC81]
○アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ vs ティム・シルビア×
(3R 1分28秒 フロントチョーク)

ヘビー級王者ランディ・クートゥアーの離脱を受け、暫定王者決定戦となった一戦。ノゲイラの十八番である電光石火のフロントチョークでシルビアを捕獲! 難攻不落の大巨人からタップアウトを奪ったのだった!

[08.05.24 UFC84]
○BJ・ペン vs ショーン・シャーク×
(3R終了時 TKO)

"オクタゴンの象徴"の一人であるBJ・ペンが手堅い勝利! 殴り合いの展開になったこの試合、シャークの顔がどんどん赤く晴れ上がっていく様がBJ・ペンの不動の強さを物語る。3R終了時であえなくシャークは試合続行不可能に。

[08.05.24 UFC84]
○ヴァンダレイ・シウバ vs キース・ジャーディン×
(1R 0分36秒 KO)

ヴァンダレイの雄叫びがオクタゴンにこだましたこの一戦。豪腕から放たれたヴァンダレイのフックの嵐が次々とジャーディンにヒットし、壮絶なKO勝利に! UFC移籍以降の初白星に、会場も大歓声でヴァンダレイをたたえた。

[07.09.22 UFC76]
○フォレスト・グリフィン vs マウリシオ・ショーグン×
(3R 4分45秒 裸絞め)

ミルコやダンヘンらPRIDEからの"移籍組"が次々と敗戦を喫する中、期待を一身に背負ったショーグンだったが、なんと"TUFの申し子"グリフィンにまさかの一本負け! またもオクタゴンの厳しさを見せつけられることに。

[07.05.26 UFC71]
○クイントン・"ランペイジ"・ジャクソン vs チャック・リデル×
(1R 1分53秒 TKO)

長らく入れ替わりがなかったライトヘビー級王座を、この日ランペイジが強奪! チャックに何もさせずに秒殺勝利を奪ったランペイジが悲願の頂点へ。"格闘ホームレス"が一夜にして王者に君臨した一戦となった。

WOWOW放送スケジュール ［UFC71～UFC88ダイジェスト編］

■8月4日(月)午後10:00［BS-5ch／デジタル191ch］
- UFC71 チャック・リデル vs クイントン・"ランペイジ"・ジャクソン
- UFC73 アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ vs ヒース・ヒーリング
- UFC72 リッチ・フランクリン vs 岡見勇信

■8月11日(月)午後10:00［HV］
- UFC74 ランディ・クートゥアー vs ガブリエル・ナパオン・ゴンザガ
- UFC75 ミルコ・クロコップ vs チーク・コンゴ
- UFC75 クイントン・"ランペイジ"・ジャクソン vs ダン・ヘンダーソン

■8月15日(月)午後10:00［HV］
- UFC76 中村和裕 vs LYOTO
- UFC76 マウリシオ・ショーグン vs フォレスト・グリフィン
- UFC77 アンデウソン・シウバ vs リッチ・フランクリン

■8月25日(月)午後10:00［HV］
- UFC79 チャック・リデル vs ヴァンダレイ・シウバ
- UFC79 マット・ヒューズ vs ジョルジュ・サンピエール
- UFC78 長南亮 vs カロ・パリーシャン

■9月8日(月)午後10:00［HV］
- UFC81 ティム・シルビア vs アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ
- UFC81 フランク・ミア vs ブロック・レスナー
- UFC80 BJ・ペン vs ジョー・スティーブンソン

■9月15日(月・祝)午後10:00［HV］
- UFC82 アンデウソン・シウバ vs ダン・ヘンダーソン
- UFC82 岡見勇信 vs エヴァン・ターナー
- UFC83 マット・セラ vs ジョルジュ・サンピエール

■9月22日(月)午後10:00［HV］
- UFC84 ヴァンダレイ・シウバ vs キース・ジャーディン
- UFC84 ティト・オーティズ vs LYOTO
- UFC84 BJ・ペン vs ショーン・シャーク

■9月29日(月)午後10:00［HV］
- UFC86 クイントン・"ランペイジ"・ジャクソン vs フォレスト・グリフィン
- UFC87 ブロック・レスナー vs ヒース・ヒーリング
- UFC87 ジョルジュ・サンピエール vs ジョン・フィッチ

※未登録の方はこちら=https://www.wowow.co.jp/info/entry.html ［HV］=ハイビジョン放送

[07.12.29 UFC79]
○ジョルジュ・サンピエール vs マット・ヒューズ×
(2R 4分54秒 腕ひしぎ十字固め)

"MMAの進化を10年早めた男"GSPがそのキャッチフレーズを上回る衝撃的なパフォーマンスを見せた。セミのヴァンダレイvsチャックの一戦で会場の熱はピークを迎えたかと思われたが、メインでさらなる大爆発を呼び寄せた!

――ついにUFC放送再開に至ったWOWOWについて、今日はチーフプロデューサーの大村さんにお話をうかがいたいと思います！

大村 はい。よろしくお願いします。

――まず、金曜日（7月11日）に急きょUFC放送再開のリリースが流れてきて我々もビックリしてたんですけど、あれはどういったタイミングだったんでしょうか？

大村 要はUFCサイドと交渉して最終の合意に至ったのが先週の金曜日だったんですね。発表前にもネットとかで情報が出ていたみたいですが、それまでは確たることが言えなかったんですよ。やっぱり交渉ごとなので。

――ダナ・ホワイトのやることは、どうひっくり返るかわからないですしね（笑）。

大村 実際、07年4月にUFCの放送が中止になりましたけど、あれはこちらが積極的にやめたわけじゃなくて、我々としては継続して放送したかったわけですよ。ただ、残念ながら交渉決裂ということになってしまったんで、今回は発表も含めて慎重にやらないと、と思いまして。また視聴者の皆さまにご迷惑をおかけしたくないですからね。

――実際、WOWOWさんでの放送が中止になったのって、ミルコのUFC2戦目のあとでしたよね？

大村 『UFC70』まで放送してますね。

――その後のダナ・ホワイトやロレンゾ・フェティータのインタビューなんかでは、よくWOWOWさんと接触をされてるというお話があったんですけど、今回、再スタートするというお話はいつぐらいからあったんですか？

大村 今年になってからです。

なぜ放送されるのか？　どう放送されるのか!?

UFC放送再開の“全真相”を直撃!!

WOWOW チーフプロデューサー 大村和幸

**このたび、めでたく放送再開となったUFCだが、WOWOWとの交渉成立に至るまでどのような過程があったのか？
本誌でもたびたびご登場いただいているWOWOWチーフプロデューサー大村氏にその経緯をうかがった！
「もうすぐ日本で放送再開する！」と息巻いていたダナ・ホワイト発言の真相を含め、ここですべてが明らかになる!?**

聞き手／ジャン斉藤　写真／平工幸雄、Josh Hedges（UFC）

――そうだったんですか（笑）。確かに、以前大村さんにインタビューさせていただいたときにも否定されてましたもんね（『kamipro』№116参照）。

大村 でも、そういった発言に対しては我々は好意的にとってました。日本でもぜひUFCを露出したいという意志の現われなんだろうな、と。で、繰り返しになるかもしれませんが、UFCに関しては本当に我々の意志で中止したんじゃないんです。だって、中止にするんであれば普通は番組改編期の3月にやめるでしょ？

――そうなんですよね、よく考えたら。

大村 それに、4月からハイビジョンで当日放送しようという計画で、かなりグレードアップして展開していこうと思ってた矢先でしたから。僕らにとっても寝耳に水でしたし、やむにやまれぬ中止だったんですよ。

――ちなみに、時期的にはPRIDEが日本で活動停止して、PRIDEの選手がどんどんUFCに流れていった時期でしたよね？　視聴者からの問い合わせも多かったと思うんですが。

大村 もちろん、根強いファンからは「もう、今後はやらないんですか？」とか「UFCやってくれ！」って声はありました。ですから、それは僕らも真摯に受け止めて、条件が合えば再開したいなって思ってました。その条件が合わなかった部分の話でいうと、一つはUFCがPRIDEを引き取った当時、日本のマーケットの状況を見間違えてたところがあるんじゃないかとは思うんですよ。

――放映権料を含めて、高く見積もったところはあったかもしれない（笑）。

大村 今回、放送を再開するに至ったのは、UFCサイドも日本の状況が現実問題としてわかってきたんだと思います。現実のマーケット状況、社会状況、それがわかった上で今回の話ができたと思いますね。それで最終的に合意に至った。それが先週の段階ですね。

――日本でUFCが放送されない中、お隣の韓国ではバンバンUFCが流れてたんですが、その金額を聞いたときに思いのほか放映権料が安かったんです。だから、UFCも日本にはなぜそこまでの好条件を提示するのかなって不思議だったんですけど。

大村 いや、去年の4月の放送中止は金額だけの問題じゃないんですよ。もろもろ複数の条件が折り合わなかったということですからね。でも、ここにきてUFCサイドもスタッフから聞いてたこととかなり状況が違うというのがわかったんじゃないですか。

――ようやく日本の状況を飲み込めてきた、と。

大村 あともう一つは、インドとか香港とかいうアジアマーケットがいまバブルでしょ。マカオだって、カジノの売上はラスベガスより上だったりするわけじゃないですか。だから、みんなかなりアジアに目が向かってる。でも、日本のバブルなんて何年も前にはじけて、むしろ右下がりの経済状況じゃないですか。そういう読み違いもあったんじゃないですかね。

――そこは凄い読み違いですね。

大村 格闘技の世界だけじゃなくて、サッカーやテニス、野球も同じ状況ですよ。だからこそ、日本でももっとお金が積まれるべきであろう、もっと好条件でなければならないという見通しが当初はあったんでしょう。でも、日本はそうじゃない。キラーコンテンツといわれる番組に

関しても、残念ながらバブル時代の頃のインパクトはないんですよね。

——実際の番組自体のことをうかがいたいんですが、基本的にPPV以外の試合は放送しないというやり方があると思うんですけど、韓国ではダークマッチだったキム・ドンヒョンの試合は特別に放送したという事例もありますよね。WOWOWさんでもそういった国内向けの構成にしようという計画はあるんでしょうか?

大村　いや、基本はあくまでもPPVで流れているものを基本として放送したいなという姿勢ですね。以前は、たとえば岡見（勇信）選手の試合がアンダーカードの第2試合にあります、と。そうすると、構成を組み替えてちょっと入れようかとか、そういうことはしたこともありますけど、それをレギュラーにはしてません。

——では、大会ごとに判断していくということですね。

大村　原則としてはPPVで流れる5〜6試合を放送する予定です。結局、アメリカでのPPVって3時間でパッケージじゃないですか。それを、2時間枠に凝縮して日本の皆さんにお届けするというのが基本姿勢です。それに、我々としては日本人だからというよりも世界最高峰のものを見せたいというのがありますからね。だから、あくまでもナンバリング大会のPPVで放送されるものをWOWOWでも放送する予定です。

——あくまでPPVに準じる、と。

大村　だって、日本人選手が確実に出場する保障はないですから。これは、WOWOWのほかのスポーツ番組も同じですけど、このあいだのサッカーのヨーロッパ選手権にしたって日本人は誰も出ていない。それでもあれだけ盛り上がるわけですよ。以前は、大久保（嘉人）がマジョルカにいましたけど、それは結果的なものですからね。テニスも日本人では錦織（圭）や杉山（愛）が活躍してたりしますけど、（ロジャー・）フェデラーだ、（ラファエル・）ナダルだ、（マリア・）シャラポワだというトップの外国人選手が最終的に中心になっています。ボクシングでも、だいたいWBA、WBC、IBF、WBOの4団体で年間150試合ぐらい放送してますが、そこに日本人が入ってくるケースはあまりありません。

——日本人が試合するとなっても、それは民放で放送されるパターンがほとんどですしね。

大村　そう。それはもう「どうぞ、やってください」ということですからね（笑）。だから、我々はとにかく世界トップクラスのものを放送する。それが基本です。

——スポーツという部分でいうと、格闘技はなかなか完全なる競技として見られてない部分があるじゃないですか。その部分はどうですか?

大村　でも、UFCの成り立ちを考えると、ネバダ州アスレチックコミッションでボクシングを担当していたロレンゾがUFCを買い取ったときに、「ボクシングと同じようにアスレチックコミッションが認可できるような団体にしていこう」としたのがUFCでしょ。だから、よりスポーツライクになる。そこに僕らも共鳴できたんで放送を始めたんですよ。実際、そのとおりに進化してきてますしね。

我々は日本人選手が出るからというよりも世界最高峰のものを見せたい。それが基本

——ただ、UFCも去年の状況とは違ってる部分もありますよね? たとえば、今度ヒョードルがアフリクションに出るとなったときに、急きょダナ・ホワイトがアフリクションが行なわれる7月19日同日にUFCを開催するということで、昔ながらのわかりやすい興行戦争を打って出るというようなことが行なわれたりしますけど、そういう部分についてはどう思いますか?

大村　うーん、UFCはそんなことで焦らなくてもいいと思いますけどねぇ。

——まあ、そうですよねえ（笑）。

大村　PRIDEを買い取ったりもしましたけど、王道なんだから、でんと構えていればいいと思うんですけどね。

——UFCのイメージって、大村さんが言われたようなスポーツライクであるというのがファンのあいだでも大部分を占めると思うんですけど、やっぱりたまに慌てますよね（笑）。

大村　ジョー・シルバ（UFCのマッチメーカー）とかはかなりの情報を持ってるでしょ。何も知らないというのが一番恐いと思うんですけど、情報は集めてるわけだからぜんぜん恐いことはないと思うんですけどね。

——今度の8・9『UFC87』ミネアポリス大会ですけど、興行の目玉として地元スターにして、プロレスラーのブロック・レスナーが投入されます。そういったアメリカの"興行論"は許容できますか?

大村　そこは結局彼らがどういう闘い方をするかだし、要するに日本国内の選手でもいろんな団体の選手たちが最後はUFCに出たいって言ってるわけじゃないですか。それがすべてだと思うんですよ。で、出るからにはそれなりの覚悟を持っ

て出ると思うし。

――イベントとしての軸はブレてない、と。

大村 まあ、慌てる慌てないというのは、ひょっとしたらある種のポーズなのかもしれないですしね。それがダナの役目なのかもしれないしね。だって、ダナは選手より人気があったりするわけでしょ？ だから、過激なことを言って広告塔の役目をはたしてるのかもしれないですよね。

――ある意味、谷川さんみたいな感じなのかもしれないですね。

大村 そう。サダハルンバみたいですね（笑）。

――イメージキャラクターでいうと、昔、WOWOWさんでリングスを放送されてたときはイメージキャラクターとしてディック・フライやヴォルク・ハンがいたと思うんですが、今度UFCを放送するにあたって看板にしたい選手っていますか？

大村 いえ、ないです。もう、UFCそのものが看板ですから。選手ダテでいくと、スポーツライクな部分が失なわれがちになりますからね。UFCで行なわれるものが最高峰の闘いだし、もちろん注目選手は出てくると思うんですよ。ただ、8月～9月の番組のタイトルは「UFC IS BACK！ UFC名勝負選」なんですよね。要するにUFCが一人称なんですよ。そのタイトルこそUFC自体を訴求していくという意志の現われですよね。

――UFCそのものが看板である、と。

大村 UFCって進化してるし、UFC自体、ソフトとしてかなりのバリューを持ってますんで、そこを軸にするだけですね。で、我々が考えてるのは、もう少し視聴者の層を厚くしたいという部分ですよね。

――以前はどういう層がメインの視聴者だったんですか？

大村 まず、ボクシングでいうと50～60代の男性がメインなんですね。

――意外と高年齢ですね。

大村 もちろん20代、30代も観ますけど、メインはやはり50～60代。で、格闘技になると微妙にずれてて20～40代というところなんですよ。だから、お互いの視聴者がミックスしてくれれば相乗効果が生まれていいのかなとは思うんですけどね。もっと言えば、女性層にも観てもらえるような番組にしていきたいな、と。

――女性層を獲得するのはホントに難しいらしいですもんねえ。他団体でもそういう話を聞いたことがあるんですけど。

大村 日本の格闘技の会場ってどうなんですか？ やっぱり男性ばっかり？

――いや、女性もいますけど、一緒に観に来てるという感じですかね。K－1MAXとかだったら自主的に来てる女性は多いですけど。

「UFC IS BACK」というタイトルこそUFC自体を訴求していく意志の現われ

WOWOWチーフプロデューサー

大村和幸

大村 まあ、アイドルを見るような感じだからね。でも、なんとか女性に観てもらいたいなあ。

――UFCもTUFをやってフォレスト・グリフィンとかの人気がやっと上がっていったという部分があるんで、そういう意味では、たとえばUFCにプラスしてTUFやWECを放送するという予定はないんでしょうか？

大村 いまのところないです。あくまでUFCのナンバリング大会をキチンと放送するのが以前の方針ですし、これからも変わることはないです。あるとすれば、ここ1、2年はナンバリング大会を放送して、プラスαの部分での検討になると思うんですよね。

――確かに、いきなりTUFだWECだと放送されても視聴者はわかんないですよね。

大村 もちろん現地ではTUF人気が先だったのかもしれないですけど、そのおかげでナンバリング大会自体がかなりのバリューを持ってきてるわけですから、現段階ではそこを観てほしいと思いますね。

――あくまでTUFはサブ的要素ですもんね。

大村 俗にいうテレビマッチですよね。テレビの構成の中で成り立ってるわけで。日本で放送するとなると、それはそれでまた別のやり方があるかもしれないですけど。

――たとえば、以前は本戦が2ヵ月に1回だったのが、いまは1ヵ月に2回行なわれたりしますけど、それは全部放送されるんでしょうか？

大村 やりますよ！ 10月もいきなり2大会行なわれるような話も聞きますけど、ナンバリング大会は全部放送します！

UFC放送再開までダナ&ロレンゾはこんなことを言っていた!

▼『kamipro』No.113

私はPRIDEとUFCの両方を放送したいんだ。だからテレビ放送獲得の話は、両ブランドをセットでやりたい。この世界の二大ブランドが、なぜ日本でテレビ契約を結んでないのか理解できない。私は君たち本のメディアにお願いしたい。投資家を動かして、日本のテレビ局のお偉いさんのケツを叩くように頼んでもらえないか？ きっと何か裏で動いてるに違いないからな。

【07年7月7日収録のダナ・ホワイトインタビューにて】

▼『kamipro』No.115

日本のテレビ局の連中は、まったくもってビジネスをするのが難しい。これまで世界中の多くの人とビジネスをしているが、まったく理解できないよ。(ケーブルテレビや衛星放送ではダメなのか?) ノー! 私たちはすでに (PRIDEに) 大金を投入しているんだ。地上波でないとダメだね。

【07年8月25日収録のダナ・ホワイトインタビューにて】

▼『GONKAKU』No.006

いまWOWOWと話し合っているところだ。我々にとって08年の最大目標のひとつだ。08年には放映を再開できると自信を持っている。できればもっと早く実現したい。

【07年9月8日収録のロレンゾ・フェティータインタビューにて】

▼『kamipro』No.117

(WOWOWの放送中止の要因は主に予算の条件が合わなかったからでは?) そういった問題じゃな～い!! 日本のマーケットは特殊なだけで、我々外国人を排除する動きがあるだろう。(日本でのテレビ局との交渉を代表が直接やればよかったのでは?) やったよ。5000万回は日本に行ったね!

【07年10月31日収録のダナ・ホワイトインタビューにて】

▼『kamipro』No.121

何度も話しているとおり、日本は我々にとって大事なマーケットだ。実際、たった2時間前にも日本の地上波テレビ局とミーティングをしていたところだよ。非常にいい話し合いができたよ。いつか近いうちに、私が必ずUFCを日本の地上波で放映されるようにしてやるから、期待して待っててくれよ。

【08年3月15日収録のダナ・ホワイトインタビューにて】

だからこそ、テレビマッチのほうにはまだ行けてないという状況ですよね。

――なるほど。それなら確かにUFC自体が看板であるという姿勢は崩す必要はないですよね。

大村 もちろん人を追ったほうがいいんじゃないかという意見もスタッフの中ではありました。でも、じゃあアンドレイ・アルロフスキーを押していこうかとなったときに、実際すぐに負けちゃったりするわけでしょ。まさかティム・シルビアがチャンピオンになるとは思ってなかったりね。そんな状況もあるんで、人で押すことはしないですね。

――その選手だのみの構成になりますもんね。しかも、MMAなんて長期的に契約を交わすことなんてめったにないことだから油断も隙もないですし。ただ、いま世界最高峰ということで、以前放送されてたUFCと比べて人材的にはかなり充実したわけじゃないですか。そういう実感ってありますか？

大村 だから、タイトルマッチに出られるだけでも凄いことですよね。まあ、そういう熱い闘いをね、これからはハイビジョンでお送りしますんで!!

UFC本大会では流れても、フルでPRIDEを流すことはありません

UFCが日本で放送されていなかった期間に人気、実力ともに急上昇したグリフィン。彼に象徴されるようなTUFファイターの人気に、はたして日本の視聴者をうまく乗せることができるかは、今後、視聴者層を伸ばすための一つの課題でもある。

テレビの中のUFCへようこそ ⑦

――ダハハハ！　じつは『kamipro』編集部って、UFCの映像はずっとパソコンで観てたんですけど、パソコンのスペックの問題でときどき止まっちゃうことがあったんです。それは天候とかが関係してるのかなとか、そういうもんだと思って観てたんですよ。でも、ここ最近違う人のパソコンで観てたら止まりませんからね。ノゲイラがシルビアを極める瞬間とか全部静止画で観てたのはなんだったのかなって（笑）。

大村 まあ、そういう意味でもこの1年間UFCをテレビで観られなかったストレスはだいぶありますよね。

――相当あります！

大村 それは僕らの責任でもあるんですけど、だからこそ、8月と9月で一気にいままで観られなかった試合を放送しようということになりまして。これはね、凄くおもしろいと思いますよ。

――しかも、それが毎週観られるんですよね。

大村 へんな話、大会によってエキサイトした大会とそうでない大会があるわけじゃないですか。でも、8月9月は名前がある選手の試合、おもしろい試合だけを放送しますんで、観やすいと思います。

――これからの計画として、何かほかに考えてることとかありますか？

大村 もう、とにかく始まったばかりなんで、きちんと放送を再開するというのが大命題ですよね。その先のことは走りながら考えていく感じです。僕らとしては、1分1秒でも長く皆さんに現地映像をお届けすることが使命だと思ってるんで、あえて8月から毎週枠を切ったんです。しかも夜10時放送開始ですから、非常に観やすいと思いますし。

――格闘技はそのくらいの時間帯が一番観やすいですよね。

大村 それにね、ボクシングのあとに放送するんですよ。それで両方の視聴者に観てもらえたら嬉しいなっていう計画もあるんですけどね。

――逆に言うと、今回のことを受けて日本人選手もUFCに行きやすくなるかもしれないですよね。

大村 そうですね。岡見がタイトルマッチをやるような噂もありますし。まあ、10月からはナンバリング大会をタイムリーに放送していきますんで、そこに入ってくればいいなあとは思ってますけどね。とにかく、日本でのUFCの知名度を高めていくことが我々のミッションです。

――余談ですけど、いまPRIDEのオフィシャルの映像を観られるのってUFCの煽り映像だけなんですよ。

大村 あ、そうなんですか。

――ありえないと思うんですけど、WOWOWさんでPRIDEが流れるというのは？

大村 まあ、ズッファが権利処理したものであれば、本大会の中では流れますよね。ただ、PRIDEをフルで流すというのはありません。

――まあ、普通に考えて放送されないですよね。

大村 それよりUFC自体に訴求力がありますから。だから、視聴者からは反響というか、「待ってました！」という声が山のようにありますんでね。我々としてはその期待に応えていくのが一番かなと思ってます。

――わかりました。では、待ちに待ったUFC放送を楽しみにしています！

【08年7月15日／WOWOWにて収録】

髙阪さん、俺にも解説する番組分けてくださいよ！

視聴者に訴えかける解説がどれだけできるかが目標です！

格闘技TVコメンテイターの名横綱&名大関かく語りき

鳥肌が立つ解説とは何か？

DJ GOZMA
郷野聡寛×髙阪剛
世界のTK

白熱するリング上の闘いを、視聴者がさらに楽しめるように伝える役割を持つ解説者。さまざまな個性あふれる面々が、それぞれのスタイルで言葉を武器に試合を彩っている。思わず視聴者に「鳥肌立った!」と言わせるような解説とはいったいなんなのか？格闘技界を代表する賢者二人に解説の極意を語ってもらいました!

聞き手／阿修羅チョロ　撮影／山口比佐夫　試合写真／乾晋也

やる側からの解説という分野が総合格闘技では確立されてなかった（髙阪）

――今日は格闘技界が誇る二大ご意見番のお二人に、解説をテーマにお話を聞きたいと思います！

髙阪・郷野 よろしくお願いします。

――まず、現在DREAMと『戦極』という二大ライバルイベントの解説をやっている髙阪さんですが、最初に解説をやったのはいつになります？

髙阪 自分はWOWOWのリングス中継で、自分の試合がないときに務めたのが最初ですね。

――リングスではよく選手が解説をしてましたよね。

髙阪 そうそう。だからその当時はついつい選手視線になってしまって、「この選手は凄いですよ」とか言えないんですよね。どこかで引っかかる部分があって。郷野はそういうのない？

郷野 自分は逆に凄い選手には素直に「凄い」って言ってると思いますよ。でもいつか越えてやるっていう現役としてのプライドはありますけど。

髙阪 意外と大人だね（笑）。そもそも解説って、簡単に言い表わすと選手の技術についてわかりやすく伝えることだと思うんですよね。

郷野 それは逆に自分はあんまり考えてないかもしれないです（笑）。

髙阪 あ、ホント？ 要は試合に一言添えて、厚みを生み出すのが解説の役目かな、と。

――プロ野球解説者にもいろんなタイプがいるように、格闘技も解説者によって表現の仕方はいろいろあるわけですね。

郷野 高阪さんは選手に対して凄い愛がありますよね。自分は格闘技に対する愛はあるんですけど、それぞれ選手のいいところを拾ってやるって気はまったくないんですよ。俺が見たまんまを伝えるというか。もちろん髙阪さんがさっき言ったように、試合に厚みを生み出すようなことはできるだけ言おうと思ってますけど。

――郷野さんは『kamipro Hand』で好評連載中のコラムで、解説をやりたくなったきっかけはプロ野球の野村克也監督だと書いてましたよね。

郷野 そうですね。ID野球と言われるノムさん（野村監督）の理路整然とした、やる側視点の解説を聞いて納得する部分が大きかったので。

髙阪 そのやる側からの解説という分野が、総合格闘技ではまだ確立されてなかったんです。それは凄く不自然なことだと思いましたね。

郷野 確かにおかしいですよね。

髙阪 たとえばテレビの『プロ野球ニュース』とかで、観る側であるアナウンサーが解説をしてたり、技術的なことに関して「あの内角を打つためにはこういう腰の返しが必要だ」みたいなことを書いてあるのを読むのは簡単だけど、それは実際に経験した人間が言うからこそ厚みが出てくるものだと思うし。

郷野 総合格闘技は競技としての歴史が浅いこともあって、選手としてキャリアを積んだ解説者がいなかったんですよね。

――それこそ熊久保（英幸）さんとか、マスコミの人間がやるパターンが多いですよね。

髙阪 そうですよね。ただ、どうしても経験者じゃないと、たとえば「〜というふうに聞いてます」とか「こうしたほうがいいらしいです」とか、実感の伴なった言葉じゃない部分が出てくると思うんですよ。

――試合の中で経験者じゃないとわからないところはあるでしょうね。髙阪さんは視聴者のことを想定して解説してるわけですか？

髙阪 基本的にはあんまりそこまでは考えないようにしてます。というのは、試合の中で伝えなきゃってことはもの凄いたくさんあったりするんですけど、試合は常に動いているので放送中はどうしても瞬発力勝負になってくるところがあるんで。

――言いたくても、すぐ次の展開に移ってしまいますからね。

髙阪 ほとんどがそうですね。「打撃で相手の意識を散らしてるからテイクダウンが成功して……」って言ってるあいだに極まってたり。だから、瞬発的なところをできるだけ取り上げながら、「いまガードが上がってたからタックルのディフェンスまで追いつかなかったんですよね」とか補ったり。あと自分が注意しているのはいろんな言葉をどれだけ用いて状況を説明できるかっていう部分ですね。

――同じ表現はしないようにとか。

髙阪 そうですね。たとえば「脇差して」じゃなくて「脇の下に手を入れて」って言い換えたり。

――格闘技を知らない人が観たら通じない専門用語ってありますよね。郷野さんは解説するときに事前勉強というかネタを仕込んだりすることは？

郷野 基本的には用意することはないですね。試合展開はなかなか予測がつかないものですし。

――コラムでは解説中に振ってほしいときに振られなかったり、思わぬところで振られて困ったりもあるみたいですが。

郷野 そうですね。あと、格闘技は野球みたいに投球と投球のあいだのインターバルとかがないので、言いたいことが言えなかったっていうこともよくあります。あと個人的には気をつけてるのは、膠着してて視聴者が退屈な時間は俺のしゃべりで埋めようとか。

――なるほど。

郷野 たとえば金的で中断してたら、過去の俺の金的の苦しい経験を話したりとか。でもそこが中継だとカットされてることもあるんですけど（笑）。

――せっかくの体験談を（笑）。髙阪さんは解説をやるにあたって、誰か参考にした人とかはいました？

髙阪 自分の場合は『ニュースステーション』で野球解説をしていた栗山英樹さんの

高阪と郷野と実況としてコンビを組むことが多いのが矢野武アナ（右端）。パンクラスや修斗から『ハッスル』まで、さまざまな格闘技イベントの実況経験に裏打ちされた豊富な知識をもとにしたスタイルは、郷野をして「マニア実況」と言わしめるほど。

印象が強いですね。それを観て「この役割は総合格闘技にはないな」と。やっぱり野球の場合は競技としての歴史が物語ってる部分があると思うんですよ、解説の層が厚いというか。

——野球は一般人もある程度の知識があるという前提で話せるところもあるでしょうし。

髙阪　そうなんです。だから解説にもいろんなノウハウが見受けられるし。

郷野　野球の解説者もピンキリですよね。俺は野球少年だったこともあってプロ野球中継なんかをよく観てるんですけど、ひどいのはひどいんですよ（笑）。選手出身だからわかりやすいとは限らないというか。だから総合格闘技で言えば選手出身の解説者のパイオニアが、わかりやすい髙阪さんでよかったと思います。

——髙阪さんに先駆けて髙田延彦さんもいらっしゃいますが（笑）。

郷野　ああ、失礼いたしました！（笑）。もちろん髙田さんもわかりやすいんですが、わかりやすいの意味合いが少々違いますよね。観てる人が感情移入するには髙田さんは非常にわかりやすいと思います。「鳥肌立った！」って言われれば、観てる人も興奮するでしょうし。

——非常に感情は伝わりやすいですよね。

髙阪　そうですね、自分もじつは髙田さんとは凄くやりやすかったんですよ。

郷野　感性の髙田さん、理屈の髙阪さんって感じで非常にいいコンビネーションでしたよね。

——まだまだ総合格闘技の解説というジャンルは発展途上にあるっていうような実感はあります？

髙阪　総合格闘技が始まってまだ15年ぐらいですか。その中でルールだったりイベントだったり、もの凄い目まぐるしく動いてますよね。そういった部分も伝えていくのも解説者の役割だなとは思うんで、まだまだ研究の余地はありますね。

「鳥肌立った!」、「いやぁ強いわ!」、「末恐ろしいね！」など名フレーズが印象的な髙田延彦。PRIDE消滅後は『やれんのか!』を最後に解説の仕事からは離れているが、ぜひともまた観る側を鼓舞するような解説を聞かせてほしいものだ。

総合の解説は打撃や寝技やあらゆる知識や経験がないと難しい（郷野）

——技術だけじゃなくて状況も含めて把握しないといけない、と。

髙阪　そうじゃないと単純に「この人とこの人がやりました」ってだけの話になってしまうので。そこを整理しておかないと、総合格闘技という分野自体が先走りすぎちゃって、観てる側の人が追いつかなくなっちゃうおそれもありますし。

——ある種の危機感を持ってやっている、と。

髙阪　伝える側がそのくらいの意識を持ってないと、総合格闘技を幅広く認知してもらえないですよね。大げさかもしれないですけど、そのくらいの使命感はあります。

郷野　そう考えると、総合は許されてる技の幅が広いだけあって、打撃や寝技やあらゆる面での知識や経験がないと解説はやっていけないですよね。俺は打撃に関してはこの世界で誰にも負けないぐらい突き詰めて考えてる自信はあるんで！

——郷野選手はボクシングにも造詣が深いし、キックボクシングの参戦経験もありますしね。

郷野　K—1の解説だって全然やっちゃうぞぐらいの意気込みですから（笑）。K—1を観てて「これ俺がしゃべったほうがおもしろいんじゃねぇかな」って思うこともありますからね。

——ほぉ、フジテレビかTBSの関係者にアピールしておきましょうか？

郷野　やりたいッスねぇ。でもやっぱり組み技、寝技の展開になると髙阪さんのほうが上手なんで。最終的にはどんな局面でも全部しゃべれるスーパー解説者になるのが目標ですね。

髙阪　うん、将来的にはそうなりたいよね。

郷野　それが視聴者にとっても一番わかりやすい解説になると思いますね、なかなか難しいことですけど。

髙阪　観る側にとっての試合の醍醐味って、たとえば打撃が強い選手に寝技が得意な選手が勝ったときに、「あの選手は勝ったけど具体的に何が凄いの？」っていうのを理解することで、おもしろみが増す部分が大きいと思うんですよね。それを手助けするのが解説の役目ですし。

——マスコミでもプレスルームで試合を観ていると髙阪さんの解説も聞けるんでわかった気になりますもんね。「ああ、そういうことなのか」っていう。

時として試合以上におもしろいやりとりが見られることもあるK-1実況席。サダハルンバの「んあ〜」なノンキ解説と、フェロモン丸出しの紀香姫のセクシー解説が生み出す独特な空間も、Kの魅力の一つと言っても差し支えないだろう。

タレントの起用はTV局の意向なので それぞれの役割がはたせれば（髙阪）

髙阪　そこの部分を気づかせるというか、ちょっとだけ触りの部分を教えると、観てる側はいろんな想像ができると思うんですよね。

——先日のDREAMの青木真也vs永田克彦戦も、最後はマウントから青木選手がフットチョークを極めましたけど、技に入る前に髙阪さんが「ここからフットチョークの可能性もありますよ」って解説の中で予測されてましたよね。

髙阪　そうそう。ちょっとだけ触るっていうのはそういうところですね。でも打撃の場合は瞬発力なんで、グラウンドに比べて「あ、これきますよ」っていう展開がないんですよ。だから俺が郷野を凄いなと思ったのは、一回スタンドの攻防があると、すぐに二人の癖とかを分析するじゃん？

郷野　ああ、確かにそうですね。

髙阪　そこで「次こういう打ち方をしたらハマる」とか、「あそこで横に回る動きができると、打ってるほうは攻めづらくなる」とかコメントを挟んで。

郷野　やっぱり、俺の場合はそれまでの展開やお互いの持ってる技、さらには二人の心理状態を考察しながら「こう考えて攻めていけばいいんじゃないか」っていうことに着目して言葉にすることが多いですね。K―1中継だと魔裟斗選手の解説は聞いていておもしろいと思います。

——関係者筋でも魔裟斗選手の解説は評判がいいですよね。

郷野　けっこう陰で練習してるのかな、と（笑）。やっぱり考えてやってない人間はしゃべれないですよ。

——山本"KID"郁徳選手の「こいつヤベェ！」みたいなノリもキャラとしておもしろいんですけどね（笑）。

郷野　いろんなタイプの解説者がいていいとは思います（笑）。野村監督が「30歳すぎたらコーチになることを考えて、いちいちやってる練習の意味合いとか考えろ。そういう知識の蓄積が選手辞めたあとに活きるから」って言ってるんですよ。だからやっぱり選手のときにどれだけ考えてやってるか、どれだけの知識を積んでるかっていうことが解説では出てきますよね。まぁいまは、そこまでの選手は髙阪さんと自分ぐらいしかいないんじゃないですかね（笑）。

——よっ！　名横綱＆名大関！（笑）。選手以外の解説者でいうと、谷川（貞治）さんなんかもいい味を出してると思うんですけど、髙阪さんは解説で一緒になったことってあります？

髙阪　ありますよ。伝説の『THE BEST』で（笑）。

——あ、そうでしたか（笑）。『BEST』といえばPRIDEの登竜門としてDSEが主催していた大会ですね。

髙阪　あれで谷川さん、自分、あとタレントのサトエリ（佐藤江梨子）で。

——それはコクのある顔ぶれで（笑）。谷川さんと組んでみていかがでした？

髙阪　べつに自分はやりにくいとかはないですよ。谷川さんは凄い純粋な格闘技ファンなんですよね。

——ファン目線の解説というか。

髙阪　だから解説中も心から「凄いなあ！」っていうコメントを出したり。

郷野聡寛×髙阪剛

——そういう感動を伝える役割の人も必要ですよね。

髙阪　だから谷川さんと一緒だったときは、自分の役割として谷川さんが「凄いなあ！」って言うのなら、それの何が凄いのかっていうことを解説するように心がけて。そういった組み合わせを考えることも重要ですよね。

——テレビ中継だと藤原紀香や井上和香さんだったり女性タレントが放送席に彩りとして入る場合がありますけど、違和感を感じたりはしないですか？

髙阪　それはテレビ局の意向なので、個人的にはそれぞれの役割をはたすってことしか考えてないですね。逆に自分の役割に入ってこられると困りますけど。自分が女装して女優の役割はできないですし（笑）。

——女装した髙阪さんが解説席に座ってたらインパクトありますけどね（笑）。郷野さんがK―1の解説をやって、紀香さんと絡む姿も観てみたいですね～。

郷野　俺はいつも放送席でも隣にいるのは男ばっかりなんで、隣に美女がいる状況はうらやましいかぎりですね（笑）。

髙阪　PRIDEの放送がスカパー！だけになったときに放送席でアイドルを使ってたんですよね。いま人気の南明奈ちゃんとか。

——あぁ、そうでしたね！　解説以外でもバックステージのレポーターとしてミノワマン選手と不思議なやりとりをしてましたけど（笑）。

髙阪　実況席でもおもしろかったですよ。「明奈ちゃんはどんなタイプの人が好きなの？」って実況の矢野さんに聞かれたら、「やっぱり筋肉質で凄くいい身体してる方が好きです」って。それで「じゃあ格闘家なんてピッタリですね、選手でいうと？」って問いに対して彼女は「そうですね、マーク・ハントさん」って答えて……ポテンポテンじゃないかっていう（笑）。それを生放送で堂々と言ってましたからね。

——ダハハハ！　さすが売れるアイドルは違いますね（笑）。

日本マット界主要解説者チャート

※カッコ内は主に解説している番組

感覚型（上）／理論型（下）／観る側出身（左）／やる側出身（引退選手含む）（右）

谷川貞治（『HERO'S』『K―1 WORLD GP』）
TRIPLE-P（『IGF』）
マサ斎藤（『ワールドプロレスリング』）
髙田延彦（『PRIDE』）
藤原紀香（『K―1 WORLD GP』）
山本"KID"郁徳（『DREAM』）
小池栄子（『PRIDE』）
長島一茂（『K―1 WORLD GP』）
船木誠勝（『HERO'S』）
関根勤（『K―1 WORLD GP』）
須藤元気（『DREAM』）
百田光雄（『プロレスリング・ノア中継』）
熊久保英幸（『DEEP』『ZST』）
宇野薫（『ケージフォース』）
金沢克彦（『ワールドプロレスリング』）
魔裟斗（『K―1 WORLD GP』）
郷野聡寛（『DREAM』）
柴田惣一（『ワールドプロレスリング』）
松澤チョロ（『スマックガール』）
平塚雅人（『ハッスル』）
髙阪剛（『DREAM』『戦極』）
中井祐樹（『HERO'S』）

郷野聡寛×髙阪剛

郷野　彼女なりに場の空気を読んだんじゃないですかね。詰めが甘かったんでしょうけど（笑）。

――お二人が解説をされていて、髙田さん言うところの「何も言うことはない！」ぐらいに、解説するのを忘れるほど感動したことはありますか？

髙阪　自分は『やれんのか！』の三崎vs秋山戦は、髙田さんじゃないですけどホント鳥肌立ちましたね。あとの顛末は置いといて。秋山選手の打撃でダウンしてけっこう深く落ちたと思うんですよ。でもそのあとに巻き返して。ああいう動きができるってことは、よっぽど最初から覚悟してリングに上がってたんだなって。

――郷野さんも以前、同じ試合を満足できた解説の一つに挙げてましたよね。

郷野　そうですね。仲間の試合だとしゃべりづらい部分もありながら、よくわかるところもありますから。まぁ、じつはあのとき気合いが入ってたのは、髙阪さんと俺の解説の声がＴＢＳで全国に流れると思ってたからってのもあるんですが（笑）。

髙阪　ああ、なるほどね（笑）。

郷野　地上波で俺の解説者としての評価が決まる、これは生涯最高の解説をしないとって！

――演歌歌手が念願の『紅白歌合戦』に出るみたいな（笑）。

郷野　そうです！　で、和雄の試合だからしゃべるネタもいっぱいあって、試合も熱戦になって集中してしゃべれたし。「これは最高の解説ができたな」と満足して。でも、ウチに帰って録画したのを観たら、解説が岡見（勇信）選手なんですよ！　「えぇ～っ！」みたいな（笑）。

――地上波とＰＰＶは実況解説陣が違ったっていう（笑）。

郷野　地上波には縁がないのかな～って落ち込みましたねぇ……（しみじみと）。

髙阪　ちなみに俺は地上波とは解説が違うって聞いてたから（笑）。

郷野　あ、聞いてたんですか！　なんか俺、ちっぽけで恥ずかしいな（笑）。

――答えづらいかも知れませんが、逆にこれは解説のしようがないと思った試合というと？

髙阪　『ＰＲＩＤＥ』で一試合だけ黙っちゃった試合がありましたね。髙田さんも困ってしまうくらいの試合で……。

郷野　髙阪さんが黙る試合って凄いですね（笑）。誰の試合ですか？

髙阪　イ・テヒョンvsヒカルド・モラエス（06年9月10日・さいたまスーパーアリーナ）。あの試合は放送席から観てて「もう無理だ！」って思って。な～んにも動きがないから職場放棄しかけました（笑）。

――髙阪さんはヒカルドとは闘ってますよね。

髙阪　それもあって、グダグダな試合をされればされるほどコイツに勝った自分の立場はどうなるんだって（笑）。

郷野　感情的に複雑ですよね（笑）。

髙阪　そうそう、「せっかく金的蹴られても必死に勝ったのに」とか思って（笑）。ファールカップ割れてたんですから！

郷野　それは凄いですねぇ！　俺も金的攻撃食らって一週間も精子に血が混じってたことがあったな～……（シミジミと）。

ゆくゆくは解説という仕事が引退した選手の道になればいい（髙阪）

こうさか・つよし■1970年3月6日、滋賀県出身。94年8月、鶴巻伸洋戦でプロデビュー。98年3月にはUFC初出場。その後も定期参戦をはたし、“世界のTK”として一躍有名になる。日本でもリングスをはじめ、DEEPやパンクラス、PRIDEとさまざまなリングで活躍。06年5月のPRIDE無差別級GP1回戦のマーク・ハント戦を最後に現役引退。現在は後進の指導に力を入れつつ、その話術を活かして解説者としても活躍中。

――わざわざ確認しましたか（笑）。そういえば郷野選手がいま主戦場としているＵＦＣのＷＯＷＯＷでの放送の再開が正式に発表されましたけど、髙阪さんは以前ＵＦＣの解説もされてましたね。

髙阪　やってましたね。

――やっぱり日本用にスタジオで解説を入れるのと、現場で解説するのは違いはあります？

髙阪　ＵＦＣに関しては現場じゃできないですね、正直。たぶん雰囲気に乗せられちゃって、解説も「すげぇ！」とかなっちゃうと思います（笑）。

郷野　向こうは盛り上がり方が日本の比じゃないですからね。

髙阪　だから選手とかも乗せられちゃうんですよ。なので、日本で収録するほうが冷静に解説できるとは思いますけどね。

――郷野さんはＵＦＣ放送が再開されるにあたって、それこそ解説をやりたいという気持ちはあります？

郷野　もちろん！　いまＵＦＣに出てる日

「アッキーナ」こと南明奈が放送席に座ったことも（左端）。関係ないが今夏にアッキーナは「オシリーナ」こと秋山莉奈、「コサカーナ」こと小阪由佳と「Peachy's」としてCDデビュー。これまた関係ないがマット界の「オシリーナ」といえば越中詩郎。

本人選手の中で、しゃべれるの俺しかいないと思ってますから（キッパリ）。やっぱり経験と技術の蓄積だったら、そんじょそこらの選手には負けない自信もありますし。……呼ばれるもんだと思ってしゃべってますけど（笑）。

――ガハハハハ！　ＷＯＷＯＷ関係者にアピールしておきましょう（笑）。

郷野　放送されるからにはますますＵＦＣで負けるわけにいかないです。ここまで何回もケガしながら、それこそ3歩進んで2歩下がるみたいな感じできたんで。……解説の仕事もやっぱり一足飛びに地上波を狙ったのが間違いだったんですよ！　サムライＴＶの次はＷＯＷＯＷ、それで最終目的地は地上波で！　と言いつつ、ＷＯＷＯＷから解説のオファーが来ないことには俺のビジョンが成立しないというか、どうしようもないんですけど（笑）。

――ガハハハハ！　これからも選手と解説を両立させていきたいと？

郷野　両方を自分本来の姿にしたいですけどね。

高阪　それはけっこう難しいよね。英語ももっと身につけないと（笑）。

郷野　アメリカで活躍された高阪さんの言葉だけに重みがありますね……英会話教室、頑張ります！（笑）。

――高阪さんもＤＲＥＡＭ、『戦極』に続いて、またＵＦＣも解説する可能性も高いでしょうね。

郷野　そうなったら凄いですけど、独占状態じゃないですか！　分けてくださいよ！

高阪　ハハハハハ！

――野球解説者はそれだけで食べていけると思うんですけど、格闘技の場合は解説のみだとまだ難しいところはありますよね。

郷野、高阪ともに鳥肌が立った試合として挙げたのが三崎と魔王の一戦。勝負が決まった直後に興奮してリングに上がった高田とは裏腹に、なぜか解説席に座ったままだった郷野。思わず高阪が「乗り遅れるな!」とばかりに背中を押したとか。

試合も経験を積んで強くなるように解説も場数を踏むことが重要（郷野）

高阪　自分が解説をよくやるようになって思ったのは、これが引退した選手の一つの道になればいいなって。

――地上波でさまざまなイベントが流れるようになって総合格闘技が盛り上がればその間口も増えるでしょうけど。

高阪　そうなんですよね。ハッキリ言っちゃえば解説って試合の一要素でしかないんですけど、それでも試合に深みを持たせるための重要な役割を担ってると思いますし。だからこれからも仕事として解説のスキルを磨いていかないといけないなっていうふうには思ってます。

郷野　試合も経験積まないと強くならないですけど、解説も場数ですよね。やっぱり、いま高阪さん独占状態のところに俺が食い込んでいくには、選手のときから経験を積んでおかないと。芸能界は限られたパイの奪い合いだっていうじゃないですか？　格闘技の選手出身の解説者の席はまだ余裕があるんですよ！（笑）。

高阪　このあとに選手上がりの解説者が続くも続かないも自分次第だと思って頑張ります（笑）。自分を見て郷野とかが「俺だったらこうしゃべる」って思ってくれれば、どんどん解説にも厚みが出てくると思うし。

――それこそ野球みたいにいろんなタイプの解説者が増えて。

高阪　やる格闘技もあれば、観る格闘技も存在するので、そういう部分が今後どんどん必要になってくると思うんですよ。だからウォッチャー層の人たちに訴えかけるものがどれだけ出せるかっていうの目標にしたいです。

郷野　俺はさしあたって選手を引退しても困らないように、いまのうちから選手と解説を両立して、高阪さん独占状態の解説市場の末席に加われたらな、と思います（笑）。

――なるほど（笑）。今日はありがとうございました！

【08年7月11日・都内・『ALLIANCE―SQUARE』にて収録】

ごうの・あきひろ■1974年10月7日、東京都東久留米市出身。RABAKA所属の実力派ファイター。その饒舌なマイクアピールや、DJ OZMAもお墨つきのDJ GOZMAとしての入場で知られる。修斗、パンクラス、PRIDEを経たあと、07年11月のタムデン・マックローリー戦よりUFCウェルター級に参戦。今年3月にジョン・フィッチとの 対戦が予定されていたが、右手負傷により欠場。10月のダン・ハーディー戦で11ヵ月ぶりにUFCのリングに立つ!

UFC中継再開一発目で郷野の出場が決定!

『UFC89』

英国バーミンガム
ザ・ナショナル・インドア・アリーナ
(現地時間)10月18日(日) 開始17:00

主要対戦カード

郷野聡寛 vs ダン・ハーディー
マイケル・ビスピング vs クリス・レーベン
ラミュー・ソクジュ vs ルイス・ケイン
シェーン・カーウィン vs ニール・ワイン

とにかくアクセス!!

読者プレゼントも実施中!

kamipro.com

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

カミプロドットコム

"バカサバイバー"青木真也の

週刊ワオ木真也

週刊どころか週3回ペースで絶賛更新中!!

2008.7.15更新

オタクな私

○Fury FC観戦記

休日の朝からSHERDOGでやってたFury FCをライブ観戦! DREAMと提携した大会で、たしかジャカレイが着ている柔術着でおなじみのメーカーKORAL社長のビトー・コスタさんがプロモートしている大会だよね? KORAL社長のビトーさんは柔術黒帯で、パンアメリカン選手権で優勝していたはず。簡単に言うとメチャクチャ強いわけですよ。

DREAMのときにビトーさんから「アオキの柔術はグッドだ!」と言ってもらえて嬉しかったなあ。俺ぐらいオタクになると、計量のときにビトーさんを見つけて「ビトー・コスタがいる!!」と興奮してるわけですけど……。「ブラジルで試合しろよ♪」とも言ってもらえて嬉しかったな。

そしてまた、ブラジルという地球の裏側でやるってのがロマンあるよね。だって着くまでに一日かかるんだよ!! ロマンですな。大会の演出もDREAMを意識してる感じでグッド♪ そしてお客さんが熱い! ブラジルのノリは独特のリズムでこれもまたよし☆メインとセミに日本人選手が出るのでそれまた楽しみでワクワクしながら見ましたよ。

全文はサイトで読もう!!

雑誌じゃ読めないkamiproがここにある!!

ポッドキャスト

メールを出してノベルティをGET!!

"カリスマ司会者"原タコヤキ君がお送りする週一回のポッドキャスト番組「mimipro」。毎週ゲストが登場して楽しいトークを繰り広げております。

kamiインタビュー

8.7『まねんのか!』の主役モノマネ王・神奈月が登場

毎週一人、旬の選手や関係者が登場して大好評を得ている「kamiインタビュー」。聞きたいことをズバリ直撃するタイムリーさが"売り"です! 要チェック!

最新ニュース

事件は会議室で起きてるんじゃない!!

毎日いくつもの記者会見やカード発表が行なわれているプロレス&格闘技界。そんな最新の情報をいち早く写真とともにお届けしています!

最新号情報

発売日と内容をいち早くチェックせよ

「いつ発売ですか?」「表紙は誰ですか?」「○○選手のインタビュー載ってますか?」という疑問にズバリお答えします! こちらでご確認ください!

http://kamipro.com

※携帯電話からはアクセスできませんのでご了承ください。

〝越中ブーム〟から1年——越中詩郎49歳、満を持して『ハッスルGP』殴り込み!!

ハッスルに嵐みたいな風吹かせてやるって!

今年の夏は、越中詩郎が熱い風吹かせるって!
『ハッスル』初のシングルトーナメント、『ハッスルGP2008』に越中詩郎の参戦が決定!
〝高田総統の古くからの友人〟高田延彦とライバル関係にあった越中の参戦で、
これから『ハッスル』はどう動いていくのか?
『ハッスル』真夏の15ページ大特集、いきますよ〜〜(ニセHGふう)。

撮影/平工幸雄、山口比佐夫

『ハッスルGP』灼熱の15ページ大特集!!

ルノアールで越中詩郎『ハッスル』参戦をせき詩郎さんと語った午後

越中が『ハッスル』後楽園大会に乱入したとき、真っ先に頭に浮かんだのが、せき詩郎さんの顔だった。せき詩郎さんといえば、本誌でも長期連載『サムライ・シロー三昧』で、越中についてくり返し書いてきた、〝越中詩郎文学〟の第一人者だ。しかし、その連載もいつの間にか終了（休載？）。せき詩郎さんが、越中の『ハッスル』参戦についてどう思っているのか、知る術はなくなってしまった。そこで本誌はせき詩郎さんとひさしぶりに連絡を取り、おそらく『ハッスル』を観ていないであろう、せき詩郎さん宅に、越中が登場した『ハッスル』後楽園大会のDVDを送付。そして、ある暑い夏の日の午後、『喫茶室ルノアール』で待ち合わせをしたのであった――。

聞き手／堀江ガンツ　試合写真／平工幸雄、山口比佐夫

喫茶室 ルノアール

Renoir

——越中の『ハッスル』初登場シーンのDVDはご覧になっていただけました？

せき詩郎　はい。じつは『ハッスル』って初めて観たんですよ。

——あ、そうなんですか。

せき詩郎　あれは武藤がやってたのとは違うんですよね？

——それは『WRESTLE-1』ですね（笑）。そのレベルからスタートですか。

せき詩郎　でも、越中が出るかもしれないって話は僕のところにも入ってきてたんですよ。出るかもしれないけど、難しいらしいって話が。

——そんな情報が入ってきてたんですか？

せき詩郎　はい。RGからメールが来てて（笑）。

——内部機密がそんなところから漏れてましたか（笑）。

せき詩郎　だから、結局は出ないんだろうなって思ってたから、「越中が『ハッスル』に登場した」って聞いたとき、ちょっとビックリしましたね。

——越中本人も『ハッスル』に出ることに対して、葛藤はあったんでしょうけどね。

せき詩郎　ノアとかけもち参戦とか難しそうですもんね。でも、越中も50歳すぎてますよね？

——いや、49歳です（笑）。

せき詩郎　まあ、50歳ぐらいですから、そういうもんじゃないですか？

——もういいじゃないか、と（笑）。

せき詩郎　越中もあんまり『ハッスル』に向いてるとは思わないんですけどね。越中節って、誰かが書いたセリフとは全然違うじゃないですか。

——「ふざけるんじゃないって。笑わせるなということだよ」とか、そんなセリフを書く構成作家はいないでしょうね（笑）。

せき詩郎　だから、越中が『ハッスル』でマイク握ったとき、ドキドキしましたもん。トチらないでくれって。

——もはや身内感覚ですね（笑）。

せき詩郎　あとね、僕も昭和のプロレスファンなんで「『ハッスル』なんかに上がりやがって」っていうのがあるじゃないですか。

——あ、ありましたか（笑）。

せき詩郎　ホントはあんまりないけど、話の流れ上、あることにしただけですけど（笑）。「越中も軟派になっちゃったのかな」って思ったんですけど、入場テーマ曲が流れて、後楽園に登場したとき、越中の顔は完璧でしたね。維震してたときと同じ顔だったんで、昔を思い出しました。

——熱い風を感じましたか（笑）。

せき詩郎　テーマ曲も昔使ってた『SAMURAI』のままでしたし、顔も反体制の顔をしてましたね。

——最近の越中は、蝶野や長州率いる『レジェンド』に入れられてたので、反骨心がスポイルされてたこともあるんでしょうね。

せき詩郎　だから、『ハッスル』に殴り込んだとき、ひさしぶりに維震の顔になったんでしょうね。あの奴凧みたいな顔に。あれ観て、なつかしかったですよ。越中は『ハッスル』なんかに上がって軟派になったのかと思ったら、やっぱり維震を忘れてませんでしたね。

7.11『ハッスル』後楽園ホール大会の全試合終了後、「総統劇場」の最中、突如、『SAMURAI』のテーマ曲に乗って、越中詩郎が登場！「高田！ おまえを引きずり出して、ぶっ潰してやるから覚えとけ、コノヤロー!」と、『ハッスルGP』に優勝して、「高田」と一騎打ちをすることを宣言した。はたして高田vs越中、新・名勝負数え唄は『ハッスル』で再現されるのか？

——そして、『ハッスルGP』への出場が決まったわけですけど。

せき詩郎　ということは、今年はG1には出ないってことですよね？

——まあ、そうなりますね。

せき詩郎　でも、今年のG1は蝶野も出ないんですよね。それじゃ出る意味ないですよ。

——蝶野のいないG1より、高田のいる『ハッスル』だ、と（笑）。

せき詩郎　小島とか天山には負けないっすよ。ラリアットプロレス相手だったら優勝しちゃってたでしょうけど、あえて出ないこだわりがいいですよね。

——ラリアットプロレスってひさしぶりに聞きましたね（笑）。

せき詩郎　で、『ハッスル』での越中の最初の相手、モンスターCっていうのはどんな人なんですか？

——いま「C」ポーズで人気がある選手なんですけど。

せき詩郎　まあ、でもそんなに身体も大きくないですし、あれには負けないっすよ。

——あ、勝負論ですか（笑）。

せき詩郎　でも、越中はガイジンとは噛み合ないんですよね。『ハッスルGP』にはガイジンは出場してるんですか？

——平成維震軍の旗揚げ戦の相手、タイガー・ジェット・シンは1回戦で姿を消してますから、あとはサップぐらいですね。

せき詩郎　じゃあ、サップさえ外せば優勝できますね。ホントにガイジンとは噛み合わないんですよ。ステイング戦とか噛み合いませんでしたからね。

——そりゃ、見るからに噛み合なさそうな組み合わせですね（笑）。

せき詩郎　だからガイジン以外なら大丈夫ですよ。坂田にも負ける気はしないですね。U系とは噛み合いますから。

——「蹴ってこいって！」って感じでしょうね。で、『ハッスルGP』に優勝したら、何か一つ願い事が叶うらしいですよ。

せき詩郎　ああ、そうなんですか。越中は、去年も「メキシコに行きたい」って言ってて、それが実現したんですよね。そのメキシコで大ケガしちゃったんですけど（笑）。

——今年はデビュー30周年なんですよ。それで「30周年記念マッチで高田をぶっ潰す」っていうのが願い事らしいですね。

せき詩郎　でも、なんでも願いが叶うんだったら「たくさん願いを叶えてくれ！」って言ったほうがいいと思います。

——ダハハハ！　そんなズルい願い事をアドバイスしたい（笑）。

せき詩郎　ぶっ潰さなきゃいけないのは、高田だけじゃないですからね。蝶野もぶっ潰さなきゃいけないし、石川敬士とか、あのへんのインディもまだぶっ潰してないですからね。

——平成維震軍自主興行時代のインディ団体のエースは、みんなぶっ潰さなきゃいけませんか（笑）。

せき詩郎　いま石川敬士と闘うのって、高田戦よりも難しそうですからね。願いはいっぱい叶えてもらったほうがいいと思います。

——わかりました。では、『ハッスル』での越中の活躍に期待しましょう！

せき詩郎　やってくれると思いますよ。『ハッスル』後楽園の日は、台風が近づいてたんですよ。これなんて、偶然とはとても思えない。きっと嵐みたいな風、吹かせてくれると思います。

【08年7月16日／都内・某『ルノアール』にて収録】

てやるって!!

ンドバッグ”

中詩郎

談会

そもそもなぜ越中詩郎は全日を辞めて新日に来たのか

ガンツ 『UWF変態新書』という単行本も発売され、さすがにもう終わりかと思われた変態座談会がまたまたやってまいりました！

タコ このあいだ単行本用の録り下ろしで「プロレス変態座談会」という大きなテーマで盛り上がって、大団円かと思いきや、今度はもの凄く狭い……。

ガンツ 「髙田vs越中」という、たった一試合をテーマに語り合いたいと思います（笑）。

井上 ちょっとさあ、俺はあんまりこういうこと言える立場じゃないけど、もっと変態座談会を大事にしてほしい！

タコ 安売りせんといてくれ（笑）。

井上 これじゃ、新日を追放された木村健吾がちょっとジェットセンターでマーシャルアーツを習ってきて、すぐ格闘技戦やっちゃうようなもんですよ！

椎名 それぐらい気楽でもいいんじゃない？ 1〜2カ月に一回、こうして集まって、プロレスの話したり、釣りの情報交換したりさ（笑）。

ガンツ いやいや、そうは言いますけど、髙田vs越中の「新・名勝負数え唄」と言えば、我々変態世代にとってど真ん中ですから、けっこう語ることあると思いますよ。

タコ まあ、言うたら新日本vsUWFの対抗戦って、UWFの歴史の中でも一番おもろい時期やしな。

井上 その中でも一番おもしろい試合が、髙田vs越中ですからね。

椎名 俺は第一次UWFを真剣勝負だと思って観てたからさ、UWFが新日本に戻るだけでも嫌なのに、全日本から来た越中とやるなんて、最初は「ふざけんな！」って感じだったけどね。

タコ 当時は新日本とUWFがスタイル的に水と油で、ホンマに盛り上がるんかなって感じでしたからね。ましてや全日本から来た越中なんてメッチャ違和感あった！

椎名 あれ、なんで越中は全日本から新日本に来たの？

ガンツ 越中はメキシコ修行に出されたあと、いっこうに帰国のお呼びがかからないから、しびれを切らして新日本とコンタクトを取ったんですよね。

井上 三沢（光晴）と同時期にメキシコ行ってて、三沢だけタイガーマスクに変身で日本に戻されたんだよね。

ガンツ 越中は三沢よりずいぶん早くメキシコに出されたのに、後から来た後輩の三沢が、自分より先に帰国できて、しかもタイガーマスクになっちゃったという。そうやってメキシコで腐ってた越中を、ビッグ・サカ（坂口征二）が新日本に誘ってくれたんですよね。

タコ 新日本も長州の維震軍とかが大量離脱した直後やったから、日本人選手がほしかったんやろな。

ガンツ それで越中って、最初はアジアプロレス所属として新日本に登場したんですよね。

井上 そうそう！

タコ アジアプロレスってどんなんやったっけ？ もちろん実体はない

んやろうけど。

ガンツ　要はその当時、全日本から日本人選手を引き抜くっていうのは、若手とはいえ大事件だったから、揉めないように、新日本が引き抜いたんじゃなくて、アジアプロレスというプロモーションに入って、そこと新日本が業務提携というかたちにしたんでしょうね。

タコ　ちゃんとそういう段取りを踏まんとあかん時期やったんやな。

井上　契約的には問題なかったらしいですけどね。でも、坂口が「（坂口ボイスで）おまえ……ちゃんと馬場さんに筋通してこい」って言って、越中は全日本の巡業中に宿泊先のホテルまで馬場さんを訪ねていくんですよ。ところが、馬場さんの部屋にはなかなか行く決心がつかず、ロビーでウロウロしてたら「（しゃがれた声で）おい、越中じゃねえか」と。

ガンツ　その声は天龍ですね（笑）。

椎名　俺、森進一かと思った（笑）。

タコ　なんで森進一が越中に声かけんねん（笑）。

井上　で、天龍に付き添ってもらって馬場さんの部屋まで行くんですけど、馬場さんは背中を向けて葉巻吸ってるだけで、越中のほうを一回も見ないんですよ。それでようやく口を開いたかと思ったら「（馬場ボイスで）これから一緒に会場に行って、リング上で小林邦昭（当時のジュニア王者）に挑戦表明しろ」って言ったんです。

タコ　ほお〜、「ベルトを獲らせてやるから、新日本には行くな」ってことやんな。

井上　でも、越中は「すいません。会

エッチュー、ハッスル参戦の原点を語ってや

“人間サンドバッ

“UWFのジェームス・ディーン”

髙田延彦vs越中

変態座談

書籍化もされて絶好調の「変態座談会」シリーズ最新作が登場!
今回のテーマは我らが越中詩郎の『ハッスル』参戦に合わせて、“ジュニア版名勝負数え唄”こと髙田vs越中を“変態”たちがおおいに語ります。“維震以前”の越中とはいったい何だったのか?
「エッチュー来い!」とつぶやきながら読め!

構成／堀江ガンツ　試合写真／平工幸雄

場には行けません」って言ったんだけど、馬場さんは最後までシカトなんですって。一回も越中の顔を見ないで「（馬場ボイスで）あ、そう」って。

ガンツ　「あ、そう」とは言ってないでしょ（笑）。

井上　で、帰ったらまたロビーで「（ハスキーボイスで）どうだった？」って。

椎名　森進一がいたの？（笑）。

ガンツ　天龍ですよ！　森進一が越中を心配して待ってないでしょ！

井上　でも、森進一とパターンは一緒ですよ。和解できないまま恩師に他界されて。

ガンツ　なるほど、『おふくろさん』問題と一緒ですね（笑）。

タコ　ほんまや！

井上　このときの話は、越中からも天龍からも聞きましたけど、天龍は「越中が男を見せてわざわざ頭下げに来てるのに、あれはかわいそうだっ

座談会出席者

椎名基樹
本誌の好評長寿コラム『サムライ三昧』でもおなじみのフリーライター。放送作家。構成作家。UWF、真剣勝負、釣りにあくなきこだわりを持つ変態座談会癒しの重鎮。今年、不惑の大台を突破!

井上崇宏
携帯サイト『スカパー! バトルLIFE!!』制作に携わっていたペールワンズの総帥。髙田延彦にあくなきこだわりを持つ、プロレスマスコミ界のモノマネ王。口癖は「ちょちょちょちょ、古舘さん!」。

原タコヤキ君
元・小さい版型の頃の『紙のプロレス』編集者。本誌公式サイト&kamipro.comのポッドキャスト『mimipro』でもカリスマ司会者として活躍。「なぜワシはモテへんのか」がいま最大の関心事。

堀江ガンツ
本誌編集部。ちっちゃい頃から変態的プロレスファン&UWF信者として鳴らし、『kamipro』編集部に入ってからもUWF研究家を自称するカリスマ的変態。当変態座談会の主宰者でもある。

髙田延彦 vs 越中詩郎
“新・名勝負数え唄” シングル全戦績

86.5.19 後楽園ホール
[IWGPジュニアヘビー級選手権]
○高田伸彦vs越中詩郎×
（13分32秒 エビ固め）
※挑戦者・高田が第2代王者となる

86.5.27 福岡国際センター
[IWGPジュニアヘビー級選手権]
△高田伸彦vs越中詩郎△
（19分5秒 両者リングアウト）
※高田が王座初防衛

86.8.5 両国国技館
[IWGPジュニアヘビー級選手権]
○高田伸彦vs越中詩郎×
（21分4秒 羽折式顔面絞め）
※高田が4度目の王座防衛

86.9.19 福岡スポーツセンター
[IWGPジュニアヘビー級選手権]
○越中詩郎vs高田伸彦×
（18分31秒 回転足折り固め）
※挑戦者・越中が第3代王者になる

87.2.5 両国国技館
[IWGPジュニアヘビー級選手権]
○越中詩郎vs高田伸彦×
（21分24秒 脇固め）
※越中が2度目の王座防衛

96.3.1 日本武道館
[IWGPヘビー級選手権]
○高田延彦vs越中詩郎×
（10分53秒 腕ひしぎ逆十字固め）
※高田が王座初防衛

た」って言ってましたね。

ガンツ　このとき天龍は、越中に餞別まであげてるんですよね。

井上　そうそう。越中がホテルを去るとき、封筒をポケットにガッと入れて「（天龍ボイスで）頑張れよ」と。で、タクシーの中で封筒の中を見たらごっそり札束が入ってたっていう。

タコ　天龍カッコええな〜。

椎名　こんな男気あるレスラーをターザン（山本！）は「（SWSに）金で動いた」とか書いたわけでしょ？　最低だね（笑）。

移籍当初はしょっぱかった越中が新日ファンから認められた訳

タコ　それにしても、なんで馬場さんは、そこまでして越中を残そうとしたんかな。そんなすぐにジュニア王者にさせるような有望株やったら、ちゃんと帰国させとったらよかったのに。

ガンツ　まあ、越中が必要というより、新日本にだけは行かせたくないってことだったんでしょうね。恋愛に例えるならば、愛は冷めてるけど、あいつの女にだけはさせせん！　みたいな（笑）。

タコ　ただ、当時の若手ナンバーワンを決めるルー・テーズ杯は越中が優勝で、三沢は準優勝やったやんか。

ガンツ　あれは単純に越中が3年ぐらい先輩だったからですよ。逆にデビュー1年ぐらいの三沢と決勝戦をやってるのがおかしいぐらいで。小杉俊二と山田恵一のヤングライオン杯決勝みたいなもんですよ。

越中が髙田の相手を何度も務めたのは〝嫌な仕事〟を外様に振ってたのかも（笑）

見よ！　この若きサムライ、越中詩郎の勇姿を！　その時代錯誤な泥臭いど根性ファイトは、当時のプロレスファンの琴線をビンビン刺激。UWF信者たちも越中の闘いぶりはおおいに認めていたのだ。

タコ　ああ、なるほど！

井上　だけど越中も新日本に来た当初は、しょっぱかったですけどね。ガッカリしたもん。トップロープからフットスタンプとかやってて、新日本のコーナーポストを汚された気分になりましたね。

椎名　当時からフットスタンプやってたんだ（笑）。

ガンツ　また越中のトランクスがカッコ悪かったんですよね。緑かなんかじゃなかったでしたっけ？

井上　そうだそうだ。それで全日系の着こなしなんだよ。デカパンで。

タコ　全日系はなぜか穿き込み深いよな〜。

井上　「（馬場ボイスで）人間はヘソを出すとね、弱いんだよ。急所だから」。それで全日の選手は深かった。

タコ　そうなんや！　そんなヘソ突かれることなんかないのに。

井上　だから小橋とか三沢とかみんなそうじゃないですか。

ガンツ　秋山準とかもデビューのときからオムツみたいなパンツ穿いてましたよね。

タコ　乳首の下ぐらいまで深い穿き込みで（笑）。

井上　たぶん、馬場さんの趣味嗜好でもあったんじゃないかな。

椎名　隠してなきゃいけないんだ。「（馬場ボイスふうで）いけないの！」。

タコ　椎名さん、馬場さんのモノマネ似てない！（笑）。でも、ホンマに越中が新日本のリングに上がってるのって、違和感あったよな〜。

ガンツ　それでいながら、ザ・コブラを破って初代IWGPジュニア王座決定リーグ戦で優勝するんですよね。

椎名　そのリーグ戦って、誰が出てたの？　髙田は出た？

ガンツ　まだ髙田が新日本に戻ってくる前で、トニー・セントクレアー、ジョニー・マンテル、ブラック・タイガー、ドン荒川、スコルピオン、小杉俊二、山田恵一ですね。

井上　あったな〜、そのリーグ戦。

ガンツ　いま見るとシブすぎるメンバーですけどね（笑）。でも、コブラじゃなくて、越中が優勝っていうのは、意外でしたよね。

タコ　マッチメーカーのビッグ・サカが越中を引っ張っちゃった手前、プッシュせざるをえなかったのかもしれんけどな。

ガンツ　あと、優勝した頃は、越中も新日ファンにけっこう受け入れられてたんですよね。

井上　けっこうすぐ人気出たよね。

椎名　越中ってジャーマンがきれいだったじゃん？　そこがデカかったんじゃない？

ガンツ　それはあるでしょうね。

椎名　当時の新日ファンって、レスラーの評価をジャーマンができる・できないで分けてたところあったからさ。

ガンツ　そうなんですよね。コブラが人気出なかったのも、ジャーマンがヘタだったっていうのが、けっこう大きいと思うんですよ。

井上　ブリッジがベタ足なんだよね。あれ見て「こいつはダメだ」って。

椎名　逆に越中はジャーマンがうまいから「なんだ、こいつできるじゃん」みたいになったんだろうね。

タコ　それで、そのあと髙田と真っ向勝負して、越中は新日ファンから

髙田延彦vs越中詩郎 変態座談会

完全に認められたんやろうな〜。
ガンツ　ただ、越中が最初、髙田の相手を毎回務めてたのって、おそらくみんながやりたがらない嫌な仕事を、中途入社の外様に振ってただけだと思うんですよ（笑）。
椎名　俺も絶対そう思う！　毎日、蹴られまくるわけだもんね。
ガンツ　要は「蹴られ要員」ですよね。だから毎回、新日vsUWFの6人タッグに越中が入ってたという。
タコ　だって当時のキャッチフレーズが「人間サンドバッグ」やもんな〜。ジュニア王者がつけられるキャッチフレーズちゃうで！
ガンツ　片や髙田は「UWFのジェームス・ディーン」ですからね。違いすぎるだろって（笑）。
椎名　でも、あの蹴られて耐える姿がファンの心を捕らえたんだよね。だって、せきしろが越中を好きになったのって、ある日、お父さんが新日のテレビを観ながら「おい、来てみろ。凄いヤツがいるぞ」って、やられまくってる越中を「凄い」って言ってて。そこから好きになったんだって。
タコ　なるほど〜。やられて、やられて、やり返すっていうのは、力道山からの王道っちゃ王道やもんなあ。
椎名　しかも、やり返す技が〝ケツ〟でしょ？　わざわざUWFじゃありえないケツをチョイスしてるわけじゃん。そこが凄いよ。

すべてが好対照だからよかった新・名勝負数え唄は終わらない！

ガンツ　髙田vs越中のシングル初対決って、後楽園ホールですよね？

髙田に蹴りまくられて、やり返す技が〝ケツ〟ってところが凄いよね

日本全国で激闘を展開してきた髙田と越中だが、聖地・後楽園ホールではとくに毎回、異常な盛り上がりを見せていた。写真後方、後楽園ホールのバルコニーを見よ！　二重三重にもなった立ち見客から当時の熱が伝わってくる。

井上　5・19だよね。
ガンツ　そうですね。
椎名　二人とも日付まで覚えてるんだ（笑）。
ガンツ　前田日明vsケリー・フォン・エリックという、超異次元対決があった日ですよね。
タコ　ああ、そうやそうや！
ガンツ　『週プロ』主催で、ノーテレビだったんですよね。
井上　俺、あのときの誌面、すげえ覚えてるよ。髙田がIWGPジュニアのベルトを穫るんだけど、UWF初のベルトってことで、前田が大喜びで髙田の手を上げてるんですよ。で、控室で祝勝会やってる写真も載って、その端っこにシーザー武志が満面の笑みで写ってて。
タコ　細かいとこまで覚えとるな〜。
ガンツ　そこから髙田は無敵のチャンピオンロードを歩み始めるんですよね。
井上　髙田の防衛戦で覚えてるのは、越中からベルト奪ってすぐに、ザ・コブラとやったじゃん。猪木vsアンドレ戦で猪木がギブアップ勝ちしたとき。
ガンツ　6・17愛知県体育館ですね。
井上　そのコブラ戦がノーカットのフルでテレビ中継されて、越中戦はダイジェストで流れただけだったんだけど、それについて髙田が「逆だろ！」って『週プロ』かなんかのインタビューで言ってたんだよ。
タコ　テレビで流すべきは、純プロレスみたいなコブラ戦やなしに越中戦やろ、と。けっこうガチな気持ちで言ったんやろね。
ガンツ　で、ザ・コブラは髙田とやったあとフェードアウトして、「次期シリーズよりジョージ高野が凱旋帰国します」って発表されたんですよ。凱旋も何もずっと日本にいるだろ！　って（笑）。
タコ　コブラの正体って、子どもにもバレバレやったもんな〜。で、その後、越中が髙田からベルトを奪い返すんやったっけ？
井上　福岡スポーツセンターで、大越中コールの中、ジャパニーズレッグロールクラッチで勝つんですよ。
ガンツ　ジャーマンで追い込んで、さらにトドメのジャーマンにいこうとするのを髙田がノープをつかんで耐えているところを、ジャパニーズレッグロールクラッチですよ！
タコ　よく覚えとるな〜。
ガンツ　そのあとの防衛戦で、髙田が指を骨折してて、越中がその指をつかみながらの脇固めでギブアップ勝ちするんですよね。
井上　そうそう。それで、試合後のやりとりも放送したんだけど、「なんで指攻めてくるんだよ」って髙田が言ったら、越中が「てめえが先にやってきたんじゃねえか、コノヤロー！」って返して、子どもみたいな言い争いしてたんですよ。
タコ　あの指を折る技も指2本つかむのは反則やけど、3本以上なら反則にならないとか、そんなんやったよなあ？
椎名　そんなルールあったんだ（笑）。
井上　「（小鉄ボイスで）指2本はいけませんけど、3本ですから合法です！　越中選手、うまかったんじゃないかなって気がします」。
ガンツ　誌面じゃわからないでしょ

高田延彦vs越中詩郎 変態座談会

高田将軍vsコシペランサーなんていう試合が20年の時を超えて実現するかも

うけど、似てますね（笑）。確かに小鉄は「〜じゃないかなって気がします」って言うんですよ。

タコ　井上くんのモノマネは冴えてるな〜。

井上　「（小鉄ボイスで）いいでしょ、古舘さん、これ」。

タコ　今度はいつのモノマネ？

井上　アロハスタジアムでやった新日本プロレスのハワイ大会で、腰ミノ着けて、それを古舘に自慢する山本小鉄ですよ！

タコ　そんなん細かすぎてわかるかいっ！（笑）。

ガンツ　話を強引に戻すと、髙田vs越中のジュニア時代のシングルって、2勝2敗1分けなんですよね。

井上　えっ、5回しかやってないの!?

ガンツ　そうなんですよ。もっとやってるように感じますけど、それぐらいインパクトが強かったんでしょうね。

椎名　やっぱり、カッコいいのとカッコ悪いのが、やり合ったのがよかったんじゃない？　対照的で。

井上　確かに越中が引退した後、ニュースキャスターやったり、越中統括本部長とかありえないですからね。「（越中ボイスで）テメ、コノヤロ、次は広島市民球場の達川さんだって！」。

ガンツ　越中の参院選出馬もあり得ないですよね。「校庭の芝生、全部ひっぺがしてやるって！」。

タコ　どんな公約や！（笑）。

椎名　あのあと、髙田と越中ってタッグ組まなかったっけ？

井上　組みましたよ、呉越同舟コンビ！

ガンツ　ジャパンカップ争奪タッグリーグ戦に急遽参戦したんですよね。ブルーザー・ブロディが来日ドタキャンして、その代わりかなんかで。

井上　あのときの髙田&越中組の快進撃は最高だよね。

タコ　当時はジュニアがヘビー級に勝つっていうのがありえへん時代やったやないですか。だから、それもあって相当驚きましたよね。

井上　当時はジュニアのチームがこういうタッグリーグに出ても、白星配給係でほぼ全敗だよね。

タコ　そうやで。だって、全盛期のタイガーマスクでも、ヘビー級のカネックとやったときは、勝てなくて両リンやったからね。

ガンツ　だから髙田&越中組は、ジュニアがヘビーとやったら必ずヘビーが勝つっていうプロレスの常識を、初めて覆したような革命的なチームでしたよね。

椎名　でも、よくよく見ると二人とも藤波より全然デカかったりするんだけどね（笑）。

ガンツ　それを言ったら、ザ・コブラなんかジュニアのくせに、猪木さんと身長かわらなかったですからね（笑）。

椎名　あれ、計量はしてないでしょ、いくらなんでも。

ガンツ　いや、1回ちゃんとやったんですよね。髙田が「タイトルマッチはちゃんと計量しなきゃダメだ」って言い出して。

タコ　ちょっとUWFらしく、スポーツみたいなこと言い出して。

井上　それで第1回「トップ・オブ・スーパー・ジュニア」では出場前選手が計量しなきゃいけなかったんだけど、ヒロ斉藤がけっきょく体重落ちなくて、しまいには、まだ体重計の針が揺れてるあいだに降りたりしてたんだよね。「（坂口ボイスで）おまえ、もういい」って。

タコ　しかも、計量っていってもヘルスメーターやからね（笑）。

井上　で、計量するようになってから、結局ジュニアの体重リミットを上げたんだよね。

ガンツ　ホントは100キロ以下だったのが102．5キロとかになったんですよね。

椎名　102・5キロって、ミルコと同じぐらいあるじゃん（笑）。

ガンツ　全日本のジュニアなんて、105キロ以下ですからね。渕正信、ジュニアのくせに腹出すぎだろ、みたいな（笑）。

椎名　でも、髙田も越中も、いまは中年なのに、太ってなくて凄いよね。

ガンツ　いまだにグッドシェイプですよね。

井上　「（髙田ボイスで）ワークアウト！」。

タコ　今度は髙田かい（笑）。

井上　「（髙田ボイスで）今日は天気がいいな、ちょっとジョグしてくる」。

タコ　でも、子どもの頃カッコよかったレスラーが、いまだにカッコええってうれしいですよね。

椎名　やっぱナルシストなのかな？　前田なんて現役末期はひどい身体だったもんね。

ガンツ　ショートタイツからスパッツになったりして、ガッカリもいいとこでしたよね。

椎名　だってあれ、マワシ締めたら、いまの白鵬そっくりだよ（笑）。

タコ　あれはなんとかしてほしかったな〜。その点、いま高田はタレントとしてテレビに出てても、スーツとか着てビシッとしててカッコええもんな。

ガンツ　そういう意味で、二人ともまだまだ現役バリバリってことなんでしょうね。見た目からして、まだまだスターだという。

タコ　あの「新・名勝負数え唄」から20年以上経って、高田はいま引退したとはいえ総統として大人気やし、越中も去年大ブームが起こったりしたわけやからね。

ガンツ　あの二人が巡り巡って、『ハッスル』で再び相対するっていうのも感慨深いですよ。

井上　俺、昔から越中は『ハッスル』出たほうがいいのにって思ってたよ。新日の会場行っても、第1試合から観てると、越中一人いいんだよね。

椎名　沸かせ上手だよね。

井上　だから、『ハッスル』に越中が出たら、絶対に盛り上がるだろうなって、ずっと思ってた。

タコ　まあ、『ハッスル』で高田総統と越中がどんな絡みになるか、いまは想像もつかへんけども。ここは昔の名勝負のように盛り上がることを期待しましょう！

ガンツ　『ハッスル・マニア』あたりで、時空を超えた一騎打ちが実現するかもしれませんからね。

タコ　高田将軍vs越中詩郎とかあるんかな？

井上　いや、コシペランサーとかが登場するかもしれない。

タコ　どんなキャラや（笑）。といったところで、今日はお開きにしましょう！　また次回をお楽しみに〜。

【08年7月10日／『kamipro』編集部にて収録】

7.11『ハッスル』に越中詩郎がやってきたって！　かつて髙田延彦と激闘を展開した後楽園ホールで、髙田総統と相対する越中。名勝負数え唄はまだまだ終わってないって!!

ハッスル

セイ
セイ
セイ〜

ボクがハードゲイなわけないでしょうフォー!!

〝新宿二丁目のエース〟が生々しく『kamipro』初登

局地的＆局部的に話題沸騰中!!

おまえ、ニセHGだろ!?

IWAジャパン 松田慶三

『ハッスル』のリングに突如登場した、HGのDNAから高田総統が生み出した“クローンモンスター”ニセHG！　本物よりも生々しくハードゲイっぽいと噂のニセHGの正体と一部で囁かれているのが、IWAジャパン所属の松田慶三だ。はたしてこのゴリゴリの男気レスラーがニセHGなのか？　その秘密に下半身中心に迫りますよ～、オッケ～イ!?　二丁目フォーッ!

聞き手／鈴木佑　撮影／金山フヒト　試合写真／平工幸雄、山口比佐夫

――今日は『ハッスル』で活躍中のニセＨＧ選手にお話を聞きたいと思います。

慶三　セイセイセイ～（低い声で）、自分はニセＨＧじゃありませんよ～。ＩＷＡジャパン一筋13年の〝がっちり男気〟松田慶三で～す！　フォー！

――（無視して）テンション高めですけど、新宿二丁目にくると身体が火照りますか？

慶三　いやいやいや！（必死に否定）。そういうキャラに見られがちですけど、二丁目にはＩジャの会見くらいでしか来ないんですよ！　今日もひさしぶりに来たんですけど……やっぱり独特な雰囲気で楽しげですね！（嬉しそうに）。

――……松田選手って試合中もテンションが高いですよね。よく試合中に「ヘイヘイヘイ！」って大声を出しているのが特徴的で。

慶三　そうですね、「セイセイセイ～」よりもずいぶん前から「ヘイヘイヘイ！」って言ってましたね（笑）。

――声を出すようになったきっかけは？

慶三　自分がプロレスラーになろうと思ったときに研究したのがアメリカのプロレスだったんですよ。で、自分もリング上ではアメリカ人になったつもりでいこうと（笑）。

――それでオーバーリアクションだ、と。

慶三　そのほうがわかりやすくて、遠くのお客さんにも伝わると思いますし。

――英語のほうがしっくりくるんですかね？

慶三　「こい、このやろう！」とかって、なんかテンションが下がるんですよ～。「カモン、ヤングボーイ！」のほうがいいですし、「おいおいおい！」より「ヘイヘイヘイ！」のほうが気分がノるんです！

――ちなみにニセＨＧ選手の声が非常に本家ＨＧ選手にソックリなんですが。

慶三　あ、ホントですか？（嬉しそうに）。ＨＧ選手はバラエティ番組とか観ててもイイ声してるな～って思ってましたね、ちょっと低音で響き渡るというか。やっぱりニセとしては本家に似せなきゃっていう意識がありますね……じゃなくて、あるんじゃないですかね？（笑）。

――あくまで推測だと。

慶三　はい！（キッパリ）。まぁ、コスチュームだけ似てても中身が似てなかったら衣装負けしちゃいますし……じゃなくて、しちゃうと思うんで！

――は～。ちなみにＩジャのリングで松田選手は川田利明選手と対戦してますけど、ニセＨＧ選手は『ハッスル』のデビュー戦で川田選手とタッグを組んでるんですよね。

慶三　あー、そうみたいですね～（他人事のように）。川田選手とはシングルで2回やらせてもらって貴重な経験になりました！

――肌を合わせてみていかがでした？

慶三　足がすくみましたね！　自分は全日本プロレスが大好きだったので川田選手と対戦できて嬉しかったんですが……骨身に染み渡るほどハードヒットでした！

――ハードゲイにハードヒット、と。

慶三　セイセイセイ～（笑）。まぁ会社も長年の勤続へのご褒美としてそういうカードを組んでくれるんでしょうね、佐々木健介選手ともタッグで対戦しましたし。そういった大物選手と対戦するからには失礼がないようにコッチも気合い入りますよ！

――松田選手のプロレスって明るさとゴツゴツした部分が同居してる感じなんですかね。

慶三　全日本好きとしては「明るく楽しく激しいプロレス」がモットーですから！　自分が楽しめないとお客さんも楽しめないですし。単純明快なのがいいかな、と。

――『ハッスル』にはどういう感想を？

慶三　わかりやすくていいと思いますよ。ここだけの話、最初はちょっと違和感を持

ニセHGってなんなんでしょうね？ 色黒でヘンに動きがぎこちなくて（笑）

ってた部分も正直あったんですけど。「川田さんがなんで歌ってるの？」とか（笑）。

――なんでリングで『キューティーハニー』を歌うんだ、と。

慶三　はい、しかもノリノリで（笑）。でも、この前にIジャの先輩だったTAJIRIさんに『ハッスル』について話を聞く機会がありまして。とにかく『ハッスル』はお客さんを楽しませることに一生懸命だと。いまのプロレスは難解になりすぎてるから、『ハッスル』ではタックルひとつでもお客さんが湧くような試合を目指してるということを話してくれて。それを聞いたときに自分と同じだなと思ったんです。自分も身体のデカい選手とぶつかって、その迫力でお客さんが沸くような試合を心掛けてますし。

――それで『ハッスル』参戦を決めたと。

慶三　はい……、いやいやいや、ボクは参戦してないですけどね！　ただ、TAJIRIさんという尊敬する選手が真剣になって取り組んでる『ハッスル』には凄い興味を持ちましたね。もし、そこに自分が参戦できるのであれば精一杯に頑張りたいと思いますね～（とってつけたように）。

――ニセHG選手のいかがわしい雰囲気は『ハッスル』にすっかりなじんでましたよ。

慶三　あ、本当ですか？（嬉しそうに）。セイセイセイ～、だから別人ですってば！

――とにもかくにも『ハッスル』に対していまは偏見みたいなものはない、と？

慶三　まったくないですね！　専門誌を観たときに、こんなのやってるんだぁという認識だけだったんで。

――全日時代の川田選手のイメージが強い人はギャップを感じますよね。

慶三　デンジャラスKとモンスターKは別人ですね！　まぁ、ボクも機会があれば川田さんと『ハッスル』のリングでも絡んでみたいですね～（しらじらしく）。

――ふ～ん。では松田選手から見て、ニセHG選手の試合ぶりはいかがですか？

慶三　自分も映像で観させてもらいましたけど……アレ、なんなんでしょうね？　やたらと色黒でヘンに動きがぎこちなくて（笑）。気持ち悪いモノ見たさっていうか、おかしなのが出てきたなって感じなんじゃないですか？　あれをやってる奴はバカなんじゃないかって思われてたり（笑）。

――腰の動きとかが本物以上にHGっぽいって声もありますが。

慶三　生々しいんですかね～。マスク被ってるからわからないですけど、中身の選手はどんな気持ちでやってるんですかね。まぁ、本人なりにハッスルしちゃってるんじゃないですか？　それが合ってるかどうかはさておいて。

――かなりノリノリに見えますね。試合中も不気味にニヤけつつ何か言いながら。

慶三　ちょっと日本人っぽいノリじゃないですよね！　自分も正体が知りたくてネットで調べたんですが、外国人なんて噂もささやかれてるみたいで。あの陽気でラテンな感じはメキシコ系の選手なのかなぁとは思いますけどね。……あ、選手じゃなくてクローンモンスターですか（笑）。

――ご覧になった試合はRG戦（7月6日・福岡国際センター）ですか？

慶三　そうですね。RG選手はリアクションが大きくていい選手ですね！　やられっぷりもよくて。ニセHG選手も学ぶものがあったんじゃないですか？　スウィングしたいい試合だったと思うな～。

――ご本人的にも試合を楽しまれた、と。

慶三　（無視して）本家のHG選手も復活して、ニセHG選手が今後『ハッスル』でどうなっていくのか気になりますね～（ニヤリ）。

――……ニセHG選手のことはひとまず置いといて、少し松田選手自身のことも聞きたいんですが、先ほど全日好きと言ってましたけどお気に入りの選手というと？

慶三　日本人だと小橋建太選手、外国人だとパトリオット選手ですかね～（ウットリ）。

――やっぱりマッチョ系がお好きで？

慶三　やっぱりって言われちゃうとどうも

IWAジャパン10周年記念興行のメインで川田利明と対戦した慶三(2004年8月31日・代々木第2体育館)。短時間での敗北に慶三は「打撃をもらって足が出ていかなかった」と反省しきりだったが、川田は「アイツに団体の意地を感じた」と好評価!

『ハッスル・ハウスvol.37』当日まで「X」とされていた川田のパートナーとして初登場したニセHG。ハッスル軍に余裕の勝利を飾った後に川田は、ニセHGのポテンシャルの高さをひけらかすように「なんならレンタルしてやってもいいぞ」とRGを挑発!

下半身中心に活躍してますヨ～！ ニセHGヒストリー

髙田総統の手によって “クローンモンスター” ニセHG誕生!

オ～ケ～イ（低い声で）。モンスター軍に捕獲されたHGが、仮面ライダーばりの改造出術で抽出された濃厚なハードゲイDNAから誕生したのがニセHG。担当医の“発明王”ドクター中松による灯油ポンプ以上の大発明ですよ～!

08.6.18　『ハッスル・ハウスvol.37』

○vs天龍源一郎&RG

※パートナーは川田利明

（5分07秒　ニセ69ドライバー）

ニセHGの初戦は、かつてハードゲイ化したこともある天龍とHGの元祖パクリキャラのRG。試合中、低い声の「セイセイセイ～」や控えめな腰振りが、逆説的にホンモノ以上のハードゲイっぽさを発揮したのだからタマらない!

08.7.6『ハッスル・ツアー2008 ～7.6　in　FUKUOKA～』

○vsニセHG

（7分30秒　ニセ69ドライバー）

「どーですか、お客さん～」（控えめに腰をカクカクさせながら）と、元祖ニセモノ・RGとの対戦も、絶好調のニセHGはニセ69ドライバーで一蹴!　だがここに失踪中のHG（ホンモノ）が乱入。ハードゲイ同士の“二丁目”対決実現へ!

08.7.11『ハッスル・ツアー2008 ～7.11　in　KORAKUEN～』

○vsHG

（7分28秒　ニセ69ドライバー）

ついに試合は「ニセ」コールと「ホンモノ」コール、HGに「セイ!」、ニセには「ニセイ!」が交錯。ややニセ人気に押され気味のHGだったが、なぜか突然電池切れのようにダウン。これもドクター中松の仕掛けなのか?

(笑)。確かに身体がゴツゴツした選手が好きでしたね。アメプロだとアルティメット・ウォリアーとか、わかりやすくてデカくて強い選手に憧れましたね～。

——そもそも最初はIジャじゃなくてオリエンタルプロレスに入団したんですよね？

慶三 はい！ 本当は全日にも履歴書を送ったんですが返事が来なくて(笑)。縁があってオリプロに入団したんですが、当時は高校生だったので仮合格みたいなかたちで。

——オリプロの創設者ってホモビデオ出演疑惑もある○○○選手ですけど……。

慶三 セイセイセイ～、まったく関係ないですよ！ 入団テストを受けたときは○○○さんはオリプロから離れられてたので。で、高校卒業して正式入団しようとしたらオリプロが潰れちゃったんですよ～。

——入団前に崩壊とはついていないですね。

慶三 それで先輩プロレスラーにIジャを勧められまして。

——その頃のIジャってデスマッチ色が強いですよね？

慶三 そうですね、中牧昭二さんとか。ただ、当時エースだった荒谷(望誉)さんは正統なプロレスをやってたんです。『ハッスル』的にいうとボノちゃん部屋のあーちゃんですか。

——全日本プロレス所属の荒谷選手ですね。

慶三 はい。自分はデスマッチじゃなく荒谷さんの路線に付いていこうと思いまして。

——じつは『ハッスル』に参戦してる選手で、Iジャに上がってた人って少なくないですよね。

慶三 あぁ、そうですね！ TAJIRIさんやあーちゃん、金村キンタローさんとか。あと安田忠夫さんも上がってましたね。

——タイガー・ジェット・シン選手も。

慶三 意外といいますね！ なんか親近感が湧くな～。ボクは若手時代にTAJIRIさんや荒谷さんの指導を受けまして。

——きしくも『ハッスル』に上がってる二人で。

慶三 ……でも、よく考えると荒谷さんはあんまり練習してなかったですね(笑)。合同練習のときもみんなと一緒にやるわけでもなく、教えるわけでもなく。

——そのときからいまのように〝ダメ男〟キャラでしたか。

慶三 寝転がってよく屁をしてたイメージですね～。どちらかというと努力型というよりは天才肌の選手だったかもしれませんね。

——あの頃と比べると体型も変わって。

慶三 ええ、すっかりふくよかになられて(笑)。まぁ、自分は練習生で荒谷さんはエースでしたから、気安く話ができる関係ではなかったです。身近な先輩だったTAJIRIさんには本当お世話になりましたね！

——今年、TAJIRIさんがIジャに里帰りして、松田選手はタッグマッチで対戦してましたね(5月25日・新宿フェイス)。

慶三 リングで再会できたので感慨深かったです！ Iジャは道場がなかったんで、よく髙田馬場のSPWFの道場に出稽古に行ってたんですけど、そこでTAJIRIさんにプロレスのイロハを教わりまして。

——TAJIRI選手はその頃から頭の回転が早い人でしたか？

慶三 そうですね、なんでもできるっていうかクレバーというか。でも、そんなTAJIRIさんも球技は苦手でしたね。よく練習が終わるとみんなで道場の前にある公園で野球をしたんですけど、TAJIRIさんはボールの投げ方がヘンなんですよ。右手と右足が同時に出ちゃうというか(笑)。

——俗にいう女投げみたいな。

慶三 そうそう！ この人にもできないことあるんだなって思って。じゃあボクもプロレス頑張れるかな、と(笑)。

——ヘンに励みになった、と。あと、Iジャっていうと一時期は大物外国人路線でいろんな選手が来日してましたが。

慶三 (スティーブ・)ウィリアムス、カクタス(・ジャック)、テリー・ファンク、(タイガー・ジェット・)シン、(テッド)・デビアス、アニマル(・ウォリアー)……、大物がたくさん来ましたね～。しかし、シンのオジちゃんはいまだに元気ですね！

——『ハッスル』でもボブ・サップと試合してましたからね。

慶三 一気に会場を恐怖に陥れるあの存在感は凄いですよ！ 殴って蹴って首締めて、サーベルでつっついて……技らしい技はないんですけどね(笑)。派手な技じゃなくお客さんを引きつける部分は勉強になりますね。

——全日好きとしては元三冠王者のウィリアムスなんかどうでした？

慶三 ウィリアムスのIジャでのシングル初戦の相手が自分だったんですよね。バックドロップで殺されちゃうのかな～と思うくらいビビりました(笑)。自分の中でターニングポイントになった試合ですね。人づてにウィリアムスが自分のことを評価してくれたっていうのを聞いたときは、プロレスやっててよかったなって思いましたね～(シミジミと)。

——松田選手は一途にIジャに所属してるわけですけど、その理由は？

慶三 う～ん……(熟考)。Iジャが好きだからです！ まぁ、嫌いだったら残らないですし。

——性格的に義理堅いんですかね？

慶三 それはあるかもしれないです。ボクはIジャに拾ってもらった身なんで、自分がこの団体を盛り上げて恩を返していかなきゃと思ってます！ まだまだ貢献できてないと思うんで、このままいさせてくださいと。

——謙虚ですね～。

慶三 浅野社長に「もういらないわよ！」って言われたら自分は足を洗うだけです！

——松田選手の人柄のよさはご自身のブログからもよくうかがいしれますね。

慶三 何をおっしゃいますやら！ お目汚

岩のようなウィリアムスに対して、男気全開で真っ正面からぶつかっていった慶三。その玉砕ファイトに周りも絶賛！ またアニマル・ウォリアーからもファイトぶりを評価され、愛用のスパッツをプレゼントされたこともあるとか。

KEIZO MATSUDA

身近な先輩だったTAJIRIさんに いろいろプロレスのイロハを教わりました

しでございます（笑）。
――ブログが荒されても、それに対してご丁寧に返答までして。
慶三　だって荒らすってことは読者なわけですし、それを邪険にはできないですよ。読んでくれてありがとうございます、そういう意見もあるなら自分も悔い改めますと。
――ブログで言えば、よく読者からニセHGについての書込もありますけど松田選手はかたくなにシラを切ってるようですが。
慶三　……ボク、プロレスって格闘技なんかと比べてファジーなところが魅力だと思うんですよ。なのでそのへんはファンタジーに包まれてるほうがおもしろいと思いまーす！　オ～ケ～イ？（腰をカクカクさせながら）。
――……プロレス以外の話も聞きたいんですが、松田選手の趣味はお笑い観賞ということで。
慶三　お笑いには目がないですね！　ボク自身も『めちゃ×2イケてるッ！』とか『ビートたけしのお笑いウルトラクイズ』に出演したことがありまして。
――ほー、それは凄い。何かマル秘エピソードとかありますか？
慶三　そうですね～、『めちゃイケ』の「数取り団」ていうコーナーに参加したときに、なぜかお姉系タレントのKABA・ちゃんと相撲を取りました（笑）。
――それまた松田選手に打ってつけというか、意味深な組み合わせですね～。
慶三　対戦相手としてKABA・ちゃん直々に指名されたんですけど。前みつを取られたというか、前を握られまして！（嬉しそうに）。
――そ、そうですか（ビビってたじろぎながら）。やっぱ二丁目的に見られることって多いんじゃないですか？
慶三　そうですね～。こうゴッツしてて角刈りで日サロで焼いてると。フフフ！
――一応、念のためにお聞きしますが、実際のところそっちのケというのは？
慶三　一応ノンケといっておきます（笑）。
――また含みを持たせる物言いで。第三の性に対する偏見とかは？
慶三　ないですけど、知り合いから「一人で二丁目を歩かないほうがいい」とか言われますね（笑）。まぁ同姓であれ、人から好かれるのはいいことじゃないですか？（ニヤリ）。
――ま、まぁ、そうですね。……わかりました！　今日はニセHG選手にいろいろとお話を聞きました、ありがとうございました！
慶三　セイセイセイ～、だから違いますってば！

【08年7月8日／都内・新宿二丁目某所にて収録】

KEIZO MATSUDA

まつだ・けいぞう■1975年12月21日、神奈川県大和市出身。95年3月2日に菅原裕二戦でデビュー。IWAジャパンで現在エースとして活躍中。試合中に英語を使うことから一部では「インディーのルー大柴」とも言われている。ニセHGの正体とささやかれている、男気全開のレスラー。175cm、100kg。

ボクは風貌が二丁目的に見られることが多いんですけど一応ノンケなんで（笑）

対抗

本命

大穴

Dreams Come True

検証・ハッスルGPの行方

あんな夢こんな夢いっぱいある～けど～♪

願いごとから優勝者が浮き彫りに!?

7月17日時点でGP一回戦は2枠の出場選手がまだ未決定。関西弁をまくし立てて、お行儀悪く出場をアピールしているゼウスの参加はあるのか？　そしてその夢も気になるところだが……、ありったけのフライパン？

出場選手名	夢	実現の可能性
ボノちゃん	優勝してパパ（グレート・ムタ）を魔界から呼び戻す	70%
ボブ・サップ	次期アメリカ大統領に就任	20%
川田利明	栃木でハッスル開催	90%
RG	自分の冠番組を持つこと	0%
坂田亘	チャンピオンベルトを巻き、高田総統と初防衛戦	50%
TAJIRI	GM制度を復活させ、新GMに就任する	80%
長尾銀牙	月9に出演	40%
アン・ジョー司令長官	とくになし	60%
越中詩郎	デビュー30周年で高田延彦と一騎討ち	50%
ザ・モンスター℃	2008年中に世界全体のCO2排出量を半分に減らす	20%
天龍源一郎	高田モンスター軍を解散させて、高田をハッスルから追放する。	1回戦敗退
タイガー・ジェット・シン	イノキとやらせろっ!!	1回戦敗退
レネ・ボナパルト	パリ・凱旋門広場でハッスル開催	1回戦敗退
赤鬼蜘蛛	『スパイダーマン4』に、スパイダーマンのライバル役として出演	1回戦敗退

※情報は7月16日現在

優勝者には高田総統が「願いごとを叶える」という、欲望のツボを刺激しまくるハッスルGP。ここでは各選手の実力は完全スルーして、単純に「優勝＝実現可能な夢」という現実的な観点から優勝を予想！　叶いそうにない夢から消去していくという、じつに夢のない方法でGPの行方をサクッと検証してみよう！

まず「自分の冠番組を持つこと」というRGの身の程知らずな夢。もし、エラいプロデューサーにそんなお願いした日には、冠番組どころかお冠になるに違いないから無理！　続いて「アメリカ大統領就任」を掲げたサップ。「GPに優勝したから大統領になれる」なんてことは、アメリカ合衆国憲法に明記されてるわけがないので到底無理！　℃の「2008年中に世界全体のCO₂排出量を半分に減らす」は、地球に優しい夢で好感度アップだが、サミットで決議された目標年数でさえ2050年なんだから物理的に無理！　え～、ここまできて全選手の夢を検証するのは行数的に無理が生じてきたので、逆に実現しそうな夢（＝もっとも現実的な夢のない夢？）をピックアップすることに方針変更！

そう考えると、川田の「栃木県でハッスル開催」がおのずと本命に決定か。対抗には「新GMに就任する」という、ハッスルの世界観にピッタリな夢のTAJIRI。そして大穴は「結婚だってな、『kamipro』からのお祝いだよ」（紅夜叉調）ってことで「チャンピオンベルトを巻き、高田総統と初防衛戦」が夢の掲げた坂田でひとつ。あ、ボノちゃんの夢もハッスルっぽいから大穴に追加！

こうして本命・対抗・大穴の願いごとを見てみると、ほかの夢に比べてあたりまえだが大人というか……。ここはこれらの予想が覆されることを願って、〝裏本命〟として越中詩郎の「デビュー30周年で高田延彦と一騎討ち」をプッシュ！「やれんのか？」vs「やってやるって！」が観たいって！

日本プロレスが好調なんてじられん!!

ハッピーエンドちゃうんか？　7.6新日本プロレス後楽園ホール大会で決行された超因縁抗争劇、天山広吉vs飯塚高史のランバージャックデスマッチは、異様な盛り上がりの末に完全決着!!　天山の盟友・小島聡の救援で友情パワーも復活など、“真夏の祭典”G1クライマックスに向けて、ホントのホントに絶好調の新日本をさらに追跡する徹底特集第3弾!!

文／真下義之　大会撮影／平工幸雄

なぜ新日本プロレスはおもしろいのか？

「かいてかいて恥かいて　裸になったら見えてくる　本当の自分が見えてくる」（アントニオ猪木）。

現在、絶好調状態の新日本プロレスを創業者のアントンふうに言えば、ズバリこうなるのかもしれない。

ここ数年、内部的には会社の身売り、所属選手の離脱、猪木事務所との内紛などで、ファンをトコトン失望させ、ドン底まで墜ちたこの老舗団体。

さらに巨大な外圧としてミスター高橋本という、ジャンルを地盤沈下させるビッグバンや、ＰＲＩＤＥなどの総合格闘技ブームという大津波を受けて、受けて、受けまくったあげく、こうした〝呪い〟から解き放たれたかのように、自由かつ元気な空間がグングン広がり始めている。

そのポイントの一つは、〝プロレスに照れない〟姿勢だろう。天山vs飯塚の抗争劇には、裏切り、反則、流血、場外乱闘、レフェリー失神、救出、とあまりにベタベタな〝プロレスらしさ〟がギュウギュウに詰まっていた。

一見、バカバカしいまでの勧善懲悪劇。だが、時流に合ったエンターテインメント系の味つけもキッチリしつつ、照れずに貫き通してみせた新日本には、開き直ったタフな印象さえ出てきたのだから不思議である。

まさに「裸になったら見えてきた」イキイキした新日本に今回もまたまた肉薄する16ページ特集、その絶好調の秘密は読めばわかるさ!!

合言葉は、
「努力！友情！勝利！」

新日本
絶好調
信

マット界で一番おもしろいズンドコ抗争劇
語録で振り返る
天山vs飯塚!!

「友情！ 友情!」と最終的には後楽園ホールが「友情」コールで大爆発！ 上半期の新日本プロレスを牽引した天山vs飯塚の超抗争劇を語録で振り返る文字だらけ企画、読み込んでもええんちゃう？

構成／真下義之　大会撮影／平工幸雄
写真協力／新日本プロレス

誰がGBHやと思ってんねん！

（天山広吉）

【2月17日(月)　東京・両国国技館】

ヒドイよ！　天山の約4カ月ぶりの復帰戦にも関わらず、そもそも天山がヒール道を邁進するため、自ら立ち上げたGBHから、アッサリ追放！ かつてのボス・蝶野にも「しっかり考えたほうがいい！」と中3ばりに将来を進路指導される始末であった。

なんでおまえに助けられなアカンねん！

（天山広吉）

【3月9日(日)　愛知・愛知県体育館】

〝俺だけのGBH〟天山の地獄ロードが出発進行～！　GBHの旗持ち係・石井智宏にもナメられた天山は、GBHの襲撃で青息吐息。ここへ元祖〝いい人〟飯塚が救出に入るも、かつて合宿所で頭が上がらなかった先輩に「先輩ヅラすんなよ！」と逆ギレする不遜ぶり。

あんなヤツ、シカトや!!

（天山広吉）

【3月13日(木)　和歌山・岩出市立市民総合体育館】

©新日本プロレス

精神の荒みきった〝猛牛〟はもう止まらない。この日も試合後には飯塚からしっかり救出されておきながら、「なんや、見返りがほしいのか？」とビッグ・サカばりの〝人間不信〟ぶりが大全開。もう手に負えないって！

ハッキリ言って飯塚はウザい！ ただ、何か放っておけへんという気持ちも、これっぽっちやけど出てきたな

（天山広吉）

【3月14日(金)　広島・広島グリーンアリーナ】

飯塚の救助は終らない！　この日の天山は女子高生ばりに「ウザい」発言も、反面、真摯な飯塚のアプローチにハートが揺れ始めた様子。「アイツはなんなんや。もしかして俺のこと……」（妄想）と放課後の気になるアイツ的な展開へ!?

飯塚！

（天山広吉）

おう！

（飯塚高史）

こうなったら決めた。1回とか、2回とかは言わない。一緒にやろうやないかい！

（天山広吉）

おう！ やろう!!

（飯塚高史）

はい、……いきまっしょう

（天山広吉）

【3月15日(土)　兵庫・豊岡市民体育館】

恋愛模様さながらの揺れる天山が動いた！　飯塚4度目の救助で、ついに〝友情〟を発動させた天山は、共闘を呼びかけガッチリ握手！　しかも「飯塚！」と呼び捨ててから最後はキッチリ敬語！　〝いい人〟への転身も同時に発動していたのだった。

飯塚さん。あんなやり方されたら、俺一人じゃどうしようもない。ヘルプして

（天山広吉）

【3月16日（日） 岡山・倉敷山陽ハイツ】

これが友情だ！ これまで飯塚に救出され続けた天山が、逆救助！ さらに「先輩ヅラ」、「シカト」、「ウザイ」と暴言連発の末、あっさり「さん」づけに移行したあげく、「ヘルプして」と天山語も炸裂。待望の〝いい人〟劇場がついに解禁！

天山のあの行動には、俺も感動した

（飯塚高史）

【3月17日（月） 鳥取・米子コンベンションセンター】

タカシ・カンゲキ！ ついに初タッグを結成した天山＆飯塚組。そして、この日は天山がマットに倒れる飯塚に、自ら盾となってイス攻撃を受けるという衝撃の友情ムーブが爆発！ 桜の季節に正義超人ばりの友情パワーが満開だ。

ハッピー・バースデー・トゥー・ユ～♪

（飯塚高史）

©新日本プロレス

【3月23日（日） 兵庫・尼崎市記念公園総合体育館】

見てみぃ、この笑顔！ 友情タッグの到達点と言えるのが、この誕生日シーン。試合前に飯塚自ら「♪ハッピー・バースデー」と歌声を響かせる中、ノリノリでケーキのロウソクの火を吹き消す天山（37歳）。まさに極上のハッピー空間だが、これが悲劇のイントロだとは誰も想像できなかったのだった。

俺はまだわからへんところもあるし

（天山広吉）

【3月23日（日） 兵庫・尼崎市記念公園総合体育館】

ケーキ効果で友情一直線！ と思いきや、リングで抱き合って勝利を分かち合っても、天山は「まだわからへん」と微妙な違和感を表明していた！ じつは牛なりの野生のカンが働いていたのか。ある意味、天山おそるべしである。

みんなハッピーになってもええんちゃう？

（天山広吉）

【4月16日（水） 埼玉・熊谷市民会館】

一見、絶好調状態の友情タッグ。正規軍の〝アニキ〟こと金本浩二も「ちょっと体感したかったからよ」と上から目線で参加するプチムーブメントに成長。08年上半期最高の名言（?）「ハッピーになってもええんちゃう？」も炸裂！

そいつはGBHの幹部にしてやるからな、ヒッヒッヒ

（真壁刀義）

【4月3日（木）『東京スポーツ』より】

ファン待望の友情Tシャツまで発売され、完全にイケイケ状態となっていた友情タッグ。その過程でGBHのリーダー・真壁はこんな意味深コメントも。過去に要職といえば、道場長や選手会長どまりだった飯塚に「幹部」の響きは甘く響いたのか?。

普段も困ってる人を見ると放っておけない？（三田佐代子）そうですね。町を歩いていても、そんな感じで

（飯塚高史）

【4月9日（水）『Sアリーナ』（サムライTV）より】

ついにGBHのIWGPタッグ挑戦が決定した友情タッグ。サムライTVに和気あいあいと出演した際には、三田佐代子キャスターに淡々と応える〝いい人〟飯塚。「よかった、飯塚さんがいてくれて！」とハシャぐ三田さんがいまではいたたまれない。

オイ、見たか？ これが現実なんだよ！

（真壁刀義）

【4月27日（日） 大阪・大阪府立体育会館】

友情のバカヤロー！ わずか1ヵ月の蜜月で友情タッグがまさかの分裂！ タッグ戦の真っ最中に裏切られる極悪ぶりに、新日本プロレスには苦情電話が殺到！ いまいち浸透しなかった真壁の「現実なんだよ！」もこの日は重々しく響きまくった。

©新日本プロレス

よくも裏切ったな！友情ちゃうんか？

（天山広吉）【4月29日（火・祝）三重・桑名市体育館大会】

大舞台での失態としては、三冠＆ＩＷＧＰダブルタイトル戦での脱水症状（でレフェリーストップ）以上の衝撃を受けた天山は、「よくも裏切ったな！」と激高！　飯塚が「坊やだからさ……」とシャアばりにほくそ笑んだかどうかは、知るべくもない。

これから〝本物の友情〟を作っていくから

（天山広吉）【5月2日（月）東京・後楽園ホール】

こんな天山にも早くも新しい友情の芽生え？　丸坊主の極悪ヅラとなった飯塚が大暴走しまくったこの日、天山の救出に駆けつけたのはなぜかタイガーマスク。「おまえは牛になれ！」とばかりに熱烈支援の表明に天山もニッコリ。

僕は何十万パーセント、何百万パーセント、天山さんを裏切ることはないです

（タイガーマスク）

（嬉しそうな表情で）ホンマですか？

（天山広吉）【5月5日（火・祝）東京・後楽園ホール】

新しい友情を育み始めた天山。タイガーも「僕もやさしすぎるってよく言われる」と〝いい人〟繋がりで急接近！　だが、この試合を期にほぼタッグが組まれなくなったから、じつはイヤだった可能性もあるのだが、ある意味ナイス判断である。

「俺はこのままで終わりたくない」とは言ってましたね

（ＡＫＩＲＡ）【『週刊プロレス』Ｎｏ・１４２０より】

俺からしたら、ヘイ、ブラザーですよ

（金本浩二）【5月16日（金）愛知・Ｚｅｐｐ Ｎａｇｏｙａ】

驚くべきことに一部で新日本プロレスの〝魔王〟と呼ばれている……らしい金本が天山と組んで飯塚＆ＧＢＨと対戦。いったい何が「ヘイ、ブラザー」なのかはまったく意味不明だが、〝ブラザー＝アニキ〟という方程式なんだろうか。

たかが飯塚だろ！

（蝶野正洋）【5月26日（月）東京・Ｚｅｐｐ Ｔｏｋｙｏ】

ＧＢＨ相手にレジェンドとの共闘が多くなっていく天山、この日はかつてのボス・蝶野とタッグ結成。だが蝶野から「たかが飯塚だろ」「のび太のくせに」と同義語に扱われる飯塚に翻弄されるなど、下降ぶりが止まらない。

（カメラマンにつかみかかって）オイ、俺のデビュー戦をやった飯塚高史はどこへいったんだ！

（平澤光秀）【6月1日（日）東京・後楽園ホール】

新日本プロレス道場におけるちゃんこ作りのエキスパートでもある、若手の平澤が飯塚の血祭りに！　かつて道場長だった飯塚だけに繋がりも深いと想像される平澤はショック大。そして、この日の道場ちゃんこはいつもより塩辛かったという……（ウソ）。

蝶野、アイツ（天山）ダメだよ！　なんとかしろ！

（長州力）

どうしようもねえ、オラ！

（蝶野正洋）【6月5日（木）石川・石川県産業展示館3号館】

〝ダメ天山〟がここに来てますますエスカレート！　ＧＢＨ対策として、レジェンドに一時編入していた天山だったが、長州がコラコラ問答よろしくダメ出しすれば、蝶野もアイム・ファッキン・ガッデム調で罵倒！　ある意味、レジェンドの結束を深めるんだから、さすがの存在感なのだった。

今日のあの不甲斐なさはなんだ？

（獣神サンダー・ライガー）【6月6日（金）大阪・大阪府立体育会館・第二競技場】

〝ダメ天山〟劇場は終わらない。ライガーはレジェンドの必殺技を挙げ「これだけの技を駆使して、なんで勝てねぇんだよ！」と〝怒りの獣神〟化！　友情を誓ったタイガーもノーコメントなんだから、やっぱり〝黄色い悪魔〟だって！

90年代に一瞬だけ一世風靡した名物タッグ、Ｊ・Ｊ・ＪＡＣＫＳ（〝日本の陽気なヤツら〟の意）の相棒・ＡＫＩＲＡが、飯塚の素顔に言及しているが、じつはヒールターンは飯塚がＪ・Ｊ・ＪＡＣＫＳ復活をこばんだから、という噂も？

会社に直訴するから！（天山広吉）

【6月6日（金）大阪・大阪府立体育会館・第二競技場】

「もう誰の助けもいらん！」と、連日のレジェンド＆正規軍のダメ出し連発に疲れはてたか、天山は自ら孤立化を宣言！ 不幸極まりない境遇は、「先生に言うからな！」と半ギレするイジメられっ子を彷彿。

おまえがちゃんとやんねぇと下のヤツらが試合になんねぇぞ、オラ！（蝶野正洋）

俺はちゃんとやってるって！（天山広吉）

【6月7日（土）広島・広島県立ふくやま産業交流館】

この日も天山にブチキレ気味の蝶野は、GBHとの試合後に天山を仲間ハズレで勝ち名乗りなど、イラツキを隠せない。すべての元凶・天山を追求すると、天山はなぜかやるって節で責任逃れ！ でもどう考えても蝶野のほうが正論だって！

なんでもっと早く来(き)いへんかったんかい？ と言いたい（天山広吉）

【7月8日（火）東京・後楽園ホール】

ホント、ダメだ。バカだ、アイツ（天山）は！（長州力）

ダメですよ、もう（蝶野正洋）

テンポが遅いよね（永田裕志）

【6月8日（日）兵庫・明石市立産業交流センター】

もはや完全にクラスのイジメられっ子（そのほかのクラスメイトからは無視）状態の天山。この日はまたもレジェンドに総スカン。永田さんにも、「1テンポどころか、3テンポ、4テンポ遅い」と白目を剥く勢いで、ダメ出しされる迷走ぶり。

もう俺は一人……（天山広吉）

【6月13日（金）茨城・水戸市民体育館】

天山、登校拒否寸前？ 蝶野に「一人で試合をやってる」とGBH以上に問題児扱いされ、心はロンリー、気持ちは……状態も最高潮の天山は、「キレるときはがっちり行く」と、追い詰められた人間特有のマジで発狂する5秒前宣言！

テメェは一人ぼっちだったな（真壁刀義）

【6月15日（日）東京・後楽園ホール】

完全決着の機運高まる天山vs飯塚に、真壁がランバージャックデスマッチを逆要求！ だがセコンドが大勢必要なこの試合形式、友だちが一切いない天山には、修学旅行のグループ分け以上のキツさなのは言うまでもない。

もう人が信じられんですわ（天山広吉）

【6月21日（土）『内外タイムス』より】

案の条、ランバージャックデスマッチを前にした天山は不安爆発。またまた人間不信状態に逆戻り、「セコンドは高校の同級生にでも頼むしかない……」と、同級生にとっては迷惑極まりないプランをブチ上げる迷走ぶり。誰かヘルプして！

最高にハッピーエンドちゃうか？（天山広吉）

【6月27日（金）東京・後楽園ホール】

運命のランバージャック戦を前に、『PREMIUM』のタッグトーナメントで大谷晋二郎とまさかの優勝劇！「最高にハッピーエンドちゃうか？」とノン気に喜ぶ天山。運を使いはたしたのでは？と誰もが不安になったが……。

もうちょっと、しっかりしようぜ！（小島聡）

【7月8日（火）東京・後楽園ホール】

助けちゃうぞ、コノヤロー！ 最後の最後でアイツがやって来た！ まるでマジンガーZを救援するグレートマジンガー（古すぎ）のような救出劇に場内爆発！ それでいて「しっかりしようぜ」とコジにまでもダメ出しされるから、さすがは天山なのだった。

コジ、プロレスに友情はあるやろ？（天山広吉）

【7月8日（火）東京・後楽園ホール】

「友情！ 友情！」天山のマイクのあと史上初の「友情」コール炸裂！ 異様なテンションの中、テンコジがガッチリ握手！ やみくもに助け合うのではなく、孤独、自立を経た"真・友情パワー"が後楽園ホールに満ちあふれたのだった（涙）。

美しいラストシーンを経て、清々しい顔を見せた天山だが、「なんでもっと早く来いへんかったん」と、余計かつ本質を突いた一言を付け足してしまう。このうかつさがある限り、これからも天山は天山であり続けるだろう。ビバ天山!!

中邑真輔

呪いなき プロレス 格闘技論

棚橋弘至、柴田勝頼とともに"新・闘魂三銃士"と呼ばれた中邑真輔。
棚橋が"純プロレス"の土壌で魅力を開花させ、柴田は格闘技の世界に転身。
そして中邑は——二人と比べるとわかりづらいかもしれない。
しかし、その"わかりづらさ"の中に中邑真輔のプロレスは存在した!

聞き手／ジャン斉藤　撮影／平工幸雄

コンプレックスなきスタンス!!

90年代は、何を観てもおもしろかった！ みちのく、リングス、JWP、K―1、ボクシングも

『週刊プロレス』の報道によると、新日本プロレスの中邑真輔が〝MMA再出陣〟を示唆したという。中邑がMMAのリングから遠ざかって4年あまり――。MMAの競技レベルは上昇し、そのMMAブームに翻弄されたことで、いまプロレスは確固たる立ち位置が求められている。そんな時代の中で、プロレスに軸足を置きながらの中邑のこの主張に、理解を示すファンや関係者は決して多くはないだろう。さわらなくていいんじゃないか？という声は挙がっている。

かつてのプロレスラーのMMA挑戦は、時代性や政治的な理由、強さへのロマン（コンプレックスという言い方もできる）などがおもな理由となってきたと本誌は考える。〝呪いなきプロレス〟が求められる時代の中、中邑真輔はなぜMMAに思いを馳せるのか？

Shinsuke Nakamura

――いきなりですけど、中邑さんってじつは変態的なプロレスファンらしいですね。

中邑 なんすか、いきなり。まあ、〝変態〟っていう言葉はべつに嫌いじゃないですけど、変態的なプロレスファンなのかなあ……。

――でも、サムライTVが主催した「第1回プロレスクイズ王選手権」で優勝したときは……。

中邑 （さえぎって）いや、あれはですね、ディレクターさんが収録前に参加選手を集めて、「クイズに関してはガチンコです！」って言ったんですよ。そこで火がついちゃったんですね。「負けらんねえ！」って。

――でも、周りの選手は中邑さんの鬼気迫る姿勢に引き気味でしたよ。

中邑 まあ、周りが引き気味でも、勝つしかないって思ってましたよね。会社からも出るからには「優勝で！」って言われてましたから。

――でも、そういうところで本気になるのはカッコ悪いって思う選手もいるわけじゃないですか。

中邑 そうなのかなあ。カッコ悪いとは思わなかったですけど、やっとプロレスの知識が役に立つときがきたんですから。同世代の選手に「吉村道明が……」とか「この前、ピップエレキバンの広告に出ている豊登の写真があったよ」とか言っても、誰も食いついてこないですよ。こんな役に立つかどうかもわからない知識がちょっと役に立てられると思うと燃えたんじゃないですかね。アッハッハッ！

――そんな変態的プロレスファンは、どんなプロレスが好きだったんですか？

中邑 全部、楽しもうとしてましたよ。W☆INGとかFMWとか、血みどろなプロレスはあまり好みじゃなかったんですけども、それこそ親に泣きついてWOWOWに加入してもらってJWPやリングスを観て。

――ああ、JWPまで（笑）。

プロレスと格闘技がまだ“地続き”だったカオスな時代、中邑真輔は新日本プロレスの格闘技路線の象徴として将来を嘱望。史上最年少でIWGP王座にも君臨したのだ。いかに期待されていたのかがうかがいしれる。

中邑 東北の友だちからはみちのくプロレスの映像を借りて。そのくせ『格闘技通信』も読んで、深夜にやってたK―1の放送も観て。

――というと、90年代の華やかな時代のプロレスファンなんですね。

中邑 そうですよね。あの頃、スゲエおもしろかったですもんね！ 何を観てもおもしろかったですもん！ で、ボクシングもおもしろかった、あの時代!! 周りもプロレスが好きでしたもん。

――放送環境は悪かったけど、なんだか熱がありましたよね、あの頃は。

中邑 放送環境はいまと変わらないですね。小学校低学年の頃、新日本中継は夕方やってたんですけども、しょっちゅうゴルフ特番でなくなるんですよ。

――ホントに腹が立ちましたよね（笑）。で、その裏で総合格闘技が徐々に頭角を現わして。

中邑 そうですね。UFCの登場はボクも田舎で衝撃を受けてましたからね。

――これはプロレスとは違うという意識はありました？

中邑 それは、ありました。やっぱり伝わりにくいですよね。ヒジで顔面をこすって軟骨が壊れた音なんて、誰も聞き取れやしないですから。プロレスのほうが激しく見えたりするんですよね。だから、そこの戸惑いはなきにしもあらずでしたけど。

――その衝撃って、中邑さんの将来の方向性に何か影響を与えました？

中邑 ちょうどそのときはアマレスをやってたと思うんですけど、総合格闘技におけるアマレスの台頭がありましたよね。また、アマレスの選手が負けるときの原因は打撃であったり、柔術に対応しきれてないとか。だから、テイクダウンを軸にもっとプラスアルファを持たなきゃなんないなとは思ってましたね。

――中邑さんがレスリングを始めたのは……。

中邑 （さえぎって）プロレスラーになるためです！

――総合格闘技における、レスリングの優位性を感じてということではないわけですね。

中邑 ないです。だって、アマレスとプロレスの違いさえもわからなかったですもん。プロレスマニアの中にはいましたよ、そういうヤツ（笑）。

――ただ、時代的にはレスリングをやっていたのはタイミングがよかったというか。

中邑 そうですね。あと自分は青山大学レスリング部だったんですけど、当時の監督が三宅靖さん。その関係で、和術慧舟會や正道会館柔術やシュートボクシングから選手が練習に来られてたんですよね。エンセン（井上）さんとかも来てましたし、総合格闘技とは凄く近い環境だったんですよ。まあ、ウチは自分がキャプテンだったときも部員が9人しかいなかったですけどね。だから格闘家の人を呼んでアマレスの練習をしてたっていう、ちょっと特異な環境だったんですけど（笑）。

――そういった時代の背景もあってか、中邑さんは総合格闘技からやって来たプロレスラーというイメージが当初は強かったような気がしますね。

中邑 そうでしょうね。

――誤解を恐れずに言うと、格闘技もできるからデビュー早々に抜擢されたんじゃないかという見方もあって。

中邑 まあ、そういうことだと思います。でも、格闘技ができるっていっても、ほんのちょっとかじった程度な人間でしたよ、ボクは。グラップリングのトー

レスラーやファンから「オマエなんかプロレスラーじゃない!」ってことを直接、言われたこともあります

ナメントに出たりはしてましたけど、打撃に関してはほとんどズブの素人でしたし、ヘッドギアなしの総合の試合だってアマチュアの頃には一度もやってなかったんで。

――でも、デビュー間もない頃から、路線は確実に総合方面でしたよね?

中邑　当時、社長は藤波さんで、副社長が倍賞(鉄夫)さんで。で、「オマエにはアメリカでトレーニングしてもらって、再デビューをしてもらう」と。デビュー戦の内容がけっこうよかったから、もっとポテンシャルを上げて再デビューしようということを言われたんですよ。あの当時、LA道場ができたばっかで、そこに行くことが決まって。ボクは「そこでどうすればいいんですか?」って聞いたとき、「オマエが決めろ!」と(笑)。

――さすがドラゴンですねえ。じつにいいかげんだ(笑)。

中邑　「オマエが決めろ!」って、言い方はカッコいいけど、「決まってないんだ!?」ってビックリして(笑)。それでアメリカに行ったら、ジャスティン・マッコリーとかヴァリッジ・イズマイウがいたんですけど、全然プロレスの練習なんてしてないんですよ。

――なんのための道場なんだ(笑)。

中邑　それで凄く危機感を感じたんですよ。会社のお金でこっちまで来て、再デビューに備えろと言われながらもプロレスを勉強できる環境じゃない。日本なら木戸さんが教えてくれるし、先輩もいるからで、そんな不安はなかったんですけど。だから、現地でできた友だちを誘って格闘技の道場を転々と回るようになったんですよね。一番よく行ってたのがｒＡｗつって、リコ・チャパレリが主宰するジムだったんですよ。

――要するに、いたしかたなく格闘技修行するしかなかったところもあったんですね。そんな大事な時期にプロレスができないことが……。

中邑　(さえぎって)だから、それは自分で決めたことではないですけども、いきなり放り出されて、何もしないわけにはいかないし、つてを見つけて練習しに行ったっすね。それで毎日のようにｒＡｗに行ってて、12月に入ったぐらいでそろそろ日本への帰国も決まったから、ボクはてっきり1月のドームに出るのかなって脳天気に構えていたら、「試合は大晦日です」って。

――ああ、なるほど。それが突然出場が決まった01年の『猪木祭り』。

中邑　あのときもまったくノープランみたいなものですよね。ぶっつけ本番みたいな感じで。

――しかし、成り立ちは完全に格闘家ですね(笑)。

中邑　いや、でも、ボクはプロレスラーになるためにこの業界に入ったから、必死でプロレスラーであろうとしましたもん。想定外、想定外、想定外でくるんで、ボクにとってはこれが普通なんだと思うしかなかったですよね。

――90年代に多様なプロレスを観て育ったのに、いざプロレス界に入ったら一つの方向性しか提示されなかったわけじゃないですか。それって相当なストレスだったんじゃないですか?

中邑　だから、あるときに思ったのは、自分が求めることと、ファンや関係者という周りが求めることは必ずしも一致しないんだと。「オマエじゃねえよ!」っていうヤツが真ん中に立とうとするときもあれば、「オマエが立てよ!」っていうやつが脇を固めようとしたりとか、そういうこともあるんだなあ、と。

――ズバリ言って、中邑さんは常にそういう誤解を受けやすい立場に立たされてないですか?

中邑　そうかもしんないなあ……。もの凄いアレルギーのある方がいっぱいいらっしゃいましたね。プロレスラーの方もそうですし、ファンの方々の中にも。「オマエなんかプロレスラーじゃない」ってことを直接、言われたこともあります。もう、話がねじ曲がって、「ヤングライオン時代も過ごしてない」とか、「セコンドもやったことがない」とか、「ロープワークができない」とかっていう誤解まで受けてましたね。

――そういうムードはおそらく、一時期、格闘技的なプロレスをいっさい排除しようとする動きの延長だったのかもしれないですね。

中邑　自分としては開き直るというよりも、自分自身を否定したら終わっちゃいますから、自分がもしも総合をやるとしても「これはプロレスですよ」って言うしかないと思って。それはプロレスラーが闘うんだから。闘うっていうことだけは共通ですから、総合格闘技であろうが、空手の試合であろうが、柔道の試合であろうが、プロレスラーがやるならそれはプロレスになるな、と。たしかに、ずっと第1試合を経験して先輩にぶっ潰されて這い上がってきたわけじゃないんですけど、でも、こういう育ち方は俺にしかできないと思って、運命とかカッコいい言い方はあるんでしょうけど、俺にとってはこれが普通だと言うしかなかったですね。

――ウチが最近提唱しているのは〝呪いなきプロレス〟という考えなんです。プロレスが変わった原因には、大きく考えて、総合格闘技の台頭と、ミスター高橋本の影響があると思うんです。で、ミスター高橋本の呪いは克服してきてるんですが、総合格闘技の呪いは……。

中邑　(さえぎって)いや、ボクはプロレスも格闘技も、どっちも好きでしたからね。だから別にそれを忌まわしい過去だとも思ってないし。明らかにいまとは格闘技とプロレスの関係性は違いますけど、ボクは格闘技に一矢報いたと思ってますよ。大したことはやってないかもしれないけれど、一矢報いたと思ってくれたファンもいますし、自分でもそう思いますもん。まだまだそんなレベルじゃないし、自分が強いとも思ってないですけど。それでも、恥ずかしいことは何一つしてないと思ってますね。プロレスの中で恥ずかしい試合は何回かしてますけど(笑)。

――ダッハッハッハッ。

現役IWGP王者として『Dynamite!!』に登場。イグナショフ戦は最終的にノーコンテスト裁定に落ち着いたが、デビューわずか1年半にして壮絶な修羅場を踏んでいた。

中邑　自分のやったことは、恥ずかしいとはひとっつも思わないです。むしろ胸を張っていいと思ってます。

――たとえば、かつて〝新・闘魂三銃士〟と呼ばれた棚橋さんのプロレス観って、ファンもマスコミも含めてわかりやすいような気がするんですよ。〝ザ☆プロレス〟っていう感じで。

中邑　そうですね。わかりやすいと思いますね。

――柴田（勝頼）さんのプロレス観はどうですか？

中邑　柴田さんはそれこそ、第一次UWFが新日本に帰ってきた時期とか、前田（日明）さんとか、昭和のプロレスですよね。ああいうスタイルを目指したのか、そういう新日本プロレスが好きだったのか、ボクは柴田さんじゃないからわかんないですけど、そういう匂いを発してる選手だと思いますよね。発してるというか、好んでるんだろうな、と。

――その柴田さんが自分の表現の場所を総合格闘技に移してしまっていることに関してはどう思われますか？

中邑　新日本プロレスの中にいてできなかったことを、柴田さんはやろうとしてるんじゃないですかね。まあ、単純に言えば強くなりたいってことじゃないですかね。プロレス的な意味ではなくて、格闘技的な意味でってことですけどね。全然ボクはありだと思ってますけどね。スゲエ厳しいし、トレーニング方法も違うし、評価のされ方も変わってきますよね。

――そこで聞きたいのは、中邑さんってプロレスファンからもいろいろ言われるし、格闘技ファンからもいろいろ言われる立場じゃないですか。

これが現実だ!?
新日本プロレス“所属”レスラー MMA挑戦ヒストリー

[2000.8.27 PRIDE.10]
×石澤常光 vs ハイアン・グレイシー
1R2:16 TKO（パンチ連打）

[2001.7.29 PRIDE.15]
○石澤常光 vs ハイアン・グレイシー
1R 4:51 KO（ヒザ蹴り）

[2001.11.3 PRIDE.17]
×小原道由 vs ヘンゾ・グレイシー
3R終了判定

[2001.12.31 INOKI BOM-BA-YE 2001]
×永田裕志 vs ミルコ・クロコップ
1R 0:21 TKO（左ハイキック）

[2002.9.29 PRIDE.22]
×小原道由 vs ケビン・ランデルマン
3R終了判定

[2002.11.30 パンクラス]
×獣神サンダー・ライガーvs鈴木みのる
1R1:48チョークスリーパー

[2002.12.31 INOKI BOM-BA-YE 2002]
×中邑真輔 vs ダニエル・グレイシー
2R 2:14 腕ひしぎ十字固め

[2003.5.2 新日本プロレス『ULTIMATE CRUSH』]
○中邑真輔 vs ヤン・ノルキヤ
2R 3:12 ギロチンチョーク

×中西学 vs 藤田和之
3R 1:05 TKO（グラウンドパンチ）

[2003.8.31 パンクラス]
×矢野通 vs 渋谷修身
2R2:25　腕ひしぎ十字固め

[2003.12.31 INOKI BOM-BA-YE 2003]
×永田裕志vs エメリヤーエンコ・ヒョードル
1R 1:02 TKO（パンチ）

[2003.12.31 K-1 PREMIUM 2003 Dynamite!!]
―中邑真輔 vs アレクセイ・イグナショフ
無効試合

[2004.5.22 K-1 ROMANEX]
○中邑真輔 vs アレクセイ・イグナショフ
2R 1:51 ギロチンチョーク

○ ブルー・ウルフ vs トム・ハワード
2R 4:44 TKO（タオル投入）

※ 藤田和之や安田忠夫は“猪木軍”扱い、成瀬昌由はなんとなく省いたが、当時のプロレスファンが憂鬱になる結果ではある。いまだに“呪い”が解けないファンは多いはずだ。

「総合はやめとけよ」というアドバイスもわかるんですけど、そういうふうに育っちゃったから

中邑　ちょうど〝あいだ〟なんですよね。中邑の〝中〟は真ん中の中で（笑）。

——誰もうまいこと言えとは言ってません（笑）。で、棚橋さんは棚橋さんで何に懸けているかがわかりやすい。柴田さんは柴田さんでわかりやすい。中邑さんは何に懸けるんだ？　っていうことですよね。

中邑　だって、ボクはそこに境界線を引いてないから。どっちも大好きだったし、だから自分がやる側になっても違和感はないんですよね。

——中邑さんが90年代のプロレスを観て育った話を聞くと、そこはもの凄く納得できるんですよね。

中邑　だって、あの頃はなんでも観たでしょ？　総合も新日本も全日本も。女子プロだって。ソバージュかけてる女のあだ名はみんな「イーグル（沢井）」だったはずですよ！（笑）。

——ダハハハハ！　で、柴田さんには「強くなりたい」っていう気持ちを感じるわけですよね？　中邑さんにもそういう欲求はもちろんあるんですよね？

中邑　それはもちろん、ありますよ。強くなりたいっていうより、試してみたいってのがありますよね。プロレスを一つの競技として考えるときに……、いや、「試す」というのは違うかなあ。舞台は違えど、闘うという基本姿勢は変わらないと思うんでね、「いいじゃん、やったって」とは思いますけど。

——こないだの『週プロ』に総合再チャレンジの話が出てましたけど、その思いを封印されてきたのは、新日本プロレスという会社が不安定だったことも影響ありますか？　なかなか個人的なことを主張できない状態だったところはあるじゃないですか。

中邑　まあ、なかなか言えるわけがなかったですよね。

——〝試す〟だけために新日本を抜け出すことはせず、新日本にいながら、できればどっちもやっていきたいということですか？

中邑　そうですね。そういうヤツが一人ぐらいいてもいいじゃないとは思いますよ。

——でも、いまの時代には、それはかなり誤解されやすいと思うんですけどね。

中邑　大変なことですけどね。ボクからしたら、お笑いとシリアスを両方やるよりかはラクだと思います（笑）。競技性が違うんで、対応だったり、トレーニングの併用だったりというのはもの凄く難しいですけど。かつ、結果も求められてくるでしょうし。

——欲を言えば、総合をやる場合は総合だけに専念したくないですか？

中邑　それがみんななからズルいと思われてたから、非難を受けてたんですよ！

——なるほど（笑）。

興行失敗の八つ当たり!?　アントンから理不尽な鉄拳制裁を受けたこともある。とにかくあの時代は狂っていたとしか思えない。

中邑　「いいよ、だったら！」と思いましたもん。総合をやる前の何ヵ月かいなくなって、トレーニングに没頭して、試合をして。で、帰ってきたらそういう感じでしたからねぇ……。ファンからしてもそうでしょうし、プロレスをやってる人間からしても「おい、オマエ！」と思っちゃうでしょうね。とくに自分なんかはその当時、一番下でしたから。同期のヤツからも……、そこはもの凄く申し訳ないと思ってましたけど、勝たなきゃいけないから。そういうジレンマはありましたよ。

——菅林社長に中邑さんの総合話を振ったら、「ちょっとだけ見てみたい気持ちがある」って言われてました。

中邑　ハハハハ！　じゃあ、そこをどうクリアするかですよね。

——そこも闘いですか？

中邑　必要なのか必要じゃないのかわかりませんが、そこも闘いの一つです。

——でも、会社を辞めたほうが簡単は簡単ですよね。

中邑　ボクは辞めたくないですね。なぜならプロレスもやりたいから！　で、総合もやりたい。いまの時代、二つをやることはスゲェ難しいですけどね。プロレスをやってると予期せぬケガとかがありますから。ここ最近、総合の練習をやっと始めましたけど、じつは2年間ぐらい肩のケガでベンチプレスもままならなかったんですよね。

——そんなケガもあって主張ができなかった、と。

中邑　だから、ね……、「やめとけよ」というアドバイスもわかるんですけど、そういうふうに育っちゃったからしょうがねえよ、と。

——90年代のなんでもありの時代を見てきた人間からすると。

中邑　そういうふうに育って、レスラーとしてそういうものを宿命づけられてスタートと切ったから。……もう、充分わかってますもん。総合のレベルが上がってて、「中邑なんか」って言われることもそうですし、4年前だって自分なんかトップの選手でもなんでもなかったし。でも、総合においても一生懸命になったりすることが自分にできるプロレスの〝表現〟かなっていうとこですね。

——プロレスにおける飛び級の道具としての考えはあるんですか？

中邑　そんなことは思ってないですよね。総合で勝ったところで、そんなに還ってくるものはないっすよ。プロレスラーが出るだけで話題にはなんないっす。

——簡単には広がらないでしょうね。

中邑　だから逆に、いま総合の選手がプロレスをやりたいって言っても、なかなか入ってこれない世界ですし、逆もそうじゃないですか。プロレスラーが総合に出たいっていっても、なかなか厳しい世界ですよ。5、6年前はその区別も曖昧でしたから、どっちも行き来できたかもしれないですね。ジョシュみたいに飛び抜けてる何かを持ってる人間なら別でしょうけど。まあ、日本人ではあまりいなかったですよね。「だからこそ」ってのもありますけどね。

——そこにロマンを感じるからこそ柴田さんなんかは支持を得られていると思うんですけど。

中邑　なんていうのかな……。これはオフレコでお願いします。たとえば、○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○もプロレスとしての評価は受けるわけじゃないですか。

——ですね。

中邑　そういう価値観はどうなんですか？　どう思います？

―ボクはあれもプロレスだと思います。間違いなく。

中邑　……っていうことなんですよね。だったら逆に俺の主張も何も恥ずかしくないし。プロレスでしょ。

―おもしろいこと言いますねえ。これがオフレコっていうのは、他団体に関する発言がダメだってことですか？

中邑　いや、ちょっと人の悪口は言いたくないんで。

―悪口ですかね？　もの凄く褒め言葉だと思いますけど（笑）。

中邑　悪口に聞こえる場合もあるんです!!（笑）。

―じゃあ、いまの発言を解釈して載せられるように言うと、たとえば中西さんがハゲズラを被って武藤さんに挑戦表明したりするのと、中邑さんが総合に出たいっていうのは、極端なことを言うと〝表現〟としては同じですよね。

中邑　同じだと思いますよ。だって、あのとき中西さんには全然、笑いなんかなかったですよ。真剣でした。あの中西さんにはまったくもって笑いなんかなかったと思うんですよ。

―踊ったり、歌ったり、2・9プロレスやったり、演劇をやったり、デスマッチやったり、Uスタイルやったり……それらとおなじように、中邑さんの総合も同じ〝表現〟ということですね。

中邑　まあ、それは都合よく考えてもらっていいですよ（笑）。プロレスを観るなかで、どれだけ自分で差し出すというか、許容範囲を広げるかっていうのはあるじゃないですか。

―でも、エンターテインメント方面のプロレスにはだいぶファンも理解してきてるというか、馴染んできてますけど、まだ総合に関してはトラウマになってるところが強いような気がしますね。けっこうヒドイ目に遭ってるから。

中邑　まあ、ボクもプロレスラーが負けるのが嫌でしたけど、それほどでもないですね。なぜならば、どっちも好きだったから！（ひと際大声で）。

―なるほど（笑）。でも、プロレスファンからすればそうじゃなくて……。

中邑　（さえぎって再び大声で）知ってますよ！　そこはボクの個人的な意見ですもん。ねッ？　まあ、そんな、ねえ、いま新日本のファンの人もいろいろ変わってきてますもんね。

―いまの新日本のファンって、総合格闘技でレスラーに強さを発揮してほしいと思ってるんですか？

中邑　そういうふうには思ってないんじゃないですか。だから、求められてないと思いますよ。ボクが総合をやるってことにしたって。

―自分で言いますか（笑）。

中邑　いやいや、そういう空気もあると思います。「べつにやんなくていいじゃん」って言われますし。さっそく「やる必要ねえよ！」って（タイガー）服部さんに言われましたし。「オメエ、そんなことしてるとホントにプロレスがわかんなくなるぞ」って。そう言われると……、また迷うなあとかって思いましたけどねぇ。

―そうやって考えるのもプロレスですねぇ。こないだの天山さんと飯塚さんのランバージャックデスマッチってご覧になられました？

中邑　凄かったですねぇ。（声を裏返して）「カッコイイ!!　小島!!」と思いましたよ。

―泣いてるお客さんもいたんですよ。

中邑　わかりますよ。プロレスはね、べつに涙を誘うわけじゃないですけど、やっぱり熱くて感動のあるものだと思ってますし。

―中邑さんはどうやって泣かせたいですか？

中邑　泣かしたい……、いやいや、ボクの試合で泣いてくれた人もいるかもしれないじゃないですか。失礼だなあ。

―いやいや、これからの話ですよ（笑）。天山さんもこの物語で「泣かしてやろう」とは思ってなかったと思うんですよね。さっき中邑さんがご自分で言われたように、総合格闘技を望まれているわけじゃないって状況なわけじゃないですか。それを跳ね返して勝つことが、もしかしたら涙を誘うのかもしれないですけど。

中邑　……かもしれないですよ。うん。いまではそんなことないですけど、昔は自分はなんか、はみ出し者意識がありましたからね。同期からもなんか違う目で見られるし、上の人からはプロレスラー扱いされないし。まあ、レスラーやファンの中には、はみ出し者が好きだっていうヤツもいましたけど。なんか、ちょっと特異気質だったんで。そういう意識があったっす。「俺なんか、どうせ……」とは思ってないですけど、いま一人ぐらいいいかなあとは思いますね。

―プロレスが良い意味で〝なんでもあり〟になっている時代に、こんなヤツがいてもいいじゃないか、と。

中邑　いまでこそ、それがどんなに大変なことかっていうことは少なからずファンにもわかると思いますので。昔は同じものとして観てたから、負けると「あれ、なんで？」っていうショックがデカかったと思いますけどね。闘いっていうテーマは共通してても、競技としては全然違うものですから。まあ、でも、おもしろいんですもん、プロレスも格闘技も。そういう育ちだから、そういう運命なんです。

―長々としゃべりましたけど、答えはいたってシンプルですね。

中邑　あんまりね、深く考えないほうがいいですよ。やっぱりプロレスって。

【08年7月14日／新日本プロレス事務所にて収録】

Shinsuke Nakamura

なかむら・しんすけ■1980年2月24日、京都府出身。青山大学院時代はレスリング部のキャプテンを務める。02年に新日本プロレスに入団。同年、安田忠夫戦でデビュー。MMAデビュー戦は02年『猪木祭り』ダニエル・グレイシー。188cm、103kg。

G1 CLIMAX 2008
～HEROES OF SUPREMACY～

8月9日（土）　愛知・愛知県体育館　16:00
8月11日（月）　神奈川・横浜文化体育館　18:30
8月13日（水）　東京・後楽園ホール　18:30
8月14日（木）　大阪・大阪府立体育会館　18:00
8月15日（金）　大阪・大阪府立体育会館　18:00
8月16日（土）　東京・両国国技館　18:00
8月17日（日）　東京・両国国技館　15:00

お問い合わせ:新日本プロレス　TEL.03-6407-3111

Aブロック リーグ戦	棚橋	中西	井上	バーナード	真壁	小島	大谷	得点
棚橋弘至		8.13 後楽園	8.9 愛知	8.15 大阪	8.11 横浜	8.14 大阪	8.17 両国	
中西学			8.16 両国	8.14 大阪	8.15 大阪	8.11 横浜	8.9 愛知	
井上亘				8.17 両国	8.13 後楽園	8.15 大阪	8.11 横浜	
J・バーナード					8.16 両国	8.9 愛知	8.13 後楽園	
真壁刀義						8.17 両国	8.14 大阪	
小島聡							8.16 両国	
大谷晋二郎								

Bブロック リーグ戦	天山	永田	中邑	後藤	矢野	川田	吉江	得点
天山広吉		8.15 大阪	8.17 両国	8.13 後楽園	8.11 横浜	8.9 愛知	8.16 両国	
永田裕志			8.9 愛知	8.17 両国	8.14 大阪	8.16 両国	8.13 後楽園	
中邑真輔				8.15 大阪	8.13 後楽園	8.14 大阪	8.11 横浜	
後藤洋央紀					8.16 両国	8.11 横浜	8.14 大阪	
矢野通						8.15 大阪	8.9 愛知	
川田利明							8.17 両国	
吉江豊								

【G1 CLIMAX 2008 大会規定】
・優勝賞金1000万円
・公式戦はすべて30分1本勝負
・全ての勝ちを2点、負けを0点、引き分けを1点と計算する
・8/9 愛知（開幕）～8/17 両国（最終戦）まで公式リーグ戦を行ない、8/17両国大会にて各ブロックの上位1名が優勝決定戦（時間無制限1本勝負）を行なう
※同点の場合は直接対決における勝敗で勝者を決する

新日本プロレス社長
菅林直樹

六代目は
ザ★普通の人

新日本プロレスの六代目社長が本誌初登場!!
老舗団体が生まれ変わったワケを激語り……
とまではいきませんでしたが、淡々と語ってくれました!
歴代の社長と比べると地味かもしれないが、
そこには逆に安心感があったのです。では、どうぞ!!

聞き手/ジャン斉藤　撮影/平工幸雄

—新日本プロレスがおもしろい!! ……ということで、その躍進の秘訣を菅林社長におうかがいしに来ました。

菅林　フフ（苦笑い気味に）。

—なぜ、苦笑いなんですか（笑）。

菅林　いや、『Kamipro』さんとの関係も、まさかこうなるとは思わなかったからね。いっときウチが載ってない時期があったんですよね？

—昔は取材拒否されてましたから。

菅林　いったい何があったんですか？

—いや、そのときの当事者じゃないから、ボクもよくは知らないんです。

菅林　そうなんですか。でも、こういうかたちで取材される日が来るとは思いもしませんでしたね。

—それもこれも新日本プロレスがおもしろいからなんですが。まあ、なにしろドラゴン（藤波辰爾）に退職功労金を請求されるくらい好調というか（笑）。

菅林　……その件に関しては、訴訟案件ですのでコメントは差し控えます。

—了解しました（笑）。まずお聞きしたいのは、新日本って、以前と比べて何が決定的に変わったんでしょうか？

菅林　お話しすると、ボクが社長になったのは1年前のことなんですよ。まあまあ、大きく変わったのはユークスさんが新日本プロレスのオーナーになってからですよね。

—2年前にユークスが新日本を買収したのが大きな分岐点ですか。

菅林　たとえば、それまでは、選手の領域と社員の領域が明確に分かれていたんですよ。控室にも限られた人間しか入ってはいけない。最近は、そのハードルがだいぶ低くなったんですよね。だから、それは本当の意味での信頼関係が選手と社員のあいだで確立できてきたということです。

—それって、新日本プロレスを盛り返していく過程のなかで、自然とそうなっていったんですか？

菅林　そうだと思いますよ。以前と比べたら、やり方はいろいろ変わりました。マジメな話、よく長州さんに殴られなかったなあという気もしますし。昔だったら確実にやられてたと思うんですけど。

—ということは、選手サイドにも「いままでのやり方じゃダメだ！」という危機感があったということですよね。

菅林　あったと思いますね。ユークスさんに新日本プロレスを救済してもらったのに……、もう〝救済〟ですよ、ボクから言わせてもらえば。それなのに、ユークスさんに対して違う感情が抱く人が少数ですけど、いたんですよ。

ユークスさんの〝救済〟がなければ新日本は終わっていたんですよ

—ユークス体制だと都合の悪い人がいたんでしょうね。

菅林　そもそも、あの〝救済〟がなければ、新日本プロレスはもう終わっていたんですよ。なくなっていたんです。会社はいま37年目なんですけど、37年目にしてリセットボタンを押されたというように割りきったからこそ、いまの盛り上がりがあるんだと思いますね。

—本来なら終わってしまったものなのだから、どんなに厳しくても前へ進めるということですね。

菅林　まあ、言葉にするとそうでしょうね。

—ダハハハ！　いや、実際に舵を取られるのは大変。厳しいと思います（笑）。そもそも菅林さんがこうして社長に就かれるなんて想像できました？

Naoki Sugabayashi

菅林　まったくしてないです。よく大手企業の大人事で十何人抜きとかってあるじゃないですか。

—島耕作の世界じゃないですけど。

菅林　そうそう、いっとき「島耕作を抜いたな」とボクは思いましたよ、規模は違えど。それは別としてですね、予想だにしなかったですね。

—菅林社長はもともと営業畑の方なんですよね。

菅林　はい。ボクが入社したのは、新日本の業績が悪化していたときなんですよ。いまより悪いときです。長州さんがいなくて、UWF勢もいなくて、若松さん率いるマシン軍団が活躍してて。

—でも、そのあとに90年代の大ブームが来るわけですね。あのときって、あのPRIDEを超える勢いが新日本にありましたよね。いまの読者は信じられないかもしれませんが。

菅林　ええ。本当にチケットが売れだしたのは三銃士（橋本真也、武藤敬司、蝶野正洋）のときです。ボクは大阪の担当だったんですけど、大阪ってあまり業績がよくなかった。それでも、あの頃はホントに売れましたからねぇ。

—新日本プロレスの営業っていうと、猛者揃いっていうイメージがありますけど。

菅林　ああ、それは私が入る前の話です。これはあくまで聞いた話ですけど、派手な指輪をいくつもして、立派な時計をはめて、もちろん金のネックレスをぶらさげる。それでスーツの裏地には、鯉の刺繍が入ってたんですよ。

—確実にカタギの方じゃありません（笑）。菅林社長にそういう景気のいいエピソードはないんですか？

菅林　いや、私が入ったのはもうダメな時期でしたから。

—話は戻って三銃士のブームのときって、それがずっと続くものだと思ってたんですか？

菅林　いや、そうは思ってなかったです。ただ、仕事に追われる日々だったので、そんなことを考える余裕はなかったですね。なにしろ365日のうち東京にいたのは1ヵ月ぐらいでしたね。

—ずっと地方を営業で回られていたんですか。

菅林　担当は西日本でしたから、四国、中国、九州、沖縄と回りましたよ。種子島にも行きましたし。で、いまは世界遺産で有名ですけど、屋久島にも営業で行きました。

—そんな叩き上げの社員が社長になったのは、じつは菅林社長が初めてですよね。猪木さん、坂口さん、ドラゴン、草間さん、サイモンさんときて。

菅林　だから、何かの間違いだといまでも思っていますね。

—いやいや、普通の会社からすると、ごくあたりまえの人事だったりもするじゃないですか。

菅林　ああ、普通はですね。ただ、ボクが社長になる、ならないって騒がれていた時期に、ウチの営業部員のほうからは「やっぱりレスラーが社長じゃないとチケットは売れない」っていう意見が多々ありましたよ。まあ、ボクもそう思いました。

—つまり、レスラーじゃないと〝顔〟にならないということですね。

菅林　そうなんです。「蝶野さんがいいぞ！」ってボクは思いました。対外的なイメージを考えても、やはりそうあってほしいなって。なんとなく心の中でいまでも思ってます。

—でも、ボクは蝶野さんが社長だとリアリティに欠けると思うんですよ。もちろん蝶野さんはいろんなアイデアを持っていて、リアルに社長業をこなせると思うんですが。

菅林　まあ、蝶野さんのスタンスは反体制ですから。

—そう、黒く塗りつぶせ！な方ですから（笑）。

菅林　そこはイメージとして無理があるかもしれないですよね。確かに社長になって、それを貫き通すのもおもしろいですけどね。だから、来るべき日のためにちょっと財務体制を強化しときましょうということで。まあまあ、そういう

東京ドームの開催をやめたら そのまま新日本プロレスが 小さくなっていく気がしました

時期のそういう役割だと思って、ボクがやってると解釈してます。

――〝役割〟としての社長ですか。

菅林 そういうもんですよ。

――先ほどのレスラーが顔役をやるべきだという話からすると、演者としての役割も当然あるわけじゃないですか。社長というキャラクターが求められるというか。

菅林 でも……、いくら作ってもバレますからねえ。

――まあ、そうなんですよね(笑)。でも、いままでのプロレス・格闘技団体には〝社長〟という演者を演じることによって、その団体のイメージを打ち出していく作業ってあると思うんですよね。たとえばPRIDEの榊原さん、K－1の石井館長や谷川さんだって、一人の演者として立ち回っていたところはあるわけじゃないですか。

菅林 あぁ、そうですよねえ。

――そう考えると、菅林社長がその舞台に上がらないのは、逆説的に異形の人なんじゃないかなって思うんですけど。

菅林 というか、まずボクには無理だと思うんですよ。たとえば、ボクがリングに上がって蝶野さんと抗争するっていうのも無理ですからね。

――リングに絡めなくても、団体の方向性を先頭に立って打ち出すという作業も、社長の役割ですよね。

菅林 う～ん、そうだねぇ。ボクはずっと思うんですけど、サッカーでもプロ野球でも球団社長さんがいらっしゃるじゃないですか。そういう人たちって、表に出てこないですよね。だから、社長としての本来の役割をまっとうするだけでいいと思うんですよね。財務管理を徹底するとか。

――ああ、じつはあるべき姿なんですね(笑)。じゃあ、このインタビューも写真はなしのほうがいいのかなあ。

菅林 できたらやめてほしいですね。やっぱりね、知らない人から声をかけられるとビックリしますね。「誰?」って。

――それはプライベートをジャマされたくないだけでしょう(笑)。その〝社長業〟に関することなんですけど。ユークス体制になってから、選手契約の見直しが厳しくなったというお話をチラホラ耳にするんですが、そこは先ほどの話でいえば、一度なくなったも同じなんだから、割りきらなければならないという考えからなんですか?

菅林 そうですね。そうじゃないとやっていけないっていうところで出た数字を皆さんに提示したり、契約交渉したりしたので。余裕があれば改交の余地があるんですけど、状況としてはもうどうしようもないですよね。

――新日本プロレスという名前でやっているけども、もうかつての新日本プロレスのような状況ではないんだ、と。

菅林 そうですね。誤解しないほしいのは、新日本プロレスというリングだけは、会社がどうあろうとも凄く強いものだっていうふうに、強烈に思っていますね。会社がどんなに苦しくても、リング上が輝けば、それはもう会社の輝きにつながるんです。このリングさえあればこの会社は続くぞ、と。

――新日本プロレスって、一つの文化ですからね。

菅林 で、そこで活躍すべき人が登場すれば、もの凄い輝きを発するわけじゃないですか。たとえば棚橋選手が順当にいけばレスナー選手と闘った札幌大会も、いろいろあってレスナー選手が来ない。いったい、どうするんだっていうときに、もの凄い試合をするわけじゃないですか。あのときはファンが後押しをしたと思うんですよね。そうすると、会社のマイナス部分を選手が試合によって引っぱってくれるというか。だから、新日本プロレスがおもしろくなってきたのは、選手の力なんですよ。選手の力がボクは9割だと思います。

――それがいままでは、リング外のトラブルなどもあって、なかなか発揮できなかったのかもしれないですね。

菅林 そうなんです。だからこの何年かは、そういうトラブルでずいぶんと損をしましたよね……(しみじみと)。

――でも、いまの新日本は、たとえドラゴンの裁判の件があっても、リング上のおもしろさは損なわれないような気がしますね。昔はリング外で何かが起こると、それがおもしろくない空気に変換したと思うんですけど、いまはあまり気にならないですね。

菅林 そう感じていただけるとありがたいことですね。

――で、いまは好調とはいえ、規模としては後楽園ホールが主体ですけど、ホップ・ステップ・ジャンプのホップぐらいの感覚ではあるんですよね?

菅林 そうですね。ホントのことを言うと、後楽園ホールでIWGPのタイトル戦をしちゃいけないんですよ。皆さんもおわかりでしょうけど。本当は両国(国技館)クラスでやって満員にしなきゃいけないっていう。

――先日のランバージャックもものの凄く盛り上がりましたけど、本来ならば両国クラスでやりたいところですよね。

菅林 そうですね。でも、あれだけお客さんが泣いている姿っていうのは初めて見ました。普通は泣かないですよ、あそこまでは。

――それくらい天山さんに感情移入してて、小島さんの乱入にビックリしたってことですね。

菅林 営業部長なんか号泣してましたから。「プロレスは歴史ですよぉッ!」って言いながら泣いてました。

――あの興奮を両国で、そして東京ドームでできるのかが、これからの新日本に問われると思うんです。そういえば、今年もドームを開催しましたが、そこは意地もあったんですか?

菅林 意地、ありましたね。とくに去年の開催は、社内的にはほぼ反対でしたからね。

――その反対を押しきって、社長がドーム開催を決めた理由はなんだったんですか?

菅林 う～ん、やらなければ、そのまま新日本が小さくなっていく気がしたんですよ。だから無理に無理を重ねてやったんですけど。たぶん、あのときドームをやってなかったら、そのあとは両国もできてなかったでしょうね。

――いったん小さくしちゃうと、あとは小さくまとまるだけですよね。

初代社長、アントニオ猪木。「迷わず行けよ、行けばわかるさ!」なダイナミックな経営術で、新日本に天国と地獄の両極を見せつけた〝ひらめき〟型社長。社長の座を離れたあともその影響力は甚大だったが、最終的にはユークスに持ち株を売却、完全に身を引いた。

二代目社長、坂口征二。90年代新日本プロレス隆盛の立役者。貸したちり紙すらも取り立てるという伝説の持ち主で、猪木社長時代の借金をすべて返済したといわれる。他団体からも信用は厚く、全日本プロレスとの歴史的交流もその人柄がなせる業だった

三代目、藤波辰爾。就任の一報を聞いた長州が「これはへんな意味じゃないけど、笑いが止まらないんだよ」とコメントしたように、笑いが止まらないコンニャク社長ぶりを次々に披露。新日本失墜に一因ともなった。その詳細は8月20日の本誌No.126で大特集!

四代目、草間政一。〝経営のプロ〟としてアントンのラインから社長に就任するも最終的にはアントンから切られるかたちで辞任する。その後、本を出版し、新日本の苦しい内情をあきらかにした。出たがりであるが、『ハッスル』では大根ぶりを披露。

五代目社長、サイモン・ケリー猪木。アントニオ猪木の娘、猪木寛子の夫。社長時代は蝶野と黒い抗争を繰り広げたことも。新日本を離れたアントンを追うように社長を辞任。その会見を、なぜか銀座にある公園の公衆トイレの前で実施。この人も出たがりだが大根。

Naoki Sugabayashi

菅林　以前、猪木会長がおっしゃってたんですが、重要なのは風船を常に膨らませることだ、と。風船に息を吹き込んで膨らませておかないと、しぼんでしまう。そのとおりだという感じですね。ドームもまた然りで、苦しくても息を吹き込まなければいけないと思いますけどね。

——いまの身の丈に合った興行をしつつ、巨大な風船を膨らませていく、と。

菅林　そうですね。それが去年までかけてやった作業だと思うんですよ。今年はその風船をどこまで膨らませることができるかどうかが勝負だと思いますね。

——いまの新日本プロレスって、いい意味でほかの団体の要素を取り入れてかつ新日本プロレスの芯も損なわずにやってるなっていう感想なんですけども。社長はほかの団体のプロレスもご覧になってるんですか？

菅林　観ますよ。後楽園ホールである試合のときはできるかぎり行ってます。

——ホントですか。じゃあ、本当に気配を消してますね。

菅林　消してるというか、わかんないでしょうね、ボクのことは。

——昔と比べると、ファンもレスラーも関係者も、プロレスの捉え方がだいぶ変わってきてると思うんですけど。その一つの要因として、90年代のプロレスブームの最中に総合格闘技が芽生えていたんですが、プロレスにとって脅威になるという認識はありましたか？

菅林　最初は思わなかったですね。ボク自身も子どもの頃はキックボクシングとかテレビでよく観てたんで、好きは好きだったんですよ。で、空手ブームもありましたし。

——格闘技人気はよくある光景だ、と。プロレスの人気が低迷する一因になったのが総合格闘技だという声もありますけど。

菅林　う～ん、結果的にはどうですかねぇ。まあ、影響したとしても〝少し〟でしょうね。ボクは総合の大会も観に行ったりしてたんですけど、やはり努力をされてましたよね。リング外でも金銭的な費用をかけて素晴らしい舞台設営をしたりしてたじゃないですか。あとはテレビをうまく使ったり。で、おもしろいものをおもしろいうちに対戦カードも出してましたよね。ところがプロレス界はなかなかそれができない風潮にあった。そういう面でも頑なに自分たちの姿勢を守ったりして。

——最初の話でいうと、社員とレスラーのあいだに壁があったということでもあるんですかね。

菅林　そうですね。で、新日本プロレスも、総合の世界に打って出た時期があるじゃないですか。で、『ロマネックス』っていう大会でほぼ勝ちましたよね。中邑選手、藤田選手、ジョシュ、ブルーウルフ選手、あとは……。

——当時、猪木さんの配下だったLYOTOですね。いまとなっては信じられない話ですが（笑）。

すがばやし・なおき■1964年7月13日、北海道出身。新日本プロレス代表取締役。学生の頃、全日本プロレス宣伝カーの運転助手のバイトをきっかけに、プロレスの仕事に携わるようになる。卒業と同時に新日本プロレス入社。昨年、社長に就任。現在に至る。

菅林　あの勝利で、これでプロレスに落胆していた〝元プロレスファン〟も戻ってくるんじゃないかっていう淡い期待を抱いて、その日はもの凄く盛り上がったんですよ。ところが……まったく反映されなかったんですよね。それで、ちょっと違うんじゃないかという意見がずいぶん出て。

——プロレスとはベツモノなんじゃないか、と。

菅林　あとアルティメット・クラッシュという試みで、MMAを興行に取り入れたこともあったじゃないですか。で、やったみた結果、興行としてこれは収益的にちょっと難しいということで、そこで一線を引いたわけです。

——内と外でチャレンジした結果、還元できるものは少ないとわかったわけですね。

菅林　そういうことですね。新日本プロレスを盛り上げるためには、もっと別のやり方があるんじゃないか、と。

——逆に、エンターテインメント系のプロレスの影響はどうお考えですか？

菅林　ちょっと地方の反応は見きれてないんですけど、それを楽しみに行くお客さんが多いと思うんですよね。で、客層もまったく違うと思うし、確立されてきてるんじゃないですかね。

——ちょっと前の新日本だと「そういうのは違うんだ！」という姿勢があったんですけど、最近はいい意味で肩の力が抜けて、いつの間にか取り込んじゃってるなっていう気がするんですよ。

菅林　いや、昔だって五寸釘デスマッチとかあったじゃないですか。

——あと、猪木さんvs国際軍団の1対3マッチとかありましたもんね（笑）。若松さんとかもそういう感じでしたもんね。

菅林　そうですよ。もともと新日本プロレスでやってたものだから、べつにあらためてっていう気はしないんです。

——おそらくプロレスへの取り組み方は変わっていないけど、空気や雰囲気が違うというか。

菅林　そう思いますね。ただ、おもしろいことに新日本のリングはたまに振り子が動くんですよね。あまり片方に振りすぎると反対に振れますから。

——反動がくる、と。

菅林　そのへんは読めないです。

——そういう意味では、最近、中邑（真輔）選手がまた総合格闘技に挑戦したい意向を示しましたけど、社長としてはどうなんでしょう。新日本がいい時期だからこそ、判断が難しいところだと思うんですけど。

菅林　う～ん……、社長としてはやらせたくないっていう気持ちがある反面、やって勝ってもらいたいっていう気持ちも、ちょっとはあるんです。〝ちょっと〟だけね。

——〝ちょっと〟ですか（笑）。じゃあ、基本的に会社としてはあまり後押しはできないと？

菅林　そうですね。ただ、〝ちょっと〟だけ残ってる気持ちの部分がありまして、そこは自分でも心配なところです。昔、ジャングル・ファイトっていうブラジルの大会があったんですけど、あのときリオデジャネイロの道場で彼一人だけ練習してる姿も見てますから。そういう姿を見ているから、〝ちょっと〟の気持ちがあるんです。

——やっぱり、新日本プロレスには選手が何かを背負って打って出る姿を求めますから。

菅林　……言葉にするとそうでしょうね。

——ダハハハ！　でも、他団体との攻防も醍醐味じゃないですか。ちょっと前は『ハッスル』の坂田（亘）さんから挑発がありましたけど。

菅林　でも、最近は言い返さないですもんね。言い返すと輪をかけて向かってくるじゃないですか。いまは土台をしっかり築く時期ですので、触らないのがいいですね。

——触らないのがいい（笑）。

菅林　そうですね。

——今年のG−1には、他団体から大物選手の参戦が相次いでますが、一時期は〝土下座外交〟と揶揄された時期と比べると、外交も順調ですね。

菅林　たぶん、昔はですね、「利用されるんじゃないか」とか、そういうイメージがあったと思うんですよ。「こんなところがあるから新日本は信用できない」とか。本質的な部分は変わらないんですけどね（ニヤリ）。

——変わりませんか（笑）。まあ、そこは会社対会社ですし。でも、今年のG−1は内容もそうですけど、〝興行〟としても問われてきますね。

菅林　そうですね。後楽園ホールの盛り上がりをどこまで持っていけるか。そういう勝負もありますから。期待してください。

——では、菅林社長の退職慰労金が出るぐらいの繁栄を期待してます！

菅林　フフフ（苦笑い気味に）。

【08年7月11日／新日本プロレス事務所にて収録】

藤波、新日本を訴える!!

ドラゴン裁判とは何か？

文／高崎計三

　7月15日、火曜日、午前9時。オレは東京地方裁判所八王子支部にいた。
　昨年の夏、携帯サイト『ｋａｍｉｐｒｏ Ｈａｎｄ』で始まったばかりの連載コラム「ｋａｍｉｐｒｏ事件簿」のために東京地裁に何度も通って以来、約1年ぶりの裁判所だ。あのときは『猪木祭り』訴訟の資料を調べて書き写すのが目的だったが、今回は初の裁判リアルタイム取材、いわゆる「傍聴」というヤツだ。
　裁判所のロビーで確認すると、お目当ての裁判は事件番号「平成20年（ワ）第１３３７号、原告＝藤波辰巳、被告＝（株）ユークス及び新日本プロレスリング（株）」、と記してある。ここの第３０４号法廷で午前10時から、この訴訟の第1回弁論が行なわれるのである。
　訴訟自体に関しては各メディアで報じられたので、目にした方も多いことだろう。藤波辰爾が新日本とユークスに対して、退職功労金約５０００万円の支払いを求めたもの。旗揚げから30年以上所属して、社長まで務めたドラゴンなら多額の退職金をもらっていても不思議はない。それが支払われていない!?　そりゃ確かに一大事だ！
　事の経緯はやや複雑だ。藤波が退団したのは06年6月だが、この頃に新日本ではもともと存在した「退職功労金規定」を廃止する動きがあった。この規定どおりなら５０００万円近くを受け取れるはずの藤波は、当時新日本プロレスの副社長だった菅林直樹氏（現在は社長）と協議。藤波に対しては功労金を支払うよう取締役会で提案され、全会一致で承認されている。
　だが、07年春になって、株主総会でこの支払いを認めない旨の決議がなされ、事態は再びひっくり返ってしまった。これを受けて藤波側が新日本と、同社の過半数の株を持つユークスを相手に損害賠償を求める訴訟を起こしたというわけだ。
　第1回弁論の舞台となった第３０４号法廷はそれほど広くない部屋で、正面に裁判長が座るイスが一段高く作られており、その下に書記官の席、そしてそれに向かい合うように証人台が置かれている。右側に被告、左側に原告が着く席があるが、今回はそれぞれ代理人の弁護士が各1名のみの出席だ。今回、ドラゴン本人が来ないことは事前にわかっていたので問題はないのだが。
　部屋も狭いだけに、傍聴席も16席のみ。これはほどなく全席埋まったが、オレを含めてマスコミ関係がほとんどで、ほかには同じ部屋で次に開かれる裁判を待っていた関係者もいた模様。オレもほかの傍聴人と同様、部屋が開けられると同時に入室したが、なにしろ初めての経験でちょっとドキドキ。傍聴だけでこれだから、自分が原告や被告だったりしたら緊張するんだろうなあ、などと思ったりして。
　被告側代理人、書記官、事務官、原告側代理人と着席したところで、おもむろに裁判長が登場。七三分けに眼鏡の50代前半といったところか？　柔和な印象ではあるが、いかにも法曹関係！という風貌だ。
　全員で起立、礼をしていよいよ開廷。まあ、今回は最初だし、経緯の確認ぐらいだよなあと思ってはいたんだが、裁判長が被告側に「争いますか？」と確認、原告側には「本件の不法行為は具体的にどのあたりですか？」と質問。ええっ、なんの説明もなくいきなりそこかよ！　しかも原告側は、「ユークスと新日本がじつは一体化しているという旨を、次回詳しく……」と答えるだけで、その後は次回までの日程調整をして、ものの10分ほどで終了！　あまりの短さに、裁判慣れしていないマスコミは（オレも含めて）あ然！　こんなもんだったんスか！
　しょうがないので……ということもないのだが、両弁護士を囲んでコメントを取る。まず被告側の五島洋弁護士は「初回なのでコメントは控えさせてください」と、囲まれること自体がちょっと迷惑そう。「ま、棄却を請求してます」と答えるのみで、サーッと帰ってしまった。
　対照的に、雄弁に語ってくれたのがドラゴン側の宮本智弁護士。「新日本の取締役会で決議されたことが、株主総会で否決されたのはほかの会社でもある例で、法的に問題ないというのが向こうの主張。だけど新日本の株式の過半数を持ってて、いわゆる親会社の立場にあるユークスは、新日本とは事実上、同体なわけでしょ。新日本の役員だってユークスから出向させているわけだし。だからユークスと新日本が共謀して、藤波さんの期待権と利益を積極的に侵害したという点について争っていく。新日本が厳しい財政事情にあることはわかるけど、苦しいなりの払い方はあるはずでしょ。藤波さんはあれだけの功績を残しているわけだから。それが人間として正しいあり方なんだよ」と、かなり熱く語ってくれた。
　藤波やドラディションの選手たちが新日本に参戦し始めたこのタイミングで、なぜいきなり訴訟を!?　誰もが抱いたこの疑問には、「去年、株主総会で否決されて、そこからいろいろ調査して準備していたらこの時期になったというだけですよ。これは藤波さんのプライベートな問題であって、団体のビジネスとは関係ない。藤波さんもそのへんは気にしてないですよ」と言う。でも、現に気にしている人は多くいるわけなんだが……。それに、ドラディションのスタッフも寝耳に水だったっていうし。うーん、このへんがドラゴンらしいというか……。宮本弁護士の見通しでは「1年以内で決着するんじゃない？」とのことだったが、我々の注目は法廷へのドラゴン・リングインはあるのか？　という点。まさか、「これは殺し合いじゃない！」ということでドラゴン・ストップなんてことには……。とりあえずこの訴訟、今後も見守りたい！

藤波やドラディションの選手たちが新日本に参戦し始めたこのタイミングで、なぜ訴訟を!?

アチャー！7.24スマックガール後楽園大会が延期に——。

ジョシカク危機一髪!?

ジョシカクはどこへ行く!? 16ページぶち抜き大特集

アチャー！ 7.24後楽園ホールで開催されるはずだったスマックガールが大会から約半月前に興行の延期を発表した。延期自体はこれまでのジョシカクシーンにおいても何度かあり、さほど驚くことではないが、現在の日本マット界で女子のみのMMAイベントはスマックだけということもあって、まさに"ジョシカク危機一髪"という状況なのだ。さまざまな人間が参入しては去っていったジョシカクはどうなってしまうのか？ ジョシカクを取り巻く異様な現象をクローズアップ！

大会撮影／丸山剛史

旗揚げ、延期、消滅は日常茶飯事!?

いつだって波瀾万丈！ジョシカク変遷史

ジョシカク、つまり女子総合格闘技が、未曾有の危機に直面している。これまで約7年半にわたってジョシカクの歴史を支える柱であり続けてきたスマックガールが、先行き不透明な状態にあるからだ。

スマックは今年2月大会から、4年に一度の『WORLD ReMix トーナメント』を開催中だったが、その決勝戦が行なわれるはずだった7・24後楽園大会が9月に延期。大会延期はこれまでにもあったことだが、昨年末に華々しく記者会見を開いて発表していたBSフジでの中継が2大会のみで終了した上、4月の準決勝のあとには（またぞろ）財政危機がささやかれていた。

さらに、わりとまめに更新されていた篠泰樹代表のブログが謎の沈黙に突入。そんな状況の中で7・24大会についての発表などが遅れたため、「いよいよか……!?」という空気が蔓延したのである。

最終的に大会の延期が正式リリースされたのは7月9日。チケットぴあではこれ以前に「この公演は中止となりました」とのアナウンスがなされていたが、団体側のリリースでは当初から予定に入っていた9月大会に延期される、とのことだった。

半月前の延期発表が早いのか遅いのか、はなんとも言えない。さらに歴史をひもとけば、スマックの延期（中止も含めて）はこれが初めてではない。それなのになぜ、冒頭に書いたように〝未曾有の危機〟と呼ばれるかと言えば、現在、ジョシカクのみのイベントがスマックだけだからである。

日本でジョシカクの歴史が始まっ

約10年の動向を2ページに凝縮！ジョシカク年表

（※基本的に女子のみの大会。プロレス興行での格闘技戦等はのぞく）

L−1（1995〜2000）

95年7月8日 駒沢▼（主なカード・以下同）神取忍 vs グンダレンコ・スベトラーナ
98年10月10日 両国▼神取忍 vs グンダレンコ・スベトラーナ
00年11月22日 代々木第二▼神取忍 vs 堀田祐美子

ReMix（2000〜2001）

00年12月5日 日本武道館▼マルース・クーネン vs 藪下めぐみ
01年5月4日 代々木第二▼藪下めぐみ vs エリン・トーヒル
（01年12月に開催予定だったが消滅）

スマックガール（2000〜続行中）

00年12月17日 後楽園▼八木淳子 vs ラマラ・ルードゥ
01年5月24日 ATOM▼八木淳子 vs 森藤美樹
01年6月28日 ATOM▼八木淳子 vs 小河真子
01年7月26日 ATOM▼星野育蒔 vs 金子真理
01年8月23日 ATOM▼星野育蒔 vs 伊藤真子
01年9月27日 ATOM▼久保田有希 vs 張替美佳
（10月のATOM、11月の大阪は中止）
02年2月3日 ディファ有明▼ドレイク森松 vs 篠原光
02年3月2日 ディファ有明▼辻結花 vs 篠原光（※試合せずに終了）
02年4月7日 ディファ有明▼辻結花 vs 岡裕美
02年5月6日 ディファ有明▼金子真理 vs WINDY智美
02年6月1日 ディファ有明▼藪下めぐみ vs 彩丘亜紗子
02年7月6日 ディファ有明▼タッグトーナメント
02年8月4日 ディファ有明▼しなしさとこ vs 吉住絹代
02年9月1日 ディファ有明▼石原美和子 vs エリン・トーヒル
02年10月5日 ディファ有明▼辻結花 vs 高橋エリ
02年11月9日 ディファ有明▼WINDY智美 vs 金子真理
02年12月29日 TFM▼辻結花 vs 金子真理
03年3月1日 綾瀬▼初のアマチュア大会
03年3月3日 ヴェルファーレ▼久保田有希 vs マイラ・コンディ
03年4月2日 ヴェルファーレ▼辻結花 vs WINDY智美
03年5月1日 品川▼アマ大会
03年5月7日 ヴェルファーレ▼しなしさとこ vs カロリン・フブレクツ
03年6月4日 ヴェルファーレ▼WINDY智美 vs 真
03年7月6日 ヴェルファーレ▼しなしさとこ vs 瀧本美咲（2部興行）
03年7月20日 品川▼アマ大会
03年8月6日 ヴェルファーレ▼渡辺久江 vs カロリン・フブレクツ
03年10月12日 品川▼アマ大会
（10月予定が延期）
03年11月10日 ヴェルファーレ▼菊川夏子 vs 15
04年3月20日 大森▼おっさん vs 大室奈緒子
04年5月16日 大森▼菊川夏子 vs ロクサン・モダフェリ
04年6月19日 大阪▼近藤 vs サラ・ボイド
04年8月5日 後楽園▼辻結花 vs エリカ・モントーヤ
04年11月4日 後楽園▼近藤有希 vs アマンダ・ブキャナー
04年12月19日 静岡▼藪下めぐみ vs エリン・トーヒル（トーナメント決勝）
05年4月29日 北沢▼茂木康子 vs 深谷愛（2部興行）
05年4月30日 静岡▼近藤有希 vs マルース・クーネン
05年5月21日 韓国▼ジョン・ヨンシル vs 横瀬いつか
05年6月28日 後楽園▼辻結花 vs 渡辺久江
05年7月10日 大森▼舞 vs 渡邉浩財子
05年8月17日 代々木第二▼藪下めぐみ vs アメリカ人（トーナメント決勝）
05年10月15日 北沢▼彩丘亜紗子 vs 赤野仁美
05年11月29日 後楽園▼しなしさとこ vs 大室奈緒子
06年2月3日 北沢▼G-iと共催
06年2月15日 後楽園▼藪下めぐみ vs アマンダ・ブキャナー
06年4月22日 大阪▼辻結花 vs キャミー・ホステットラー
06年5月3日 キネマ倶楽部▼せり vs 小八ヶ代真紀
06年6月30日 後楽園▼辻結花 vs WINDY智美
06年7月23日 大森▼グラップリングトーナメント

たのは、事実上、00年末に日本武道館で開催されたReMixからだと言っても過言ではない。それ以前に行なわれたL—1は、女子プロレス団体LLPWの特別興行という色合いが強かった。ReMixも主催は篠氏が当時、代表を務めていたNEOだったが、そのフォーマットやマッチメイクなどはNEOのリング上とはまるっきり異なるものだった。

スマックガールはこのReMixの約2週間後、ひっそりと始まった。これを第0回大会として、半年後には渋谷のクラブATOMで「ReMixに出場する選手を育成する大会」との名目で正式発足。この当時は「渋谷系女子格闘技」というサブタイトルが付けられていた。この「渋谷系」が開催地のみを指すものでないことはあきらかで、そこにはいままでの格闘技と一線を画すイメージ付けをしようという意図が感じられた。

初期スマックで注目を集めたのは、柔道出身の星野育蒔という選手だった。小柄ながら気迫溢れる表情とおもいきりのよい闘いぶり、そして勝っても負けても弾けまくった試合後の様子などが人気の理由だったが、第2回ReMixでデビューした彼女はATOM期のスマックでどんどん存在感を発揮していく。ほかの出場選手には女子プロレスラー（現役組・復帰組含め）が多い中、そうでないところからトップに躍り出てきた珍しいタイプでもあった。

ジョシカクは〝都合のいい女〟で終わってしまうのか、それとも……!?

だがそんな彼女の存在が皮肉にも、その後、連綿と続く〝ジョシカク分裂の歴史〟の発端となってしまう。01年10月には彼女をエースに、木村浩一郎が中心となって新イベント・AXが発足したのだ。これは木村らがスマックでの選手の待遇面、安全面などに不満を抱き、より理想に近い闘いの場を、ということで発足したもの。まだまだ小規模だったスマックはこの分裂劇で大きなダメージを受け、大会中止、しばらくの活動休止を余儀なくされてしまう。

スマックが運営母体を一新、約半年で復活したのに対し、AXのほうは01年末には一時息切れ。再開はしたものの、結局5回目の大会を最後に消滅。星野は修斗のリングに登場したりもしたが、ついには日本総合のリングから姿を消してしまった。

以後、状況としては「スマックが苦労しつつ、ヨタヨタとながら完全に止まってしまうことはなく歩みを続ける中、いくつもの大会やプロモーションが現われては消える」という図式が続いていく。おもしろいことに、〝スマック以外〟のプロモーションは途切れることなく現われ続け、どれ一つとして長く継続しない。

この間、メディアでジョシカクが取り上げられたこともたびたびあった。その一つのトピックが、04年の『黄金筋肉』だろう。TBSの番組内で、賞金トーナメントが行なわれたのだ。この番組は、その後さまざまなかたちでジョシカクを牽引する渡辺久江が脚光を浴びるきっかけともなった。

この流れと並行して、それまで男子専門だった総合プロモーションがイベント内で女子の試合を組むという新しい潮流も生まれてきた。パンクラスは「パンクラス・アテナ」という新部門を開設、DEEPは厳選されたカードのみを提供し、2階級のタイトルも制定した。さらに一方では「ガールズショック」など立ち技系の動きもあり、ジョシカクの世界は多様化していく。

こうした流れの中で、とにもかくにも活動を継続してきたスマックガールの粘り強さというのは、このように振り返るとさらに際立って見えてくる。だがその反面、ビジネス面の弱さも相変わらずなのは確かで、今回もスポンサー会社の影響でいきなり危機に立たされている。ということはこの歴史の中で、ジョシカクを商業ベースに乗せた人物はいまだに現われていない、ということである。それどころか、一山当てたいという山師的な人物がいつまで経ってもあとを絶たない。〝あそこにはまだ入り込むスキがある〟……なぜか、ジョシカクはそう思わせてしまうものらしい。近年はさすがに、そんな人物すら寄りつかなくなってきているが。

過去の例から外部からの参入も途絶え気味になったことで、ここ最近は本当に〝ジョシカク＝スマック〟という状況が続いていた。その中で、そのスマックが危機を迎えてしまったことが、イコール〝ジョシカクの危機〟となってしまったことの要因だ。

もう一つ、ジョシカクならではとしか言いようのない現象もある。それはネットとのつながりだ。〝ネット論客〟というような人物が熱心に応援し、やがて運営側に入ったことで、周辺のネット住人が積極的に応援してきた、という事実がある。そしてこれも、いまは親玉が離れてしまったためか、多くが手の平を返すという事態を生んでいる。ここにもやはり、男子に比較して〝入り込みやすい〟というイメージの影響を感じる。いわばジョシカクは多くの人にとって、〝都合のいい女〟なのである。

かつて多くの人が試みたように、アイドルなど芸能界からの参入があれば話題にはなる。あるいは小規模の会場でコツコツと大会を打ち続けていれば、選手層は拡大でき、競技としての充実は図れる。そこまではたどり着いてきた歴史があるのだが、ジョシカクはかつて一度も、〝その先〟を見ていない。〝その先〟の光景なんて本当は存在なんかしていないのか？　これだけ各ジャンルで女性たちが自立して輝かしい活躍を遂げている時代に？　ジョシカクそのものが、〝都合のいい女〟で終わってしまうのか、それとも〝自立した女〟としてしっかり歩み出すのか。じつはいまは、そんな重大な岐路なのである。

そして果たして、今回の特集に登場する人物たちは、ジョシカクをどちらにしたいのだろうか？　（高崎計三）

ジョシカク危機!?一髪

06年9月15日 後楽園▼赤野仁美 vs モーリー・ヘイゼル・
06年10月21日 調布▼15 vs 兼谷絵里
06年11月29日 後楽園▼藤井めぐみ vs セリン・マーレイ
07年3月11日 新宿FACE▼しなしさとこ vs 瀧本美咲
07年4月28日 大阪▼辻結花 vs トリーシャ・ブーヴィ
07年5月19日 新宿FACE▼高橋洋子 vs アリシア・ミーナ
07年9月6日 後楽園▼辻結花 vs アンナ・ミッシェル・タバレス
07年9月24日 北沢▼グラップリングトーナメント
07年12月26日 後楽園▼辻結花 vs ハム・ソヒ
08年2月14日 後楽園▼藤井惠 vs シンディ・ヘイルス
08年4月25日 後楽園▼藤井惠 vs ハム・ソヒ
（7・24大会は延期）

AX（2001〜2002）

01年10月31日 北沢▼星野育蒔 vs 久保田有希
01年12月26日 六本木CCCホール▼星野育蒔 vs 辻結花
（2002年1月大会は中止に）
02年5月4日 後楽園▼辻結花 vs ジェット・イズミ
02年6月26日 後楽園▼久保田有希 vs アンジェラ・レスタッド
02年7月26日 後楽園▼星野育蒔 vs WINDY智美

アルカディア（2002）

02年3月29日 長野▼石原美和子 vs 彩丘亜紗子

女子格闘技Gals（2003）

03年5月22日 北沢▼吉住絹代 vs 片桐美紀
03年8月30日 北沢▼たま☆ちゃん vs 篠原光

LOVE IMPACT（2004）

04年2月8日 ディファ▼しなしさとこ vs 永易加代
04年6月6日 お台場▼瀧本美咲 vs 松川敬子
04年8月29日 新木場▼しなしさとこ&柴田早千予 vs 亜利弥&川畑千秋

CROSS SECTION（2004）

04年4月18日 お台場▼WINDY智美 vs 吉田正子
04年9月4日 TFM▼大室奈緒子 vs 吉田正子
04年12月12日 TFM▼真武和恵 vs 奥田初代

TBS黄金筋肉（2004）

04年5月7日 ディファ有明▼渡辺久江 vs 金子真理（トーナメント決勝）

G—SHOOTO（2004〜2006）

04年11月26日 Zepp▼ジェット・イズミ vs テビ・サイ
05年2月11日 新木場▼akinori vs 吉田正子
05年3月12日 Zepp▼藤井惠 vs アンナ・ミッシェル・タバレス
05年5月11日 名古屋▼メインは男子。女子4試合。
05年7月12日 北沢▼吉田正子 vs 茂木康子
05年9月16日 北沢▼MIKU vs 井上明子
05年11月11日 新木場▼古舘由紀 vs 吉田正子
05年12月17日 新宿FACE▼藤井惠 vs チョン・ダーレ
06年2月24日 新木場▼永易加代 vs 井上明子
06年3月11日 新宿FACE▼マルース・クーネン vs 高橋洋子
06年6月11日 北沢▼吉田正子 vs 玉田育子
06年10月20日 キネマ倶楽部▼後半3試合は男子。女子は2試合。
06年11月19日 新木場▼後半3試合は男子。女子は4試合。
（07年1月以降は男女混合大会「BATTLE MIX TOKYO」に）

女子格闘技新潟復興祭（2005）

05年4月10日 新潟▼たま☆ちゃん vs HARI

W—FACE（2005）

05年7月29日 新宿FACE▼メインは女子プロレス。総合、ボクシング、キック、柔術など。

レッスルエキスポ（2006）

06年8月19日 お台場▼伊藤薫 vs 美花

K—グレイス（2007）

07年5月27日 ディファ有明▼マルース・クーネン vs ロクサン・モダフェリ（トーナメント決勝）

ジョシカクを作った男がネバー・ギブアップ宣言!!

体制を立て直して必ず復活させます！

スマックガール代表
篠 泰樹
YASUKI SHINO

7月9日、自身のブログにて7.24後楽園大会を9.21後楽園大会への延期を発表した篠泰樹スマックガール代表。これまでも何度か大会を延期しているスマックだが、今回の延期発表の裏で何が起こっているのか？　何度も電話をするも、なかなかコンタクトが取れなかった篠氏だったが、沖縄滞在中のところをキャッチ。その真相を直撃！

聞き手／阿修羅チョロ

——篠さん！　3週間近くずっと電話をしてたんですけど、いっこうにつかまらなくて心配しましたよ。

篠　すみません。いろいろとあって。

——今回はまず、そのいろいろの一端でもあると思われる7・24スマックガール後楽園大会の延期について聞かせていただければと思ってます。

篠　はい。よろしくお願いします。

——スマックはどうなるんだろうと心配しているファンもいると思うんですが、ぶっちゃけ大丈夫なんですか？

篠　心配をしてくれているファンに対しては本当に申し訳ありません！　としか言えないんですけど。

——噂レベルではけっこう早い段階から、そういう話が出てましたよね。

篠　去年まで話をさかのぼると、スマックは体制が変わったわけですよ。それはどういうことかというと、半分ぐらいの部分を、べつの組織の方々とパートナーシップを組んだんだと。会見もやりましたけど、そういう企業の方とパートナーを組んでやっていこうということになって、そこが主に資金調達であったり、メディアの窓口をしていたわけですよ。選手のマネージメントとかの話も含めて。

——そのタイミングでBSフジでのスマックガールの中継番組の放送も発表していましたよね。

篠　そうですね。それが今年の前半から先方の事業が芳しくなくなって、要は僕らに対しての資金の流れが厳しくなってきた、と。これがまず今回延期につながった一番の理由なんです。

——まあ、簡単に言うとスポンサーが離れてしまったということですね。

篠　そうなんです。テレビの件も結局は当初の予定とは違って、2回しか放送されなかったんですけど、そこは僕らというより、そこのパートナーシップの方々の部分の問題がいろいろあって、いったん止まるかたちになって。で、前回の大会（4・25後楽園大会）も僕的にはけっこう無理してやったかたちなんですよ。ギリギリのところまで支払いの話とか、いろいろ泥臭い話があって。ただ、僕の本心としては、これはもう10年近くそうなんですけども、女子格闘技で金儲けをしようっていうことではなくて、このジャンルが好きだから、なんとか盛り上げていきたいって気持ちでやってるんですよ。

——残念ながらジョシカクで儲けたって話は聞いたことがないですからね。

篠　聞かないですね（笑）。ただ、これまでスマックを観に来てくれた多くの人が感じてくれていると思うんですけど、可能性はある、と。僕もそう思ってやってますし。そういう将来性があるジャンルだと凄く思っているし、スマックガールが大きくなって儲けたときに初めて、そのお金で豪遊しちゃおうかなと思っていて。ただ、いまはそういう時期じゃないのは重々わかってるし、そのためにとにかく開催し続けることが大事なんだっていうのがあって、多少無理してでも興行を続けてきたんです。

——同じような状況はこれまでのスマックの歴史の中でもありましたよね？

篠　そうですね。過去、何度も逆境を乗り越えてきたっていう歴史はあるし、正直、継続する気力がなくなったこともありました。やっぱり、金銭面っていうのは別として、気力が一番大事だと思うんですよ。そういう危機は何度もありましたし、それは別の団体みたいなのが出てきたとき

なんかとくにそうですけど。
――過去に何度かライバル団体が生まれては消えっていうのがジョシカクの歴史でもありますからね。
篠　僕らの本心としては、なんだかんだ言われてるけど、やっぱり自分たちの利得のためにやってるわけじゃないんで。利得はゼロだとは言わないですよ。将来は儲けられればいいなと思ってやってますけど、一番の目的はそこじゃないから。ジョシカクが好きだからやってるわけで。
――ジョシカクの歴史はそのまま篠さんの歴史でもありますからね。
篠　自分でもそう思ってやってきてるし、それは僕だけじゃなくて、周りにいる人間がみんなそういう気持ちでやってるんで。だから続けてこれたと思うんですよ。
――そういう気持ちはあるとはいえ、今回はギブアップせざるを得なかったというわけですか。
篠　ギブアップというか、いったん体制を立て直すための延期だと思ってます。まあ、知ってる人は知ってると思うんですけど、僕はいろんな事業をしていて、「そっちだけやってればいいじゃん」って言う人も多数いますし、実際それだけやっていればメシは食えるわけですよ。でもそうじゃなくて、ジョシカクっていうのは自分が背負ってやってきたものだから、なんとかしなきゃいけないって思いで今回もギリギリまで各方面と話をしてたんですけど……、最終的になんで延期したかっていうと、一つはやっぱり資金面の部分が大きかった。
――やっぱり、現実的に資金面が一番大きいんでしょうね。
篠　だからといって、べつに離れてしまったパートナーを悪く言うつもりじゃなくて、結果としていまは悪いかたちになってるけども、ジョシカクを応援しようと思ってくれてたことに対しては非常に感謝してるし、ただ残念だなって気持ちしかないんですよね。かといって僕らは「残念、はい終わり」ってわけにはいかないから、じゃあ次どうすればいいかっていうところでいろいろと動くしかないんだけど、その時間があまりにも今回はなくて、無理してお金借りてやったり、「ギャラは待ってください」ってやってもいいんだけど、ここは一つ、現状はこんなに厳しいんだっていうことを、膿を出すじゃないけど、隠さず話そうと思って。それでもやっぱり「スマックなんていらないじゃん」ってなれば、そういうことも考えなきゃいけないとは正直思ってますよ。
――スマックもいろいろとありながらも今年で8年目を迎えたわけですけど。
篠　丸7年やってきて、たとえばギャランティ一つとっても、渋谷とかでやってた頃と比べれば、正直言って0が一つ多いぐらいになってるんですよ。そこも含めて、じゃあ観客数が10倍になってるかっていうと、なってない。
――残念ながらなってないですよね。
篠　だから、一つ一つ見直さなきゃいけない点っていうのは出てくると思うんですよね。それはギャラだけじゃなくて、僕らがかける経費とかも最小限に押さえなきゃいけないだろうし、もしかしたら僕らがやってることは凄く間違ってるのかもしれない。そこを見直すタイミングとしては、いままでみたいに無理してやるよりは今回延期させてもらって、ホントに厳しい状況なんだっていうのを理解してもらうっていうのも必要かな、と。

実際ジョシカク以外のことだけやってれば メシは食えるわけです。でも……

――それは選手や関係者に対して？
篠　まあ、そうですよね。僕は逃げるつもりはないですし、むしろよくなってほしいと思っての判断で。まあ、過去もそうだったんですけど、本気になってジョシカクをやってくれるっていう人が現われるなら僕はいつでも譲りますぐらいの気持ちでいますから。ただ、残念ながらそんな人は出てこないわけで。
――過去にはそういう人は何人か現われていて、「スマックや篠がやれるんなら俺らがやったほうがうまくいく」ぐらいの感じで旗揚げしたイベントもいくつかありましたけど、実際にやってみて、これは難しいっていうことでやめてく人がほとんどでしたよね。
篠　簡単にできそうに見えるんでしょうね。なんでそう見えるかっていうと、僕なんかは力抜いてるところは抜いてるからだと思うんですけど、ずっと力を入れてたらすぐ倒れちゃいますから。
――篠さんが投げ出していたら、早い段階でジョシカクというジャンルはなくなっていた可能性もあるだろうし。
篠　そうでしょうね。
――篠さんは憧れている猪木さんのように、海外戦略だったり大きな仕掛けにこだわってやってきた部分もありますけど、いまのところそれが実を結んでいないところは正直あるじゃないですか。
篠　そうですね。ただそれは女子に限らず、全体的な景気が悪くなってるってことも関係してると思いますよ。とくに格闘技の興行って男子も含めて、この1〜2年で一気に落ちてるじゃないですか。
――確かにそうですね。
篠　だから一概に女子だけがっていうんじゃなくて、やっぱり全体的な地盤沈下があるのは事実だし、日本の格闘技界全体が厳しい状態なのは事実ですよね。だから何をやってもダメだってわけじゃなくて、残念ながら僕がフォーマットを見つけられていないだけであって。たとえばプロレスも不況って言われてる中でド

00年12月5日、当時、篠氏が代表を務めていた女子プロレス団体NEO主催というかたち日本武道館で開催されたReMix。約100kgの体重差のグンダレンコを下した藪下がブレイクしたこの大会は、桜庭あつこのデビューや新庄剛志がゲスト解説を行なうなど大きな話題に。ジョシカクがふたたび武道館に進出する日は来るのか？

ラゴンゲートさんとかは入ってるじゃないですか。それは一つのやり方があったわけですよね。

——やり方次第では、まだまだやりようはあると？

篠　同じように格闘技の世界でも抜け道とか生き残る方法があると思うんですよ。猪木さんじゃないけど、僕はその方法はインターナショナルの部分だと思って、ここ数年は海外戦略をやっていこうと動いていて。ただ、僕の歩みより地盤沈下のほうが早かったっていうのが現実で。

——なかなかうまくいきませんよね。

篠　そうなんですよ。で、ビジネス用語で言うと、ロングテールビジネスっていうのがあって、わかります？

——すみません、よくわかりません（笑）。

篠　インターネットで本を売っているAmazonとかがわかりやすい例だと思うんですけど、結局、Amazonって普通の本屋じゃ売れない本とかが売れるわけですよ。そういう意味で多品種少量販売で利益を上げていくという理論でビジネスが成り立っている、と。ジョシカクもけっこう似てるかなと思っていて。日本ではマスのコンテンツではなく、コアなマーケットかもしれないけど、ターゲットは日本だけじゃなく世界各国で10カ国、20カ国を相手にしていけば、じつはビジネスとして成り立つんじゃないかなってところが僕の頭にあって。

——ほぉ〜。猪木さんがもう何年も言っているブロードバンド構想に発想は近いかもしれませんね（笑）。

篠　近いですね。僕はもともとそっちの世界で仕事をしてきてるし、いまでもそういうビジネスをやってるんで。今回も長期間アメリカに行って向こうのメディア関係者たちと話をしてきたんですけど、ジョシカクの話をすると「おもしろいとは思う。でも現実的に提示できる金額はこんなもんだよ」みたいな話になるんです。でも可能性はゼロじゃないんですよ。それを一つ一つかたちにして、たとえば1カ国20万円で放映権を売るとして、50カ国に売ったら1000万なわけだから。そういうビジネスのやり方もありかなと思ってるんですよ。

——現実的に成功するかしないかは別として、発想としてはありですよね。

篠　それに凄く近いのがアニメとかマンガの文化で。今回も向こうのアニメフェスタとかにも行ってきたんですけど、日本のアニメとかマンガってマスじゃないけど、コアなマニアが増えてるわけですよ。ジョシカクも似てるじゃないですか。

しの・やすき■1968年7月2日、東京都出身。女子プロレス団体ネオ・レディースの代表を経て、00年にReMixを開催。その後、スマックガールを旗揚げ。携帯などのデジタルコンテンツをはじめ、さまざまなビジネスを手がけつつ、ジョシカクに情熱を注ぎ込む40歳。写真は篠氏も関わり話題を呼んだ『渋谷系女子プロレス』。

SHINO

格闘技のビジネススタイルを変えていかないと存続は困難だと思う

——確かにファン層は近いところがあるかもしれませんね。

篠　だからそういうかたちがジョシカクの向かうべき方向なんだろうなって思ってるんですけど。

——世界中のジョシカクマニアに向けて発信していく、と？

篠　可能性としてはね。あと、テレビ関連だけじゃなくて、いまiPhoneが凄いじゃないですか。モバイル向けのコンテンツの可能性っていうのも僕は何年も言い続けてるんですけど、ようやく時代が追いついてきた感じで。

——確かに何年も前からそういった話はよくされていましたよね。

篠　アメリカに行けばiPhone向けのコンテンツ配信とかをiTunesでやったりとかしてるんで、そういうのを使ってジョシカクを配信したりできるかなっていうことも考えていて。ただ、そういうのを作ったりとか調整していくってなると時間もお金もかかるんです。

——まあ、そうでしょうね。

篠　たとえばスポンサーに対しても「大会をやればチケットはこれだけ売れて必ず儲かります。そのためには会場費はこれだけかかるので、お金を貸してください」っていうんじゃなくて、「50カ国で放映する契約を取ってきました。ここに配信するからこれだけの収入があります」っていう感じで格闘技のビジネスのスタイルもたぶん変わっていくと思うんですよ。変わっていくっていうか変えていかないと存続が困難なんじゃないかなと思ってて。それが自分のやるべき道なのかなって考えていて。

——そういった構想は、これまでのマット界での成功例はあまり聞かないので、実際に成功するまでは批判の声も当然出てくると思うんですけど。

篠　そうでしょうね。まあ、批判は慣れてるんで、どうってことねえです！

——猪木イズムですね（笑）。

篠　でも、それぐらい思いきって改革していかないと、この業界でやっていくのは厳しいのも事実で。

——そういう意味で篠さんはハード面の改革にいろいろと着手されているみたい

02.9.1スマックガール・ディファ有明大会にはジョシカク好きのジョシュ・バーネットとボブ・サップが登場し、話題を呼んだ。ちなみにこのときの大会名はこの大会の4日前に行なわれた『Dynamite!』にあやかり『Dynamic!』と付けられた。

ジョシカク危機!?一髪

僕がいい意味でいい加減だったから、いまのジョシカクがあるんだと思う

ですが、ジョシカクのソフト面に関してはどう評価されています？

篠　ソフトに関しては僕はあんまり心配してないんですよ。女子総合格闘技の本質的なおもしろさっていうのは僕の中で自信を持ってる部分なんで。選手層であったり、レベルであったり、いろんな人にいろんなこと言われますけど、7年間観続けてくれてる人はわかると思うんですけど、ジョシカクも確実にレベルは上がってると思うし、選手たちも僕が初期に言ったことをだんだん理解してくれて、見せることとか含めてやり始めてくれているし。そこの部分は伝わってるのかなって思ってるんですよね。

——ただ、現状ではジョシカクで後楽園ホールを満員にするのは難しい状況っていうのもありますよね。

篠　いますぐ後楽園が満員にできるかっていったら無理ですよ。じゃあ単純に会場規模を小さくすればいいのかっていうと、ジャンルとして発展させるためには決してそうではないと思ってるんで。

——やっぱり背伸びしてでも最低限、後楽園レベルでやっていきたいっていう考えもあるわけですか？

篠　それはありますけどね。会場っていうのは、やっぱり頑張った選手たちの発表の場でもあるし、外の人たちに向けて発信する場でもあるわけだから。それにプロとアマチュアの差っていう部分は見せられないとダメだなっていうのがあるんで、可能なかぎり大きな会場でやりたいなっていうのは正直ありますよね、僕の中では。まあでも、そこも考え直さなきゃいけないのかな。

——まずは9月の再スタートに向けて、体制の立て直しが急務になりますよね。

篠　そうですね。みんなからは、よくいい加減だとか言われますけど、いい意味でいい加減なんですよ、僕の中では。だってそれがなかったら星野育蒔なんてデビューしてないし、桜庭あつこも試合してないだろうし。ナナチャンチンなんて出てくることすらなかったと思うし。

——競技的に考えたら桜庭あつ子もナナチャンチンも簡単には試合はさせられなかったでしょうし。

篠　いい意味でいい加減だったから、いまのジョシカクがあるんだと思っていて。なんでもかんでも競技思考に走ればいいかっていうと僕は決してそうじゃないと思うし。多少のいい加減さがないと、この世界でやっていけないですよ。マジメ一筋でやってたら、それこそ鬱になっちゃうかもしれない（笑）。

——実際なってる人もいますからねぇ。

篠　まあ、悪いときはしょうがないんですよ、何をやったって「悪い」って言われるんだから。だから、逆に言うと、ここまできたらよくするしかないし、よくするためにどうすればいいかってことをいまはいろいろと考えてる最中なんで。

YASUKI

——そのために世界各国を駆け巡っている、と。つい先日もアメリカでアニメフェスタに行ったり、ポーカー関連のビジネスの話もしてきたみたいですけど、篠さんの本業はなんなんだっていうのは前から凄い謎ですよね（笑）。

篠　いまのメインの仕事はマンガとかアニメとかのコンテンツ関連なんですけど、いまいる沖縄でもそれ以外の部分で水面下で動いてますから。

——いろいろと怪しい部分もありますけど、スマック再開に向けて頑張って水面下で暗躍してください！（笑）。

篠　ジョシカクのためにこれからも頑張っていきますよ！

【08年7月12日／電話取材にて収録】

ある種、伝説となっている03年大晦日の『猪木祭り』神戸大会ではプロデューサーとして名を連ねた篠氏。その力を発揮して(？)大会の最終試合ではスマックガール提供試合として辻結花vsカリオピ・ゲイツイドウの試合をマッチメイク。憧れのアントン興行に携わり猪木イズムを(勝手に)継承した篠氏が今後、進むべき道とは!?

篠代表とスマックの歩み

波瀾万丈

それまで女子プロレス団体・ネオレディースの代表を務めていた篠氏が、00年12月5日に日本武道館で開催したReMixという女子総合格闘技イベントを手がけたのが、そもそも篠氏とジョシカクの歴史のはじまりである。

桜庭あつこの格闘技デビュー戦を行なうなど世間的にも注目を集めたReMix。それから約2週間後の12月17日に女子プロレス出身の八木淳子をメインに後楽園で行なわれたのがスマックガール名義の第一回興行だ。01年4月には、初期スマックで定期的に興行を行なった渋谷のclub ATOMにて、「ReMixイベントSHINOKI祭り」なる大会を開催し、のちのジョシカクを代表する選手となる星野育蒔がナナチャンチン相手にデビュー戦を行なっている。

同年の5月には代々木第二体育館で第2回ReMixを開催すると、その後、スマックガールは前述の渋谷club ATOMにて、月イチペースでの興行を定期開催する。しかし、ATOM時代を代表する選手だった星野育蒔が、当時スマックのレフェリーも務めていた木村浩一郎が立ち上げた新団体AXに合流し、スマックから離脱。その影響もあって、01年9月大会でスマックのATOM興行はフィニッシュ。

その後、体制を立て直したスマックは02年2月からディファ有明で月イチで定期興行を開催。ディファ時代には総合ルールでは前代未聞となるバトルロイヤルや1vs3マッチを行なうなどプロレス畑出身の篠代表らしいマッチメイクも多数実現するも、スポンサー撤退などもあり02年11月大会でディファからは撤退。翌12月にTFMで2階級のトーナメント決勝戦を行なうも、その後しばらくは興行の見通しが立たず。

しかし、03年3月1日に初のアマチュア大会を開催したのち、篠氏がスマックの新たなスポンサーを獲得。3月3日から六本木のヴェルファーレで定期興行をスタートさせる。だが、これも長くは続かず、結局、11月大会を最後にヴェルファーレからは撤退。

ATOM、ディファ、ヴェルファーレと、それまで同一会場で月イチペースで興行を開催してきたスマックだが、04年からは後楽園を中心に、静岡、下北沢、大阪などでも興行を開催するようになる。

05年5月にはスマック初の海外興行となる韓国大会を開催。同年の8月にはスマックにとっては、ひさびさの大会場となる代々木第二大会を敢行するも、客入りは芳しくなく、何度目かの経営危機を迎える結果に。

何度も「もはや、これまでか」と思われてきたスマックだが、そのたびに篠氏が新たなスポンサーをゲットしたり、のちに代表にもなる長尾メモ8氏ら関係者のバックアップもあり、なんとか存続してきたスマック。今回の延期発表から篠氏はどう体制を立て直してみせるのか？　ジョシカク、やれんのか!?

狂信的なファンに支えられたスマックガールの舞台裏

「代表になる前はプチスポンサーでした」

前スマックガール代表

長尾メモ8

ながお・めも8■62年10月9日、東京都出身。(株)キルゴア代表取締役。ただのネット野郎から03年よりスマックのスタッフに。04年から主催者にまでなってしまい、あげくボロボロになり07年引退。「けれど、誰が登れと言った山じゃない。望んで登った山なのだ」（本人談）。メモ8ブログ http://d.hatena.ne.jp/memo8/

スマック代表の篠氏に続いて登場するのは、昨年までスマックの代表を務めていた長尾メモ8氏だ。このメモ8氏はいわゆるネット界では知る人ぞ知る存在で、旗揚げ当初からスマックを応援し、本人いわく"プチスポンサー"状態から、気がつけば団体の代表にまでなってしまった前代未聞の人物なのである。現在は業界から退いている長尾氏にとってのジョシカクとは!?

聞き手／阿修羅チョロ

――前スマックガール代表のメモ8さんですが、現在はジョシカクには関わってないんですよね？

メモ8 まったく関わりはないです。スマックを離れてからは格闘技の興行も行ってなかったしね。

――もしかして格闘技には、もう興味がなくなったとか？

メモ8 いや、単純に関係者に会って「どうしたの？」って言われるのがうざくて（笑）。ただ、スマックガールだけはずっと観てますよ。

――あ、そうなんですか。スマックとケンカ別れしたんじゃないかって噂も流れてたみたいですけど（笑）。

メモ8 よく言われるけどそれはない。いまは永久VIPだから（笑）。

――永久VIPでしたか（笑）。さっそくですが、今回のスマックの大会延期についてはどう思われました？

メモ8 そうなるだろうっていうのは4月大会の頃から見えてたよね。ただ、俺の体制のときは1回も延期してないぞ（笑）。

――あ、そうでしたっけ。そもそも、メモ8さんがスマックに関わるようになったきっかけはなんだったんですか？

メモ8 ファン時代からスマックはほとんど観戦してるんだけど、その頃からプチスポンサーだったわけ。

――プチスポンサーでしたか！

メモ8 まあ、そんなに金は出してないよ。選手に激励賞を出すぐらいで。プチプチスポンサーぐらいで（笑）。で、本格的に関わるようになったのは03年にスマックがヴェルファーレでやるようになってから。

――会場がそれまで使っていたディファ有明からヴェルファーレに変わったタイミングでしたか。

俺は格闘技界では史上初のスポンサー兼演出家だったんです（笑）

メモ8 02年の最後の大会は、もうちょっと前にやるはずだったのが延期になって12月にTFM（TOKYO FMホール）でやったんだけど、その前に勝井（雅夫・スマック広報）から「とりあえず12月はできるけど、その次はどうなるかわかんないので、アマチュア大会をやりたい」って相談を受けたんです。それで篠さんに「アマは俺と勝井でやるからまかせてください。金も一切迷惑をかけません。赤字になったら全部ケツは拭くから」って言って二人で始めたのが最初のアマ大会で。

――最初はアマ大会からでしたか。

メモ8 うん。その後、勝井も口がうまくて、「アマだけとか言わず本部席が一人足りないんで座ってください。ストップウォッチを持ってもらって、試合が始まるときと終わるときに押してもらって。で、決まり手を書けばいいんですよ」と。「それって公式記録員じゃない？」って言ったら「あ、そうかもしれません」って言いながらやり始めて。とにかく関わる条件として「試合が観れないのはイヤだ」って言ったわけ。

――さすが、ファン出身！（笑）。

メモ8 それからアマ大会やホームページやポスター、フライヤーとかも手がけるようになって。全部、俺の持ち出しだったけど（笑）。そのあとに「持ち出しでそういうことを全部やってあげるから演出をやらせて」って言って演出もやるようになってね。これは言っておきたいんだけど、要は史上初のスポンサー兼演出家だったわけですよ（笑）。

――あまり聞かない肩書きですね（笑）。確か、メモ8さんの本業はシステムエンジニアだったと思うんですけど、仕事に支障はきたさなかったんですか？ 金銭面とかも含めて。

メモ8 自分はフリーランサーだったんで時間の都合がついたんでね。で、これは書いてほしいんだけど。

――なんでしょうか？

メモ8 史上初のスポンサー兼演出家だった俺の立場が変わったきっかけがあって。それはスマックでギャラの延滞が一年分ぐらい残ってたわけですよ。02年ぐらいから03年の終わりぐらいの時期かな？ それで、

スマックガール代表となるまでは演出家として、煽り映像から選曲、ポスター、パンフレットなどを手がけてきた長尾氏。そんなメモ8氏が演出として煽りV以外は完璧だったと評価するイベントは『HERO'S』だって！

ジョシカク危機!?一髪

スマックは俺のこと。俺が抜けた時点でスマックは終わったんです

ある日、久保（豊喜・GCM代表）さんに呼び出されたんです（笑）。

——それは怖いですねぇ（笑）。

メモ8　「スタッフとか偉そうなこと言って、篠が払えねえならテメエが払え！」って言われて、「おもしれえじゃねえか、払ってやるよ」って言って「バーン！」って払ったわけ。

——エッ!?　叩きつけたんですか？

メモ8　実際は叩きつけたわけじゃなくて、後日振り込んだんだけど、「いいですよ、じゃあ払いますよ」って。

——なんだ、振り込みでしたか。

メモ8　悩んだけど、そこは俺と久保さんの男の張り合いだからさ。それで、払ったことで自動的にスマックのナンバー2になるわけ。金はもらうヤツより払っているヤツのほうが偉いから。そうこうするうちに03年の猪木祭りですよ。

——スマック的には辻（結花）ちゃんが出たんですよね。

メモ8　そうそう。でね、本当だったら篠さんにプロデューサー代がガポガポ入ってくる予定だったんです。その前の夏ぐらいにも吉田秀彦vsミルコ・クロコップがメインの大会の話があったじゃないですか？

——そんな話もありましたねぇ。結局その大会は幻に終わりましたが。

メモ8　あれにも関わっていて定期化すれば篠さんはプロデューサーとして谷川（貞治）さんみたいな立場になるつもりでいたの。ところが『猪木祭り』がああなったじゃない？

——暴動騒動が起きたあげく、裁判沙汰になりましたからね。

メモ8　それで、スマックもスポンサーに逃げられたりピンチになって、「どうしよう？」って考えて俺と勝井で始めたのが『スマック―F』なわけ。

——要は新人育成大会ですよね。

メモ8　そう。それまでも金は出していたけど、本戦は05年11月の後楽園からは俺の興行。のちに「キルゴア」っていう会社を作って自分が代表になるんだけど、その発表の1年以上前から、俺の興行だったから。

——〝俺の興行〟っていうのは、マッチメイクだけじゃないんですよね。

メモ8　もう全部！　よく俺の体制になってから地味になったとか言われたけど、スマックは後楽園でやったときに映像を使わなかったことは一度もないから。それがこの前の4月大会でついになくなったけど。

——お金はかかるでしょうけど興行としての完成度を考えたら……。

メモ8　俺がいたら意地でもやってた。それはお客さんにカードの意味を伝えるために絶対やんなきゃダメって思ってたし、だからこそ無料配布のパンフレットをずっと作り続けたしね。あれも俺のこだわり。

——そこまで情熱的に関わってきたメモ8さんがスマックから離れようと思った具体的なきっかけは？

メモ8　06年の暮れに「来年はどうしよう？」って話をして、07年に行なわれたハコを全部押さえたわけですよ。そのとき、勝井と橋本欽也っていうスタッフを呼んで、「来年でブレイクしなかったら12月が最終興行」って宣言してね。「だから来年は勝負賭けようぜ」って言って、俺は8月の後楽園で辻vsフジメグ（藤井恵）戦を実現させて、12月にスマックの最終回興行をするつもりだったの。

——辻vsフジメグ戦はいろいろあって流れてしまったみたいですけど。

メモ8　そうなんだよねぇ……（しみじみと）。それにスマックをやめるってことはジョシカクが終わるってことだから、GCMの久保さんに「俺、もうスマックやめますから、スマックじゃなくて、ジョシカクを引き取ってほしい」と言ったの。俺はとにかく久保さんにやらせたかったから。

——久保さんを信頼してた、と？

メモ8　任せるならこの人しかいないなって思ってて。で、篠さんにも言ったの。「邪魔しないでね。俺の権利でやめるから」って。そしたら、篠さんが慌てて必死になってスポンサー探しをもう一回やり始めたら、なぜか話がトントンと決まって。その話を耳にした久保さんから「なんだよ、また篠がやんのかよ」って電話がかかってきて「いや、俺は篠でも佐伯さんでも久保さんでも誰でもいいんですよ。ちゃんと引き取ってくれれば」って言ったら、「そうか」って言われたけどね。だから、篠さんに返したの。

——そんなにアッサリと辞める踏ん切りはついたんですか？

メモ8　「自分はもうキツいです。頑張って競技路線もきちんと作ったけど、実りませんでした。だから辞めます」じゃなくて、辞める1年ぐらい前から「あとは任せます」って言えるところまで持っていきたかった。それはジョシカクにこれだけ関わった責任感だよ。だからネットで書かれてるように俺は首になったわけではなく、むしろ逃げたんだよ、最後に。

——ジョシカクから逃げた男（笑）。

メモ8　心残りとしてはスマックの最終回をやりたかったけどね。あと、キッパリ引いた理由は二つあって、やっぱり社長やってた人間に「部長やれ」って言ったってやんないよね。

——それはできないでしょうね。

メモ8　もう一つは俺が完璧に引いたらどうなるかを、ちょっと意地悪心で見たかった。

——延期発表を聞いて、正直「ざまあみろ！」と思ったとか？（笑）。

メモ8　正直言っちゃえばそれもちょっとあるよね（笑）。まあ、書いてもいいけど。

——今後のジョシカクはどうなっていくと思います？

メモ8　一回プロがなくなったほうがいいんじゃないかな。そのぐらいしないとみんなわかってくれないよ。

——それはプロ意識とか、そういう部分ですか？

メモ8　そうそう。ただ、女子は試合に関するプロ意識は男子に比べて高いって言うか、好戦的だからね。

——あ～、それはわかりますね。

メモ8　コンテンツとしての可能性はあると思うし、俺はやることはちゃんとやったの！　やったのにダメなんだからダメなんだよ、きっと。俺以上にちゃんとできるヤツが出てくるかって言ったら出てこないよ。

——そこまでストレートに言い切れるのは逆に凄いなぁ。最後にメモ8さんにとってスマックとは？

メモ8　やっぱりね、スマックガールは俺だったんですよ。

——は……!?

メモ8　篠さんじゃなくて俺がスマックガールだよって思ってる。だから、俺が抜けた時点でスマックは終わったんですよ。

【08年7月14日／都内・某所にて収録】

06.2.4に有明コロシアムで旗揚げしたMARS。この大会でスマックガール公式戦として辻結花vs有賀美由紀戦が組まれたのは、当時のMARSに協力していたGCM久保代表と長尾氏の関係からだって！

証言②

女子も手がける DEEP代表が 語るジョシカク

さえき・しげる■カメラマンから編集&制作、広告代理店から飲食業まで幅広くてがける青年実業家として活動。その後、趣味が高じてマット界に関わるようになり、01年1月にDEEPを旗揚げ。06年にはDEEPジムをオープン。08年3月にはDREAMの広報に就任。

「ジョシカクはビジネスにならない。ただし…」

佐伯 繁

DEEPで女子の試合をマッチメイクするなど、ジョシカクとも深い繋がりを持つ佐伯代表。これまで興行絡みでさまざまな修羅場をくぐり抜けてきた佐伯さんが、"オレ流"ジョシカク復興論を激白!

聞き手／阿修羅チョロ　試合撮影／乾 晋也

――今回のスマックガール延期を踏まえて、これからのジョシカクの行方について佐伯さんに話を聞きたいと思います!

佐伯　う〜ん、ジョシカクは難しいよな〜……(しみじみと)。スマックは前からいろんな噂を聞いてたし、外から見ててもテレビ放映が打ち切りになったり客入りも含めて厳しいとは思ったよね。

――佐伯さんもDEEPでは女子の試合をマッチメイクしていますが、ジョシカク自体の可能性についてはどう考えてます?

佐伯　正直しんどいわ。時間をかけて再構築していかないと。いまはジョシカクだけで後楽園でやるのはまず無理!(キッパリ)。そう考えると、なかなか採算ベースに乗せるのはキツいわな。それにジョシカクの選手は自分でチケットを売る力がある選手も少ないし。

――しなしさんは別として(笑)。

佐伯　そうそう(笑)。正直いまはスポンサーとテレビが付かなかったら、後楽園より小さい新宿FACEを満員にするのも厳しいと思うよ。

――は〜、夢のない話ですけど、それが現状なんですね……。たとえば現状のジョシカクで一番話題性がある辻結花vs藤井恵戦なんてカードを組んだとしても、後楽園を満員にするのは難しいんでしょうね。

佐伯　そのカードは僕も見たいけど厳しいだろうね! 一般の人にまでは残念ながら届いてないから。だから、一般層を巻き込みたいならアイドル路線の選手も何人かは必要かも。でも、そうするとやっぱり強さを見せたい選手たちに角が立つから、団体側はそのへんを調整する能力が必要になってくるよなぁ。

――佐伯さんも最近よくマッチメイクしている美女対決みたいなテーマで引きつけるしかない、と。

佐伯　そうしないと新規開拓はできないでしょ。そこまで振り切れるかは団体の器量が問われる部分でさ。ウチも最初にジョシカクの試合を組んだときは男子選手から批判が多かったんだよ。なんで女子より試合順が前なんだとか。

――いまはそういう声は少なくなってきてるんですか?

佐伯　渡辺久江vsしなしさとこ(2006年8月4日・後楽園ホール)をセミで組んだときとかは文句は出なかったね。あの二人の緊張感を超える試合は男子でもそうはないし。

――あの試合はインパクトありましたからね!

佐伯　そういう説得力のあるものを主催者側や選手が提示できるかってことだよね。スマックさんは今回、外国人選手をたくさん呼んでトーナメントを開催したけど、はたしてそういうことをする時期なのかなって感じた。その予算があるなら次の大会の運営費に充てたほうがいいんじゃないのって思ったし。日本人対決でもいいから確実にジョシカクを定着させるほうにベクトル向けたほうがよかったんじゃないかな。

――ジョシカクっていろんなイベントが雨後の筍みたいに生まれては消えていきましたよね。

佐伯　イベントが成立しないのは一言で言い表わせばジョシカクの認知度が低いことが原因。とにかく儲かると思って参入しちゃダメだわな。客が入らなくても定期的に続けていくっていう感覚がないと。

――長期的展望を持ってやっていくという確固たるプランと体力がなければ無理なんですね。

佐伯　だからウチでいえば本戦以外のフューチャーファイトとかで、ジョシカクの試合を組んで場を与え続けていく作業が重要なわけでさ。

――ジョシカクでも強さだけじゃなくてキャラを含めた可能性のある選手も何人かは育ってきているとは思うんですけど、そのへんはどう思います?

佐伯　う〜ん、でも一つ言えるのはやはりブスは無理だな!(キッパリ)。

――ストレートなご意見ありがとうございます(笑)。

佐伯　あえて乱暴な言い方をするけど、それは答えとして出てるわ。

――やっぱり容姿は重要ですか?

佐伯　うん。そうじゃないと一般の人とかが応援したいと思わないでしょ。ジャンルとしてジョシカクを盛り上げるんであれば、ぶっちゃけ、女子の場合は見た目が男子に比べると重要になってくるよね。誰が見てもかわいくて強いという選手が出現しないと。そういう意味では渡辺久江はファッション性だったりテレビの露出を含めて可能性はあったと思うんだけどなぁ。

――つい先日引退を発表しちゃいましたからね。

佐伯　若い子たちへの影響を考えると、渡辺久江はいい素材だったなぁって思うんだけどね。

――なんだか話を聞いてると明るい未来が見えないジョシカクなんですが……ここは佐伯さんの出番なんじゃないですか⁉

佐伯　う〜ん、様子を見ながらだけど考えてることはあるよ。俺が立ち上がるしかないのかとは思ってる!

――おぉ、それは頼もしい! しなしさんなんかは、よく会見とかで「女子だけの大会をやってください」って佐伯さんにアピールしてますけど。

佐伯　まあまあ、あとはDEEPのスケジュールとにらめっこしながら状況を判断して。ある人にプロデューサーをお願いするかも。能力を考えたら適任だよ。

――そこまで具体的に考えてるんですね! 会場の規模としては?

佐伯　やっぱり新宿FACEだね、それが一番現実的だし。

――じつはここから一発当てるみたいな逆転ホームラン的な策があるんじゃないですか?

佐伯　そんなんあったらこっちが聞きたいわ!(苦笑)。ウチだってジョシカクをやるのは正直怖い部分もあるからな。まぁ状況は厳しいけど様子を見ながらやっていきますよ! 俺も興行でさんざん痛い目は見てきてるからさ(苦笑)。

【08年7月9日／都内・DEEP道場にて収録】

DEEP初代女子ライト級チャンピオン決定戦として、DEEP初となる女子タイトルがかけられた渡辺久江 vs しなしさとこ。試合前から舌戦を繰り広げた両者、最後は渡辺が右ストレートで衝撃の1ラウンドKO! 二人の女王が極上の格闘ドラマを演じた。

証言③

現役ファイター兼選手マネージャーが語るジョシカク

やぶした・めぐみ■1972年3月2日生まれ、北海道出身。福岡国際女子柔道選手権大会3位など実業団柔道で実績を残したのち、97年4月20日、坂井澄江戦でデビュー。総合格闘技でも、04年に『WORLD Remix 初代スマックガール無差別級王者決定1dayトーナメント』優勝など活躍。現在はフリーとして活動中。158cm、62kg。

「本気でやりたいんなら海外に行くしかないと思う」

藪下めぐみ

ジョシカク創生期から選手として活躍し、また指導者としてもジャンルの繁栄に力を注いできた藪下。ジョシカクの酸いも甘いも噛み分けてきた彼女が語る、これから女子格闘家が目指すべき道とは?

聞き手／阿修羅チョロ　試合撮影／乾 晋也

——いまなお現役でご活躍中の藪下選手に、今回のスマックガールの騒動を踏まえてジョシカクについて語ってもらいたいと思います!

藪下　私にとってはスマックの停止はいつものことって感じで(笑)。また復活するんじゃないですか?

——歴史を知っている人ならではの言葉ですね(笑)。ジョシカクって、「篠さんがやれるなら俺も」みたいな感じでいろんなイベントが誕生しては消滅の繰り返しでしたよね?

藪下　最近のスマックに関して言えば、かわいい選手を売り出したいのか、強さを見せたいのかよくわからなかったってのはありましたけど。

——藪下さんはジョシカクの創生期から関わりを持っているわけですが、篠さんについてはどう思います?

藪下　いい加減ってイメージ(笑)。

——ガハハハハ! 付き合いが長いだけに言葉に説得力がありますね。

藪下　延期したとしても、何か水面下でスマックを続けていくために動いているんだと思いますよ。いままでもその繰り返しだったし。

——正直、篠さんがいなかったら、ジョシカクってここまで続いてこなかったと思うんですよね。

藪下　私もそう思いますよ。それこそ日本武道館で大きなイベントを開催したのは凄いことですし。

——武道館で開催した00年のReMixには藪下さんも出場して、トーナメント準優勝という好成績で。

藪下　100万もらえましたからね(笑)。優勝した(マルース・)クーネンは1000万だったので、それは悔しかったですけど。

——やっぱり初期が一番規模として盛り上がってましたよね。選手人口も増えてきて、藪下選手はSOD女子格闘技道場(AVメーカーの『ソフト・オン・デマンド』が出資した格闘技道場)で、インストラクターとして後進の指導にも当たって。

藪下　03～06年くらいですかね。あのときはウチの道場でプロ選手を15人くらい抱えて充実してましたね。

——じゃあ会員数はかなりいたんじゃないですか?

藪下　それでも50人いるかいないかでしたけどね

——いまは道場は閉鎖したわけですが、ビジネスとして運営していくのは難しかったって感じですか?

藪下　やっぱり、家賃だったり人件費の問題もありましたからね。もっと家賃の安いところだったらやっていけたと思うんですけど。

——当時のSOD社長の高橋がなりさんはプロレスや女子格闘技に理解があったみたいですけど……。

藪下　道楽か税金対策じゃないですか?

——ガハハハハ! ビジネスとして乗り出したわけではなかったと。

藪下　3年で道場運営を黒字にしたら道場自体をあげると言われたんですけど、到底無理でしたね。がなりさんが社長を退かれてからはバックアップ体制も変わりましたし。SODさんにはお世話にはなりましたけど、もう関わりたくない(苦笑)。まあ、いい勉強にはなったかな。

——藪下選手は最近は選手以外にも、マネージャーとして海外の大会に選手を送りこんだりもしてますけど、海外で総合格闘技が盛んになってきてるという実感はありますか?

藪下　ありますよ。向こうは日本と違って女子でも食べていける人も徐々に出てきているし。プロ意識の低い日本人選手じゃたぶん通用しないんじゃないですかね。それに向こうは基本は金網でパウンドとヒジ打ちありなので、競技としての厳しさのケタも日本とは違うし。

——男子だと本腰入れて海外に拠点を移す選手もいますけど、女子だと難しそうですね。

藪下　海外でも通用するのはフジメグ(藤井恵)ぐらいじゃないですか? 日本人選手はちょっと勝っただけですぐに天狗になっちゃうし、勘違いしちゃうコは絶対にやってけないです。それに本当にジョシカクで名を残したいなら、日本に留まろうとする理由が私にはよくわからないですよ。ロシアなんかも最近凄いですし。

——ロシアだとどういった大会が?

藪下　ボードック系ですね。集客能力も高いし、日本人はやっぱりブーイングされるんですけど、それがまた凄い心地よくて(笑)。でもいい試合をすれば「ナイスファイト」とか声をかけてくれるし。あの臨場感、興奮は日本じゃ絶対味わえないんで。

——知らないうちにジョシカクは海外のほうが盛んになってきている?

藪下　そうですよ。海外だとトラブルもいろいろあるんですけど、そういうことも経験していかないと次のステップに進めないし、根性のある選手を若いうちからバンバン海外に出したら、レベルアップしていい選手になるんだろうなと思います。だから海外に行きたい人は私に声かけてくれればお手伝いしますよ!「こういう選手がいるよ」って紹介するのは簡単なことなんで。

——やる気のある選手がいればサポートする、と。

藪下　いまならアメリカだったらジョシカクは可能性ありますよ。女子だけの大会もあるし、勝てばもちろんギャラも上がるし、スポンサーもついてくるし。勝ったら勝っただけ自分のものになるわけですから。

——日本だけに目を向けてたら、置いていかれちゃうと。

藪下　日本のジョシカクはこういう状況ですけど、向こうにはチャンスが転がってますよ。国内だけにしか視野が向いてないことに、私は凄い疑問を感じますね。

——なるほど。藪下選手自身は?

藪下　使ってくれるんだったらどこでも出ます。体重だけは前もって伝えてくれないと落とせないですけど、それ以外だったら当日でもやりますよ(笑)。

——ベテランの域に達してもまだまだヤル気マンマンだ、と(笑)。これからの活躍も期待してます!

【08年7月15日／西日暮里・『ルノアール』にて収録】

藪下は今年開催されたスマックの『WORLD ReMix TOURNAMENT 2008』の無差別級に出場。一回戦で赤野仁美に敗れるもハイレベルな攻防を展開した。そしてこのトーナメントは7月大会で決勝戦が行なわれる予定だったのだが……。

一部マスコミ、関係者の異常なまでの猛プッシュの要因とは？

ジョシカク HENTAI座談会

ひさびさのジョシカク企画の最後を飾るのはジョシカク事情に詳しい4人によるHENTAI座談会だ。ジョシカクについてほとんど知識のないまま司会を務めた本誌・真下もビックリのジョシカクワールドの正体とは?

※編集部注:本家・変態座談会主宰のガンツからそっちの"ど変態"と一緒にするな！との要望があったため"HENTAI"としました。あしからず。

司会／真下義之　試合写真／丸山剛史

――今回、7月のスマックガール後楽園大会が9月に延期になったことが発表されたわけですが、これを機会にジョシカクを考えようということで、今日は事情通の皆さんに集まっていただきました！

丸山　でも延期って言っても、よくあることで「またか」ぐらいの感じだけどね。

――と言いつつ、ボクはジョシカク事情には全然疎いんで、まったく状況がわからないんですけど……延期ぐらいは毎度のことだ、と?

チョロ　まあ、そうですね（平然と）。

――そ、そうなんですか（笑）。じゃあ、まずは、皆さんの立ち位置から簡単に説明していただければと思うんですけど。

高崎　僕は95年のL-1の1回目から、いままでずっと観てるっていうのが知られざる自慢（笑）だったりもするんだけど、あんまり原稿というかたちにはなってないですね。

チョロ　高崎さんが活躍されていた『格通』ではジョシカク担当者が何人かいましたからね。

高崎　そうそう。だから、仕事にはなってないというか、原稿として書いた大会は限られてるんだけど、まあ観てはいます。あとジョシカク周辺の変態の人たちの姿はよく見てたんで、その話はしようと思います（笑）。

――皆さんを前に言いづらいんですが、噂によると、チョロさんを筆頭にジョシカクはマスコミや関係者に〝変態〟さんが多かったようで。

チョロ　そうそう……って、俺は変態じゃないよ！

橋本　僕も変態じゃないですよ……って自分で言うから怪しまれるんですけど（笑）。僕は2003年、『SRS・DX』と

いう雑誌の最末期、谷川（貞治）さんがK—1の仕事に専念して、実質ターザン山本編集長時代に、ターザンをだまくらかして女子格闘技のページを毎号5～6ページぐらい取って編集してましたね。

チョロ　その結果、ターザンプロデュースで『ジョシカク』なる本も出ましたし、だまくらかしがいがあったというか。

橋本　ジョシカクに興味がない人にも、「ターザンがハマってる」ってことで目を引くかなって思ったんですけどね。

丸山　僕はカメラマンとしてジョシカクを撮るようになったのはReMixの1回目から。L—1から観てはいたんですけど、撮影はそこからで、あとはほぼ全部観てると思います。

チョロ　ヘタな雑誌の記者なんかより全然観てますよね。女子選手がたくさん出たアブダビ・コンバットまで撮りに行ってましたし。

高崎　そういう人だったら何を書いてもメモ8氏からは文句言われないでしょうね（笑）。

チョロ　前スマック代表のメモ8さんは自身のブログで『kamipro Hand』での高崎さんのジョシカク原稿を見て、「あまり取材にも来てなかったオマエに書く資格はない」ぐらいのことを書かれていましたからね（笑）。

——ノアでいう仲田龍さん的と言うか……。「地方取材もちゃんと来てくださいね」って感じで（笑）。

ジョシカク危機!? 一髪

でも、なんで丸山さんは、そこまでジョシカクにのめり込んだんですか？

丸山　やっぱり、最初のReMixを撮影したときに、これはおもしろいなと思ったのがきっかけで。満員じゃなかったけど会場は武道館だったし、たしかスポンサーにサンクスかなんかも入ってましたよね。

僕は変態じゃないですよ……って自分で言うから怪しまれるんだけど（橋本）

チョロ　そうでしたね。桜庭あつこがデビューしたり、ゲスト解説にはエンセン井上や安生洋二と並んで新庄（剛志）までいましたからね。

——ふ～ん。その頃はビジネスになりそうなムードがあったわけですね。

橋本　ジョシカクってスポンサーを集めやすいと思いますよ。たとえば修斗とかキックボクシングの男子で、すっげえ強くておもしろい選手でイケメンがいるっていうよりは、女子でかわいくて強い選手がいるっていうほうが一般誌的なフックとしては強いですよね、きっと。

丸山　それは絶対ありますね。

橋本　やってる選手としては忸怩たるところがあるのかもしれないけど、「女の子なのに格闘技やってる」「かわいいのに強い」っていう部分も含めてジョシカクは話題性をアピールしやすいから、編集者も引っ掛かりやすい。ということは企画書になりやすいわけで、スポンサーも集まりやすい。そのスポンサーをキープできなかったのが問題なんですけど。

高崎　できてないよね。スポンサーがついても、収益には結びつかなくてまた揉めたり、離れちゃたりっていう繰り返しが、イコール、ジョシカクの歴史みたいになっちゃってますよね。そこの弱さはあると思う。

——ただ、初期段階で武道館という大きな箱でブチ上げても、それ以降は規模がドンドン縮小していったわけですよね？

橋本　そうですね。ReMixで武道館、代々木第二でやって、そのあとスマックガールとして渋谷のクラブATOMで再スタートするんだけど。ただATOM時代もおもしろかったですよね。キャパ的には300人も入らないようなところだったけど。

丸山　ATOM時代はおもしろかったですよね。異様な熱気もあって、試合もハズ

00年12月5日に日本武道館で開催された、これまでのジョシカク史上最大のイベントReMix。観衆は主催者発表で6500人と満員にはほど遠かったが、この日開催されたトーナメントの優勝者のマルース・クーネンは、なんと優勝賞金1000万をゲット！ 準優勝し、100万円を手にした藪下は賞金の一部を当時滞納していた光熱費の支払いにあてたんだとか。ん～、リミックス!?

ジョシカクHENTAI座談会出席者

あしゅら・ちょろ■渋谷club ATOM時代の初期スマックガールでは解説者として活躍。当時、実況をしていたタレントのあがりた亜紀さんのことが気になりネットで調べてみると現在は「揚田・あき」（あがりた どっと あきと読むらしい）として、タレントとともに女社長として幅広く活躍してると知って驚きました。

まるやま・たけし■アーティスト、時代劇、お笑い、イケメン、犬、広告など、幅広いジャンルで活躍するカメラマン。これまでのジョシカクの大会はほぼ完全網羅。『kamipro』でもおなじみのミヤマ仮面を『TOKYO1週間』と『お笑い1週間』の仕事で一週間に2度も撮影。動画で芸人と絡んでいるので探して見てみてください。

たかさき・けいぞう■（有）ソリタリオ代表。ジョシカク取材で印象深いのは04年8月のLOVE IMPACT。メインで最初から反則して出てきた選手にも呆れたが、それを原稿で批判したら「こんなの書いて●●さん（その選手の関係者）が何言ってきても知らないよ」と言った編集者に呆然。そんなんだからダメなんだっつーの！

はしもと・のりひろ■業界最重量級フリーライター。ジョシカクといえばDEEP大阪大会終了後、辻結花主催の打ち上げでチョロさんが速報作業を放り出して泥酔していた姿が忘れられない。原稿で盛り上げるより打ち上げで盛り上がる……。ジョシカク担当記者の"身内感覚"が極端なかたちで出たケースであった。

レがなかったし。

チョロ　そのＡＴＯＭ時代のエースとして活躍したのがマァ☆ティンこと星野育蒔という選手で。ジョシカクの最初のニュースターって感じでしたよね。

丸山　星野はデビューしてすぐにメイン級の活躍をしてたからね。

橋本　女子プロレスラーが総合に挑戦ってかたちじゃなく、女子総合格闘家として最初からスポットを浴びるってパターンは星野が最初くらいでしょ。それまでのスマックは、プロレスを辞めて戻ってきた子も多かったし。

チョロ　張替（美佳・現ＨＡＲＩ）とか千春とか、篠さんルートで元女子プロレスの選手は何人か出てましたから。まあでも、いろんな意味で星野はジョシカクの可能性というか、"明るい未来"を感じさせてくれたんだけどなぁ〜。

丸山　試合もマイクもキャラクターも完璧やったもんなぁ……（しみじみと）。

橋本　男子で言えば、ちょっとミノワマンっぽい感じだったよね。

04年5月7日ディファ有明で開催されたTBSの人気番組『黄金筋肉』主催の「女子総合格闘技最強女王決定トーナメント」。タレントの水野裕子の格闘技デビューやスーパーバイザーを須藤元気が務めるなど注目を集めたこのイベント。トーナメントは大会前から優勝宣言をしていた渡辺久江が予告どおり優勝し、賞金100万円をゲット。試合後、水野が渡辺に対戦表明するも実現はならず。

高崎　タイプ的にはそうだね。

橋本　実力以上の何かをやってくれるんじゃないかっていう狂った感じとか。まあ、実際に大学まで柔道をやってたベースもあるんだけどね。

丸山　柔道推薦で大学まで行ってたからね。ＡＴＯＭ時代に体重が3倍近くある鳥巣（朱美）にＫＯ勝ちした試合なんて凄いインパクトあったしね。

橋本　あの試合はおもしろかった！

チョロ　確かあのときはボクも解説席で観てて「鳥肌立った！」って言ってたはずですよ！

高崎　ＡＴＯＭ時代って会場が小さいのもあったけど、異様な熱気がありましたよね。

——ふ〜ん……（まったく知識がないため、興味なさげに）。

丸山　なんかノスタルジックになってるけど、最近のジョシカクも僕的には全然おもしろいと思うんですけどね。

橋本　最近の大会もおもしろいですよ。その頃と違ってレベルが上がってきたな、ジャンルとしてまとまってきたなっていう感じで。

高崎　だから、最近の大会は普通におもしろいって感じだよね。

——なるほど。ただ、ジョシカクってよく「レベルが低くて観てられない」なんて声も耳にするんですけど、そのへんはどうですか？

高崎　まあ、レベルが高いか低いかっていうと、俺は全体で平均すれば男子より低いのは事実だと思うけど。

橋本　トップとボトムのバラつきが非常にあるってことですね。

高崎　パックリわかれちゃってるよね。

ジョシカクの一番の問題は選手がチケットを売らないこと！（丸山）

だからならすとだいぶ低くなっちゃう。

——総合アベレージ的には低く見えちゃう、と。

橋本　でも、しなしとか辻（結花）とかフジメグ（藤井恵）みたいなのは、男子のトップファイターと比べても遜色ないようなことをやってると思うんですよ……ただ、下がね。

丸山　そこがおもしろいところでもあるんだけど。

——そんなジョシカクが低迷している原因ってなんなんでしょうね？

丸山　これはスマックだけじゃないけど、ジョシカクの大会が続かない原因は選手にもあると思う。何が一番の問題かってチケットを売らない！

——えっ！　ジョシカクの選手はチケットを売らない？

橋本　要するに後楽園規模の興行っていうのは、一般のぴあとかでチケットを買うファンだけじゃなくて、選手が応援団を連れて来るみたいなところで支えられてるって部分もありますから。これはプロレスでもボクシングでもそうだけど。

チョロ　ボクシングやキックの世界ではチケットでギャラを払うこともあるって言いますしね。

橋本　実際にそれもあるしね。

チョロ　しなしさとこはチケットを売るっていうのはよく耳にしますけど。

丸山　しなしだけですよ。彼女はホントにそういうところは偉い。あれだけチケットさばいて、買ってくれた人にはプレゼントとかもしたり、あそこまで営業できる女の子はジョシカクにはいてないもんね。

——チケットを売らないっていうのは、何か理由はあるんですかね？

丸山　プロの自覚がない！　選手の前で言ってもいいよ。「オマエら、チケット売ってこい！」って。

——ガハハハハ！　ぜひ言ってあげてください。

橋本　「試合のチャンスがない」とか、「あの選手とはやりたくない」とか言う前に、団体を存続させる努力を選手サイドもしなきゃダメだよってことですよね。

丸山　そういうこと。僕だってジョシカ

04年2月にディファ有明で、しなしさとこをエースに旗揚げしたLOVE IMPACT。残念ながら3大会で消滅してしまったが、代表は田代まさしの元マネージャーの柴田氏、リングアナは桑野信義、ラウンドガールは大向美智子が務めるなど、なんとも不思議なイベントだった。

ジョシカク危機!?一髪

クを一般誌とかに載せてほしいがためにいろいろと動いてるからね。

橋本　俺だってターザンだまくらかしてるし。それしかしてないけど（笑）。

丸山　イベント側が悪く言われがちだけど、スタッフは凄い頑張ってるよ。みんな身銭切ってやってたりするし、それが選手に伝わってないというか。だから責任は選手にもあると思う。

――でも、今回のスマックの延期っていうのは、やっぱり運営サイドの問題になるわけですよね。

高崎　今回は完璧にそうですね。

――よくは知りませんが、スマックでは篠さんに代わって、ネット界で有名なメモ8さんという方が団体の代表になってた時期もあった、と聞いてます。

高崎　去年の暮れにスマックの体制が変わる前まではメモ8氏が代表でしたから。

チョロ　メモ8さんだけじゃなく、スマックは初期の頃からネット系の人たちが、手弁当状態で手伝っていたっていうイメージが強いですね。

丸山　確かにスマックのスタッフはネット関係の人が多い。

チョロ　メモ8さんに話を聞くと、ほとんど持ち出しで、うん百万とかうん千万とかスマックにつぎ込んだみたいだし、よっぽどジョシカクが好きじゃなきゃ続けられないと思いますよ。

橋本　ジョシカクのスタッフは、イベントを主催する会社に就職したっていうんじゃなくて、ツテというか人と人のつながりで〝お手伝い〟から入っていく感じがする。そこはなんか特徴がありますよ、きっと。

――まさに〝ザ・有志〟って感じで。

橋本　そうそう。そのぶんほかのジャンルに比べて熱がある人が多いのかもしれないですよね。男子の総合の団体では「給料分以上のことは何もしません」ぐらいのスタンスの人もいますけど（笑）。

高崎　なんとなくわかる（笑）。

橋本　金のためじゃなく好きでやってるから熱が生まれるわけですよ。弊害もそこにあるんだろうけど。

――素人っぽさは悪いだけじゃない、と。あの〜、門外漢のボクが聞いていると、イメージ的には今年、ネットから人気が爆発したPerfumeみたいに、さほど売れてない時期にファンがガーッと乗って、CDを何枚も買ったり、自分たちでCDをかけまくるオフ会的なイベントをやったり、各地のライブを追っかけるのに近い〝熱さ〟や〝愛〟を感じるというか。

橋本　「俺たちが応援しなきゃ！」って感じですね。

チョロ　あ〜、その感覚はわかるなぁ。

橋本　俺はどっちかっていうと、映像でも演出でもチケットを売るんでも、プロの人たちがガンガン入ってきて、しっかりビジネスになるほうがいいに決まってると思ってて。それこそTBSでやった女子格闘技トーナメントなんて、こんなに素晴らしいことはないって思ったし。結局、あれは単発で終わっちゃったけど。

チョロ　単発で何人かの選手が取り上げられたりはしましたけど、地上波で、あのとき以上にジョシカクがクローズアップされたことはないですからね。

丸山　テレビの力もあって、あのときは水野裕子も試合をしたしね。あの大会もよかった。

橋本　さっきのPerfumeの話にも通じるかもしれないけど、テレビで取り上げられたり、メジャーになっていくにつれて「俺たちの手から離れてしまった」と感じる人も出てくる、みたいな。

――そのへんの構造は近いような気がしますね。

丸山　でも、日本がこういう状況だったら、選手も日本のイベントにこだわる必要はないんじゃない？　いまはエリートXCだってちゃんと女子の試合も組まれてるし、総合に関しては日本では扱いが低くなってるかもしれないけど、アメリカとかではむしろ上がってるからね。

チョロ　エリートXCでは美女ファイターのジーナ・カラーノを売り出してますからね。カラーノはKーグレイスという一度きりで消滅してしまった金網の大会に参戦選手として発表されたこともあったんですけどね。

丸山　結局流れちゃったけどね。でも、本気でジョシカクで食っていこうという選手がいるなら、男子と同じようにドンドン売り込んでアメリカで挑戦したほうがいいと思う。そっちのほうがメジャーになって帰ってこれるかもしれないし。

チョロ　実際、フジメグとか藪下とかは海外でも試合をしてますけど、そこまで考えている女子の選手ってどれぐらいいるんですかね？

高崎　あんまりいないような気がするなぁ。

ジョシカク最大のヒロイン

マァ☆ティンはいま!?

初期ジョシカクの最大のスター選手といえば、マァ☆ティンこと星野育蒔で間違いない。試合内容、マイクパフォーマンス、ルックスとどれをとっても抜群のインパクトを残すも、わずか2年ほどでマット界から姿を消してしまった星野。当時の活躍を知る者からは、いまでも星野の現役復帰を望む声が多いのも事実だが、残念ながらその可能性はない……らしい。残念。

そもそも、星野がプロのリングに登場したのは01年４月に渋谷club ATOMで行なわれたスマックガールの前身イベントとも言える「SHINOKI祭り」だった。柔道推薦で大学に通うため上京した星野だったが、わけあって中退。その後、篠代表と知り合い、あれよあれよという間にデビュー戦を迎える。デビュー戦の相手は、その後、はてしない連敗街道を突き進むことになるナナチャンチン。星野は当然のようにナナチャンチンに圧勝し、同年５月のReMixで桜庭あつこを下したロシアの柔道銀メダリスト、コバチノバ・タチアナ相手に打撃でKO勝ちし、一躍脚光を浴びる。その後は初期スマックのエース的存在として大活躍した星野は木村浩一郎が立ち上げたAXに電撃移籍。AXが活動休止すると闘いの場を修斗に移すも、数戦したのち、家庭の事情もあり、03年２月の修斗後楽園大会を最後に格闘家としての活動は休止し、事実上の引退を表明した星野。

一時は実家に戻っていたという星野だが、現在は都内にてOLをしているんだとか。今回、いまでも星野と付き合いのある関係者を通じ、インタビューを申し込んだところ、「いまは普通の人やから」と取材には応じてもらえなかったが、いつの日か大人になった星野の声が聞きたいぞ！

ジョシカク危機!?一髪

橋本　可能性として海外進出も全然ありだとは思うよ。ただ、現実的に日本でのジョシカクの状況を考えて何が問題かっていうと、マスコミも含めて関わってる人の熱と、現状にギャップがあるでしょ。

チョロ　専門誌とかの報道で、現実以上に大きく見せていたってことですか?

橋本　それもあるし、ダメなところを直すより「ダメなところもかわいい」って感じで見ている人が多いような。

高崎　運営サイドが、「スマックがやれるんならウチもやれるだろ」っていうのと一緒で、ジョシカクにはいろんなところに隙がある現状で。誰でも入ってきやすいというか。だから一部の記者とかの「ジョシカクの担当になったら選手と仲よくなれる」的な話があるわけじゃん。

——うわ～、それはまさに"変態"的ですね(笑)。

丸山　ホントそういう人多いですよ。リングサイドで試合を撮ってても、わけのわからんヤツが試合中にフラッシュ焚いて撮ったりしてて、それで試合中の選手が目をやられたときもあったからね。俺、スマックとかはリングサイド周りを仕切るのを頼まれてるんで、そういうヤツがいたら頭叩きにいったりしますけど。

チョロ　誌面とかには反映しないけど、ジョシカクの会場はやたらマスコミの数が多いっていうのは昔から言われてますよね。

橋本　ネットの有志が関われるっていうのも、言ってみれば隙間ですよね。そこはまあ主催者側としても助かった部分があるんだろうけど、マスコミにしても"プロ"と"好きだから来てるってだけの人"がゴチャマゼになってて。

高崎　でもしっかりしてるはずの媒体にもそういうのがいたぞ(笑)。

橋本　女子と仲よくなりたくて取材してるヤツって聞いて、思い浮かぶのは1人だけだけど。

チョロ　(キョロキョロして)エッ、俺じゃないですよね?

高崎　チョロさんじゃないですけど、会場で選手の頭を「よしよし」って撫でてる記者なんて一人しか見たことないもん。

橋本　バカじゃねえの!

高崎　いまは異動になっちゃったけど。

橋本　『SRS・DX』時代、担当で毎回のように会場に行ってる頃に思ったのは、スマックガールって試合後のインタビュースペースでのコメントの時間がすげえ長いんですよ。

——……なんとなく理由は想像つきますね。

橋本　それは一部の記者たちが、普段女の子としゃべれないぶんをそこで取り返してるんじゃないかっていう説があって。元祖・六本木ガールズバーみたいな(笑)。

丸山　へぇ～、バックステージはそんなことになってたんや。こっちは選手と仲よくしたいなんて、これっぽっちも思ってないしね。

高崎　あと、女子選手にコメントを取るときだけはなぜかいつも夜中に電話する記者もいたな。

橋本　深夜の雑談には真実がある的な(笑)。

——まるでターザンと夢香状態(笑)。ちなみに、数年前は『kamipro』は毎号のようにジョシカクのページを取っていたのが、ここ最近は扱わなくなったのはどうしてだと思います?

高崎　どうなんですか、ジョシカク担当のチョロさんとしては?

チョロ　う～ん……、忙しかったからかなぁ。

橋本　どんな理由だよ!(笑)。

——ウチの編集長いわく「『kamipro』にはジョシカクを"応援"する人はいたけど、企画として動く"編集者"がいなかった。"大好き"なのはわかるんだけど」と。どうですか、チョロさん?

チョロ　あ、そうかもしれない。

一同　ダハハハハハ!

——何年選手だ、コラ!(笑)。

丸山　まあでも、ジョシカクっていっても暗い話題ばかりじゃなくて、いま女子ボクシングはいい方向に行ってるからね。明るい未来が見えてるというか。

高崎　女子キックもJ-GIRLSが頑張ってるし。

——同じジョシカクでも違うんですねぇ。今後、女子総合はどこへ向かうべきなんでしょう?

高崎　『戦極』の中にポツンとフジメグの試合とかあったら観たいですけどね。

チョロ　それこそ『戦極』にはジョシカクが大好きなジョシュ・バーネットもいるわけですしね。

丸山　フジメグに限らず、女子のトップどころの選手だったら全然、食う可能性もありますよ。男子より素晴らしい選手もいっぱいいてるから。

——低迷状態だった女子プロもユニバ(ーサル・プロレス)にアジャ・コングが出たのがきっかけで、人気が一気に盛り返したこともありましたからね。

チョロ　そういう意味では何がきっかけになるかわかんないですよね。

橋本　いわゆる男子の世界にいる人の中で、女子に一番目配せができてるのは佐伯さんっていう状況はあると思うんだけど。DEEPでは女子のタイトルも制定してるし。

高崎　ライトとフライと、2階級あるからね。

橋本　そのタイトルに挑戦するような選手が出てくるためには、アマチュアとかデビューしたての選手が出られるような興行もないとダメなんですけどね。

——というわけで、ジョシカクを救うのは『戦極』になるのか、佐伯さんになるのか、それともスマックが華麗に復活をとげるのか、今後の展開を温かく見守っていきましょう!

【08年7月13日/『kamipro』編集部にて収録】

橋本氏の影響もあってか、一時期はジョシカクをプッシュしていたターザン山本!。03年7月には新紀元社から『ジョシカク～SMACKなカノジョたち～』なる本まで出版。ちなみに、この本の編集は、かつてのターザンの愛弟子の歌枕力氏が手がけていたりする。

『戦極』でフジメグとかジョシカクの試合があったら観たい(高崎)

7.19アフリクション発進!

アメリカMMA界に超地殻変動勃発!!

ダナ・ホワイトざまあみろ!!

『アフリクション』ビッグBURRRRN!!

ー級戦線の動いた!!

MMA界の番長連合『アフリクション』とは何か!?

新興MMAイベント、『アフリクション』。『アフリクション』は、世界のヘビー級ファイターのトップクラスがほとんど集結するという、全盛期のPRIDEですら成しえなかった前代未聞のマッチメイクを、初回のイベントで実現するという離れ業をやってのけた。しかし我々は、この新興団体について、どれだけのことを知っているのだろうか。本稿では『アフリクション』旗揚げに至る道程をあらためてたどってみたいと思う。

そもそも『アフリクション』は、骸骨や十字架、アジアンテイストなど、若者向けのエクストリームなデザインのTシャツを製作・販売してきたアパレルブランド。アフリクションはいわゆるファッションリーダーやセレブリティに自社製品を着せて宣伝するのではなく、副社長のトム・アテンシオやトッド・ビアードたちが大好きなヘビーメタルバンドやMMAファイターを積極的にスポンサードし、彼らにTシャツなどを供給するという独自の方法で展開。北米でのMMAブームの流れに乗っておおいに業績を伸ばし続けている。そのようにアパレルメーカーとして順調に成長しているアフリクションが、なぜMMA興行を立ち上げたのだろうか?

前述のとおり、アフリクションはファン目線で選手のスポンサードを行なっている。アフリクションには、試合会場で出場する選手なら見境なくTシャツやキャップを渡し、試合後に着てもらおうなどというセコい考えはない。自分たちが選んだ選手にこそアフリクションのTシャツはふさわしいと考え、厳選された選手のみをスポンサードしていくという方針によって、ランディ・クートゥアー、エメリヤーエンコ・ヒョードル、ジョシュ・バーネット、ジョルジュ・サンピエール、クイントン・"ランペイジ"・ジャクソンといった一流のファイターとのつながりを深くしてきたのだ。

そんな中、アフリクションは自社のCMの出演者として、金銭問題でUFCを離脱したばかりのクートゥアーとヒョードルをブッキング。お互いに対戦を熱望し、敬意を持っている二人はロサンゼルスでCMの撮影を行なったが、これにUFCが過敏に反応。CM撮影からわずか数日後に、UFCはすべての選手が会場内でアフリクションのTシャツを着用することを禁止したのだ(のちにエリートXCも同様にアフリクション製品の着用を禁止した)。

この強硬手段に対してアフリクション側は、新たなMMAプロモーションの立ち上げ計画を発動し始める。これは巨大化するMMA市場への参入という打算的な目的もあったと思われるが、UFCによる一方的な契約によって不利益を得ている「オレたちの選手」の受け皿となりたいという、非常に純粋な目的もあったと言われている。

いずれにしてもアフリクションは新たな団体を設立することを決意。そのパートナーに、同時期に新規にMMAプロモーションを設立しようと画策していたゴールデン

絶大なファースト・インパクト!!『アフ

世界ヘビー
山が動

ボーイ・プロモーションズ（ボクシング6階級制覇という偉業を成し遂げたオスカー・デ・ラ・ホーヤが代表）を迎え、新興ケーブルテレビ局のHDNet、さらにゴールデンボーイ・プロモーションズと関係の深いケーブルテレビ局の雄、HBOとの交渉を開始した。また日本の『やれんのか！』をサポートしながらも、初回大会を開催できないまま分裂したM－1グローバルからフリーエージェントとなっていたヒョードルも合流することにより、『アフリクション』への期待感はファンのあいだでこれ以上ないほど高まっていく。しかしここまで順調だった『アフリクション』は、ここから苦難の道のりが始まったのだ。

まずパートナーシップ締結から2ヵ月後にゴールデンボーイ・プロモーションズが『アフリクション』と決裂。これによりHBOとの交渉も流れてしまう。さらに5月にはHDNetとの交渉まで決裂し、HDNet経由で予約していた会場であるテキサス州ダラスのAAアリーナまで失なってしまう。これにより『アフリクション』の開催は暗礁に乗り上げたかたちとなり、多くのメディアは『アフリクション』の絶体絶命を伝えた。

だが『アフリクション』はここから不屈の闘志を持って復活する。まず会場としてカリフォルニア州アナハイムのホンダセンターを確保。さらに5月入るとヒョードルvsティム・シルビア、ジョシュ・バーネットvsペドロ・ヒーゾ、レナート・ババルvsマイク・ホワイトヘッドなど世界の各団体のトップを集結させるマッチメイクを発表（じつはここまでオフィシャルアナウンスは一切なかったので、各メディアは関係者から漏れてくる噂話を報道していたにすぎなかった）。さらに5月21日にはロサンゼルスで最初の記者会見を敢行。そこでPPV放送とともにFOXスポーツネットでのアンダーカードの無料放送が発表されたのだ。勢いづく『アフリクション』は翌々週にはニューヨークで記者会見を連続開催。なんとそこではアメリカで最も有名な富豪の一人であるドナルド・トランプが登場し、『アフリクション』とのパートナーシップを発表した。さらにトランプはその場でUFCのトップファイターであるアンドレイ・アルロフスキーに電話をして即席の参戦発表会を開催し、ティト・オーティズの参戦も匂わせている。ほかにも、当日はアフリクションがサポートしているMEGADETHのライブまで行なわれるなど、エンターテインメント性のアップにも余念はない。

しかしこの会見の直後、「たかがTシャツ屋に何ができるってんだ」と見下していたダナ・ホワイト率いるUFCが、『アフリクション』と同日にアンデウソン・シウバをメインに据えた『UFC Fight Night』の開催を急きょ発表。これはケーブルテレビの無料放送となり、PPV放送を予定している『アフリクション』にとっては大きな脅威となっており、『アフリクション』の劣勢が伝えられた。

『アフリクション』には、アパレルブランドとして活動している段階から「自分たちがカッコイイと思うモノ」を徹底して支持し続ける姿勢が、今回のMMA興行からも感じられる。UFCやエリートXCといった北米MMAのトップグループは今後も継続的な嫌がらせを仕掛けてくると思われるが、そういった逆境を「MMA愛」でブチ破るパワーが『アフリクション』からはビンビンに感じられるのだ。

（文／高橋ターヤン）

旗揚げ戦にしてアメリカ大爆発!
アフリクションはUFCヘビー級戦線にケンカを売った!!

Tシャツ屋はなんでもできる!

アフリクションの頭脳
トム・アテンシオ
副社長もキャッチ!!

皇帝バンザーイ!　というわけで旗揚げ戦にして見事に成功を収めた7.19『アフリクション』。
ダナによる"Tシャツ屋"呼ばわりもどこ吹く風、世界ヘビー級戦線の山を揺り動かす偉業を成し遂げたわけだが、
今後アフリクションはどのような路線を打ち出していくのか。
副社長のトム・アテンシオの言葉を交えながら、その展望を探った。

文／坂井ノブ

ビジネスとして考えれば、UFCがやったことに対しては理解できる

PRIDEを事実上買収してMMA業界をほぼ手中に収めたかに思えたUFC。その巨大帝国はすべてを飲み込むかと思われたが、UFC離脱組や旧PRIDEのファイターが集結した『アフリクション』は、UFCの強力な対抗馬として、その第一歩を歴史に刻むことに成功した。

UFCの司令塔であり、スポークスマンであるダナ・ホワイトは『アフリクション』の旗揚げについて「Tシャツ屋に何ができる⁉」と吠え、MMAファンを囲い込むために、わざわざ同日に大会をぶつけてきた。しかもケーブルテレビで無料放送という敷居の低さである。

「Tシャツ屋」と罵倒されたアフリクションは、カメラマンとして長年MMA業界に携わってきたトム・アテンシオ副社長が中心になって動いている。イベント運営は大型スクリーンを導入したり、メガデスのライブがあったり、かなりショーアップされており、お金のかけ方がハンパじゃないことは会場に足を踏み入れただけでわかった。噂によると選手のギャラもかなりいいらしく「ボードッグの二の舞になるんじゃないのか？」という声も聞くが、はたしてどうなのか？

アフリクションのトム・アテンシオ副社長は「ビジネスとして考えれば、UFCが私たちのショーに影響を与えようとしてるのはわかるよ」と感情的になることなく、巨大帝国のなりふりかまわない謀略についても「ビジネスという観点からすればUFCがこういうことをするのは理解できる」と理解を示した。出る杭は打たれるのがあたりまえ、それぐらいは覚悟の上ということか。しかし、打たれながらもアテンシオ副社長は笑顔でこう付け加えた。

「じつは一人のMMAファンとしてはアンデウソンの試合が気になってしょうがないんだ（笑）。録画予約してるから帰ったら観るよ」

96ページに掲載したファンとまったく同じ！　たとえ「Tシャツ屋」と罵られてもUFCに対するリスペクトの姿勢は失なっていない。写真を見ればわかるようにオシャレで人当たりのよさそうなキャラだし、〝俺様こそがすべて〟というダナの姿勢とは正反対だ。

「『Tシャツ屋に何ができる⁉』という発言？　まず一つ言っておきたいのは、アフリクションはTシャツ屋じゃないってことだね（笑）。クロージング・ビジネス……、つまりアパレル企業だよ。確かにMMAの大会をプロモートするのは初めてだけど、スタッフは力を合わせてオーバータイムで働きながらやってきたんだ」

元気があればなんでもできる！　とはいえ、Tシャツ屋でも大会はできる！　とはいえ、アフリクションは単なるTシャツ屋ではない。大会前に全米で400店舗を持っている企業と提携して、そこでは現在までに30万枚のTシャツが売れたという。アフリクションのTシャツは単価が約50ドル。それだけでも単純計算で1500万ドル（約16億円）の売り上げだ。どれだけ先行投資をしているかにもよるが、Tシャツ屋ビジネスとしては凄まじい規模で成功を収めたと言えるだろう。

結果的に7・19『アフリクション』は1万4832人という大観衆を集め、熱狂的な空間を生み出した。「成功させるためにやってきたということを証明できたと思う」とアテンシオ副社長は胸を張った。

PRIDEやUFCで活躍したビッグネーム同士が対戦するというマッチメイクはファンや関係者のあいだでも評価は高かったが、この大会の目玉はなんといってもエメリヤーエンコ・ヒョードル vs ティム・シルビアの王者対決だ。

結果はわずか37秒でヒョードルの圧勝。

「おそらくファンも、ヒョードルがあんなに凄い試合になるとは思ってなかったんじゃないかな？　私もシルビアがアウトボクシングでけん制して、もう少し長い試合になると思っていたんだ。ヒョードルは自分のゲームプランを実行したよね。あんなに速い動きは観たことがないよ。彼が世界ナンバーワンと言われる実

アパレル会社アフリクションの副社長を務めるトム・アテンシオは、長年MMA業界でカメラマンを務めていたという異色の経歴の持ち主。今大会ではその経験が見事に活かされ、大会を成功に導いた。今後の『アフリクション』はこの"頭脳"が回していくのか!?

アメリカのヘビメタロックバンド・メガデスの生出演をイベントに盛り込んだ『アフリクション』。試合の合間に出てきては歌い叫ぶという不思議な出演の仕方であったが、アメリカ人のファンはノリノリ。よくわからないけど、マッチしていた!

力を証明したね」
ロシア人のPRIDE王者とアメリカ人のUFC王者が闘ったこの試合は「アメリカのファンはアメリカ人しか応援しない」という定説が完全に覆っていた。試合前日の公開計量の時点からヒョードルが満面の笑みを浮かべて大歓声に応えていたのとは対照的に、ティム・シルビアには気の毒なほどの大ブーイングが発生した。もちろん、シルビアの試合がおもしろくないという評価でもあるのだろうが。

「ヒョードルのファンがあそこまで多いとは想像してなかった。あれには驚いたね。もう少しティムにも応援があるんじゃないかと思ってたから」とアテンシオ副社長も困惑気味だった。

ヒョードルが圧勝した瞬間にはホンダセンターが揺れそうな大歓声が起こり、観客はスタンディングオベーションでその強さをたたえた。現UFCヘビー級王者のアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラが3ラウンドで仕留めた相手を37秒で沈めたのだ。これ以上ないくらいにわかりやすいアピールになったはずだ。「ロクに試合をしていないヒョードルがナンバーワンだなんてバカげてる」と豪語していたダナにとっては、もっとも悔しい展開だろう。

ちなみに、ヒョードルが今回腰に巻いたベルトはWAMMA（ワンマと発音する）という組織が認可したベルトだ。「World Alliance of Mixed Martial Arts」の頭文字をとってWAMMA。アテンシオ副社長によると「WAMMAはいろんなプロモーターが集まった組織。プロモーターが垣根を越えて協力できれば、それはファイターにとって絶対にプラスになる。WAMMAのベルトは垣根を越えて集まった者たちの中で誰が王者なのかを決めるベルトなんだ」というもの。

WAMMAのCEO兼ディレクターにはFBIで防諜部門の副長官を務めたデイブ・サザディという人物が就任。法務カウンセラーにはロイ・ジョーンズの代理人を勤めた弁護士のフレッド・レビンが就い

…するような協力関係が組めるといいね

ている……といっても誰のことだかサッパリわからない。ズバリ言ってしまえば、彼らは後ろ盾というかお飾りだろう。ファイター&プロモーター部門の副社長に就任したパット・ミレティッチが実働部隊ということになる模様だ。アメリカ国内のあらゆる大会に選手を派遣するミレティッチ軍団の総帥であれば、パイプ役に最適かもしれない。

プロモーター同士が非独占契約でファイターたちを各地のリング（もしくはケージ）に上げていくというのがWAMMAとアフリクションの狙いだ。UFCの弊害である独占契約を逆手にとって、ファイターが束縛されることのないリングを目指すとアテンシオ副社長。

「ファイターの契約は完全な独占にはしてない。たとえばジョシュ・バーネットの場合はアメリカ国内はエクスクルーシブ（独占）だよ。でも、アメリカ以外の国では自由だ。ジョシュの日本での功績は凄いものがあるから、そこは尊重したいんだ。

M-1代表も大絶賛!! 次なるヒョードルの相手にも言及!?
ワジム・フィンケルシュタイン

――今日のヒョードルは素晴らしかったですね!
ワジム　ああ、素晴らしいショーだった! ヒョードルのファンが多かったことにも驚かされたよ。日本人が国籍を問わず素晴らしいファイターを応援してくれるのは知っているが、アメリカ人があれだけヒョードルを熱烈に応援してくれてたことは、ホントに素晴らしいことだよ!
――「強い!」というのが一番の理由なんでしょうけど、それにしてもヒョードルはどうしてここまで人気があるんでしょう!?
ワジム　まあ、ほかのファイターのようによけいなことを言わないし、常にオープンな姿勢だからじゃないかな。だから、日本、韓国、ロシア、ヨーロッパ、そしてアメリカでも受け入れられるんだろう。彼はもはやロシアの選手というよりも、インターナショナルな選手になった。それにおごらず、さらにリング上で自分の実力を証明しているからというのもあるだろう。ま、これは昔ながらのスタイルかもしれないけどね。
――ところで、WAMMAとM-1のつながりを教えていただけませんか?
ワジム　WAMMAはアメリカのプロモーター同士がアライアンスを組んだ組織で、今回はWAMMAからM-1に話がきて大会が開かれたというわけだ。WAMMAとは統一のチャンピオンを作ろうという話になって、凄くいい話だと思ったからM-1も協力することにしたんだ。
――M-1として日本で大会を行なう予定は?
ワジム　M-1チャレンジのスーパーファイトをぜひ日本でプロモートしたいと思っている。できれば、さいたまスーパーアリーナで大晦日にやりたいね。
――M-1チャレンジとともに計画している「FIGHTING FEDOR」についても教えてください!
ワジム　ヒョードルはシルビアやノゲイラといった世界のヘビー級トップ10といわれる選手とほとんど試合をしてしまって、いま対戦相手がいなくなってきている。そこで計画した「FIGHTING FEDOR」は、ヒョードルの相手を見つけるためのリアリティショーというわけだ。世界各国から16人の強豪を集めてトーナメントを開催し、その王者がヒョードルと闘う。だから、ぜひ各国のベストなファイターに集まってもらいたいね。もちろん日本人選手もだ。
――「FIGHTING FEDOR」はいつから始まる予定なんですか?
ワジム　番組自体はロシアで制作することになるが、アメリカのESPN、日本でもテレビ局と契約して各国で放送していく計画だ。じつはもうアメリカのプロダクションとともに撮影の準備はしているんだが、本格的な撮影は9月からを予定している。

UFCに牙を剥いた団体一覧

Bodog FIGHT
【活動期間】06年8月～08年2月
【現在】活動休止中
【短評】資産1000億円を誇るカルビン・エアー様ともども鳴り物入りで登場し、皇帝ヒョードルをも獲得して反UFC連合の一番手になるかと思われたが、ネットカジノ規制法施行によって本体ボードッグが大ダメージ。わずか1年半でフェードアウトしていったMMA界随一のお騒がせ団体。現在はほかのイベントをスポンサードするにとどまっている。

WFA（World Fighting Alliance）
【活動期間】01年11月～06年8月
【現在】UFCに吸収
【短評】もともと、中規模イベントを開催していた団体だったが、02年に活動休止。UFCの躍進によってMMA熱が盛り上がると、ボクシングプロモーターのドン・キングのバックアップで復活。ランペイジやバス・ルッテンを擁して反UFCの急先鋒になるかと思われたが、一回の興行で立ち直れないほどの損失を被ってUFCに買収された。

PRIDE
【活動期間】97年10月～07年4月
【現在】UFCに吸収
【短評】一時はUFCを完全に凌駕していた世界最高のMMA団体にして、ダナ・ホワイトが唯一ライバルとして認めた団体。各団体のチャンピオンクラスが対決する最盛期のPRIDEの前では、UFCですら選手の供給源の一つでしかなかった。

しかし急成長するUFC、国内のフジテレ

ヒョードルをはじめ、ジョシュ、ホジェリオ、アルロフスキーと豪華な面々が揃った今大会。ランディやノゲイラ兄も来場していたのだから、ダナもドキドキである!? 今後もこのビッグネーム路線は続くのだろうか。

できれば日本人選手が参戦するよ

実際に日本で試合をしたとき、凄い人気だったのを目のあたりにしたからね」

すでにカリフォルニア北部で地盤を持つストライクフォースやCBSで放送されているエリートXCや〝皇帝〟ヒョードルを抱えるM-1とも協力体制ができており、日本の団体とも交渉をしてるという。アメリカ、ロシア、日本で、緩やかなUFC包囲網が完成しつつある。

アメリカ国内のMMAファンと同じように、アテンシオ副社長は「昔からPRIDEのファンだった。もちろん、いまもK-1、DREAM、『戦極』のファンだよ」と笑う。「できれば日本の団体と協力して、日本人選手が参戦するような協力関係が組めるといいね。キッド・ヤマモトなんか最高だよ。MMAじゃないけどマサトもいいし、キャオル・ウノもいいな。べつに『アフリクション』はヘビー級だけに特化して大会をやろうとしているわけではないんだ。動きがおもしろいし、テクニックは多彩だから、軽量級の試合は好きなんだ。今回の大会でヘビー級の試合が多かったのは、参戦できるトップファイターがヘビー級に多かったというだけさ。特定の階級にフォーカスするつもりはなくて、レベルの高い選手たちによるいい試合を見せたいだけなんだ」

巨大帝国UFCに立ち向かうTシャツ屋の野望は、まだまだ始まったばかりだ。「おまえのものは俺のもの」と、ありとあらゆる選手を獲得して夢の対決を実現させてきたUFCの足元をすくう存在になるのか？ それとも資金が底をついてしまうのか？ 次回大会は11月頃に開催される予定で「できれば次はオジー・オズボーンのライブをやりたいね」とアテンシオ副社長は素敵な予告をしている。

しかし急成長するUFC、国内のフジテレビジョックによって、ついにUFCの軍門に下った。

IFL

【活動期間】06年4月～08年5月？
【現在】活動休止？
【短評】「リーグ戦」「コーチによるレジェンド対決」をウリにし、「反UFC」ではなく「非UFC」という明確なコンセプトを打ち出した団体。MMA団体として初めて株式上場をはたすなど、旧来のMMA団体のビジネスモデルからの脱却を図るも、集客には苦戦し続けて次回大会をキャンセルしたまま。現在は身売り先を模索中と噂されている。

エリートXC

【活動期間】07年2月～
【現在】反UFCの急先鋒として活動中
【短評】ボードッグやIFLの陰に隠れるようにして地味に活動してきたが、キンボ・スライスという飛び道具を手に入れ、CBSでの地上波放送を獲得したことによって反UFCの盟主となった。ただ地上波獲得によって大躍進の可能性を手に入れた反面、テレビ主導のモンスター路線によってMMAファンからは批判を受けている。

HDNet Fights

【活動期間】07年10月～
【現在】他団体をHDNet Fights プレゼンツとしてスポンサード
【短評】億万長者マーク・キューバンが自身のケーブルテレビ局用コンテンツとして始めた団体。中規模イベントを2大会開いたあとは、DREAMなどの非アメリカMMA団体の放送の受け皿となっており、目立った活動はない。しかし自主興行復活に向けて始動していると言われており、アフリクションやアドレナリンといった新興団体との提携が噂されている。

試合もライブも盛り上がりは“メガ”です!

『アフリクション～BANNED～』旅日記

初代王者はこの男!?

Tシャツ屋がなぜMMAイベントを開催するのか?　その謎に迫るべくクソ暑い東京を脱出して、カリフォルニア州アナハイムに潜入取材を敢行!　地元のモールには『アフリクション』の商品を扱うアパレルショップがあり、商品のタグすべてにヒョードルとシルビアの顔がプリントされている熱の入れよう。そんな『アフリクション』のテンションにファンも呼応!（本文参照）。湿度は低くてすごしやすいけど、現地の熱気は凄まじいことになってました。

文／坂井ノブ　撮影／石井史彦

★7月17日（木）チーム・クエストと合流

この日、ロスに着いて空港を出たのが午後3時。現在、アメリカで武者修行中の長南亮選手に連絡をとると「夜からチーム・クエストの練習をアナハイムでやりますよ」ということで取材させてもらうことに。ジェイソン・“メイヘム”・ミラー顔負けの新たな“バカキャラ”も登場のこの模様は8月発売の『kamipro』にて、たっぷり紹介しようと思います。

かつて、クイントン・“ランペイジ”・ジャクソンも在籍したチーム大山のジム「NO LIMIT」でクエスト勢は練習をするはずだったのだが、結局この日、練習をやったのは新人のMO（モー）と長南のみ。レスリング全米王者のモーと二人きりで濃密な練習が行なわれる。ちなみに長南の治療にきた整体師の山本先生にチーム・クエスト勢は「アンビリーバボー!」を連発。

★7月18日（金）『アフリクション』前日計量

この日もアナハイム。大会前日の公開計量の取材に行きました。熱心なファンがだいたい1000人ぐらい会場に集まって、すでにテンションがメチャクチャ高い！　一番人気はなんといってもヒョードル。ほかにもUFCやPRIDEで活躍したビッグネームには、大きな歓声が送られていたが、とくにコメントを言う選手もおらず、全選手が計量を終えたらイベントはすぐに終了。バックステージでヒョードルやジョシュ・バーネットに話を聞いたりしながら、この日の取材はあっさりと終了。

ホテル周辺のショッピングモールへ買い出しに行き、そのついでにアフリクションのTシャツが実際に売ってるのかどうか徘徊していると、ちゃんと売ってました!!　アフリクション以外のブランドも扱っているようだが、店の大半はアフリクションで埋めつくされている。ということは、それだけ売れているのだろう。ちなみに商品のタグにはすべて7・19『アフリクション～BANNED～』の広告がついていた。

ショッピングモール内は若者向けのブランドがズラリと並んでいるのだが、アフリクションの服をメインで扱う店舗はご覧のとおり軒先からヒョードルvsシルビア!!　Xスポーツのブランド「NO FEAR」の店では「NO FEAR」のMMAブランド「CAGE FIGHTER」を販売中。

★7月19日（土）『アフリクション』大会当日

長い一日の始まりだ。周辺取材もあるので早めに会場に行くと、アメリカ人には珍しく開場前から待ってる若者が。アフリクションのTシャツを着て、ゴキゲンなお手製ボードを掲げてくれた彼、ハイマン・アランヴィレさん（25歳）に軽く話を聞いてみることにした。

——日本から取材に来たんだけど、写真撮らせてもらっていい?

ハイマン　もちろんだよ！（聞いてもいないのに）PRIDEは最高だったよな!

——へえ、観てたんだ?

ハイマン　大ファンなんだ。最近UFCは伸びてきてるけど、ダナ（・ホワイト）の仕事には疑問が残るね。PRIDEはグラウンドの攻防でもブーイングが起きないだろ?　UFCじゃ、すぐブーイングでKOばかりを狙ってるんだよ。PRIDEのほうがチェスの試合みたいで、よりマーシャルアーツだと思うんだ。『アフリクション』は以前のPRIDEみたいになってほしいな。ヒョードルが観られるんだから、今日は300ドル払っても惜しくないよ!　ほかのどのカードより楽しみだね。まあ、言ってみりゃUFCはサックス!　というかダナ・ホワイト、サックス!

——す、凄いね。なんでそんなにサックスなの?

ハイマン　ついでにジョー・ローガンもサックス!　UFCにはいいファイターがいっぱいいるよ。でも運営方法がサックス!　フォレスト・グリフィンとラン

ホテル近くのバス停に広告が入っていたので撮影をしていると、車からオッサンが声をかけてきてくれた。『アフリクション～BANNED～』の広告ページを切り取ったものを持っている。「なんだ、このアジア人は?」と思ってくれたのか、とても優しかったです。

屋内に巨大なスケートパークを持つショップを覗いていると、試合がキャンセルになったアレキサンダーがフラフラと来店。まさかスケボーを?　と思ったら「野球のグローブ売ってる店、知らない?」ってやるの?

ペイジの判定もそうだ。ダナは自分の気に入った選手に偏った判定をしてる。人気選手には楽な試合を組むし。ダナはゲイだ！　ファンよりもファイトビジネスをわかってない！　アイツが気にしてるのは金儲けのことばかりさ！

——（あまりのテンションに圧倒されながら）まあ、確かにアンタのほうが詳しそうだけどさ……。

ハイマン　まあ、ダナが運営しているからオレは口出しできないんだけどね。このままだといいファイターがどんどん離れちゃうよ。ヒョードルが『アフリクション』に出たのも、何か理由があるはずなんだよ。

——ふ～ん、ダナは『アフリクション』について「Tシャツ屋に何ができる!?」と言ってたけど、その発言についてはどう思う？

ハイマン　確かにTシャツ屋だよ。でも、マッチメイクはちゃんとしてる。もっとファイターやファンの意見を取り入れていかないと、スポーツとして成長しないんじゃないかな？

まあ、彼らの話を聞いてるとダナやフォレスト・グリフィンが、「ネットの連中の言うことなんか意味がない」と吐き捨てる気持ちもわからんではない。話を聞いてても「バカだなぁ」と思わずにはいられないが、とにかく熱い！　そして、この熱さがMMA業界を支えている。ジャンルを育てるのはオレたちだ！　という気概にあふれている。

あまりのテンションに圧倒されていると、「ヘイ、ガ～イズ！　日本から来たのかい？」と別のファンから声をかけられた。彼の名前はキャメロンさん（28歳）。UFCが同日に大会をぶつけてきたことについて、こちらの格闘技ファンはどう思ってるんだろう？

——UFCが同日にぶつけてきたことについては知ってる？

キャメロン　もちろん！　UFCは録画予約をしてるんだ。家に帰ったら観るつもりだよ。

——こういうやり方ってどうなの？

キャメロン　MMAビジネスに新規参入してくるプロモーターを排除しようとしてるってことだからねぇ。UFCにはベストなファイターが揃ってると思うよ。でもマッチメイクやショーのプロダクションがイマイチなんだ。彼らにはまだ改善すべきところがある。DREAMを観ても、彼らのマッチメイクやショーは素晴らしいじゃないか。おもしろいよな！

——DREAMってどうやって観てるの？

キャメロン　HDNetさ！　こないだもエイオキの試合は素晴らしかったよな！

——エイオキ……ああ、アオキ選手のことね。

キャメロン　エイオキのテクニックは最高だよ。足でチョークをするんだから！

総じてアメリカのMMAファンは日本のPRIDE、そしてDREAMを高く評価している。ちょっ誇らしい気持ちになるが、HDNetがアメリカのMMAファンにとって大きな存在となっていることも付け加えておきたい。

そんなこんなで、いよいよ試合開始だ。第1試合は開始予定の16時15分をかなり回ったところから始まったせいで、スウィング・バウトなる試合が行なわれなくなってしまった。誰も知らないような選手だったので苦情もとくになかったようだが、選手が気の毒で仕方ない。

18時のPPV放送開始に合わせてメガデスの演奏が始まり、それをバックに全選手が入場するという豪華な演出でイベントが幕を開ける。ステージの最前列には長髪を振り乱してヘッドバンギングするヘビメタファンが陣取ったが、会場内をほぼ埋めつくしたMMAファンはわりと「ふ～ん」という感じ。スタンド席は立ち上がってる人もまばらで見てるほうがヒヤヒヤしたが、『PRIDE』の藤谷美和子バンドよりは確実に盛り上がっていた。演奏終了後には大きな歓声が起こったのでひと安心。

会場にはWWEスーパースターのジアンダーテイカーやストーンコールド・スティーブ・オースチン、大富豪ドナルド・トランプ、ファイターではティト・オーティズやヒース・ヒーリング、そして長南選手も来場。アンダーテイカーとの異次元ツーショットも実現!!

そして試合はやはりヒョードルの圧倒的な強さと人気が凄まじかった。試合が終わった瞬間にスタンディング・オベーションで鼓膜が裂けそうな大歓声！　圧倒的な勝ち方で強さを見せたヒョードルに、惜しみない拍手と歓声とリスペクトが送られる。「アメリカの観客は格闘技に理解がない」とか思われがちだけど、彼らは「いい」と思ったら全身でそれを表現する。それを1万人がやると、この日のメイン直後のように凄い光景になるのだ。ロシアの旗を持ってアリーナを走りまくってるヤツまでいた。どんだけテンション上がってんだよ！　紙吹雪の量も尋常ではなく、興奮と紙吹雪のコントラストが、かつてMSGで観た『WRESTLEMANIA20』のラストシーンを思い起こさせた。

ちなみに、この日隣の席に座ったMMAサイトの記者が「キッド・ヤマモトのケガは大丈夫か？」と話しかけてきた。いろいろ話してるうちに「シューカン・ゲンダイの記事は本当なのか？」と聞かれて、記事も読んでないのに下手な英語でうかつなことは言えないと思い、「アイ・ドント・ノウ」と答えるのが精いっぱいだった。英語を習おうと決意したのは言うまでもない。

★7月20日（日）大会翌日

ホテルをチェックアウトする前に再びモールへ。いろんな店を見ているうちに、暴走行為で逮捕されたばかりのランペイジのフィギュアを発見！　記念に買って帰ろうとレジに持ってったら、「おまえ、知ってるか？　こいつ逮捕されたんだぞ」と店員さんにへんな顔で見られてしまった。アメリカ人ってホントにMMAのこと詳しいのね！

今回の『アフリクション』特集扉にも登場している二人組は地元カリフォルニア州出身のハイマン（写真左）さんと、その従兄（右）。ツバを飛ばしながら熱心に力説してくれました。変態に国境はないね。

さっきのハイマンさんに比べると、かなりイケメンな印象を受けるキャメロンさん。ちなみに、アメリカにおける予約録画は「TiVo」というサービスがあり、多くの人が利用しているんだとか。

試合のインターバル中に「ドカン!」という凄まじい音が発生したので何かと思ったら、セクシーギャルが客席に向かってTシャツを何発もブッ放してました。さすがTシャツ屋!!

WWEスーパースターのスティーブ・オースチンとティト・オーティズが夢の顔合わせ!!　ティトはUFCを離脱して『アフリクション』参戦が有力視されている。はたしてどうなる？

アフリクションとTシャツ契約を結んでいるアンダーテイカーが長南亮と夢の顔合わせ!!　UFCの会場にもしょっちゅう来ているアンダーテイカーはMMAの大ファンで試合中にフットチョークを使ったりする。

ランペイジ逮捕については会場のいたるところで話題になっていた。ランペイジは暴走運転の翌日にも別件で再逮捕されている。戻ってくるのはだいぶ先になってしまうのだろうか？

ヒョードル幻想続行!!
ダナのジャイアン幻想も続行!!

ダナ・ホワイト語録で振り返るヒョードル&『アフリクション』

ヒョードル激勝にダナは何を語る!?

『アフリクション』旗揚げ戦でティム・シルビア相手に圧倒的な強さを見せて完勝したヒョードル。これまで一貫してジャイアン節でヒョードルをこき下ろしてきたダナにも心境の変化が？　時系列に沿ってUFCとヒョードルを振り返れ!!

構成／大川義之　撮影／Josh Hedges（UFC）

★07年3月、UFCオーナーがPRIDEの買収を発表

「この7年間、いくらトライしてもかなわなかった夢がついに実現する。みんなに夢のカードを提供できるんだ。ヒョードルvsクートゥアー、ショーグンvsリデル、五味vsサンピエール、ヘンダーソンvsアンデウソン、ジョシュvsアルロフスキー、これはもう夢ではないんだ」（07年3月）

★07年4月14日のボードッグでヒョードルがマット・リンドランドと対戦

「ヒョードルは必ずPRIDEに戻ってくるよ。〝世界最強〟と呼ばれる男がなぜボードッグのようなリングで、しかも二階級下のマット・リンドランドとわざわざ闘うのか、理解に苦しむね。彼にも言ってやりたいよ、『ボードッグ・イズ・ジョーク！』とね」（07年4月）

「11月のコマンドサンボの大会のあと、ヒョードルを獲得することも可能なんじゃないかな。PRIDE王者のヒョードルとUFC王者のランディ・クートゥアーを闘わせたいね。ヘビー級では最高のカードだよ」（07年9月）

★07年10月、PRIDE消滅。ヒョードルはM－1グローバルと契約。クートゥアーとUFCの関係に亀裂。

「ヒョードル？　そんな男もいたな（笑）。あいつにもう用はない！　我々がヒョードルと契約しようとしたのは、ランディが望んだからだ。アメリカでヒョードルを知る者はいない。それに彼はトップ5にも入らない選手だ。ヒョードルが最近闘ったマット・リンドランドは84キロの選手でランペイジに負けている。マーク・ハントはただのキックボクサーで、マーク・コールマンは42歳のロートルだ。ズールに至っては誰も知らない。そんな相手に勝っただけのロシア人がUFCから逃げたところで、まったくビジネスに影響はない」（07年11月）

★07年12月31日に『やれんのか！』でヒョードルはチェ・ホンマンと対戦。

★08年1月、ヒョードルとクートゥアーが『アフリクション』のCMに登場。

「『ヒョードルがナンバーワン』だと？　ファック！　何度も言わせてもらうが、断じてヒョードルはトップファイターなんかじゃない。最近は、デカいだけの韓国人を倒しただけだろ？　ファッキン・ジョークだ！　にもかかわらず、ヒョードルが世界最強だなんてクレイジーだ。まるで意味がわからない」（08年2月）

「オレは何ヵ月ものあいだ、クートゥアーとヒョードルの試合を実現させようとしていたが、クレイジー・ロシアン（ヒョードルのマネージャー）たちはバカげている。もしヒョードルがUFCに来たとしても、ウチのトップ5にも勝てないだろう。だからUFCに来ないのさ」（08年2月）

★08年3月、モンテ・コックスとM－1グローバルが決裂。ヒョードルはフリーとなり、UFCやエリートXC、『アフリクション』などとの交渉が本格化。

「我々はみんなが観たがる試合を実現させるために全力を注いでいる。ヒョードルとの契約について、なんとかならないか考えてみるつもりだ」（08年3月）

「ヒョードルは過大評価されている。もちろん有力なファイターの一人として、契約することはやぶさかではないが、いきなりクートゥアー戦を組むことはない！　まずはUFCで勝ってからだ。ヒョードルだってミルコのようにタイトルマッチまでたどり着けない可能性もあるんだ。彼がちゃんと出てきて、リアルなファイターを倒すのなら、オレは何も言わないし、黙っているよ」（08年4月）

★08年5月ヒョードルが『アフリクション』と契約

「『アフリクション』？　Tシャツ屋に何ができる！」（08年5月）

★08年6月、ヒョードルvsシルビア戦決定

「UFNは『アフリクション』への妨害工作じゃないかだと？　フン。世界最高のファイターの闘う姿が無料TVで観られ

パウンド・フォー・パウンドは
ヒョードルじゃない! アンデウソンだ!!

るんだ。これまでにそういう機会はなかったし、MMAファンにとっていいことだろう。体重を考慮しないで言えば、最強のファイターはヒョードルではなく、アンデウソン・シウバだ。彼は最も優れたファイターとして歴史に名を残すだろう。

キミらメディアの連中は、UFCと『アフリクション』の競争について話させたいんだろう。確かにオレはヤツらが好きじゃない。彼らは大会を開催したこともない赤ん坊よりも未熟な連中だ。なぜそんなヤツらとUFCを比べるんだ? ふざけるのもいいかげんにしろ!

『アフリクション』のヤツらはTシャツを売ってMMAビジネスを片手間にやってる連中だ。オレはこの10年、すべてをMMAに注いできた。通常のMMA大会をまとめ上げることはフルタイムの仕事以上に過酷なものなんだ。ヤツらはそういうことすら知らない。間違いなく、大金をドブに捨てるだろうな。で、『もうこれ以上はやりたくありません』って泣きを入れるのさ。いいか? この世界では経験を積んで自分の権利を勝ち取るか、険しく困難な道から地道に学んでいくか、どちらかしかないんだ。

自分よりMMAビジネスをうまくやれるヤツがこの世にいるとは思えないが、もしこの世界でビジネスをやりたいのなら、まずはオレがしてきたように、クソッタレな4400万ドル(約45億円)からつぎ込むことだ。ダメなヤツはいくらやってもダメだが、ひょっとしたらうまくいくかもしれないな。まあ、幸運を祈るよ」(08年7月、『アフリクション』開催前)

★08年7月19日『アフリクション』でヒョードルvsシルビア戦

「シルビアはリアルな選手だし、ヒョードルの試合はオレの意見を変えさせるものではあった。まあ、たまにはうまくいくこともあるだろう。だが、今日のUFNでアンデウソンは一階級上のライトヘビー級で、たった61秒で相手をKOしたんだ。あんな試合を観たあとに、オレに『ヒョードルがパウンド・フォー・パウンドか?』なんて、愚かな質問だ」(08年7月『アフリクション』開催後)

ダナが『アフリクション』に爆弾投下!!
"仁義なき興行戦争"の結果は!?

かつて「UFC、PRIDE以外はすべてジョーク」と豪語したダナ・ホワイトは、『アフリクション』に対しても「Tシャツ屋に何ができる!」と、ライバル視されることに不快感を示してきた。しかし、"最強皇帝"を擁す『アフリクション』の旗揚げが迫ってくると、ダナは素早くその開催日と同日に、UFC Fight Night(以下、UFN)の緊急開催を決定! しかも45ドルというPPV料金を払わなくては観られない『アフリクション』に、UFNの地上波放送を強行するという徹底的な妨害工作で"仁義なき興行戦争"を仕掛けたのだった。

ダナがこの対抗興行、UFNのメインに起用したのが、現ミドル級王者のアンデウソン・シウバ。実力は折り紙つきだが、いまいち人気の出ないアンデウソンをこの機会に地上波放送で知名度を上げておこうという作戦だ。アンデウソンはその期待に応え、対戦相手のジェームス・アービンを右ストレート一発でKO! 一階級上のライトヘビー級での試合にもかかわらず、わずか61秒で快勝し、あらためてその強さを証明してみせた。

ダナの奇襲戦法のかいもあり、「当日のスポーツバーでは『アフリクション』とUFNのチャンネルを交互に映す店も少なくなかった」と報道されたように、ファンに"選択肢"を与え、少なからずUFCへの影響を弱めることに成功。ダナのあからさまな妨害工作を見ても、『アフリクション』の出現がUFCにとってなりふりかまってられない緊急事態だったことがわかるだろう。今回、『アフリクション』の会場に姿を現わしたランディ・クートゥアーや、ティト・オーティズも『アフリクション』への参戦が噂されていることから、UFCとの興行戦争はさらに熾烈さを増していきそうだ。

が
うよ〜！

DREAM特集
第二弾
スタート!!

FEG代表

谷川貞治

ショック!!『DREAM.5』が成功のまま幕を閉じたにもかかわらず、翌日のサダハルンバインタビューでは、ご覧の見出しのような衝撃的な言葉が飛び出した！ いよいよ温まってきたDREAMのリングとは対照的なこの現状。いったいこの先どうなってしまうのか!? サダハルンバの言葉から探れ!!

聞き手／ジャン斉藤　撮影／平工幸雄　試合写真／乾晋也

谷川 斉藤く〜ん、おはよ〜〜う！

——おはようございます！ 谷川さん、さっそくですけど、〝視聴率獲得〟の大勝負となった『DREAM・5』は、主催者としていかがでしたでしょうか？

谷川 素晴らしいイベントだったけど、試合前にあまりにもハプニングが起こりすぎて、もうまいりました。笹原くんたちは大変だったと思うよ〜。

——いつにも増して目まぐるしくカードが変更になりましたよね。

谷川 だってさあ、ミルコもジェロムもケガでしょ？ それに途中で所くんが交通事故に遭って、決定的なのがKIDくんの直前の欠場……。それで盗撮犯逮捕で名前を挙げたアンディ・オロゴンにまでお願いしないといけなくなったからねえ。

——今回のDREAMって、ライブの地熱と同時に地上波的要素も必要だったと思うんですが、今回、アンディが急きょ出場することになった件に関しては、ファンはあまりよく思ってないんですよ。

谷川 いや、それはさすがのボクもアンディを出すのは本意じゃないですよ。でも、当初TBSさんに「7月のDREAMはこのカードでいきます！」って出したものがことごとくダメになっていく中で、それでも番組を存続させていくために高い数字を獲らないといけない。本当に、みんなケガしないでよお。

——テレビ局からすると、そこはシビアにジャッジしてきますよねぇ。

谷川 そうすると、〝飛び道具〟しかないんですよ。だから、TBSと相談して、この件に関してはボクが動いて3日前にアンディを口説いたということですよね。ファンの反応が悪いのはわかってましたけど、やっぱり結果を残さないと終わるからね。そこは主催者として、〝対テレビ〟の向き合いはしっかりやっていかないと大変なことになりますから。でも、笹原くんたちが作っている世界をどうこうしようというつもりはないんですよ。今回のアンディにしたって、緊急処置で致し方なくだからね。

——で、今回の『DREAM・5』の平均視聴率は10パーセントという結果に終わりました。

谷川 裏番組が強力だったことを考慮しても、喜べない数字ですよね。たぶん……同じような数字を獲ったら、9月以降の放送はなくなっちゃうなあ。

——………鳥肌が立ちました！

谷川 いやホント、そのくらい覚悟を持って臨まないとマズイ状況ですよ。いま格闘技に対する世間の評価やテレビ局のスタンスから考えても、もう結果を残すしか道はないんだよね。ただ一つよかったことは、斉藤くんが言ってたライブの地熱というのはだいぶ回復してきてるとは思う。だって、大阪での初めての大会で、これだけ熱がある興行になったというのは本当にたいしたモンだよ。でも、それを地上波に乗っけたときに、やっぱり全盛期のPRIDEに比べると、熱は取り戻せてないかなって。だから昨日の試合でも、いい試合があったわりには、世間一般にわかりやすいのって、秋山vs柴田と、川尻vsエディの2試合だけだもんね。

——それ以外の試合はわかりにくいってことですか？

谷川 つまらないと言ってるわけじゃないよ。たとえば、青木vs宇野なんて凄くいい試合だと思うけど、一般層からすれば「宇野くんはなんで立って殴り合わないの？」って感じだもんね。でも、あれって「殴らない」じゃなくて、「殴れない」んだよね。そこは青木くんの達人的なうまさがあるわけだけど、一般人がいきなりそれを理解するのは難しいじゃない。

——そこは関係者でさえ「膠着してる」とか、トンチンカンなことを言いますからね（笑）。

谷川 あの凄さを理解してもらうためには、ボクたちが青木くんをもっともっと有名にすることが求められますね。「青木真也は寝技の凄い人」っていう感じの認知のされ方をしないと。それこそ『進め！電波少年』的に裸でタイツ穿いて海外に道場破りに行って、どんどん勝っちゃうぐらいのことをやる、と。それで「ああ、この人って、道場破りをやってる人だよね」って、そういう認知度があってようやく魅力が伝わるというか。

——谷川さんってもともと格闘技雑誌の編集者である一方、いまはテレビと向き合わないといけないという立場じゃないですか。その目から見て、あんなに凄い試合だった青木vs宇野が一般層にはなかなか通用しないジレンマってあります？

谷川 それはもの凄くある!! たとえばさ、『DREAM・5』の裏番組だった織田裕二主演の『太陽と海の教室』の視聴率が20・5パーセントだった、と。でも、織田裕二を観てる人たちって、女性だったり子どもだったり、もっと言うとおじいちゃんとかおばあちゃんだったりするわけじゃない。そうすると、ボクらとしては「そんな人に格闘技を観てもらわなくてもいいよなあ」という気持ちも本当はどこかであるしね。

——でも、その人たちに「フットチョーク」を覚えてもらわないといけない（笑）。もしかして、DREAMって、ほかのプロレスや格闘技団体への対

今回、やむなく3日前に参戦を呼びかけたアンディ。試合後のコメントでは、「試合が決まってから36時間未満ですよ（苦笑）」と漏らすシーンも。不本意さが伝わってくる。

抗意識があまり感じられないのは、「敵は業界内じゃない」ってことなんですか？
谷川　だって、それどころじゃないもん！　かといって、視聴率を獲るためにイロモノ的な選手を集めても地熱はつかないし。そのへんを含めて考えると、やっぱりいまのテレビ的な救世主というのはダントツで秋山くんなんだよね。昨日も素晴らしかったしねえ!!
――さすが〝マイケル・ジャクソン〟（笑）。
谷川　秋山くんの場合、あきらかに地熱があるし、そのうえでいろんな意味でみんなの記憶にも凄く残ってるし。ああいう絵になる試合と、ガチガチの勝負論がうまく重なればいいんだよなあ。だから、青木くんの相手はヴァンダレイのような凶暴なストライカーだったら、わかりやすいかもしれない。ガチガチの勝負論がある試合が絵になる試合だったら最高っていうか。
――格闘技は難しいですね。一般視聴者にもマニアにも同じものを観て満足してもらわないといけないなんて。
谷川　でもさ、マニアの人って見えてるもの以上に何かを楽しもうとするじゃない。
――でも、ウチの魔王報道に対する反応って、「秋山をバッシングするな」っていう声があるのと同時に、「秋山を持ち上げるな」っていう声もあるんですよ。どっちでもないのに（笑）。いまは白か黒かでしか物事を見ない風潮があるし、そのあいだのグレーを楽しむ層が秋山選手に関しては思いのほか少ないんですよね。それく

絶好調のDREAMよ、視聴率でも生き残れ、これ♪

このままだと、9月でDREAMが終わっちゃう。

らいヒールなのかしれません（笑）。
谷川　難しいねえ。あんなにおもしろい人いないのにね。
――で、川尻vsエディはシンプルな殴り合いだから、一般層向けにわかりやすい、と？
谷川　うん！　ボクさあ、試合が終わったあとに川尻くんのところに行って、「川尻くん！　負けたけど、キミのこと初めて好きになったよお!!」って言っちゃったもん。
――ダハハハハ！　じゃあ、いままで嫌いだったんですか（笑）。
谷川　でもさあ、川尻くんったら「……勝ってから好きになってください」だって。ウフフフ。
――あ、フラレましたか（笑）。
谷川　五味くんとの試合もそうだったけど、川尻くんって負けたときいいよね。あの負けっぷりというか、腹のくくり方がさ！　それに対して、所くんはまっっったくダメだったね！
――ああ、すっかり〝過去の女〟扱い（笑）。でも、交通事故というアクシデントもあったし、そもそも対戦した山崎選手は強いですよ。
谷川　そうだけど、とにかく顔が0点！
――んあ～！　……って、谷川さんが言いますか！
谷川　（無視して）だってさ、話を聞いてたら、練習のときはずっと負けてる相手だし、友だちだから殴ったら顔が腫れるのは嫌だしって、もお、何しに来たんだよお！　って。入場からもの凄くしょっぱい顔で出てくるからさ、もっとイキイキとした顔で出てこいよって怒ったんだよね！
――確かに、所選手にはもっと頑張ってもらわないといけないとは思いますけど。ついでにそれぞれの選手の足りない部分を聞きたいと思いますが、まず青木選手は何が必要でしょう？
谷川　青木くんはいまのままで全然いいと思います。ボクらがとにかく知名度を上げる作業が必要だと思いますよ。まずは彼の奥の深いところや単純なところを知ってもらわないと。変わりモンだし、それはそれで突き抜けさせるのがいいんだけどね。やっぱり、格闘技のコアの部分を担えるのは青木くんしかいないでしょ。トラップからのあの三角絞めとかさ、もう凄すぎるじゃない。
――それを宇野選手相手にやってるんだから、神の領域ですよね。
谷川　あとはやっぱりライバルが必要だよね。「青木がどうかわすのか？　壊されるのか」っていうヒリヒリする相手。もしくは「誰が青木を壊すのか」という興味の引き方でもいいけど。
――ワンマッチなら盤石すぎる幻想がありますもんね、青木真也には。では、宇野選手はどうでしょうか？
谷川　宇野くんは昨日の試合を観て

秋山くんみたいに、絵になる試合とガチガチの勝負論がうまく重なればいいんだよなあ

もっと強くなると思った。っていうか、正直、宇野くんって昨日の試合はもの凄くダメだったよね。いままで観た中でも悪い宇野くんだった。

——いい試合でしたけど、言ってしまえば淡いでたって感じですもんね。

谷川 だけど、青木くんは「宇野選手にもの凄い攻撃をさせられた」って言ってたんだよね。「疲れましたよ、宇野選手とやって」って。宇野くんは守山さんのことを思い出して、入場で泣いてしまって、それが試合をやるという意味で、悪い方向に出た。先手を取られてしまったからね。

——では、谷川さんが〝片思い中〟の川尻選手には必要なものは？

谷川 うーんと……。

——これを機に、まずは谷川さんと仲良くすることだったりするんでしょうか？（笑）。

谷川 あ、それはある！　仲良くしよう、川尻くん！　一緒にメシ食いたいよお～！

——その際はぜひ取材させてください（笑）。じゃあ、最後に魔王。

谷川 秋山くんは、このまま天まで昇って強いヤツとやるだけですよ。あとは、そろそろ入場曲を『スリラー』に変えるとかね。

——それはいいですね！（笑）。全体的な話をすると、DREAMのスタイルはこのままでいいと思いますか？　たとえばアンディ的な要素というのは……。

谷川 （さえぎって）それは絶対に取り入れるべきではないですね。スタイルはこのままでいいけど、問題は格闘技を知らない世間の人たちとどう闘うかだよね。今年の大晦日は何

サダハルンバが考えるDREAMファイターの課題

秋山成勲
入場曲を『Time To Say Goodbye』から『スリラー』に変える。PRIDE時代のアンデウソンさんばりにムーン・ウォークを披露。意外とブーイングは消えたりして。

川尻達也
まずタニーと仲良くなること！「んあ～!」「凄～い、凄～い!!」など、谷川語録のマスターからスタート。いずれは石田くんを交えてお食事会。T-BLOODの“T”は谷川の“T”だ。

宇野薫
33歳のプリンスにサダハルンバが求めるのは、さらなる進化。得意の“宇野逃げ”が炸裂した試合であったが、青木をはじめ格闘新世代を上回る活躍が求められる!

青木真也
必要なのは、試合スタイルを含めた知名度。本人の努力というよりも、いかにプロモーター側が打ち出していくかがカギ。そういう意味では今回は幅を持たせた準優勝で正解!?

所英男
ズバリ「顔が0点!」と厳しい一言。プロなら入場時もイキイキした顔で登場し、お友だちの顔も殴らないといけない!　サダハルンバの顔を殴るつもりで闘ってほしい。

大会のスタイルはこのままでいいけど、格闘技を知らない世間の人たちとどう闘うかだよね

か仕掛けないとダメだとは思います。ありきたりだけど、バリバリのオリンピック選手を連れてくるとか。

——たとえば『戦極』と対抗戦をやっても、世間的にはあんまり届きそうもないですよね。

谷川 あんまり意味ないね～。だって世間的にはDREAMと『戦極』の違いがわからないもん。だから、DREAMに吉田（秀彦）選手が出てないんだというのがあんまりわからない。ケガで出てないくらいの感覚でしょ。

——じゃあ、世間のイメージでいえば、『戦極』で興味があるのは三崎さんぐらいですか？

谷川 秋山くんとの試合はみんななんとなく覚えてるよね。ボクも三崎くん個人には興味はあるけど、最近負けたんでしょ？

——いや、勝ちましたよ（笑）。

谷川 んあ～！　ボクが覚えてない。

——谷川さんが〝世間〟そのものかもしれない（笑）。となると、内の熱を保ちつつ、外に発射できるものって難しいですよね。イロモノになっちゃいけないけど、コアすぎてもよくない。〝世間代表〟の谷川さんにお聞きしますが、ミルコvs秋山なんかはどうでしょう？

谷川 いいんじゃない。

——ありがたき幸せです（笑）。

谷川 あとね、秋山vs○○○○もいいと思うなあ。

——あ、それもアリですね。

谷川 これはおじいちゃんやおばあちゃんも観るでしょ。

——かつ格闘技的な興味も損なわないですし。

谷川 そのくらいのことをやらないと。だから、秋山vs田村も観たいけど、大晦日でやるのはちょっと違うもん。ここ2、3年ぐらいまでは、大晦日に田村vs秋山でよかったと思うんですよ。でも、いまはそういう時代じゃないですよね。

——つまり、いままでは〝待ちの姿勢〟で自信があるものを提供していればよかったけど、01～03年頃のように積極的に営業をかけないと難しいんですね。

谷川 そうそう。首根っこつかまえて振り向かせる仕掛けが必要だね。あと若い子向けには、魔裟斗vsKIDじゃないけど、そういうカードを作りたいんだけど、いまのDREAMって、魔裟斗やKIDくんみたいに飛び抜けた知名度がある選手はいないから。でも、とくに飛び抜ける必要はなくて、たとえばヨアキムの挑戦者ってJZカルバンがいいと思うんだよね。JZが勝ったらまた関係が複雑になるじゃない。

——で、JZに川尻達也が挑戦して勝ったら、宇野薫の出番！　向こう2年間はマッチメイクの心配はありません（笑）。

谷川 MAXって魔裟斗を頂上にしている世界だけど、DREAMは混沌としているこの紙一重の世界のおもしろさを見せていくべきですね。

——かつてのPRIDEの世界ですよね。で、9月のミドル級GPもゴールデン中継ですけど。

谷川 ホントにね、冗談じゃなくて、ここで数字を獲らないと大変なことになるよ。終わっちゃうよ～！

——ズバリ言って、ライブの地熱はともかく、ミドル級GPのメンツは世間的には苦しいですよね。谷川さんが名前を覚えてるかどうかも怪しい（笑）。

谷川 知ってるよ…………。

——…………。

——ククククク。

谷川 早く笹原くんたちと話をしなきゃダメだなあ！　こうなったら秋山くんをシードにしようかなあ……。冗談だけど。

——全然冗談に聞こえません（笑）。

【08年7月22日／大阪市内・某ホテルにて収録】

ミドル級GPが行なわれる9.23『DREAM.6』でも地上波ゴールデンタイム放送が決定。今回以上に真価が問われる大会となるが、その行方やいかに!?

魔王が来たりて大阪炎上！　よみがえる“世界最高峰”の熱気！

DREAM

格闘麻薬中毒座談会

大阪初上陸となった今回のDREAMは、ミルコ・クロコップと山本“KID”郁徳の欠場を忘れさせるかのように大盛況！
リザーバーのヨアキム・ハンセンの優勝という誰もが予想しえないエンディングとなったライト級GP決勝ラウンドに、
DREAM初試合の“魔王”秋山成勲のブーイングまみれの地元凱旋……。
まさに麻薬的なおもしろさだった『DREAM.5』を大会直後に徹底検証！　真夏の夜のDREAMを語りつくします！

試合写真／乾普也

座談会出席者

井上崇宏
有限会社ペールワンズ総帥。本誌好評企画・変態座談会の一員にして、“座談会の鬼”の異名を誇り、鈴木みのるばりにあちこちの席に出没する。

堀江ガンツ
本誌編集部。ちっちゃな頃から変態的プロレスファンとして鳴らす。ダメな30代から共感される変態のカリスマであり、変態座談会主催者。

[司会]ジャン斉藤
本誌編集長。“雀鬼”桜井章一の内弟子を経て『Kamipro』編集部へ。永久電機など、アントニオ猪木の怪しげな事業の調査をライフワークとする。

――さて、先ほど『DREAM・5』が終わったわけですが。

ガンツ　（さえぎって）いまさらだけどさぁ、格闘技ってホンットいいもんですねぇ……（しみじみと）。

――あ、もう酔っぱらってますか。

ガンツ　いや、酔ってるというより、時事ネタで言えば麻薬みたいに中毒性のあるおもしろさだったというか。

井上　思わずホームパーティを開きたくなりますか。

――それはタイマー……じゃなくて、ずいぶんタイムリーなネタですねぇ。

ガンツ　いや、でも本当に凄い大会だった！　俺が秋山成勲だったら韓国語で『一つの愛』を熱唱したいくらいにハイな気分ですよ！

井上　ちょうどこの収録場所も韓国料理店だし（笑）。

――とくにライト級GPは凄かったですね。まるで往年のPRIDEを観ているかのような内容で。

ガンツ　全盛期のPRIDEのようだったよね。ただ、いい試合というだけじゃなく、壮大な群像劇を見ているような感じだったじゃない？　今回のDREAMはそんな感じで。

ライト級戦線は誰が最強なのか わからない状況だからおもしろい

井上　……じつは昨日、恥ずかしながらライト級のことを考えてたら、朝まで寝れませんでした（笑）。

――ええ？　ライト級にはあんまり興味のない井上さんが？　誰に対してのウソですか？

井上　ウソじゃないって！　ホント、ホント。なんか考えたね。っていうかね、ちょっとでも今回のライト級GPに触れちゃったら、そりゃ感情移入しちゃいますよ。

――でも、『PRIDE武士道』にはさして興味なかったですよね？

井上　まるでなかったねぇ。

――『武士道』の世界はスポーツライクというか、あまり物語性に富んでないっていうイメージがあったわけじゃないですか。

ガンツ　もちろん、『武士道』のライト級もおもしろかったんだけど、あれって「五味隆典物語」だったんだよね。五味という主役一人がチャンピオンになるまでを描いたものだったんだけど、今回のライト級GPでは、かつてのPRIDEのヘビー級戦線と同じように全員個性的でファイトスタイルが違う選手たちによる、崇高な世界が誕生したっていうか。

――『DREAM・1』のドタバタのときは、「これは五味隆典がいない『PRIDE武士道』だ」と吠えていた堀江ガンツも絶賛！（笑）。

ガンツ　……ずいぶんヒドイ言い方をしたもんだね～。となると、『戦極～第四陣～』は「五味隆典がいるMARS」かな？

――もっとひどいですよ！（笑）。それより今回のGPはベスト4ファイターそれぞれに重厚な物語があった。で、最後の最後にハンセンが大どんでん返しで優勝っていう。

ガンツ　簡単にハッピーエンドにならないとこもPRIDE的なんだよ。

井上　そういえばさ、『アフリクション』でヒョードルが（ティム・）シルビアに圧勝したじゃない？　あれ観たときに思ったことは、「やっぱり今回は青木は優勝しないほうがいいな」って。早々に答えが弾き出されないほうがいいっつーか。

ガンツ　いい意味で、最強が誰だかわからなくなりましたよね。たとえば、もしヒョードルがあそこで負けてたら、つまらない「最強がわからない」状態だったと思うんですよ。ヒョードルが普通の人になっちゃった、みたいな。それに比べてライト級GPは、みんなが最強に近い位置にいるからこそ、「誰が最強かわからない」からおもしろいって感じになって。

――しかし、負けた選手の価値がここまで落ちないGPも珍しいですね。

ガンツ　川尻にしても、エディ・アルバレス相手に日本人が真正面からあんな打ち合いをしたっていうのは、我々の持っていた常識を超えた次元にいっちゃってましたよ。

井上　さっきTKに会ってたんでしょ？　TKもビックリしてた？

ガンツ　青木vs宇野の試合を含めて「今回はお手上げやわ！」っていう。

――三沢vs川田戦の馬場さん状態ですね（笑）。

ガンツ　俺は何回かUFCに取材に行って、MMAのレベルがとんでもないところまできてるなっていうのを感じてるんだけど、今回は同じ感覚を日本でひさびさに味わいましたね！

vs魔王に向け神頼み？ 柴田が背負った覚悟の重さ

――井上さん注目の柴田vs秋山戦はどうですか？

井上　柴田vs秋山戦……柴田が完敗したっていう感想でもなくない？

――柴田が負けたっていうよりも、秋山vs柴田という一枚の〝絵〟として完成されているなって感じですよね。

井上　まず戦前の秋山のあの余裕の態度って、あれは作りじゃなくて完全にナチュラルだと思うんだけど。

ガンツ　ホントに余裕っていう。

井上　あれがプロレス業界でいう、いわゆる〝焚く〟っていう行為というかさ。ナチュラルにうまくこの対決を焚いてんなっていう。

ガンツ　で、柴田は柴田でかわいそうなぐらい思い詰めてて。

井上　そう。やっぱり自分個人がっていうよりも、プロレスラーがなめられてるって部分で本当に殺意とかも湧いてたと思うんだ。

ガンツ　こないだ井上弁護士には〝検察側〟として柴田の罪をどんどん指摘していただきましたけども。

井上　あのあと柴田にインタビューしたんでしょ？

ガンツ　はい。本人に尋問し、ここであらためて判決を出したいと思います。……無罪！

井上　無罪放免！　ほら、言わんこっちゃない（笑）。

ガンツ　ええ、完全に無罪でした。

――もうちょっと審理を（笑）。

ガンツ　いやいや、柴田はホントに純粋でしたよ。今回負けたら自分がどうにかなっちゃうぐらいのテンションで挑んでたのが、本人と話してるとビンビンに伝わってきたんで、これはもう……。

井上　無罪!!　よし、これからガンツくんが誰かを批判したらすぐ本人に会わせよう！（笑）。

――前田日明に会わせないと（笑）。

ガンツ　「死刑！」みたいな（笑）。

井上　そういえば試合前に柴田は力道山のお墓参りをしてるんだよね。

ガンツ　力道山先生の墓参り！　い

オラオラモードの川尻はアルバレスとMMA史上に残る壮絶なシバき合いを展開！　敗北を喫するも、アルバレスは次戦を棄権することに。宇野への対戦表明を含め、GPに大きな爪痕を残した川尻はトーナメントの隠れMVPだ！

ファンは『DREAM・5』をどう見たか？ 『kamipro Hand』アンケート結果発表
（アンケート期間7/21～22）

Q1 『DREAM・5』をどのようなかたちで観ましたか？

観戦方法	満足	不満足
会場観戦	11%	1%
PPV観戦	23%	2%
地上波観戦	47%	16%

『DREAM.5』は8割が満足！　会場が大阪、地上波が21時、PPV放送が23時からの変則的スタイルに「どうやって観るか？」が問われたが約4割が地上波観戦。

Q2 今大会のベストバウトは？

順位	試合	票数
1位	青木真也vs宇野薫	408票
2位	エディ・アルバレスvs川尻達也	327票
3位	秋山成勲vs柴田勝頼	72票
4位	ヨアキム・ハンセンvs青木真也	67票
5位	中村大介vsアンディ・オロゴン	32票

1位は、変幻自在の寝技で追い込む青木と耐えまくる宇野という構図が異常熱狂を生んだ青木vs宇野。続いて、魂荒ぶるド突き合いの川尻vsアルバレス。3位は、地元でも大ブーイング爆発の"マイケル・ジャクソン"秋山のDREAMデビュー戦。

Q3 今大会のワーストバウトは？

順位	試合	票数
1位	弘中邦佳vs宮澤元樹	301票
2位	中村大介vsアンディ・オロゴン	153票
3位	秋山成勲vs柴田勝頼	141票
4位	アリスター・オーフレイムvsマーク・ハント	102票
5位	ヨアキム・ハンセンvs青木真也	39票

不名誉な記録に選ばれたのは弘中vs宮澤戦。両者攻め込めず、会場は弘中に、「コシナカー、ヒップアタックー!」のヤジが繰り返し飛ぶ惨劇空間に。2位は、地上波でたっぷり盗撮男逮捕のオロゴン劇場を流したのが反感を買った？

い話ですねえ、それは。それってホントに神頼みだったと思うんだよね。

——魔王を倒すべく。

ガンツ そう。オーちゃんが吉田秀彦戦の前に破壊王の墓参りしたのとは意味が違うから。

井上 そうそう、『東スポ』の記者とカメラマンを連れてないから（笑）。

ガンツ ホントに〝プロレスの神様〟への神頼みだなあ。

井上 そのへんがね、純粋っていう言葉だと誤解されるかもしれないけれど、秋山と一緒で柴田は柴田でナチュラルなんだよね。

ガンツ だから、今回の柴田って、へんな話、佐山vsマーク・コステロ戦とか、田村vsパトスミ戦とか、それぐらい孤独で決死な覚悟がありましたよ。

井上 おまえ、俺より弁護してるじゃねえかよ！

——普通、拷問を受けてもここまで転向しないですよ（笑）。

ガンツ あっという間に〝柴田派〟に転向ですよ！ べつに柴田が好きになったわけじゃないですよ、でも今回に関しては完全にあり！

——今回はいい構図ですよね。会場は柴田に「勝ってくれ」って雰囲気で。

ガンツ だから髙田vsヒクソン戦にも通じるものがあるというか。ここで負けるのを恐れて柴田に乗らなかったら、つまんないですよ！ ただ、観た人の評価は落ちてないけど、本人はとてつもなく落ち込んでると思うんですよ。もうトラウマになるぐらい悔しいんじゃないかって。そういうのが美しいというかね……。

——世界中の誰よりも柴田を弁護してる。いや、妄想の領域だ（笑）。

ガンツ きっとね、いま道場に戻って一人でスクワットしてる頃だと思いますよ……（しみじみと）。

井上 ここ、大阪だろが！ さすがにホテルの部屋にいると思うよ（笑）。

魔王の次なる闘いのステージは無差別級？

——で、今回は秋山も凄かったじゃないですか。花道でブーイングしてる客とやり合ってて。

井上 そうそう、中指立てて挑発してるお客さんと視殺戦（笑）。大阪はホームグラウンドだって意識だったんだろうね。それが凄いよな。

ガンツ もう、いまや遅しとブーイングするの待ってるのに（笑）。

——ビジョンに顔が映った段階でブーイングですからね。それで揺れない魔王って凄いですよ（笑）。

井上 俺、地元の岡山に帰ってあんなブーイングされたらヘコみますよ！

一同 ダハハハハ！

井上 帰れないよ、地元であんなブーイングされたら。そういえば柴田になんか話しかけてたね。あれなんて言ってたんだろうね？

ガンツ 上から目線で言ってるような気はしますけどね。本人がよけい傷つくような慰めをしてるような。

井上 気になるなあ。

——読者から募集したいですね、秋山はなんて言ったのか？

ガンツ 『バカサイ』みたいに。

井上 それで椎名（基樹）さんに選考してもらって。

——試合後のコメントもいいですよね。「雑誌でいろいろ文句を言ってる田村選手とやりたい」（笑）。

ガンツ ウチのことだよね（笑）。

——ボクは田村よりもミルコがいいんじゃないかなっていう。

井上 笹原さんもほのめかしていたよ「無差別」というくくりでいえば。

ガンツ 主催者やテレビ局としては「ハンパない数字」獲るために、知名度が高い選手と闘わせたいんだろうけど、どうせだったら、K−1で無敵すぎるセーム・シュルトとか、ホントに〝無差別感〟がある選手でもいいよねぇ。でも、バンナは絶対にやめてほしいな。一番ありがちだけど。これってプロテクトだと思われるでしょ。

新世代ファイターの台頭 進化し続けていくMMA

——視聴率の発表は明日ですけど、KIDもミルコも欠場しちゃってテレビ的には大変ですよね。

井上 所くん登場はそういう意味合いもあったんでしょ？

——所くんの役割って重要ですね。

ガンツ それでよく勝つよねえ、交通事故にも遭ってさ。

井上 うしろから突いたのTBSの可能性もあるよね？

一同 ダハハハハ！

——話題づくりで。たぶんアンディ・オロゴンが捕まえた人もTBS？

井上 それもおそらく……ってそんなわきゃないね（笑）。

——まあ、KIDの欠場はテレビ的には影響大なんでしょうけど、ライブではKID不在の喪失感ってほとんどなかったですね。

井上 うん。ライト級GPと秋山vs柴田戦だけで充分だったよ。

——でも、青木vs宇野の攻防とか、一般視聴者にはわかるんですかね？

ガンツ いや、ああいうのってパッ

マイケル秋山の悪魔のささやき？
魔王は試合後に柴田に何を言ったのか？

この吹き出しに合ったセリフを考えてね！

「韓国では凄い人気」「視聴率とかハンパないと思いますよ」——ますます増長にターボがかかる“闘うエンターテイナー”マイケル秋山。心がネバーランド状態の魔王が柴田に贈った言葉とは？【例=「よくやった！ よくやった！」（須藤元気に勝ったときの山本KID調）】

Q4 今大会のMVPと大会の感想は？

選手	割合
青木真也	28%
ヨアキム・ハンセン	18%
川尻達也	15%
宇野薫	13%
秋山成勲	11%
エディ・アルバレス	7%
ライト級全員	3%
中村大介	2%
その他	3%

- 神様にしか書けないシナリオだった！ ハンセンとアルバレスのタイトルマッチが早くみたい。宇野をはじめとするライト級日本人選手の今後にも期待してます！
- いい試合ばかりで見ごたえがありました。大晦日、戦極vsDREAMの対抗戦を見たいです！
- 川尻はこの敗戦でさらに強くなって戻ってくるでしょう。体格で劣るのにアルバレスと互角以上に渡り合ったのはすばらしい！
- 一日2試合はやめてほしい。あと3位決定戦もやってほしい。
- 柴田は観る側の気分をやたら高揚させた。海外修行して、生まれ変わって強くなってくれ！

Q5 今後のDREAMに望むことは？

- PPVは生中継でお願いします、真夜中の終了は眠い……。
- 秋山対田村が見たい。
- ベビー級の試合を増やして欲しいです。軽量級が熱いですけど、ベビー級の迫力も見たい！
- カード発表をもっと早く！ アンディ、アリスターの試合の組まれ方は気の毒。
- 中村大介の試合がもっと見たい！
- 秋山には、打撃の強い選手を当てて欲しい。
- 世間に広める努力をして欲しい。今は一番苦しいと思う。3年後、5年後を見据えたマーケティングをしてほしい。
- PRIDEがそうであったように、本物を求めるマッチメイクを組んで欲しい。持続的な熱はそこからしか生まれません。秋山、KIDにも強豪とのマッチメイクを！
- 秋山とミドル級トップ選手の試合をどんどん組んで欲しい。無差別級なんていって寝技のできないK−1の選手相手にお茶を濁すな！
- TBSには毎回ガッカリします。佐藤大輔さん、大変だとは思いますが、頑張って下さい！

格闘麻薬中毒

ションで届いちゃう部分が絶対にあって。細かいことはわからないけど、凄い試合だっていうのは伝わってると思うよ。技術的なこと言ったら、俺だって正直わかんないし、それどころか、あのTKが「わけわからん」って言ってるぐらいなんだから。

井上 TKですら「わけがわかんなくなってる」っていうのはいい話だよね。ただ、TKがわけわからないぐらいの技術の進化ぶりをあの4選手が見せられるのってなんでなの?

ガンツ 大会を重ねるたびに、それぞれが技術向上してて、TKもそういう技術があることは知識としてわかってるけど、その新しい技術同士がぶつかるところはまだ観たことがないんですね。で、実際に試合が実現して初めて「あ、こういう結果が出るんだ!」っていうのを知るっていう。

井上 なるほど、そういうことか。それと、なんでふだん大久保や茨城の片隅でやってるような人たちがどんどん最先端で技術を上げてっちゃってるわけ? 見た目はそんなに強さを感じさせないのに、青木ってなんであんなに勝てるんだろうな〜。いまさらながら、俺ちゃんと青木の練習を見学してみたくなっちゃったな(笑)。

ガンツ この前、元プロレスラーの新倉史祐さんの店に飲みに行ったんですよ。そうしたら新倉さんが「青木選手ってどこで練習してるの? 新日の道場じゃないよね? なんで寝技知ってんの?」って聞いてきて。シュートの技術は新日の道場以外じゃやってないと思ってらっしゃるみたいで(笑)。

井上 ああ、「全日じゃ寝技教えてねえだろ」っていう昭和新日イズムだ(笑)。

——それくらい観る側が追いつけない、と(笑)。

井上 でもさ、ここでTKも自分で「わからない」って言うところが、自分の売り方をわかってるよね。

ガンツ それも頭がいい(笑)。TKが「わからない」って言ったら、ちょっとしたマニアとか記者とかがしたり顔で言えないですよね。

——某記者は青木にわかったような質問してましたけどね(笑)。

井上 だから技術論に傾かない『kamipro』の方針は正しいんですよ。

ガンツ あ、恐縮です(笑)。だからマニアとか格闘技記者なんかU－STYLEなんて、馬鹿にしきってるだろうけど、TKは中村大介の飛びつき腕十字にもビックリしてたのよ。

井上 中村のお手本ってさ、田村がヤマヨシに極めたヤツでしょ。

ガンツ きっとそうでしょうね。あれカッコいいなって(笑)。

——そういう伝説を見て「練習すればできるんだ」と思ってきたわけですよね。青木も、ファン目線のイメージをそのままリングに叩きつけてるところがあると思うんですよ。

井上 イメージに自分が追いついちゃったのか。

——だから極真の伝説を門下生が真剣に挑戦していた〝昭和の極真〟と同じですよね。

井上 ちゃんと2本指で逆立ちする人がいるような。

じつはPRIDE的な価値観がいま世界のMMAで花開いてる

——よくMMAブームを終わったと言う人がいるけれど、あのときの目撃者が、いま選手として花を開いてるところもあって、これから新しい時代が到来すると思うんですよね。

ガンツ 今回のミドル級GP出場選手とか、MMAを次の次元に上げることができる世代が出てきてますよね。中村大介とか、ホントいい意味でバカじゃないですか。レガース着けてくるだけでバカだし。なんか理想のUWFを体現しようとしているよ。

——柴田だって理想のプロレスラー像がありますもんね、きっと。じゃなかったら力道山のお墓参り行かないですもんね。

ガンツ 大真面目なんでしょうね。大真面目に神頼みって素敵ですよ、人間らしくて。

井上 やってる本人大真面目ですよ。やっぱりね、人間、真面目な人が一番ですよ、絶対!

——結論としては○○なんかやっちゃダメだ、と。

井上 そういう意味じゃないよ!(笑)。

ガンツ いずれにしてもDREAMはこれだけおもしろいし、8月からはWOWOWでUFCの中継も再開される。そのほかに『戦極』もあるし。いま、MMAって世界的にメチャクチャおもしろい時期に来てると思う。PRIDE的な価値観がじつはあちらこちらで花開いてるというかさ。こりゃもう、ますますやめられませんな。

——やっぱり格闘技は麻薬的なおもしろさがありますね!(笑)。

ガンツ 一服してるヒマもないよ!

【08年7月23日／『DREAM・6』直後に大阪市内の韓国料理店にて収録】

暗い話題もすべて笑い飛ばせ!
Kamipro Handで好評連載中!

ニュース特選! Kamiの一週間

大成功の『DREAM.5』とKIDのスキャンダル報道にもの申す

(7・22更新分より)

『kamipro Hand』で毎週火曜日更新の「人気連載ニュース特選! Kamiの一週間」。このコーナーでは、プロレス&格闘技好きなカントリーロックバンド「アーニーラッズ」のボーカルの松さんとギターの竹内さんが、1週間のマット界で起こった気になる出来事を語りまくり! 興味を持った方は『kamipro Hand』にレッツ・加入!

「大成功のDREAM、次は『男祭り』超え?」

松 ミルコ欠場、KID欠場、そしてハントの対戦相手は決まらずと、一時はどうなるかと思われた『DREAM.5』、終わってみれば大成功だった。

竹内 ハントvsアリスターは大会二日前に発表。ミルコvs水野の大会3日前発表の記録を見事に更新した。

松 そんな記録更新しなくていいよ!

竹内 なお、国内メイン級カードの直前発表最高記録は、03年の大晦日『男祭り』の桜庭vsホジェリオの大会前日発表。今後のDREAMにはこれを超える当日発表が期待されます。

松 そんなこと期待するな! それにしても『DREAM.5』は好勝負の連続。とくにライト級GPは凄まじかった。

竹内 そして、とくにウェルター級ワンマッチが凄まじくなかった。

松 そんなこと言わなくていいんだよ! ライト級GPが準決勝で川尻を破ったアルバレスが眼窩底骨折の疑いでドクターストップがかかり、代わりにリザーブマッチに勝ったヨアキム・ハンセンが決勝進出。青木真也を破り、大逆転の優勝を飾った。

竹内 まさに誰も予想できない結末。『シベリア超特急』並の大どんでん返しだ。

松 『シベ超』並って、もうちょっとマシなたとえがあるだろ! いずれにしても、DREAMライト級戦線は初代王者が決定し、なお混沌としてきた。

竹内 真の決着をつけるためには、次回『DREAM.6』から第2回DREAMライト級GPをスタートさせるしかないな。

松 やらないよ! 選手を殺す気か! ライト級GP出場選手の皆さん、ひとまずお疲れさまでした!

「山本KIDのスキャンダル報道にもの申す」

松 それにしても残念なのはKIDの欠場。試合前に右ヒザを負傷、全治6カ月の大ケガと診断された。

竹内 ケガの原因はマンションの9階から飛んだ際、着地に失敗したとのこと。

松 違うよ! 跳びヒザ蹴りの練習で着地に失敗したんだよ!! KIDにとっては、ヒザの怪我、そして週刊誌のスキャンダル報道と災難続きだ。

竹内 スキャンダル報道って、また『週刊現代』だろ? あんなクソ週刊誌! ちぎって、丸めて、火をつけて、吸ってやる!

松 吸っちゃダメだよ!

竹内 それなら吸った後、さらにトイレに流してやる!

松 流すな!

竹内 そんなこと言っても、俺、芸能人じゃないから何でもやっちゃうよ〜!

松 やかましい! 誤解を招くことばかり言うな!! なお、KID自身は週刊誌の報道について「自分にとっては身に覚えのない話です」とコメントしている。

竹内 さらに「もうパンツ穿かない」ともコメント。

松 言ってねーよ! 勝新か! いずれにせよ、KIDはあせらずしっかりケガを治してほしいね。

竹内 うん。あせる必要はない。ちょっと一服するぐらいでいい。

松 だから一服はしなくていいよ! そして、DREAMの前々日、世界のMMAを揺るがす大一番があった。

竹内 そう。前田日明プロデュース、第2回『THE OUTSIDERS』。

松 違うよ! なんで不良のケンカ大会が世界のMMAを揺るがすんだよ!

竹内 何を言ってるんだよ。『THE OUTSIDERS』は出場選手の大半が山本KID級だからな。私生活の話だけど。

松 やかましい! さっきから誤解を招くようなことばかり言うな! 俺が言ってるのは、MMAの世界を揺るがすヘビー級の大一番だよ!

竹内 ああ、失礼。世界が注目するヘビー級タイトルマッチを忘れていたよ。ノアのGHCヘビー級選手権、森嶋猛vs力皇猛!

松 全然違うよ! なんでノアが世界のMMAを揺るがすんだよ! 俺が言ってるのはアフリクションのヒョードルvsシルビアだよ!

竹内 ああ、失礼。ヒョードルが前UFCヘビー級王者シルビアを一方的に叩きのめしたんだろ?

松 そう。たった36秒の圧勝劇。これにはダナ・ホワイトも言葉を失っただろうね。

竹内 UFC王者が36秒か……。となると、その倍近い62秒も闘った永田さんはUFC王者の倍の強さということか。やっぱり永田さんが最強だ!

松 なんでそうなるんだよ! いいかげんにしろ!

スパーリング中に右ヒザ前十字靭帯の部分断裂で全治6ヶ月という大ケガを負った"神の子"KID。スキャンダル記事が掲載された『週刊現代』の発売と、DREAM欠場のタイミングがバッチリ合ってしまったのは神のイタズラか? ちなみにKIDは記事に関して「自分にとっては身に覚えのない話」と、淡々とコメント……神のみぞ知るところで、神の子は知らないのであった。

kamipro SHOPPING

通販やってます!

みんなで広げよう!『一、十、百、戦極! 戦極!!』

青木フンドシ Tシャツ[☆]
[M・L・XL ブラック]¥3,990(税込)

一、十、百、戦極!! 戦極!! Tシャツ[☆]
[M・L・XL ブラック]¥3,990(税込)

マッスル スターウォーズ Tシャツ[☆]
[S・M・L・XL イエロー]¥3,150(税込)

KamiproマスクTシャツ[☆]
[S・M・X・XL ホワイト×レッド]¥3,990(税込)
M,Lサイズ売り切れ

"殺し"キャップ
[フリー ネイビー×ホワイト]
¥3,150(税込)

I編集長"殺し"Tシャツ[☆]
[M・L・XL ブルー]¥3,990(税込)

マサ斎藤Tシャツ[☆]
[M・L・XL ブラック]¥3,150(税込)
©mmsaito Co. Ltd. 2007 All Rights Reserved.

インリン様女神「FIGHT」Tシャツ[☆]
[Lady's M ホワイト×ブラック]¥3,990(税込)

100号記念特製
巨大バスタオル
[タテ132cmヨコ68cm ブルー×オレンジ]
¥3,150(税込)

インリン様女神「LOVE」Tシャツ[☆]
[M・X・XL ホワイト]¥3,990(税込)
Lサイズ売り切れ

インリン様女神「LOVE」Tシャツ[☆]
[Lady's M ホワイト]¥3,990(税込)

インリン様女神「FIGHT」Tシャツ[☆]
[M・L・XL グレー]¥3,990(税込)
Lサイズ売り切れ

モンスター°Cマスク
[FREE ブラック×イエロー]
¥5,250(税込)

赤鬼蜘蛛マスク
[FREE レッド]
¥5,250(税込)

ハッスルGP Tシャツ
[XS・M・L・XL ネイビー/カーキ]¥3,990(税込)

MONSTER°C Tシャツ
[140・XS・M・L・XL ブラック]¥3,990(税込)

ボノちゃんTシャツ
[140・XS・M・L・XL ブラック]¥3,990(税込)

[販売元]ダブルクロス

『kamipro』通販方法

- 通販はすべて代引きです。お支払いは、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。
- 全国どこでも送料一律500円です。(何枚でも可。離島・山岳部の方はお問い合わせください)
- 代引き手数料は315円です。(代引き金額によって異なります)

[『kamipro Hand』でご注文の場合]
詳しくは『kamipro Hand』の通販コーナーをご覧ください。ご注文後、確認メールを送りますので注意してご覧ください。

[電話でご注文の場合]
(株)ダブルクロス TEL.03-5368-1797
(平日13:00〜19:00)

[kamiproオリジナルTシャツ サイズ表]
☆マークのものがKamiproオリジナルTシャツです
(単位はcmです)

サイズ	S	M	L	XL
身丈	66	70	74	78
身巾	49	52	55	58
袖丈	19	20	22	24

※価格はすべて税込みです

Professional Wrestling Hall of Fame

"男の憧れ" マサ斎藤 レスリング殿堂入り式典

独占インタビュー&リポート

「俺のレスラー人生にピリオドが打てた」

我らが"男の憧れ"マサさんがレスリングの殿堂入り！　米国アイオワ州ウォータールーにある、プロレスとアマチュアレスリングの博物館『ダン・ゲーブル&ルー・テーズ・レスリング・ミュージアム&インスティチュート』で、マサ斎藤が、日本人としてはアントニオ猪木に次いで二人目の殿堂入りをはたした。6月28日に行なわれた、その表彰式典出席のために渡米したマサさんを帰国後、独占直撃！ 多くの名レスラーと再会したお土産話をお届けします。

聞き手／堀江ガンツ　協力／エムエム・サイトー

――マササん、このたびは世界で唯一のレスリング博物館「ダン・ゲーブル&ルー・テーズ・レスリング・ミュージアム&インスティチュート」の殿堂入り式典に参加されたそうで、長旅お疲れさまでした！

マサ　3週間も行って、いろいろあったから疲れたよ（笑）。

――殿堂入り式典以外にも、いろんなところへ行かれたんですか？

マサ　殿堂入り式典はアイオワであったんだけど、だいたいミネアポリスにいたね。俺の盟友、ブラッド（・レイガンズ）が、いろんなレスラーや関係者、友だちを紹介してくれてね。ブロック（・レスナー）の別荘でボートに乗ってビールを飲んだり。独立記念日の週末には、ブロックやレイナ（セイブル）も一緒にブラッドの田舎に行って、湖畔でバーベキューやったり、楽しかったよ。

――へぇ、レスナー&セイブル夫妻とバーベキューですか。

マサ　ブロックは8月9日にUFCの試合があって忙しい中、歓迎してくれたよ。でも、練習は一生懸命やってたね。

――レスナーの練習もご覧になられたんですか。

マサ　ブロックは自宅の敷地内にジムがあるんだよ。そこに若い選手を呼んで、トレーニングキャンプ張ってたんで、見せてもらったよ。あと、セントポールでシュートのテクニックを練習してるらしいよ。

――シュートのテクニック！　サブミッションの練習とかですね。練習をご覧になってどうでした？

マサ　ブロックは強いね。身体もプロレスの身体じゃなくて、シュートの身体になってた。昔は筋肉をつけすぎてたけど、いまはシャープにパンチを打てる筋肉になってたよ。

――レスナーとは、いろいろお話しもされたんですか？

マサ　もちろん。ブロックはもうプロレスはやらないって言ってたね。もうシュートで充分稼げるし、強いし。ケガさえしなければ、トップになれるんじゃないかな。UFCのデビュー戦（vsフランク・ミア）は足首を極められたらしいけど、ほとんど勝ってたんでしょ？

――最後にヒザ十字固めを極められるまでは、ほとんどレスナーが勝ってましたね。

マサ　あのときブロックは高熱があったらしくて、それで試合をすぐに終わらせたかったって言ってたよ。まあ、でも彼は頭がいいから、シュートのテクニックも練習してるし、もう同じ手は食わないよ。

――マサさんも若い頃は、レスナーみたいなタイプだったんじゃないですか？

マサ　ぐふふふ（笑）。

――レスリングが強くて、パワーがあって。

マサ　俺の時代は、そういう試合がしたくても相手をしてくれるヤツがいなかったよ。俺が若かったら、どうだったかわからないけどね（笑）。

――マサさんの総合格闘技はぜひ観てみたかったですけどね（笑）。殿堂入り式典では、いろいろと懐かしい顔と再会できましたか？

マサ　会えたね。ダニー・ホッジ、ロディ・パイパー、ボブ・ループ、ブレット・ハート、ハーリー・レイス、バロン・フォン・ラシク、レッド・バスチェン。一番再会を喜んでく

アメリカではタフじゃなきゃ生きていけない。我ながらよくやったと思うよ

れたのがカート・ヘニングの親父、ラリー・ヘニングだったね。

——ＡＷＡで一緒にサーキットした仲ですもんね。

マサ　あとダニー・ホッジがよく話しかけてきたよ。

——ホッジですか。やはり実力者は実力者を知るんですかね。

マサ　ホッジはレスリングもボクシングも強くて、いまだに凄い握力してるらしいよ。

——ホッジとは一緒にサーキットしたことがあるんですか？

マサ　アメリカではないんだけど、日本で一度試合をしたことがあるよ。東京プロレスと国際プロレスの合同興行。でも、そのときは向こうはトップで、俺はまだ若くてヘタだったから、試合中、ホッジに蹴飛ばされたよ（笑）。

——しょっぱい試合しやがって、と（笑）。

マサ　今回、そのときの話をしたら、ホッジは「俺はそんなひどいことしてない」って言ってたけどね（笑）。実際、蹴飛ばされたんだよ。ほかにもいろんなレスラーと懐かしい話をしたよ。

——殿堂入り式典はどんな感じだったんですか？

マサ　昼間はファンサービスの表彰式とサイン会。夜はディナーパーティだったね。

——壇上でスピーチとかあったんですか？

マサ　したよ。

——どんなスピーチをしたんですか？

マサ　ちゃんとしたことしゃべったんだよ。「アメリカは私に多くのことを教えてくれました。プロレスラーとしての生き方、仕事の仕方、人との付き合い方。私は、そのすべてを日本へ持ち帰りました。そして無事に引退して、いまこうして、ここにいられるのも、そのおかげです。この場をお借りして、アメリカのファンの皆さんにお礼を述べたい」って感謝の言葉を述べてさ。そして最後にジョークで「また長年にわたってアメリカ人レスラーを痛めつけてきた過ちを、ここにお詫びしたい」って付け加えたら、みんな大笑いで拍手してくれたよ（笑）。

——いやあ、いいスピーチですね（笑）。やはり20年間、アメリカで闘い抜いてきて、こうして殿堂入りできたというのは、感慨深いものがありますか？

マサ　そうだね。アメリカで闘ってた頃は、殿堂入りできるなんて考えてもいなかったよ。でも、これで俺のレスラー人生にいいピリオドが打てたと思うね。

——プロレスラー人生の総決算ができた感じですかね。

マサ　まあ、アメリカではタフで、力がなきゃ生きていけないからね。自分でもよくやったと思うよ。その証しがこの（殿堂入りの）盾だよ。それにしちゃ、ちゃちい盾だけどな（笑）。

——ダハハハハ！　もっと立派な盾がほしかった（笑）。

マサ　これじゃ、部屋に飾るにもカッコつかないじゃない。もうちょっと男前に書いてほしかったよな（笑）。

【08年7月19日／埼玉県・健介オフィスにて収録】

レスナーが運転するジープに同乗するマサさん。いまはプロレス界から離れたレスナーだが、マサさんをリスペクトし、マサさんもまたレスナーの実力を高く評価しているのだ。

ルー・テーズの肖像画が飾られた壇上で、殿堂入りのスピーチをするマサさん。『ワールドプロレスリング』の解説で鍛えた(?) ユーモアあふれる話術で、場内をおおいに沸かせたのだ。

まさに実力者は実力者を知る！　マサさんとダニー・ホッジのツーショット。お互いオリンピックレスラーであり、プロでもトップを取った、シュートもできる本物のプロレスラーだった。

いまやムービースターのロディ・パイパーも殿堂入り。ブレット・ハートは同じく殿堂入りした父親スチュ・ハートの代理人として来場。二人に挟まれているのがレッド・バスチェンだ。

マサさん同様、70年代のプロレス黄金期にNWA、AWA、WWWFの3大メジャーを股にかけて大活躍したバロン・フォン・ラシクとのツーショット。名優は引退してもルックスが最高だ！

ハーリー・レイスとラリー・ヘニングも来場。この二人、AWA世界タッグ王座に4度も就いた名タッグチームでもあるのだ。なおレイスの「ハンサム」という異名はパートナーであるヘニングの「プリティボーイ」に合わせたものだ。

Special PRESENTS

魔王ファッションに負けない
オシャレグッズ満載!!

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①〜⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます(商品は2008年9月2日以降発送予定です)。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事＆その理由⑥つまらなかった記事＆その理由⑦『DREAM.5』のベストバウトは?⑧「戦極〜第四陣〜」で楽しみなカードは?

【宛先】〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス『kamipro』編集部「マイケル秋山」係まで

※締切は2008年9月1日(月)当日消印有効

kamipro Special 応募券 アチャー!

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

DREAM

DREAM ■ http://www.dreamofficial.com/

秋山成勲“CLOUD5”Tシャツ

1名様

[グレー/¥4,200(税込)]

ケガで欠場しているあいだに韓国で歌にCMにと大ブレイク、一躍大スターの座にのし上がった秋山が所属する「Cloud」と“盟友”清原の背番号「5」がプリントされたTシャツ。

ミルコ・クロコップ Tシャツ

1名様

[ブラック/¥4,200(税込)]

『DREAM.4』、『DREAM.5』と参戦が決まっていたものの、ケガのために欠場中のミルコのTシャツを提供。これを着て、次こそミルコを会場で応援しよう!!

DREAM.5 ポスター

1名様

[B2サイズ/¥525(税込)]

“魔王”秋山もついに初参戦! 灼熱のライト級GP決勝ラウンドも行なわれるなど、豪華メンバーがズラリと並んだ『DREAM.5』のポスターを1名様にプレゼント。

K-1

FEG ■ http://www.k-1.co.jp/

K-1 WORLD MAX 2008-FINAL8 パンフレット

5名様

[¥2,100(税込)]

トーナメント準々決勝以外も新設立した60kg以下のライト級戦線などさらに広がりを見せた7.7 K-1 MAXのパンフレット。ベスト8ファイターのインタビューも収録!

“MAX-FINAL8”大会記念Tシャツ

2名様

[ホワイト/¥4,200(税込)]

魔裟斗がドラゴ相手に危なげなく勝利すれば、佐藤はブアカーオ相手に逆転KO勝利! ついに日本人両雄の対戦が決定、会場を沸騰させた7.7 K-1 MAXの大会記念Tシャツ。

青木真也 Tシャツ

1名様

[ブルー/¥4,200(税込)]

本誌はもちろん、kamipro.comでも日記連載スタート! その天才バカボンっぷりが加速する“バカサバイバー”青木真也のTシャツを1名様にプレゼント。

HUSTLE

ハッスル ■ http://www.hustlehustle.com/

Back

1名様

ハッスルGP Tシャツ

［ネイビー／¥3,990（税込）］

『ドラゴンボール』もビックリ！ 優勝したらどんな願いごともかなえられる！ という脅威のトーナメント『ハッスルGP 2008』のTシャツが到着だ！

NEW JAPAN

新日本プロレス ■ http://www.njpw.co.jp/

Back

1名様

越中「風が吹くって！」Tシャツ

［ホワイト／¥3,000（税込）］

まだまだ終わらないって！ 大きな風吹かせるって！ と「ハッスルGP」に参戦。今号でも緊急特集を組んでいる"サムライ"越中のTシャツをプレゼントだって!!

REVERSAL

REVERSAL ■ http://www.rvddw.com/

各1名様

Back

ROCKET FUTURISM Tシャツ

［ブラック／¥5,040（税込）］

人気格闘技ウェアブランドreversalから、今夏の新作Tシャツが登場！「宇宙」をテーマに、「rvddw号発射の瞬間」をグラフィック化したオシャレな逸品だ。

リバーサルベアブリック

同じくreversalから、限定生産の非売品「リバーサルベアブリック」が登場！ 8月からは、このベアブリックのキャンペーンも実施。詳細はホームページへ!!

PANCRASE

PANCRASE ■ http://www.pancrase.co.jp/

Back

1名様

『ランボー 最後の戦場』×川村亮コラボTシャツ

［ホワイト／¥4,000（税込）］

「戦極〜第二陣〜」ではあのケビン・ランデルマンをあと一歩のところまで追いつめた"ランボー親善大使"こと、川村亮とランボーのコラボTシャツ。

AFFLICTION

AFFLICTION ■ http://www.afflictionclothing.com/

Back

1名様

AFFLICTION Tシャツ

［ブラック］

7.19旗揚げ戦では、ホジェリオ、ジョシュがTKOで見事勝利を収めれば、ヒョードルは人間離れした強さでシルビアを秒殺！ AfflictionのTシャツが到着!!

QUEST

QUEST ■ http://www.queststation.com/

各1名様

関節技逃れ方大全（上）

［113分／¥5,880（税込）］

青木の師匠としても知られ、あのヒクソンと伝説の一戦を繰り広げた、日本人初の黒帯柔術家・中井祐樹が関節技の"逃れ方"をわかりやすく解説したDVDを提供。

『全日本ブラジリアン柔術選手権大会2008』	229分	／¥5,880（税込）
『長谷川一幸 誰にでもできる極真カラテ入門篇』	92分	／¥5,880（税込）
『武神館DVDシリーズvol.33 戸隠流忍法体術』	44分	／¥5,880（税込）
『サレム・アスリ サバットvol.1 入門篇』	77分	／¥5,880（税込）

HARDCORE CHOCOLATE

ハードコアチョコレート ■ http://blog.core-choco.com/

1名様

747スプラッシュTシャツ

［ブラック／¥3,675（税込）］

ハードコアチョコレートからワンマンでギャングな男のTシャツが登場！ 8月9日、10日にはコアチョコ主催の「T-SHIRTS LOVE SUMMIT」も開催！

BULL TERRIER

ブルテリア ■ http://www.b-j-j.com/

Back

各1名様

BULL TERRIER Tシャツ DEEP X III大会記念モデル

［ホワイト・ブラック／各¥3,990（税込）］

菊田＆三崎に今田耕二、世界のナベアツという超豪華なセコンドが見守る中、ジャリズム・山下が見事に勝利！「DEEP X III」のTシャツを白黒各1名様に！

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
kamipro Special
2008 AUGUST
2008年8月14日 発行

読者ページは一足お先にリニューアルしてるぜ!

※コイツが読者ページ新担当"読者ペイジ"ジャクソンあらため"読者ペイジ"マイケル・ジャクソンだ!?

発行人
浜村弘一

編集人
斉藤慎一

編集統括本部長
ジャン斉藤

編集スタッフ
坂井ノブ
堀江ガンツ
阿修羅チョロ
松下ミワ
真下義之
大川義之
スズキィ
八木賢太郎(全国大会応援のため非番)

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
ジャイ子
能登"読者ペイジ"・ジャクソン

編集次長(烏江亭に題す)
松林 貴

デザイン大将
出田さん(TwoThree)

デザイン司令長官
金井ヒサくん(TwoThree)

デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブン先生
野口ノグッチー
白木みのるちゃん(以上、TwoThree)
トメさん
はなえちゃん(以上、さおとめの事務所)

カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
山口比佐夫
吉場正和
平 専英
戸成嘉則
丸山剛史
大甲邦喜

お勘定&衣料部
ニュー林様

崖の下
入江プニョ(TwoThree)

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

助っ人営業
上野宏樹

業務部
樽本"製本トラブル"義之

編集庶務
原 正典
山内ユリコ

終身名誉編集庶務
高木由美子

編集チアガール
金川奈津子
宮沢美奈(デビュー戦)

編集チアマダム
廣橋久美子

広告営業
株式会社ビューポイント
(広告掲載のお問い合わせは☎03-6690-0647まで)

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555(代表)

印刷
大日本印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

[カスタマーサポート]☎0570-060-555(受付時間/土日祝祭日を除く12:00～17:00) メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン(URL:http://www.enterbrain.co.jp/)、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。